

OS/390



SDSF ガイドおよび解説書

OS/390



SDSF ガイドおよび解説書

お願い

本書、および本書で記述する製品をご使用になる前に、195ページの『付録. 特記事項』を必ずお読みください。

注: この PDF は同じ資料番号のドキュメントを日本語検索可能にしたものです。以前のものと内容に違いはありません。

本書は、OS/390 バージョン 2 (5647-A01) リリース 10 に適用されます。また改訂版などで特に断りのない限り、これ以降のすべてのリリースも適用されます。

本書は SC88-6244-02 を大幅に改訂したものです。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典 : SC28-1622-04
OS/390
SDSF Guide and Reference

発 行 : 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当 : ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2000.10

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1997, 2000. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2000

目次

図	xi
表	xiii
本書について	xv
本書での変更事項	xv
サポートされるリリース	xv
SDSF ライブラリー	xv
関連資料	xv
変更の要約	xvii
OS/390 バージョン 2 リリース 10 での変更	xvii
OS/390 リリース 5 SDSF での変更	xviii
OS/390 リリース 4 SDSF での変更	xviii
OS/390 1.3.0 の変更事項	xix
第1章 SDSF の紹介	1
SDSF とは何か	1
SDSF を使用する利点	1
ジョブ管理の改善	1
出力管理の改善	1
装置の制御	2
システム・リソースの管理の改善	3
コマンドの実行が容易	4
ユーザー・アクセスの制御	4
第2章 SDSF の使用	7
SDSF セッションの開始	8
SDSF セッションの終了	9
SDSF パネルの表示	9
パネル・レイアウト	9
SDSF ウィンドウの使用	11
アクション・バーの使用	12
オンライン・ヘルプの使用	12
オンライン・チュートリアルの使用	13
BookManager の使用	14
SDSF パネル上の情報探索	15
上書き可能フィールドでの値の変更	16
アクション文字によるコマンド実行	16
繰り返しアクション文字または上書きコマンド	17
SDSF パネルのカスタマイズ	18
表形式表示での欄の順序変更	19
パネル情報のフィルター操作およびソート	20
任意の行のフィルター操作	21
一時フィルター	22
現行値の保管および照会	22
コマンド行またはポップアップから MVS コマンドまたは JES2 コマンドを出す	24
ODS パネルでの出力ブラウズ	25
出力のブラウズ	25
ISPF を使用したブラウズおよび編集	25

SDSF パネルからの印刷	26
高速パス印刷	26
アクション文字を使用する印刷	27
SDSF コマンドを使用する印刷	27
Print プルダウンによる印刷	28
分割画面モードの使用	29
他のユーザーに自分のジョブの表示を許可する	29
言語の指定	29
日付形式の指定	30
バッチでの SDSF の使用	30
SDSF をバッチで呼び出す	30
プログラム名 SDSF を使用する	31
プログラム名 ISFAFD を使用する	31
第3章 SDSF コマンド	39
形式の表記法	39
パターン・マッチング	39
複数の文字の置換	40
単一の文字の置換	40
? による値の表示	40
欄の名称の指定	40
時刻と日付の入力	40
? -- 代替形式のパネルを使用する	41
形式	41
例	41
? -- SYSOUT 属性を表示する	41
形式	42
例	42
/ -- MVS コマンドと JES2 コマンドを出す	42
形式	42
ユーザーへの注	42
例	43
関連するコマンド	44
& -- コマンドを出し直す	44
形式	44
ユーザーへの注	44
例	45
ABEND -- SDSF を異常終了させる	45
形式	45
ユーザーへの注	45
例	45
ACTION -- WTOR メッセージの表示を制御する	46
形式	46
ユーザーへの注	46
例	46
関連するコマンド	47
APPC -- APPC トランザクションの表示を制御する	47
形式	47
ユーザーへの注	48
例	48
ARRANGE -- 表形式パネル上の欄の順序を変更する	48
形式	48

ユーザーへの注	49
例	49
BOOK -- オンライン資料のために BookManager を使用する	49
形式	49
ユーザーへの注	50
例	50
関連するコマンド	50
BOTTOM -- データ末尾までスクロールする	50
形式	51
例	51
COLS -- 欄情報を表示する	51
形式	51
例	51
関連するコマンド	51
DA -- アクティブ・ユーザーを表示する	51
形式	52
ユーザーへの注	53
例	54
関連するコマンド	54
DEST -- 宛先によってパネルを制限する	55
形式	55
ユーザーへの注	55
例	55
関連するコマンド	56
DOWN -- 下へスクロールする	56
形式	56
例	57
END -- パネルを終了させる	57
形式	57
例	57
FILTER -- 表形式パネル上の行をフィルターに掛ける	57
形式	58
ユーザーへの注	59
コマンドの例	59
ポップアップの例	59
関連するコマンド	60
FILTER -- OPERLOG パネル上のデータをフィルターに掛ける	60
形式	60
ユーザーへの注	61
コマンドの例	62
ポップアップの例	62
関連するコマンド	62
FIND -- 文字ストリングを検出する	62
形式	62
ユーザーへの注	64
例	65
関連するコマンド	66
FINDLIM -- FIND 限界をリセットする	66
形式	66
例	66
H -- 保留出力キューを表示する	66
形式	66

ユーザーへの注	67
例	68
関連するコマンド	69
HELP -- SDSF ヘルプを表示する	69
形式	69
例	69
関連するコマンド	69
I -- 入力キューを表示する	70
形式	70
ユーザーへの注	70
例	71
関連するコマンド	71
INIT -- イニシエーターを表示する	71
形式	71
例	71
関連するコマンド	72
INPUT -- SYSIN データ・セットを組み込むように表示を変更する	72
形式	72
ユーザーへの注	72
例	72
JC -- ジョブ・クラスを表示する	73
形式	73
例	73
関連するコマンド	73
LEFT -- 左へスクロールする	73
形式	73
例	74
LI -- 回線を表示する	74
形式	74
例	75
関連するコマンド	75
LOCATE -- 表形式パネルの行または欄を探索する	75
形式	75
例	75
LOCATE -- ブラウズ・パネル上でデータを探す	76
形式	76
ユーザーへの注	76
例	77
関連するコマンド	77
LOG -- SYSLOG または OPERLOG を表示する	77
形式	77
ユーザーへの注	78
例	78
関連するコマンド	78
LOGLIM -- OPERLOG のフィルターを制限する	79
形式	79
ユーザーへの注	79
例	79
関連するコマンド	79
MAS -- JES2 多重アクセス・スプールを表示する	80
形式	80
例	80

関連するコマンド	80
NEXT -- データ・セット間を前方にスクロールする	80
形式	81
ユーザーへの注	81
例	81
NEXT -- OPERLOG 内を前方へスクロールする	81
形式	81
例	82
関連するコマンド	82
NODES -- ノードを表示する	82
形式	82
例	82
関連するコマンド	83
O -- 出力キューを表示する	83
形式	83
ユーザーへの注	83
例	84
関連するコマンド	84
OWNER -- 所有者 ID に基づいてパネルを制限する	84
形式	84
例	85
関連するコマンド	85
PR -- プリンターを表示する	85
形式	85
ユーザーへの注	86
例	86
関連するコマンド	87
PREFIX -- 接頭部によってパネル表示を制限する	87
形式	87
ユーザーへの注	88
例	88
関連するコマンド	89
PREV -- データ・セット間を後方へスクロールする	89
形式	89
ユーザーへの注	89
例	89
PREV -- OPERLOG 内を後方へスクロールする	90
形式	90
例	90
関連するコマンド	90
PRINT -- 画面イメージまたはデータを印刷する	91
印刷データ・セットのオープン	92
選択されたデータを印刷する	95
印刷データ・セットのクローズ	96
PUN -- パンチを表示する	97
形式	97
例	98
関連するコマンド	98
QUERY AUTH -- 許可コマンドを表示する	98
形式	98
ユーザーへの注	98
例	99

RDR -- リーダーを表示する	99
形式	99
例	100
関連するコマンド	100
RES -- リソースを表示する	100
形式	101
例	101
関連するコマンド	101
RESET -- 最後の COLS コマンドをリセットする	101
形式	101
例	101
RETRIEVE -- 最後のコマンドのリトリブ	102
形式	102
ユーザーへの注	102
例	102
RIGHT -- 右へスクロールする	102
形式	102
例	103
RSYS -- ログ上の WTOR をフィルターに掛ける	103
形式	103
ユーザーへの注	103
例	104
関連するコマンド	104
SE -- スケジューリング環境を表示する	104
形式	104
例	104
関連するコマンド	104
SELECT -- 表形式パネル上の行を制限する	105
形式	105
例	106
SET ACTION -- アクション文字の表示をオンまたはオフに設定する	106
形式	107
ユーザーへの注	107
例	107
関連するコマンド	108
SET CONFIRM -- アクション文字の確認	108
形式	108
例	108
SET CONSOLE -- 拡張コンソールを設定する	108
形式	108
ユーザーへの注	109
例	109
関連するコマンド	110
SET CURSOR -- カーソルの配置	110
形式	110
ユーザーへの注	110
例	110
SET DATE -- 日付形式	111
形式	111
ユーザーへの注	111
例	111
関連するコマンド	112

SET DELAY -- 設定 / タイムアウト値	112
形式	112
ユーザーへの注	112
例	112
SET DISPLAY -- 特性を表示する	113
形式	113
ユーザーへの注	113
例	113
関連するコマンド	113
SET HEX -- 16 進数で表示する	114
形式	114
例	114
SET LANG -- 言語を選択する	115
形式	115
ユーザーへの注	115
例	115
SET LOG -- ログ・デフォルト	115
形式	116
例	116
関連するコマンド	116
SET SCHARS -- 総称値を設定する	116
形式	116
例	117
関連するコマンド	117
SET SCREEN -- 表示画面をカスタマイズする	117
形式	117
ユーザーへの注	118
例	118
SET SHELF -- デフォルト・ブックシェルフを設定する	118
形式	118
ユーザーへの注	119
例	119
関連するコマンド	119
SET TIMEOUT -- タイムアウト値を設定する	119
形式	119
例	120
関連するコマンド	120
SO -- スプール・オフローダーを表示する	120
形式	120
例	121
関連するコマンド	121
SORT -- 表形式パネルでデータをソートする	121
形式	121
ユーザーへの注	122
例	123
関連するコマンド	123
SR -- システム要求を表示する	123
形式	123
例	124
関連するコマンド	124
ST -- ジョブ状況を表示する	124
形式	124

例	125
関連するコマンド	125
SYSID -- SYSLOG パネルのシステムを選択する	126
形式	126
ユーザーへの注	126
例	126
関連するコマンド	127
SYSNAME -- シスプレックス内の選択したシステムに行を制限する	127
形式	127
ユーザーへの注	127
例	128
関連するコマンド	128
TOP -- パネルの先頭までスクロールする	128
形式	128
例	128
TRACE -- トレース・レコードを作成する	128
形式	128
ユーザーへの注	131
例	131
TUTOR -- SDSF チュートリアルを表示する	131
形式	131
例	131
関連するコマンド	131
ULOG -- ユーザー・ログを表示する	132
形式	132
ユーザーへの注	132
例	133
関連するコマンド	133
UP -- 上へスクロールする	133
形式	133
例	134
WHO -- ユーザー情報を表示する	134
形式	134
ユーザーへの注	134
例	135
第4章 SDSF のメッセージとコード	137
メッセージ・ヘルプを表示するには	137
ユーザー許可	137
SDSF メッセージ	138
メッセージ番号付きのメッセージ	167
SDSF ユーザー異常終了コード	189
付録. 特記事項	195
商標	196
用語集	197
索引	203



1. SDSF 表形式パネルの例	10
2. 上書きの繰り返しの例	17
3. 上書きのブロックの繰り返しの例	18
4. アクション文字のブロックの繰り返しの例	18
5. ARRANGE コマンドの例	20
6. SDSF コマンドの構文図の例	39

一 表

1. パネル名	9
2. ログ・スタンプの内容	33

本書について

本書は、OS/390 システム表示および検索機能 (SDSF) の使用方法を解説したものです。本書は、オペレーターとエンド・ユーザーを対象としています。読者が、MVS と JES2 について知識があるという前提で書かれています。

本書での変更事項

本書では、OS/390 バージョン 2 リリース 10 (V2R10) SDSF の拡張機能について説明します。SDSF リリースの新機能の概要は、xviiページの『変更の要約』に、詳細はその特定の機能について説明する章に記載しています。

SDSF パネル上の各欄について説明している旧版の章は、本書では省略しました。各パネルの欄、アクション文字、および上書き可能欄については、オンライン・ヘルプまたは *OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティー*, SC88-6318 を参照してください。

サポートされるリリース

本書の内容は、特に断りのない限り、サポートされるすべてのリリースにあてはまります。

SDSF は、OS/390 V2R10 レベルの BCP (5647-A01)、および OS/390 V2R10 によってサポートされるレベルの JES2 と共にインストールできます。詳しくは、*OS/390 インストール計画*, GC88-6542 を参照してください。

SDSF ライブラリー

- *OS/390 SDSF ガイドおよび解説書*, SC88-6224 では、SDSF の使用方法について説明しています。
- *OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティー*, SC88-6318 は、システム・プログラマーが SDSF をカスタマイズし、セキュリティーを確立する際の手引きとなります。
- ISPF ヘルプ・パネルとチュートリアル、および TSO ヘルプ・パネルは、SDSF プログラム製品の一部として入っています。
- *IBM オンライン・ライブラリー MVS*, *OS/390 コレクション・キット CD-ROM*、(SK88-8002) には、SDSF ソフトコピー・ライブラリーが入っています。

関連資料

OS/390 情報ロードマップ, GC88-6543 に記載されている IBM 関連資料をご利用いただけます。

以下の資料は、本書で参照されるものです。

- OS/390
OS/390 インストール計画, GC88-6542
- OS/390 Security Server (RACF 機能)

- OS/390 Security Server (RACF) コマンド言語 解説書*, SC88-6555
- OS/390 MVS
 - OS/390 MVS 計画 : 操作*, GC88-6581
 - RMF
 - RMF Report Analysis*, SC28-1950
 - BookManager
 - IBM BookManager READ/MVS: Displaying Online Books*, SC38-2034
 - GDDM
 - GDDM メッセージ*, SC88-7033
 - GDDM 基本適用業務プログラミングの手引き*, SC88-7623
 - ISPF
 - OS/390 ISPF 対話開発者用 手引きと解説*, SC88-6133
 - OS/390 ISPF サービスの手引き*, SC88-6132
 - MQSeries for OS/390
 - MQSeries for OS/390 Messages and Codes*, GC34-5375

変更の要約

OS/390 バージョン 2 リリース 10 での変更

SDSF は、エンド・ユーザーに新たに次の機能を提供します。

シスプレックス全体のパネル

SDSF は、PR 装置パネルと INIT 装置パネル、およびそのブラウズ機能に、シスプレックス・サポートを追加します。シスプレックス内のすべてのシステムが同じ MAS 内にあることが前提となります。

このサポートにより、PR および INIT パネルは、ユーザーがどのシステムにログオンしているかにかかわらず、すべてのシステムのすべてのプリンターおよびイニシエーターを表示するように拡張されます。ユーザーには、どのシステムをパネルの表示に含めるかを制御する機能が与えられ、装置がどのシステム上にあるかを示す欄が追加されます。

ジョブの出力をブラウズしたり、SYSLOG をブラウズするための SDSF のブラウズ機能は、あらゆるシステムのメモリー内のバッファのデータを含むように拡張されています。この拡張によって、ブラウズは、ユーザーがどのシステムにログオンしているかに関係なく、最も完全で最も新しい情報を表示します。

ログ・パネル上のフィルター WTOR

SDSF は、ログ (Syslog および Operlog) 表示の SYSLOG データの最終行に続けて、すべてのシステムのアウトスタンディングの WTOR を表示します。SDSF は、RSYS コマンドを使用して、WTOR を 1 つまたは複数のシステムに限定する機能を追加しています。

新しいシステム要求パネル

SDSF は、アウトスタンディングのシステム要求を、WTOR とアクション・メッセージを含めて表示する、新しい表形式のシステム要求 (SR) パネルを追加しています。この新しいパネルによってユーザーは、メッセージを容易に見つけることができ、それに対応できます。このパネルには、SDSF 表形式パネルの利点がすべて含まれています。たとえば、行ソート、列移動、行フィルターなどが可能です。

英大文字小文字混合の欄ヘッダー

すべてのパネルの変数フィールド・リストに表示されるすべての欄ヘッダーを判読しやすくするために、表示には大文字小文字混合が使用されます。一方、各パネルの固定フィールドは大文字のまま表示されます。

このサポートは、デフォルトの欄ヘッダーの表示だけに影響します。パラメーターとして欄ヘッダーを受け入れるコマンド (たとえば、ARRANGE、SORT など) の動作には影響しません。

注: 大文字小文字混合の欄ヘッダーは、言語が日本語に設定されている場合には使用できません。

新しいアクション文字と上書き

JES2 APAR OW38962 は、ジョブまたはジョブ・クラスのスケジュール環境を変更するためのコマンド・サポートを追加します。SDSF は、I

および ST パネルの Scheduling-Env 欄を上書き可能にし、上書き可能な Scheduling-Env 欄を JC パネルに追加することによって、この変更を行っています。

また、SDSF は、次のものから構成される FSS の新規サポートを PR パネルに追加します。

- 新しい FSSName および FSSProc 欄。FSSName 欄は上書き可能です。
- 新規 K アクション文字。FSS の終了を強制します。K は、FSS プリンターにのみ有効です。

メインメニューの再編成

SDSF メインメニューは、タイプ (ジョブ、装置、システム・リソース) 別にパネルをグループ分けするように再編成されています。メニューには依然として、ユーザーが表示することが許可されているパネルだけが表示されません。

本書には、用語の変更、こまかい変更、および編集上の変更も加えられています。本文および図に技術的な変更あるいは追加があった部分には、該当部分の左に縦線が付いています。

OS/390 リリース 5 SDSF での変更

SDSF は、OD パネルおよび JDS パネルに出力記述子を追加します。

OS/390 リリース 4 SDSF での変更

スケジューリング環境パネル

スケジューリング環境 (SE) パネルは、スケジューリング環境に対する新規のワークロード・マネージャー (WLM) サポートを単純化するものです。このパネルでは、スケジューリング環境の説明およびそれらの環境が使用可能であるシステムのリストとともに、定義済みのスケジューリング環境が示されています。選択したスケジューリング環境に関して、ユーザーはリソース定義をリソース・パネル上に表示したり、スケジューリング環境を必要とするすべてのジョブを状況パネル上に表示したりすることができます。

リソース・パネル

リソース (RES) パネルは、スケジューリング環境パネルを補足するものです。これを使用して、すべての WLM リソースまたは特定のスケジューリング環境に対するリソースを表示することができます。ユーザーは各システム上で各リソースの状態を表示したり変更することができます。

ジョブ情報ポップアップ

ポップアップは、保留されているジョブ・クラスまたは限界超過のジョブ・クラスなどのような、ジョブの処理を遅らせる可能性のあるいろいろな事項を一見して確認できるようにするのに役立つものです。これにより、ジョブに必要なスケジューリング環境、およびジョブがそのキュー上で処理を待っている平均時間が表示されます。

ジョブ・クラス・パネル

SDSF では、システム・プログラマーおよびオペレーターが、ジョブ・クラスを表示および制御するのに役立つパネルを追加しました。パネルの表形式

により、待機中のジョブや保留状況のジョブの数といったような、各クラスに関する情報のスキャンが容易になります。上書きおよびアクション文字により、ユーザーは、複雑な JES2 コマンドを使用する必要なしにクラスを制御することができます。

高位戻りコード

H、O および ST パネル上の新規の欄には、各ジョブに対する最大戻りコードに関する情報が表示されます。この欄により、ユーザーはジョブがエラーなしで稼働するかどうかを素早く確認することができます。

OS/390 1.3.0 の変更事項

セキュリティー補助

お客様が、SDSF の内部パラメーター ISFPARMS から RACF に、SDSF のセキュリティーを移行する際に役立つ変換ツールです。セキュリティーのために RACF を使用すると、監査能力および細分性の改善を含め、多くの利点があります。この変換ツールは入力として ISFPARMS を受け入れ、同等のセキュリティーを提供するために使用または変更できる RACF コマンドを作成します。

パンチ・パネル

オペレーターとシステム・プログラマーは、パンチ・パネルを使用して、JES2 パンチの表示および制御を行います。アクション文字を使用すれば、ユーザーは、パンチの開始、停止、一時停止、前送りおよび後送り、再始動などの操作を行うことができます。ユーザーはパンチの特性を、上書き可能フィールドを使用して制御します。

リーダー・パネル

オペレーターとシステム・プログラマーは、リーダー・パネルを使用して、JES2 リーダーの表示および制御を行います。アクション文字を使用すれば、リーダーの開始、停止、一時停止などの操作を行うことができます。ユーザーはリーダーの特性を、上書き可能フィールドを使用して制御します。

欄の幅の変更

エンド・ユーザーは、SDSF の欄の幅を変更することができます。これにより、エンド・ユーザーは特定の必要に合うように欄をカスタマイズし、SDSF パネル上のスペースをより効率的に使用することができます。このサポートにより、SDSF では、システム・プログラマーが SDFS パネルのためのフィールド・リストを ISFPARMS で維持する必要はほとんどなくなりました。

上書きの拡張

ユーザーは、以前はシステム・コマンドを介してのみ変更することができた関連フィールドのセットを上書きすることができます。さらに、ユーザーはポップアップを介して、上書き可能欄の幅を拡張することができます。ユーザーは、欄の幅の定義に対する新規サポートとともにこの機能を利用して、SDSF 表形式パネルを効率よく使用することができます。

日付の選択

ユーザーは新しい代替日付の形式を選択することができます。これにより、世界中のあらゆる地域の SDSF ユーザーは、最も使い慣れている日付の形式を用いて作業することができます。

デフォルトのログ

デフォルトのログを指定するために、エンド・ユーザーおよびインストール先の制御が追加されています。デフォルトのログ (SYSLOG または OPERLOG) は、LOG コマンドがパラメーターを指定せずに入力された場合に表示されます。

第1章 SDSF の紹介

SDSF とは何か

OS/390 のオプションの機能である IBM システム表示および検索機能 (SDSF) は、MVS/JES2 システムをモニターし、管理し、制御するための情報を提供するものです。SDSF を使用することにより、以下のことが行えます。

- ジョブ処理 (ジョブの保留、解放、取り消し、およびパーシ) を制御する。
- 実行中のジョブをモニターする。
- 印刷しないでジョブをブラウズする。
- ジョブ・クラスを制御する。
- プリンター、パンチ、リーダー、およびイニシエーターを制御する。
- ネットワーク回線およびノードを制御する。
- スプール・オフロード装置の制御
- WLM スケジューリング環境およびリソースを表示および制御する。
- ジョブに影響を与える JES2 コマンドおよび MVS コマンドを出す。

SDSF パネルは、OS/390 JES2 システムのジョブ、プリンター、キュー、およびリソースに関する現在の情報を提供します。これらのパネルから SDSF コマンドまたは MVS および JES2 のシステム・コマンドを入力し、ジョブの処理やシステム・リソースの操作を制御することができます。

SDSF を使用する利点

SDSF を使用すると、ジョブ、出力、装置、およびシステム・リソースをよりよく管理できます。

ジョブ管理の改善

SDSF は、JES2 ジョブを管理する簡単な方法を提供し、より効率的に作業できるよう支援します。SDSF は、処理待ちまたは実行中のジョブに関し、シスプレックス全体にわたる次のような最新情報を即時に提供します。

- 特定のジョブの状況、クラス、優先順位、日時
- 入力または保留出力のキューなど、特定のキューのすべてのジョブ
- シスプレックスのどこにあるかに関係なく、特定のジョブの詳細情報を提供
- ジョブを遅らせる可能性のある理由
- ジョブ作成時の出力

SDSF パネル、SDSF コマンド、およびアクション文字を使用し、またパネル・フィールドを上書きすることにより、ジョブを保留 / 保留解除したり、表示されているジョブをフィルターに掛けて関係するジョブだけを表示したり、ジョブの優先順位、クラス、または宛先を変更することができます。

出力管理の改善

SDSF は、印刷可能な出力に関する詳細情報を表示します。その情報には次の内容が含まれます。

- 印刷する行数の合計
- 出力が割り当てられるクラス
- 印刷に必要な形式
- 出力が作成された日付
- ジョブに対する最大戻りコード

SDSF を使用すれば、出力をどのように、またどこに印刷すべきかを制御することができます。 ページ・モード出力などの出力をブラウズできます。 出力のなかで選択した部分を印刷したり、出力を保留 / 除去したりすることができます。 出力のクラス、宛先、または用紙の変更、分離ページに印刷する出力記述子の設定も可能です。 1 つのジョブの出力全部でも、個々の出力データ・セットでも処理できます。

装置の制御

SDSF を使用すれば、使用しているシステムの中で最も重要な装置に単一のインターフェースでアクセスすることができます。

ローカルおよびリモートのプリンターとパンチの制御

プリンター・パネルを使用すると、MAS 内のローカルおよびリモート・プリンターを制御できます。SDSF は、各プリンターの状況 (たとえば、アクティブ、非アクティブ、一時停止中、またはドレーン済みなど)、各プリンターに関連する出力クラス、および現在処理中のジョブに関する情報を表示します。この情報を使えば、印刷のための出力をどうスケジュールするかをより効率的に決定できます。特定のフィールドを上書きするだけで、さらにジョブを選択し、プリンター操作のモードを指定できます。フィルター操作によって、SDSF が表示するローカルおよびリモート・プリンターの数を制限することもできます。SDSF は、リモート・プリンターでの処理の出力を容易にスケジュールすることができます。リモート・プリンターの開始、停止、一時停止、リスタート、割り込み、前送り、および逆送りが可能です。

パンチ・パネルでは、ローカルおよびリモート・パンチに対する同様の機能が提供されます。システムに割り当てられたすべてのパンチのデータが表示されます。

イニシエーターの制御

SDSF は、MAS に定義されているすべてのイニシエーターのクラスと状況、およびそれぞれのイニシエーターに割り当てられている名前と数を表示します。この情報は、システム・リソースを最適に活用するため、どのようにジョブをスケジュールするかを決定する際に参考にできます。イニシエーターは、アクション文字を使用すると簡単に開始と停止ができます。

回線の制御

SDSF は、各 NJE 回線と RJE 回線、および関連する送信側と受信側の状況を表示します。装置は、アクション文字で開始、ドレーン、およびリスタートすることができます。フィールドを上書きするだけで、装置の特性を変更できます。

また SDSF は、処理済み行数など、送受信側で現在処理中のジョブに関する情報も表示します。この情報を参考にすると、アクティビティを迅速にモニターできます。フィルター操作により、SDSF が表示する装置の数を制限できます。

スプールのオフロード

「スプール・オフロード」パネルにより、スプール・オフロード装置の制御が簡単になります。SDSF は、それぞれのオフローダーと関連する送受信側の状況、および処理中のジョブに関する情報を表示します。装置を開始、ドレーン、およびリスタートすることができます。フィールドを上書きするだけで、装置の特性を設定し、選択されているジョブを制御できます。

リーダーの制御

JES2 リーダーの表示および制御は、リーダー・パネルで行います。SDSF は、それぞれのリーダーの状況、およびリーダーで処理中のジョブに関する情報を表示します。リーダーの開始、停止、一時停止、およびリーダーで処理中のジョブの取り消しが可能です。フィールドを上書きするだけで、選択基準および宛先情報を変更することができます。

システム・リソースの管理の改善

SDSF は、システム稼働の効率性の向上を助けとなる、効果的なリソース管理を提供しています。

ノードの制御と管理

ユーザーは、それぞれのノードの状況を表示して、ノードが送受信するものなど、そのノードの特性を変更することができます。アクション文字を使用して、回線によるノード通信を開始し、ネットワーク接続またはノードのパスに関する情報を表示することができます。

問題管理にかかる時間の節約

問題管理では、システム・ログの印刷コピーに目を通さなければならないことが少なくありません。これは単調で時間のかかる作業です。SDSF では、システム・ログをオンラインで表示し、SDSF コマンドを使用して、特定の情報を検索することができます。また、マージされたシスプレックス全体のログの表示とフィルター操作も可能です。

システム・ログ印刷の回避

SDSF ではログの最新コピーをオンライン表示できるので、ログの印刷回数は少なくなります。個々のユーザーは、自分のアクティビティの個人的なオンライン・ログを保持することができます。

多重アクセス・スプール (MAS) の制御と管理

SDSF にはすべてのシステムの状況を示すフルスクリーン・リストが表示されるので、MAS の制御と管理作業が簡単に行えます。メンバーの開始、リスタート、停止、および特性の変更を行うことが可能です。

ジョブ・クラスの制御

ジョブ・クラスパネルにより、JES2 および WLM によって管理されるジョブ・クラスを表示し、管理することができます。SDSF は各クラスで活動中、保留中、および待機中のジョブの数に関する情報に加えて、各クラスの状況も表示します。出力後処理や、クラス内のジョブを保留するかどうかなどの、クラスの特性を変更することができます。ジョブ・クラスを保留または解放し、そのクラスのすべてのジョブを表示することができます。

WLM リソースの制御および管理

スケジューリング環境パネルにより、定義されているすべてのスケジューリング環境、それらの説明、およびそれらの環境がどのシステムで使用可能であるかを確認することができます。このパネルから、スケジューリング環境を必要とするすべてのジョブを表示することができます。また、リソース・パネルに、スケジューリング環境を構成する WLM リソースを表示することもできます。リソース・パネルは、また、定義されているすべての WLM リソースを表示することもできます。このパネルを使用して、MAS またはシスプレックスの各システム上で、それぞれのリソースの状態を表示したり変更することができます。

コマンドの実行が容易

SDSF コマンド行またはポップアップ・ウィンドウから MVS または JES2 のコマンドを出すことができます。コマンドへの応答は SDFSF パネルとユーザー・ログ (ULOG) に表示されます。

MVS/JES2 コマンドに対するシステムの応答は、MVS システム・ログをいっぱいにしてしまうことがよくあります。フルスクリーン・パネル上で同じ情報を使用することによって、これらのコマンドを出す回数が少なくなり、使用するスプール空間も小さくて済みます。また、余計なコマンドと応答が少ないだけ、問題管理が容易になります。

ユーザー・アクセスの制御

SDSF は、ユーザーの要求とシステムのセキュリティー要件に合わせて調整することができます。たとえば、パネル上にどの情報欄をユーザーに表示するかをユーザーごとに決定できるし、その欄の名前も自由に決められます。さらに、次のことが制御できます。

- 誰が SDFSF を使用できるか
- どのユーザーが SDFSF 制御コマンドを出せるか
- どのユーザーが MVS および JES2 のシステム・コマンドを出せるか
- どのジョブに対してユーザーがコマンドを出せるか
- どのジョブと出力を SDFSF パネルに表示したいか
- どのユーザーが出力データ・セットを表示できるか

SDSF では、これらすべてのことを以下の方法で行うことができます。

- システム許可機能 (SAF) インターフェースおよび外部セキュリティー・プログラム (RACF など) を使う
- SDFSF の内部パラメーター ISFPARMS にパラメーターをコーディングする
- 両方のセキュリティー・スキーマを組み合わせる
- インストール・システム出口を使う

SDSF には、ISFPARMS セキュリティーから RACF に変換する際に役立つユーティリティーが用意されています。SAF インターフェース、ISFPARMS、変換ユーティリティーおよびインストール・システム出口ポイントの使用方法については、OS/390 SDFSF カスタマイズおよびセキュリティー を参照してください。

また、SDSF は、システムにログオンしているすべての TSO ユーザーの端末アドレスを表示し、SDSF の使用許可を与えられていないユーザーが SDFS セッションを開始しようとする、オペレーターあてにメッセージを書き出します。

第2章 SDSF の使用

SDSF セッションの開始	8
SDSF セッションの終了	9
SDSF パネルの表示	9
パネル・レイアウト	9
SDSF ウィンドウの使用	11
アクション・バーの使用	12
オンライン・ヘルプの使用	12
オンライン・チュートリアルの使用	13
BookManager の使用	14
SDSF パネル上の情報探索	15
上書き可能フィールドでの値の変更	16
アクション文字によるコマンド実行	16
繰り返しアクション文字または上書きコマンド	17
SDSF パネルのカスタマイズ	18
表形式表示での欄の順序変更	19
例	20
パネル情報のフィルター操作およびソート	20
任意の行のフィルター操作	21
一時フィルター	22
現行値の保管および照会	22
コマンド行またはポップアップから MVS コマンドまたは JES2 コマンドを出す	24
ODS パネルでの出力ブラウズ	25
出力のブラウズ	25
ISPF を使用したブラウズおよび編集	25
JCL のみの編集	25
SDSF パネルからの印刷	26
高速パス印刷	26
アクション文字を使用する印刷	27
SDSF コマンドを使用する印刷	27
Print プルダウンによる印刷	28
分割画面モードの使用	29
他のユーザーに自分のジョブの表示を許可する	29
言語の指定	29
日付形式の指定	30
バッチでの SDSF の使用	30
SDSF をバッチで呼び出す	30
プログラム名 SDSF を使用する	31
SDSF パネルおよびコマンド	31
アクション文字	31
プログラム名 ISFAFD を使用する	31
コマンド	32
PF キー	35
アクション文字	35
上書き可能フィールド	35
プログラム名 ISFAFD を使用する場合の注	37

この章では、TSO または ISPF で SDSF を使用方法を示し、経験のあるユーザーにも役立つヒントおよび技法についても説明します。

PF キーに関する注

この章では、デフォルトの PF キーの設定について説明しています。

ISPF ではこの設定を変更することができます。大部分の SDSF パネルで使用されるキーの基本セットを変更するには、ISPF KEYS コマンドを使用します。ポップアップ・パネルやいくつかのパネル (編集パネルなど) 用のキーを変更するには、ISPF KEYLIST コマンドを使用します。

また、現在の PF キー設定を表示または変更するには、オプション・プルダウンも使用できます。

PF キーの使用および変更の詳細については、オンライン・ヘルプ索引を参照してください。

SDSF セッションの開始

SDSF は次のいずれかの仕方で実行します。

- TSO コマンド・プロセッサまたは TSO 端末モニター・プログラム (TMP) として ISPF のもとで対話式に
- バッチ・ジョブとして (特定のパネルを「自動的に」表示するよう SDSF をセットアップすることができます)

対話式セッションは次のように始めます。

- ISPF 基本オプション・メニューから、s とタイプするか、直接特定の SDSF パネルに進むためには *s.panel*、たとえば *s.da* とタイプする。
- TSO から、SDSF とタイプする。
- TMP の場合、システム・プログラマーによって設定されたログオン・プロシージャを使用する。

SDSF バッチについては、30ページの『バッチでの SDSF の使用』で説明しています。

表 1. パネル名

LOG	システム・ログ	ULOG	ユーザー・セッション・ログ
DA	シスプレックス内のアクティブ・ユーザー	LINE	このシステムの JES2 回線
I	JES2 入力キューのジョブ	NODE	このシステムの JES2 ノード
O	JES2 出力キューのジョブ	SO	このシステムのオフローダー
H	JES2 保留出力キューのジョブ	PUN	このシステムのパンチ
ST	JES2 キューのジョブの状況	RDR	このシステムのリーダー
JC	MAS のジョブ・クラス	SE	MAS またはシスプレックスのスケジューリング環境
PR	MAS 内の JES2 プリンター	RES	MAS またはシスプレックスの WLM リソース
INIT	MAS 内の JES2 イニシエーター	SR	システム要求 (WTOR および処置メッセージ)
MAS	MAS 内の JES2 メンバー		

SDSF セッションの終了

SDSF セッションを終了するには、PF4 (RETURN) を押します。現行のパネルを終了するには、END (PF3) を使用します。

ISPF のもとでセッションを終了する場合は、次のセッションのためのある特定の値が保管されます。詳しくは、22ページの『現行値の保管および照会』を参照してください。

SDSF パネルの表示

パネルにアクセスするには、ほとんどの場合、コマンドを使用するか、またはアクション・バーからディスプレイ・プルダウンを使用します。アクション文字を使用してアクセスするパネルもあります。

パネル・レイアウト

SDSF 表形式パネルには、データの行と欄があります。特定の行に対して作業を行うには、NP 欄にアクション文字を入力するか、または欄の値を上書きします。

SDSF ブラウズ・パネルには、ログまたは出力データ・セットが表示されます。

10ページの図1 では、SDSF パネルのレイアウトを表示するために、サンプルの表形式パネルを使用しています。

```

Display Filter View Print Options Help 1
-----
SDSF SAMPLE SYS1 2
COMMAND INPUT ==> 4
PREFIX=* DEST=(ALL) OWNER=SHERRYF FILTERS=2 5
LINE 1-22 (31)
SCROLL ==> PAGE 3

JOBNAME 6 ProcStep JobID Owner C Pos DP PGN Real Paging
CATALOG CATALOG IEFPROC NS FF 3228 0.00
TAPEPOL PROC01 M02XF83L TSU19596 TAPEPOL OT FF 69 0 0.00
TANDA E52T00L1 M02SA06L TSU18751 TANDA OT FF 63 1488 0.00
KSHEL PROC01 M02PV317 TSU07739 KSHEL OT FF 60 0 0.00
BNELSON PROC01 M02SD04N TSU18635 BNELSON OT FF 60 0 0.00
MAHONEY G51PROC2 PQCA3604 TSU15633 MAHONEY OT FF 62 552 0.00
FRUSSO E52T00L1 M02SBC0Q TSU12357 FRUSSO OT FF 62 0 0.00
CAROLW E52T00L1 PQ9A0E06 TSU18742 CAROL IN 72 67 0 0.00
AMARTIN D87 M02PV269 TSU00303 AMARTIN OT FF 71 0 0.00
PGULMAN PROC01 PQ9BA403 TSU19363 PGULMAN OT FF 65 0 0.00
MEYERDM E52T00L1 PQ9B6A05 TSU19360 MEYERDM OT FF 62 748 0.00
D96GMD1 E52T00L1 PQ9A1C04 TSU18081 D96GMD1 OT FF 89 0 0.00
PFUNIRM UNISTEP JOB17419 PFUNIR J IN 80 1 1928 0.00
BROWNA PROC01 M02WF073 TSU18744 BROWNA OT FF 51 0 0.00
SLOUA E52T00L1 M02VBC36 TSU19354 SLOUA OT FF 53 0 0.00
OTTINGR E52T00L1 M02VBC3G TSU19138 OTTINGR OT FF 54 0 0.00
DB2LMSTR DB2LMSTR IEFPROC STC12471 SYSUSER LO AD 13 216 0.00
ASCHINT ASCHINT IEFPROC STC12472 ++++++ OT FF 0 0.00
ASCHINT ASCHINT IEFPROC STC12473 ++++++ OT FF 0 0.00
ASCHINT ASCHINT IEFPROC STC12474 ++++++ OT FF 0 0.00

```

図 1. SDSF 表形式パネルの例

- 1 **アクション・バー** アクション・バーによって、各種の SDSF 作業を行うためのプルダウン・メニューを選択することができます。ISPF 編集を呼び出すブラウザ・パネルには、アクション・バーはありません。
- 2 **表題行** 表題行には、パネル名 と状況情報が表示されます。表示中の行に関する情報は、ここにも表示されます。
- 3 **メッセージ領域** エラー・メッセージがここに表示されます。
- 4 **コマンド行** コマンド行では、SDSF、MVS または JES2 のコマンドを入力します。SCROLL ==> PAGE は、15 ページで説明されているスクロールを制御します。
- 5 **メッセージおよび情報行** 長いメッセージは、コマンド行の下に表示されます。SDSF 設定コマンドのいずれか (たとえば、アクション設定コマンドまたは表示設定コマンド) を出した場合、情報行に応答が表示されます。情報行のカラー、強調表示、および輝度を変更するには、SET SCREEN コマンドまたは Set Screen Characteristics ポップアップを使用します。

6 データ域 データ域には、パネルに表示される情報が含まれています。表形式パネルでは、データは欄と行の形で表示されます。各行は単一のジョブ、TSO ユーザー、タスク、データ・セット、リソース、その他のシステム・エンティティを表します。

欄のヘッダーには、その欄の情報が示されます。欄のヘッダーはパネルごとに異なっており、JES2 レベルなど、環境によっても異なる場合があります。欄のヘッダーは、システム・プログラマーが調整できません。

先頭の欄は、固定フィールドになっており、左右にスクロールしても、位置は変わりません。サンプル・パネルでは、JOBNAME フィールドは固定されています。

OD パネルの欄は、横ではなく縦に配列されています。

スケーリング (T、M、B の使用) : 欄が狭すぎて、MVS または JES2 が出した数字を全桁表示できない場合、SDSF はその数字をスケーリングして表示します。その数字を千、百万、十億のいずれかで分割し、値の小さい方の有効数字を切り捨てることによって、その桁数を使用可能なスペースに入りきるようにします。

切り捨て : パネル上のある欄の幅が狭すぎて、MVS または JES2 の出したストリングをすべて表示できない場合には、ストリングの右端から文字が切り捨てられます。

データのリフレッシュ : パネル上のデータをリフレッシュしたい場合は、Enter キーを押してください。

各パネルの内容に関する特定の情報については、オンライン・ヘルプを参照してください。

SDSF ウィンドウの使用

SDSF では、SDSF コマンドを入力する方法を選択することができます。コマンド入力行に入力するか、アクション・バーおよび関連するプルダウン・メニューとポップアップ・ウィンドウを使用することができます。アクション・バーは、新しい機能を学習する場合、あるいは、初心者またはたまにしか使用しないユーザーにとって特に便利です。

アクション・バーはオプションです。アクション・バーの表示は、Set Screen Characteristics ポップアップを使用して制御することができます。システム・プログラマーが ISFPARMS を使用してユーザーのグループごとに、表示をオンまたはオフにセットすることもできます。

このアクション・バーから使用できるプルダウン・メニューは、次のとおりです。

Display

SDSF パネルを選択できます。特定のパネルが許可されていない場合には、その前に * が表示されます。

Filter 所有者、接頭部、または宛先などのフィルター基準を定義できます。ポップアップ・ウィンドウによって、フィールドおよび欄を選択できます。

View データの表示方法を (分類し、順序変更し、16 進表示をオン / オフにセットし、フィールド・リストを代替のリストに変更することによって) 制御することができます。

Print データを印刷 (データ・セットをオープンし、印刷し、クローズ) したり、画面を印刷することができます。

Options

検索限界、SYSIN 設定、BookManager のデフォルトのブックシェルフ、画面特性、遅延時間、コンソール名、探索文字などのグローバル・オプションの設定、PF キーの表示、設定値または言語の変更が可能です。

Help 次の 3 つのタイプのヘルプを使用できます。 SDSF ヘルプ・パネル、SDSF チュートリアル、および BookManager によるオンライン・ブック。

アクション・バーの使用

カーソルをアクション・バーに移動するには、ACTIONS コマンドを使用するか、タブ・キーまたはカーソル・キーを使用します。

```
_Display Filter View Print Options Help
```

使用したい項目にタブを設定します。

```
Display Filter _View Print Options Help
```

プルダウンを表示するには、Enter キーを押します。

```
- 1. Sort...  
  2. Arrange...  
  3. Set hex to ON  
  4. Change field list to ALTERNATE  
  5. Who...
```

プルダウンから項目を選択するには、その項目の番号をタイプするか、その項目の位置にカーソルを合わせて Enter キーを押します。... の付いた項目はポップアップを表示します。

プルダウン選択からヘルプを表示するには、カーソルをその位置に合わせて、PF1 を押します。

オンライン・ヘルプの使用

SDSF には、コンテキストに依存したオンライン・ヘルプが用意されており、ユーザーはこれをコマンドおよび当製品に関するその他の情報の早見表として使用することができます。ヘルプは、(言語機能がインストールされていれば) 英語表示でも日本語表示でも使えます。

ヘルプにアクセスするには、F1 キーを押すか、または HELP コマンドを使用します。

ヘルプには、次の情報が含まれています。

- コマンドの構文
- 各パネルで使えるアクション文字

- 各パネルで上書きできるフィールド
- フィールドの説明
- 各パネルで有用なコマンド
- メッセージと異常終了コードの意味
- 強調表示されたトピックに関する詳細情報 (ISPF で)
- PF キーの使用方法

各ヘルプ・パネルの下部にある機能キー情報には、機能がリストされており、それらを使用してヘルプの中を適宜移動することができます。

ISPF のもとでは、強調表示された参照句は、ほかのヘルプ・トピックへのリンクを提供するものです。リンクに従って進むには、その句にタブで移動して F1 キーを押します。

```

                                HELP: SDSF -- Table of Contents
COMMAND INPUT ==>>>

Select a topic by number, or press Enter to view topics in sequence.

  1 - What's new                    11 - Action bar
  2 - Panels (LOG, DA, I, O, etc.) 12 - PF keys
  3 - Search and scroll commands    13 - Action characters
  4 - Filter commands              14 - Overtypable fields
  5 - View commands                15 - JES2 and MVS commands
  6 - Print command                16 - SDSF messages
  7 - Options commands
  8 - Other commands
  9 - Server commands
 10 - Help commands

F1=Help      F2=Split    F4=Tutor    F5=Exhelp   F7=Up
F9=Swap      F10=Previous F11=Index   F12=Cancel

```

オンライン・チュートリアルの使用

チュートリアル (ISPF でしか使えません) では、SDSF および SDSF の最も役立つ機能のいくつかについて紹介しています。(両方の言語機能がインストールされていれば) 英語版と日本語版のどちらでも使えます。

チュートリアルは対話式で、内容は次のとおりです。

- SDSF パネルの説明および使用方法
- 出力をブラウズし、印刷し、ページする方法。ここでは、アクション文字と上書き可能フィールドの説明も含まれます。
- ジョブをモニターし、制御する方法
- 簡単な要約

```

TUTOR - System Display and Search Facility
COMMAND INPUT ==>>

The SDSF tutorial introduces SDSF and lets you
try some of SDSF's most useful functions. For detailed
information such as command syntax, use the help facility.

The whole tutorial takes about 25 minutes. Press Enter to
begin viewing it, or begin with a particular topic by
typing one of the numbers below:

1 - Using the tutorial      5 - Purging output
2 - SDSF panels           6 - Controlling jobs
3 - Monitoring jobs       7 - Printing data
4 - Displaying output     8 - Filtering and sorting

9 - Quick summary

F1 = Help      I = Index      Enter = Topic 1
F3 = Exit
TOC = Help contents

```

BookManager の使用

ISPF のユーザーは、BookManager を使用して、オンライン文書を SDSF 内から直接見ることができます。

BookManager は、ブックシェルフ上に、オンライン資料をサブジェクト別に分類し、編成します。最も頻繁に使用するブックシェルフを、デフォルトのブックシェルフとして設定することができます。

SDSF では、トピックを直接探索したければ、デフォルトのブックシェルフをセットアップする必要があります。SET SHELF コマンドか Options プルダウンのどちらかを使用してセットアップを実行します。

BOOK コマンドの詳細については、49ページ、SET SHELF コマンド (118 ページ)、または *IBM BookManager READ/MVS: Displaying Online Books, SC38-2034* を参照してください。

SDSF 内からデフォルトのブックシェルフを設定するには、set shelf を使用するか、Options プルダウンの中の関連項目を選択します。

ブックシェルフをオープンするには、book を使用するか Help プルダウンから項目 Book を選択します。すると、ポップアップが表示され、それによってブックシェルフをオープンする前に、検索ストリングを入力することができます。

```

Book: Display an Online Book

To search the default bookshelf, type a search string below.
To define the default bookshelf, press F6/18.

Search for _____

F1=Help  F6=Bookshelf  F12=Cancel

```

ブックシェルフをオープンする際にストリングを検索するには、BOOK コマンドでストリングをタイプすることもできます。

```
COMMAND INPUT ==> book ISF031I
```

ストリングがパネル上に表示されたら、カーソルをその位置に合わせて F6 (BOOK) キーを押します。

```
SDSF ULOG CONSOLE KEN          LINE 3,523 COLUMNS 2 81
COMMAND INPUT ==>              SCROLL ==> HALF
SYS510  97131 15:34:21.19      ISF031I CONSOLE KEN ACTIVATED
SYS510  97131 15:34:23.07      -$DA
SYS510  97131 15:34:24.22      $HASP612 NO ACTIVE JOBS
SYS510  97131 15:34:45.02      -D R,L
SYS510  97131 16:12:21.43      IEE112I 12.49.45 PENDING REQUESTS 18
                                      RM=0    IM=0    CEM
                                      NO MESSAGES
```

SDSF パネル上の情報探索

SDSF は 1 画面に表示できるよりも多くの情報を表示するため、SDSF パネルは上下左右にスクロールすることができます。また、特定の情報を見付けることもできます。次のように値を指定して、コマンドまたは PF キーでスクロールします。

HALF 画面の半分をスクロール

PAGE フルスクリーンをスクロール

MAX 最大距離をスクロール

CSR カーソルの位置へスクロール

DATA フルスクリーン分マイナス 1 行をスクロール

数値 指定した行数をスクロール

スクロール・コマンドには次のものがあります。

FIND 文字ストリングを検索する

FINDLIM

検索する行数を設定する

LOCATE

行を番号で、または欄を表題で見付ける

UP、DOWN、LEFT、RIGHT

特定の方向にスクロールする

TOP、BOTTOM

先頭行または最終行にスクロールする

NEXT、PREV

出力データを次のデータ・セットに、または Operlog を次の時間単位にスクロールする

上書き可能フィールドでの値の変更

表形式パネルのいくつかのフィールドは、上書きして、その値を変更することができます。デフォルトにより、上書き可能フィールドは SDSF パネル上で緑または赤で表示されます。有効な値については、オンライン・ヘルプを参照してください。

上書き可能フィールドの幅を拡張したり、ポップアップ内で関連するフィールドのセットを上書きするには、フィールド内で + を単独でタイプします。

たとえば、複数の SFORMS を上書きするには、SFORMS 欄内に + をタイプして、以下のポップアップを表示します。

```
Overtime Extension

Column SFORMS
Maximum length 8

Type values or use blanks to
erase values.
====> STD
====> NAR
====>
====>
====>
====>
====>

F1=Help F12=Cancel
```

欄内の値は、上書きしても Enter キーを押していなければ、コマンド行で `reset` とタイプすることによってリストアすることができます。

上書きした行にカーソルを保持しておくには、コマンド行に `set cursor on` とタイプします。

アクション文字によるコマンド実行

アクション文字は短いコマンドで、通常 1 文字か 2 文字で NP 欄にタイプすることができるものです。

これらのアクション文字は、特定のオブジェクト (ジョブ、イニシエーター、プリンターなど) に対してアクションを実行する場合に使用します。各パネルのアクション文字の詳細については、オンライン・ヘルプを参照してください。

有効なアクション文字を、その説明とともに表示するには、コマンド行に `set action` とタイプします。

アクション文字のリストを表示するだけであれば、`set action short` とタイプします。

```

SDSF INPUT QUEUE DISPLAY ALL CLASSES                LINES 1-5 (5)
COMMAND INPUT ==>>                                SCROLL ==>> HALF
ACTION=//,=,+ ,?, A, C, CA, CD, CDA, D, E, H, L, P, PP, Q, S, SB, SE, SJ, X, XC,
ACTION=XD, XDC, XF, XFC, XS, XSC
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY C  POS  PRTDEST  RMT  NODE
   ISF2CMDS JOB08765 DLR      7  H  16  LOCAL      1
   ISF2ALL  JOB08871 DLR      7  H   3  LOCAL      1
   ISF2FILT JOB08883 DLR      7  H  14  LOCAL      1

```

アクション文字を入力した行にカーソルを保持しておくには、コマンド行に `set cursor on` とタイプします。

繰り返しアクション文字または上書きコマンド

表形式の表示で、SDSF 繰り返しアクション文字とブロック・アクション文字 (= および //) を使用すれば、アクション文字または上書き可能フィールド値を繰り返して入力する必要がなくなります。

Repeat (=)

直前のアクションを繰り返します。

データを再入力せずに、直前のアクション文字を繰り返したり、上書きするために使用します。表の表示の NP 欄の 1 行に = を入力して、繰り返しを示します。

```

Display Filter View Print Options Help
-----
SDSF OUTPUT ALL CLASSES  ALL FORMS  LINES 16,442,503 LINE 1-4 (13445)
COMMAND INPUT ==>>                                SCROLL ==>> PAGE
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY C  FORMS  DEST  TOT-REC
   THERESA  JOB06550 THERESA  7  A  STD  p1f587  2,558
=   BILL27  JOB04316 BKELLER  7  A  STD  LOCAL    15
   SCOTT4  JOB06424 SYSUSER  7  A  STD  P12N0030 26
=   RSCS1957 JOB23606 COOP    7  A  STD  PRT20    19

```

図 2. 上書きの繰り返しの例

ブロック (//)

行のブロックを処理します。

ある範囲の行を処理するために使用します。処理する行のブロックの最初の行に // を入力し、最後の行にもう 1 つの // を入力します。

```

Display Filter View Print Options Help
-----
SDSF OUTPUT ALL CLASSES ALL FORMS LINES 16,442,503 LINE 1-4 (13445)
COMMAND INPUT ==> SCROLL ==> PAGE
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY C FORMS  DEST  TOT-REC
//  THERESA  JOB06550 THERESA  7 A STD  p1f587  2,558
    LAURIELL JOB04316 LAURIEL  7 A STD  LOCAL  15
    SCOTT4   JOB06424 SYSUSER  7 A STD  P12N0030 26
//  RSCS1957 JOB23606 COOP    7 A STD  PRT20   19

```

図3. 上書きのブロックの繰り返しの例

```

Display Filter View Print Options Help
-----
SDSF OUTPUT ALL CLASSES ALL FORMS LINES 16,442,503 LINE 1-4 (13445)
COMMAND INPUT ==> SCROLL ==> PAGE
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY C FORMS  DEST  TOT-REC
//p SHERRYFA  JOB06550 SHERRYF  7 A STD  P2D236  2,558
    NICKIJOB JOB04316 NICKIJOE  7 A STD  LOCAL  15
    SCOTT5   JOB06424 SYSUSER  7 A STD  P12N0030 26
//  RSCS1957 JOB23606 COOP    7 A STD  PRT20   19

```

図4. アクション文字のブロックの繰り返しの例

注: 繰り返しアクションまたはブロック・アクションを取り消すには、reset を入力します。

SDSF パネルのカスタマイズ

ISPF では、作業環境に合わせて、パネル内の各部分のカラー、強調表示、あるいは輝度を設定することができます。

表形式パネル上のカラーによって、行によって表されているオブジェクト (ジョブ、プリンターなど) がアクティブであるかどうかということと、フィールドが上書き可能であるかどうかということが示されます。デフォルトのカラーは、次のとおりです。

- 青 アクティブでない。上書き不可。
- 白 アクティブ。上書き不可。
- 緑 アクティブでない。上書き可能。
- 赤 アクティブ。上書き可能。

これらのカラーの設定に加えて、表形式パネル上の欄の順序を変更したり (19ページの『表形式表示での欄の順序変更』を参照)、アクション・バーをオンまたはオフにすることができます。

システム・プログラマーは、SDSF 初期化パラメーターを使用して、パネルをさらにカスタマイズできます。

set screen と入力するか、アクション・バーから Options を選択し、次に Set screen characteristics... を選択します。

```

Set Screen Characteristics

Display the action bar      1  1. Yes
                           2. No

Type a value or blank a field to restore the default.
Press F5/17 to see changes.

Panel Element              Color  Highlight Intensity
Title line                 WHITE  NORMAL    HIGH
Command input line        WHITE  NORMAL    HIGH
Column headings           BLUE   NORMAL    LOW
Message lines             TURQ  NORMAL    HIGH
Information lines         BLUE   NORMAL    LOW
Output fields for active jobs WHITE  NORMAL    HIGH
Input fields for active jobs RED    NORMAL    HIGH
Output fields for inactive jobs BLUE   NORMAL    LOW
Input fields for inactive jobs GREEN   NORMAL    LOW

F1=Help  F5=Refresh  F10=Color  F11=Cuaattr  F12=Cancel

```

アクション・バーの表示に対する設定を、番号をタイプして選択します。カラー、強調表示または輝度の値に上書きして変更する。

ポップアップに変更結果を表示するには、F5 を押します。共通ユーザー・アクセス (CUA) 特性を変更するには、PF11 (Cuaattr) を押します。

表形式表示での欄の順序変更

ISPF のもとでは、arr ? とタイプするか、View プルダウンから Arrange... を選択します。

Arrange ポップアップで移動する欄を選択し、次に、後または前を示すために A または B を入力します。

幅を変更するには、新しい値を入力します。

```

Arrange                               Row 1 to 11 of 31

Command ==>>

Select a column or block with / or // then type A (after)
or B (before) to move. Special function keys:
F5/17=Refresh list  F11/23=Clear input  F6/18=Default order

Column      Width  Description
JOBID       8
OWNER       8
PRTY        4
C           1
/ FORMS     8
DEST        8
TOT-REC     9
PRT-REC     9
TOT-PAGE    9
a PRT-PAGE  9
DEVICE      8

```

コマンドを使用するには、arrange または arr とタイプし、欄を移動するパラメーターをそれに続けます。

- 欄を別の欄の後に移動するには、 *A* を使用します。
- 欄を別の欄の前に移動するには、 *B* を使用します。
- 欄をパネルの最後に移動するには、 *last* を使用します。
- 欄を固定フィールドの後の先頭に移動するには、 *first* を使用する。

詳細については、48ページの『ARRANGE -- 表形式パネル上の欄の順序を変更する』を参照してください。

例

```
COMMAND INPUT====> arr queue a jobid
JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY  QUEUE  C  POS  PRTDEST
ACTAPS02 JOB23991 SCHED   15  INPUT  J   LOCAL
IBMUSERU JOB09173 RACF2ND  7  EXECUTION  A   1  LOCAL
```

結果：

```
JOBNAME  JOBID  QUEUE  OWNER  PRTY  C  POS  PRTDEST
ACTAPS02 JOB23991 INPUT   SCHED   15  J   LOCAL
IBMUSERU JOB09173 EXECUTION RACF2ND  7  A   1  LOCAL
```

```
COMMAND INPUT====> arrange jobid last
JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY  QUEUE  C  POS  PRTDEST ...
ACTAPS02 JOB23991 SCHED   15  INPUT  J   LOCAL ...
IBMUSERU JOB09173 RACF2ND  7  EXECUTION  A   1  LOCAL ...
```

結果：

```
JOBNAME  OWNER  PRTY  QUEUE  C  POS  PRTDEST ...  JOBID
ACTAPS02 SCHED   15  INPUT  J   LOCAL ...  JOB23991
IBMUSERU RACF2ND  7  EXECUTION  A   1  LOCAL ...  JOB09173
```

図5. ARRANGE コマンドの例

元の欄の順序および幅にリストアするには、 `arr default` とタイプします。

パネル情報のフィルター操作およびソート

SDSF パネルを制限して必要なものだけを表示するには、次の SDSF コマンドを使用します。

コマンド	使用方法	パネル	ページ
DEST	宛先によるデータのフィルター操作	H、I、O、PR、 PUN、ST	55
FILTER	任意の欄または欄の組み合わせのデータのフィルター操作	表形式、 OPERLOG	21、57
INPUT	ODS パネルを表示する場合の SYSIN データ・セットの組み込み	ODS	72
OWNER	所有しているユーザー ID によるデータのフィルター操作	DA、I、O、 H、ST	84
PREFIX	ジョブ名によるデータのフィルター操作	DA、I、O、 H、ST	87

コマンド	使用方法	パネル	ページ
RSYS	ログ・パネル上の WTOR のフィルター操作	SYSLOG、 OPERLOG	103
SELECT	他のフィルターを変更しないでジョブを表示するための高速パス	表形式パネル	22, 105
SORT	フィールド欄の昇順または降順によるソート	表形式パネル	121
SYSNAME	シスプレックス内の選択したシステムを含めるための行の制限	DA、INIT、 PR	127

表形式パネルとは、データを表形式で表示するパネルすべてを指します。

FILTER と SELECT については、次のセクションで詳しく説明します。

任意の行のフィルター操作

フィルター機能は、ブール演算子を使用して最大 25 までのフィルターを定義するために使用することができます。

ISPF のもとでは、fil ? とタイプするか、Filter プルダウンから Filter... を選択し、Filter ポップアップを表示します。

ポップアップ上の値をタイプするか、または有効値のリストから選択します。複数のフィルターを入力する際は、AND または OR を使用してそれらのフィルターの関係を指定します。フィルターに対する設定があります。

between columns

2 つ以上の異なる欄 (TOT-REC と FORMS など) にフィルター操作を行う際に使用します。

within a column

同じ欄内の 2 つ以上の値 (FORMS の値 STD または NAR) にフィルター操作を行う際に使用します。

Filter Row 1 to 11 of 25

Command ==>>

Type filter criteria. Type a / in the Column or Oper fields for valid values. Press F11/23 to clear input.

AND/OR between columns AND (AND/OR)
AND/OR within a column OR (AND/OR)

Column	Oper	Value (may include * and %)
prefix_____	eq	gilg*_____
prefix_____	eq	kidfr*_____
_____	—	_____

フィルター操作をオフにするには、filter off とタイプします。

フィルター・コマンドでも、一度に 1 個のフィルターを入力することができます。たとえば以下のとおりです。

```
COMMAND INPUT ==>> fil jobid eq t*027%
```

有効なフィルター数を表示するには、set display とタイプします。

一時フィルター

DEST、OWNER、および FILTER などに対する既存の値を変更せずに一時フィルターを設定するには、SELECT を使用します。選択したい行の値 (ジョブ名、ジョブ番号、ジョブ ID または DD 名) を指定して select か s をタイプします。SELECT を使用すると、設定変更が許可されている場合は、ほかのフィルター設定をすべてオーバーライドします。追加情報については、105 ページを参照してください。

```
Display Filter View Print Options Help
-----
SDSF STATUS DISPLAY ALL CLASSES                LINE 1-6 (6)
COMMAND INPUT ==> s j5412                      SCROLL ==> CSR
PREFIX=BKELLER* DEST=(ALL) OWNER=*
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY  QUEUE  C  POS  PRDEST  STAT
BKELLER TSU10787 BKELLER  15 EXECUTION  LOCAL
BKELLER JOB17024 BKELLER   1 PRINT    A  9796 BKELLER
BKELLERA JOB23104 BKELLER  1 PRINT    U  10630 LOCAL
BKELLERB JOB21474 BKELLER  1 PRINT    U  11266 LOCAL
BKELLER JOB28231 BKELLER   1 PRINT    A  11361 BKELLER
BKELLER JOB05640 BKELLER   1 PRINT    A  11428 BKELLER
```

結果は次のとおりです。

```
Display Filter View Print Options Help
-----
SDSF STATUS DISPLAY ALL CLASSES                LINE 1-6 (6)
COMMAND INPUT ==>                               SCROLL ==> CSR
PREFIX=BKELLER* DEST=(ALL) OWNER=*
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY  QUEUE  C  POS  PRDEST  STAT
DROYEKA JOB05412 DROYEK   8 EXECUTION  LOCAL
```

元のフィルターをリストアするには、パラメーターを指定せずに s とタイプします。

現行値の保管および照会

ISPF のもとで SDSF を使用する際は、SDSF はセッション中の大部分のコマンドの値を保管します。

ほとんどの SDSF 値は、コマンドを ? パラメーターとともに入力することによって照会することができます。たとえば、action ? によって、メッセージ行の ACTION の設定値が表示されます。

使用中のフィルター数の他に、PREFIX、DEST、OWNER および SORT の設定値を表示するには、SET DISPLAY を使用します。

たとえば以下のとおりです。

```
COMMAND INPUT ==> set display on
```

結果は次のとおりです。

```

SDSF INPUT QUEUE DISPLAY ALL CLASSES                                LINE 22-42 (69)
COMMAND INPUT ==>>>                                           SCROLL ==>> PAGE
PREFIX=* DEST=LOCAL OWNER=THERESA SORT=JOBNAME/A RNUM//D
FILTERS=3
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY C  POS  PRDEST  RMT  NODE  SAFF  A
#CLRLCG  JOB26658  THERESA  8  D  19  LOCAL  1
#CLRLCG  JOB26693  THERESA  8  D  20  LOCAL  1
JYINBKUP  JOB27326  THERESA  7  D  21  LOCAL  1
JYINFPS  JOB32332  THERESA  7  D  22  LOCAL  1
JYINFPS  JOB32333  THERESA  7  D  23  LOCAL  1
JYINS    JOB32337  THERESA  7  D  24  LOCAL  1

```

照会、保管、または表示を行うことができるコマンドは次のとおりです。

照会 ? コマンド・パラメーターで現行値をチェックできることを示します。

セッション間にわたる保管

ISPF の SDSF セッション全体にわたり、値が保管されるコマンドを示します。

パネル別に保管

特定のパネルの値が保管されることを示します。他のすべての値は、SDSF パネル全体にわたって保管されます。

コマンド	照会	セッション間にわたる保管	パネル別に保管
ACTION	✓		
APPC	✓	✓	
ARRANGE	✓	✓	✓
DEST	✓	✓	
FILTER	✓	✓	✓
FINDLIM	✓	✓	
LOGLIM	✓	✓	
OWNER	✓	✓	
PREFIX	✓	✓	
PRINT DATASET		✓	
PRINT FILE		✓	
PRINT SYSOUT		✓	
RSYS	✓	✓	
SET ACTION	✓	✓	
SET CONFIRM	✓	✓	
SET CONSOLE	✓	✓	
SET CURSOR	✓	✓	
SET DATE	✓	✓	
SET DELAY	✓	✓	
SET DISPLAY	✓	✓	
SET LANG	✓	✓	
SET LOG	✓	✓	
SET SCHARS	✓	✓	

コマンド	照会	セッション間にわたる保管	パネル別に保管
SET SCREEN		✓	
SET SHELF	✓	✓	
SET TIMEOUT	✓	✓	
SORT	✓	✓	✓
SYSID	✓	✓	
SYSNAME	✓	✓	
TRACE	✓		

コマンド行またはポップアップから MVS コマンドまたは JES2 コマンドを出す

SDSF コマンド行またはポップアップから、MVS および JES2 コマンドを出すことができます。応答は、現在表示されているパネルの情報行に表示されます。応答の完全なセットは、ULOG に表示されます。

MVS コマンドまたは JES2 のコマンドに、コマンドの一部として ISPF 行の終わり (EOL) 文字が含まれている場合、SDSF はそのコマンドを EOL 文字までしか処理しません。

短い MVS または JES2 コマンドを出すには、コマンド行でスラッシュ (/) の後にコマンドを入力します。たとえば、/d a,1 のように入力します。

長いコマンドを出すには、コマンド行にスラッシュだけを入力し、ポップアップを表示します。それからポップアップにコマンドを入力します。

```
COMMAND INPUT ==> /
```

あるいは、まずコマンド行にコマンドを入力してからコマンド・テキストの終わりに + を追加し、テキストの入ったポップアップを表示します。

```
COMMAND INPUT ==> /setprog apf,add,ddname=isf.isfload,vol= +
```

System Command Extension

Type or complete typing a system command, then press Enter.

```

==> setprog apf,add,ddname=isf.isfload,vol= __
==> _____
==> _____

```

F1=Help F12=Cancel

遅延間隔内で出されたメッセージが現行のパネルのメッセージ行に表示されます。遅延間隔とは、SDSF がメッセージをメッセージ行に表示する前に、そのメッセージを待機する最長時間のことです。遅延間隔を変更するには、set delay とタイプし、秒数をそれに続けます。デフォルトは 1 秒です。遅延が 0 (つまり、set delay 0) とは、/ コマンドに回答して出されたメッセージがメッセージ行に表示されないように指定していることとなります。

コマンド・パラメーターを小文字で指定する必要がある場合は、ISPF のポップアップを使用して、コマンド・パラメーターを単一引用符で囲みます。

詳しくは、42ページの『/ -- MVS コマンドと JES2 コマンドを出す』を参照してください。

ODS パネルでの出力ブラウズ

SDSF により ODS パネルで出力をブラウズすることができます。SDSF が ISPF のもとで稼働している場合は、ISPF のブラウズと編集の機能を使用することもできます。

出力のブラウズ

出力をブラウズするには、ジョブの次の NP 欄に s とタイプします。ODS パネルでは、また、JES2 ジョブ・ログ、ジョブの JCL、およびジョブ関連のメッセージも表示されます。

```
SDSF OUTPUT DISPLAY SUSANL   TSU01786   DSID    2 LINE 0          COLUMNS 02- 81
COMMAND ===>                SCROLL===>PAGE
***** TOP OF DATA *****
                J E S 2  J O B  L O G  --  S Y S T E M  A Q T S  --  N O D
15.01.02 TSU01786 $HASP373 SUSANL   STARTED
15.01.03 TSU01786 IEF125I SUSANL - LOGGED ON - TIME=15.01.03
          1 //SUSANL JOB '574578,B          ','LEATHERMAN,S.S',REGION=5012K
          2 //PROC01 EXEC PROC01
          3 XXPROC01 EXEC PGM=IKJEFT01,ROLL=(NO,NO),DYNAMNBR=400,
```

ISPF を使用したブラウズおよび編集

ISPF のブラウズと編集を SDSF から呼び出すには、ジョブの次に sb または se アクション文字を入力します。ISPF コマンドを入力することができます。たとえば、ISPF FIND コマンドを使用して検索を行ったり、繰り返し行われるタスク用に作成したマクロを呼び出すことができます。表示内容は変更できますが、終了時に保管はされません。SDSF コマンドを使用することはできません。

ブラウズでは、新しいレコードがファイルに追加されると、それが表示されます。編集では、ジョブが作成した新しいレコードは、編集中のファイルには追加されません。

```
SDSF EDIT -- BKELLERZ (JOB26263) ----- COLUMNS 001-081
COMMAND ===>                SCROLL===>PAGE
                J E S 2  J O B  L O G  --  S Y S T E M  A Q F T  --  N O D
00001 09.25.05 JOB26263 IRR010I USERID BKELLER IS ASSIGNED TO THIS JOB.
00002 09.25.06 JOB26263 ICH70001I BKELLER LAST ACCESS AT 09:25:06 ON MONDAY, A
00003 09.25.06 JOB26263 $HASP373 BKELLERZ STARTED - INIT 12 - CLASS T - SYS AQ
00004 09.25.07 JOB26263 IEF403I BKELLERZ - STARTED - TIME=09.25.07
```

JCL のみの編集

ジョブに JCL のみを編集するには、sj アクション文字をタイプします。変更を行い、SDSF を終わらせずにジョブを再度実行依頼することができます。終了時に変更内容は保管されません。ジョブが自分のノード上で実行された場合、または実行前である場合は、SJ によって JCL を見られます。

```

SDSF EDIT    HOLDE    (JOB00017) JCLEEDIT          Columns 00001 00072
Command ==>                               Scroll ==> PAGE
***** ***** Top of Data *****
000001 //HOLDE    JOB CLASS=E,MSGCLASS=E
000005 //STEP1   EXEC PGM=IEBDG
000006 //OUTA    DD SYSOUT=E,DCB=(LRECL=80,RECFM=FB,BLKSIZE=800)
000007 //SYSPRINT DD SYSOUT=E
000008 //SYSIN   DD *

```

ISPF のブラウザまたは編集により、2 バイト文字セット (DBCS) SYSOUT データを表示することができます。DBCS データを表示する場合には、そのデータをサポートする装置を使い、ISPF オプション 0 により、ユーザーの端末タイプを適切な装置に設定します。

SDSF パネルからの印刷

SDSF により、次のデータを印刷できます。

- 出力データ
- ログ・パネルからのデータ
- SDSF パネルの画面イメージ

印刷出力は SYSOUT、データ・セット、または印刷ファイル (DD 名 によって指定される) に送られます。

デフォルトの属性で、デフォルト・データ・セットに対してであれば、Print コマンドか X アクション文字のどちらかを使用して印刷できます。

さらに制御が必要な場合は、次のステップを実行できます。

OPEN 印刷データ・セットの値を指定するため、コマンドまたはオプションの SDSF open print パネルを使用して、印刷データ・セットをオープンし、印刷出力を受け取るとともにこれを定義します。データ・セットは 1 度オープンすれば、クローズするまで、そこへの印刷を続けることができます。

PRINT データを印刷します。

CLOSE

印刷データ・セットをクローズします。

SDSF により、次の方法で印刷することができます。

1. 表形式パネルの NP 欄にアクション文字を入力します (27 ページ)。
2. コマンド行に SDSF コマンドを入力します (27 ページ)。
3. アクション・バーから Print プルダウンを選択します。ポップアップからオプションを選択します (28 ページ)。

高速パス印刷

わずかなキーストロークで、すべてのジョブ出力をデフォルト特性で SYSOUT に印刷できます。次のどちらかを実行します。

- ジョブの隣の NP 欄に xc アクション文字をタイプします。
- s アクション文字を使用してジョブをブラウザし、コマンド行に print とタイプして、Enter を押します。

アクション文字を使用する印刷

X アクション文字は、SDSF で印刷を行う最も容易な方法です。X アクション文字は複数のパラメータを受け入れます。そのうちのいくつかは、印刷データ・セットをオープンするためのパネル、および属性を指定するためのパネルを表示します。たとえば以下のとおりです。

```

SDSF OUTPUT ALL CLASSES  ALL FORMS  LINES 499  LINE 1-2 (18)
COMMAND INPUT ==>
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRTY C FORMS  FCB  DEST
   TCAS    STC00007  IBMUSER  144 A STD  **** LOCAL
XS  CLRMANB  STC00009  ++++++++  144 A STD  **** LOCAL
    
```

結果は次のようになります。

```

                                SDSF Open Print
COMMAND INPUT ==>

Enter SYSOUT attributes below:

Class      ==>      (A through Z, 0 through 9)
Copies     ==>      (1 to 255)
Forms      ==>      **
Destination ==>
FCB        ==>
UCS        ==>
Process Mode ==>      **
Pagedef    ==>      **
Formdef     ==>      **
    
```

タスク	アクション文字
SYSOUT をオープンし、そこに印刷する。	X
SYSOUT をオープンし、SYSOUT に印刷し、SYSOUT をクローズする。	XC
データ・セットをオープンするパネルを表示し、パネルの完了後に印刷する。	XD
ファイルをオープンするパネルを表示し、パネルの完了後に印刷する。	XF
SYSOUT をオープンするパネルを表示し、パネルの完了後に印刷する。	XS
データ・セットをオープンするパネルを表示し、パネルの完了後に印刷し、データ・セットをクローズする。	XDC
ファイルをオープンするパネルを表示し、パネルの完了後に印刷し、そのファイルをクローズする。	XFC
SYSOUT をオープンするパネルを表示し、パネルの完了後に印刷し、SYSOUT をクローズする。	XSC

SDSF コマンドを使用する印刷

コマンド入力行に PRINT コマンドを入力します。コマンドによっては、Open Print File パネルのように完了する必要があるパネルを表示します。

```
COMMAND INPUT ==> print file
```

結果は次のようになります。

```

                                SDSF Open Print File

COMMAND INPUT ==>

Type a preallocated DDNAME to be used as the reference for the print file.
The data will be printed as is.

DDNAME          ==>
```

タスク	コマンド
ブラウザ・ファイルの印刷	ログ COMMAND INPUT ==> print <i>firsttime (firstdate)</i> <i>lasttime (lastdate)</i> ODS print <i>firstline lastline</i>
SYSOUT 値の入力	COMMAND INPUT ==> print sysout
SYSOUT のオープン	COMMAND INPUT ==> print open
データ・セットのオープン	COMMAND INPUT ==> print odsn
印刷ファイルのオープン	COMMAND INPUT ==> print file
クローズ	COMMAND INPUT ==> print close
画面イメージの印刷	ISPF print-hi (ISPF リスト・ファイルへの印刷) TSO print screen

使用できるすべての印刷パラメーターについては、 91 ページから 96 ページを参照してください。

Print プルダウンによる印刷

ISPF のもとでは、Print プルダウンを使用することができます。

タスク	プルダウンの選択
印刷のための SYSOUT、データ・セット、またはファイルをオープン	選択 1. Print open sysout...
ある範囲の複数の行をログまたは ODS に印刷	選択 4. Print... ポップアップにより、ある範囲の行またはすべての行を指定できます。
画面イメージの印刷	選択 6. Print screen with ISPF. (これにより、ISPF リスト・ファイルに印刷されます。)
印刷をクローズ	選択 5. Print close...

分割画面モードの使用

ISPF では、分割画面モードで操作して、複数の論理セッションを持つことができます。どれがアクティブ・パネルになるかは、カーソルの位置によって決まります。詳細については、該当する ISPF の資料を参照してください。

分割画面モードでは、SDSF トレース機能は 1 つの画面に対してしか作用しません。

ユーザー・ログを使用してすべてのコマンドを記録し、第 2 の SDSF セッションを開始したい場合は、セッションの 1 つに対して、ユーザー・ログに別の名前を割り当てる必要があります。SET CONSOLE *console-name* とタイプします。*console-name* は自分のユーザー ID 以外の名前です (108 ページ を参照してください)。

他のユーザーに自分のジョブの表示を許可する

SAF セキュリティー・インターフェースにより、他のユーザーが自分のジョブを表示したり、自分が他のユーザーのジョブを表示することができます。セキュリティ管理者と相談するか、他ユーザーの許可プロセスで述べられているような USER1 が USER2 の出力をブラウズできるようにする資源アクセス管理機能 (RACF*) のコマンドを使用してください。

SAF の使用については、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティを参照してください。ユーザーに許可を与えるために使うコマンドの詳細については、OS/390 Security Server (RACF) コマンド言語 解説書 を参照してください。

別のユーザーが容易に特定のジョブを見ることができるようにするには、O パネルまたは H パネル上で、そのジョブの DEST フィールドを別のユーザーのユーザー ID で上書きします。

別のユーザーが長期にわたって自分のジョブを見ることができるようにするための一般的な方法は、次のとおりです。

1. セキュリティー管理者と相談の上、JESSPOOL クラスおよび GENERICOWNER 処理をアクティブにする。

2. 次のようにプロファイルを定義する。(ここで、N1 はノードです。)

```
RDEFINE JESSPOOL N1.your_userid.*.D*.*
```

3. 他のユーザーが自分の出力を表示することを許可する。

```
PERMIT N1.your_userid.*.D*.* CLASS(JESSPOOL) ID(other_userid)  
ACCESS(READ)
```

言語の指定

ISPF で SDSF を実行する際、ヘルプおよびチュートリアル・パネルで使用する言語を選択することができます。日本語を使用するには、set lang jpn とタイプします。(ただし日本語機能がインストールされている必要があります。) 言語が日本語に設定されている場合に英語を使用するには、set lang eng とタイプします。

日付形式の指定

SDSF パネルに表示され、入力データ (print、locate、および filter で) として入れられる日付について、3 つの日付形式のいずれかを選択できます。日付形式は、月日年、日月年、または年月日のいずれかにすることができます。月、日、および年の間の区切り記号は、斜線 (/)、ダッシュ (-)、またはピリオド (.) のいずれかにできます。

たとえば、日付形式を年 - 月 - 日 と設定したい場合は、次のようにタイプします。

```
SET DATE YYYY MM DD -
```

バッチでの SDSF の使用

バッチ処理を使用すれば、制御ステートメントとしてコマンドのリストを作成することによって、頻繁に繰り返される SDSF コマンドを出して、SDSF に逐次的に処理を行わせることができます。このリストでは、使用したい SDSF パネルと、そこで実行したい操作を指定します。

SDSF をバッチで呼び出す

EXEC ステートメントで次のどちらかのプログラム名を指定して SDSF を呼び出します。

- SDSF。コマンドとアクション文字をサポートします。
- ISFAFD。コマンド、アクション文字、表形式およびその他のパネル (印刷パネルなど) のフィールドの上書きをサポートします。

EXEC ステートメントの後は、バッチ入力の場合は ISFIN DD、バッチ出力の場合は ISFOUT DD にします。

たとえば、プログラム名 ISFAFD を呼び出すバッチ・ジョブでは、次のようなステートメントを使用できます。

```
//          EXEC PGM=ISFAFD
//ISFOUT DD SYSOUT=*
//ISFIN  DD *
```

バッチ出力の画面の縦と横の長さを変更するには、プログラム名の後に PARM='++xxxx,yyyy' を使用します。ここで、xxxx は画面の縦の長さ (行数) で、yyyy は横の長さ (文字数) です。たとえば、縦を 32、横を 1000 に設定するには、次のようにします。

```
//          EXEC PGM=SDSF,PARM='++32,1000'
//ISFOUT DD SYSOUT=*
//ISFIN  DD *
```

PARM ステートメントを使用しない場合のデフォルトは、横 132、縦 60 になります。最大値は縦横ともに 9999 です。

SDSF をバッチで呼び出す際に SDSF サーバーの名前を変更することができます。次の例で、サーバー名は SDSFT です。

```
// EXEC PGM=SDSF,PARM='SERVER(SDSFT)'
```

SDSF をバッチで呼び出す際にそのサーバー名を追加する場合、サーバー名を画面サイズの変更と組み合わせることはできません。

SDSF をバッチで呼び出したときに戻りコード 0016 が出された場合、これは、ユーザーが ISFPARMS で定義されたどのグループにも入れられないことを示します。ISFPARMS の説明については、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティを参照してください。

プログラム名 SDSF を使用する

SDSF パネルおよびコマンド

パネルにアクセスしてその内容を表示するには、パネル・コマンドに ++ALL を指定します。たとえば、H パネルを選択してその内容を表示するには、次のようにします。

```
H
++ALL
```

++ALL を指定すると、カード上のその他のものは無視されます。

パネルの中を自由に移動するには、スクロール・コマンド (RIGHT、LEFT、UP、DOWN、TOP、BOTTOM) を使用できます。

39ページの『第3章 SDSF コマンド』で説明した構文に従って、コマンド行に入力する任意の SDSF コマンドを使用します。コマンド行の長さは 42 文字です。

アクション文字

アクション文字を使用するには、バッチ・ジョブで ++action-character をコーディングします。

破壊アクション文字について確認のポップアップが表示されないようにするには、SET CONFIRM OFF コマンドを使用します。

アクション文字を出す前に、FIND が成功している必要があります。このようにすると、正しくない行に対してアクション文字を出すことがないようにすることができます。

FIND が異常終了する場合も考慮して、それぞれのアクション文字の後に保留状態のアクション文字をクリアする RESET コマンドを指定してください。たとえば、O パネルで jobxyz ジョブを検索する場合は、S アクション文字を使用してそのジョブをブラウズし、見付からなかった場合に RESET を出すようにするために、次のようにします。

```
O
FIND 'jobxyz'
++S
RESET
```

プログラム名 ISFAFD を使用する

プログラム名 ISFAFD を使用して SDSF を呼び出すと、SDSF はプログラム名 SDSF を使用して呼び出した場合と同様に機能しますが、次のような相違点があります。

- アクション文字は FIND の正常実行が必須ではない。
- 上書きと PF キーのサポートがある。
- パネルの更新は明示的に要求する必要がある。 AFD REFRESH コマンドで実行します。
- SDSF パネルに属性バイト (カラー、入力調整などのフィールド特性の定義に使用) がある。プログラム名 SDSF を使用して SDSF を呼び出すと、これらの属性バイトは変換されます。

コマンド

プログラム名 ISFAFD では、プログラム名 SDSF を使用する場合と同様に SDSF コマンドを使用することができます。また、32 ページで説明する AFD コマンドも使用できます。

AFD コマンド: SDSF をプログラム名 ISFAFD でバッチ・モードで実行する場合は、AFD コマンドを使用します。

フォーマット

このコマンドの構文は、次のとおりです。

```

▶▶ AFD—LOCATE— [BLK—block-id—] —————▶▶
                  [TOD—time-of-day—]

▶▶ AFD—LOGSTAMP— [ON—] —————▶▶
                  [OFF—]

▶▶ AFD—QUERY DS— —————▶▶

▶▶ AFD—QUERY CODEPAGE— —————▶▶

▶▶ AFD—QUERY COLUMNS— —————▶▶

▶▶ AFD—REFRESH— —————▶▶

▶▶ AFD—WTOR— [ON—] —————▶▶
               [OFF—]

▶▶ AFD—NP— [LONG—] —————▶▶
            [SHORT—]

▶▶ AFD—.END— [DELETE—] —————▶▶

```

LOGSTAMP

SDSF の PRINT 機能でログを印刷する際に、OPERLOG または SYSLOG 内の各レコードに対するログ・スタンプ接頭部の追加を制御します。ログ・スタンプは、DD 名 (たとえば PRINT FILE) への印刷時にのみ追加されます。

LOGSTAMP ON を指定するとログ・スタンプ接頭部が追加され、LOGSTAMP OFF を指定するとログ・スタンプ接頭部は追加されません。OPERLOG のログ・スタンプは 32 バイトの接頭部です。ログ・スタンプについては、表2 に説明されています。

表2. ログ・スタンプの内容

ワード	SYSLOG	OPERLOG
ワード 1-2	ブロック内で最初	IXGBRWSE が戻すローカル TOD 値
ワード 3-4	ジョブ・キーとデータ・セット・キー	IXGBRWSE が戻すブロック ID
ワード 5	データ・セット内の相対レコード番号	ブロック内の相対レコード番号
ワード 6	1. バイト 1: レベル (01 でなければならない) 2. バイト 2: 予約済み (00 でなければならない) 3. バイト 3, 4: 予約済み	1. バイト 1: レベル (01 でなければならない) 2. バイト 2: 予約済み (00 でなければならない) 3. バイト 3, 4: 予約済み
ワード 7	0	1. バイト 1: 制御 2. バイト 2: カラー 3. バイト 3: 強調表示 4. バイト 4: 輝度
ワード 8	予約済み	予約済み

LOCATE BLK *block-id*

block-id によって識別されるログ・ブロック内の最初のレコードに OPERLOG をスクロールします。 *block-id* は 16 桁の 16 進数です。

LOCATE TOD *time-of-day*

time-of-day によって識別される時刻の最初のレコードに OPERLOG をスクロールします。 *time-of-day* は 16 桁の 16 進数です。

QUERY DS

現行データ・セットまたはログに関する情報をメッセージ行に表示します。レコード・カウント、レコード長、および紙送り機構制御に関する情報が含まれます。SYSLOG および OPERLOG の場合、ログ・スタンプの長さに関する情報も含まれます。(SYSLOG または OPERLOG パネルには、レコード・カウントは表示されません。レコード長が SDSF にない場合、SDSF は当該ジョブの最大レコード長に 1 を加えた値を使用します。また、レコード長が未知の場合は、画面の幅に 1 を加えた値を使用します。) このコマンドはブラウザ・パネルでのみ有効です。

QUERY CODEPAGE

使用中のコード・ページをメッセージ行に表示します。そのシステムが、ISFTR マクロまたは TRTAB ステートメントでコード・ページを指定せず、ISFPARMS に独自のコード・ページを定義している場合、コード・ページの値は N/A と表示されます。

QUERY COLUMNS

メッセージ行を使用して、現行の表形式パネルの欄に関する情報を表示します。この形式は次のとおりです。

- 上書き可能な欄 : 'title'=(O,length)
- 関連した欄を持つ上書き可能な欄 : 'title'=(O,length, number-of-values)

- 上書き可能でない欄 : 'title'=(N)

REFRESH

SDSF に現在の画面をリフレッシュするよう要求します。

WTOR

ログ・パネルの一番下の WTOR の表示を制御します。WTOR ON は、ログ・パネルの WTOR の表示をオンにします。SDSF には、ACTION コマンドまたは ISFPARMS の ACTION パラメーターでユーザーに定義されている WTOR が表示されます。WTOR OFF は、ログ・パネルの WTOR の表示をオフにします。

NP

NP 欄の幅を制御します。

NP LONG は、すべての表形式パネル上の NP 欄を拡張幅に設定します。PR 表示および PUN 表示では 10 文字、ほかのすべての表示では 5 文字です。

NP SHORT は、NP 欄を標準の幅に設定します。

.END

SYSLOG または OPERLOG の現在の一番上の行に、ラベル .END を割り当てます。.END は、PRINT コマンドを使用して SYSLOG または OPERLOG を印刷する際に、終了行の値を上書きします。

前に割り当てられたラベルを削除するときは、DELETE キーワードを使用してください。

ユーザーへの注 : NP 欄に + を入力して、単一の表形式パネル上の NP 欄を一時的に拡張することもできます。その後、NP 欄をリセットするときは、RESET コマンドを使用してください。

例

- AFD WTOR OFF

このコマンドを実行すると、ログ・パネルの一番下の WTOR の表示がオフになります。

- AFD QUERY DS

現行パネルが SYSLOG のときにこのコマンドを入力すると、次のように、SYSLOG に関する情報がメッセージ行に表示されます。

```

Display Filter View Print Options Help
-----
SDSF SYSLOG 29435.152 AQTS AQTS 23/02/1996 LINE      489      COLUMNS  1  80
COMMAND INPUT ==>                                SCROLL ==> CSR
AFD QUERY DS LRECL=130,LSLEN=32,CCTL=NONE
N 0020000 AQTS      96054 11:14:09.67 JOB32625 00000081 ICH70002I YOUR PASSWORD
N 0000000 AQTS      96054 11:14:09.71 TSU32628 00000090 IEF453I D10SWL1 - JOB FA
N 4000000 AQTS      96054 11:14:09.72 TSU32628 00000091 $HASP395 D10SWL1 ENDED
N 0000000 AQTS      96054 11:14:10.00 TSU32627 00000090 IEF453I BULL - JOB FAILE
N 4000000 AQTS      96054 11:14:10.01 TSU32627 00000091 $HASP395 BULL      ENDED
N 0100000 AQTS      96054 11:14:10.03 JOB32625 00000081 $HASP530 GWOTINST ON L9.
N 0100000 AQTS      96054 11:14:11.18              00000081 $HASP534 L9.ST1  INACTI
N 0200000 AQTS      96054 11:14:11.21 JOB32625 00000090 $HASP250 GWOTINST PURGED

```

- AFD LOCATE BLK 1A45B3218C32D862

このコマンドは、OPERLOG パネルを ID が X'1A45B3218C32D862' のログ・ブロックの最初のレコードまでスクロールします。

- AFD NP LONG

このコマンドは、すべての SDSF 表形式表示における NP 欄の幅を拡張幅に設定します。

- AFD QUERY CODEPAGE

このコマンドは、次のように、使用中のコード・ページをメッセージ行に表示します。

```
Display Filter View Print Options Help
-----
HQX7703 ----- SDSF PRIMARY OPTION MENU -----
COMMAND INPUT ==>                                SCROLL ==> HALF
AFD QUERY CODEPAGE=CP00037
LOG - Display the system log
DA - Display active users of the system
```

- AFD .END

このコマンドは、SYSLOG または OPERLOG の現在の一番上の行に、ラベル .END を割り当てます。このラベルを PRINT で使用するときは、次のようになります。

1. 現在の一番上の行が印刷を開始すべき行となるように、ログをスクロールする。
2. PRINT * 99999999 を出す。

これにより、SDSF は現在の一番上の行から、前に .END のマークを付けた行まで印刷します。

PF キー

プログラム名 ISFAFD では、++AFD PF.xx (xx は 2 桁の PF キー番号) をコーディングすることにより、選択した PF キーを使用できます。たとえば、繰り返し検索を実行するには、次のようにコーディングします。

```
++AFD PF05
```

使用できる PF キーは、次のとおりです。

キー	機能
PF03	現行のパネルを終了する。
PF05	直前の FIND を繰り返す。

アクション文字

アクション文字の構文はプログラム名 SDSF の場合と同じです。31ページの『アクション文字』を参照してください。ただし、FIND の正常実行が必須条件ではないため、アクション文字はパネルの一番上の行に対して出されます。アクション文字を間違った行に対して出すことがないようにするため、まずフィルターを設定して、必ず適切な行 (複数も可) が表示されるようにすることができます。

上書き可能フィールド

表形式パネルその他 (印刷用パネルなど) の SDSF パネルの欄は上書き可能です。

表形式パネルの欄を上書きする: OD 以外の任意の表形式パネルの欄は、上書きすることができます。表形式パネルの欄を上書きする場合の構文は、欄の表題の後ろに、= で新しい値を指定し、そのすべてを <> で囲みます。欄の表題と値を単一引用符で囲みます。

たとえば、O 画面でジョブ JFROSTA の形式を STD に変更し、宛先を KGNVMC.JFROST に変更して画面をリフレッシュするには、次のようにします。

```
O
FIND 'JFROSTA'
++<'FORM'='STD'><'DEST'='KGNVMC.JFROST'>
AFD REFRESH
```

欄の表題は、その画面で固有の最短の表題に省略することができます。次のカードまで上書きを続行する場合は、末尾にコンマを使用します。

SDSF を対話式で使用していて、有効な場合は、アクション文字と上書きを組み合わせられますが、アクション文字を上書きの前にする必要があります。たとえば、H 画面でジョブ SMOSES を O アクション文字を使用して保留解除し、クラスを A に変更して画面をリフレッシュするには、次のようにします。

```
H
FIND 'SMOSES'
++O<'C'='A'>
AFD REFRESH
```

OD パネルの出力記述子は上書きできませんが、JDS パネルではほとんどの出力記述子は上書きできます。JDS パネルでは、複数の値 (ADDRESS、NOTIFY など) で構成される出力記述子の先頭の値だけがサポートされています。これらのフィールドの他の値を変更するときは、最初の値に + を上書きしてから、Overtime Extension (上書き拡張) ポップアップに値を指定します。JDS パネルの出力記述子を消去するには、フィールドにコンマ (,) をタイプします。

他のパネルのフィールドを上書きする: 印刷パネル、システム・コマンド拡張ポップアップ、および Overtime Extension ポップアップなど、ISPF を必要としないその他のパネルのフィールドは上書きできます。

その他のタイプの SDSF パネルに値を指定する場合の構文は、表形式パネルのフィールドを上書きする場合の構文と類似していますが、=value を <> で囲むだけで、欄の名前は使用しません。値は定位置になっています。つまり、先頭の指定値はパネルの先頭フィールドに、2 番目の指定値はパネルの 2 番目のフィールドに (以下同様に) 入れられます。コマンド行のあるパネル (印刷パネルなど) の場合、コマンド行は入力フィールドとしては数えられません。

パネルの処理を終了するには、++AFD END か ++AFD PF03 を使用します。

たとえば、Open Print パネルでクラスを H に指定し、コピー数 (先頭と 2 番目のフィールド) を 3 に指定するには、次のようにします。

```
PRINT S
++<='H'><='3'>
++AFD PF03
```

パネルのフィールドをスキップするには、囲みテキストなしで <> を指定します。たとえば、Open Print パネルでクラスを H、形式 (先頭と 3 番目のフィールド) を STD に指定するには、次のようにします。

```
PRINT S
++<='H'>< ><='STD'>
++AFD PF03
```

フィールドをブランクにするには、<=' '> を指定します (ブランクを単一引用符で囲みます)。

印刷データ・セット・オープン・パネルでデータ・セット名を入力するときには、名前を 3 つのセットの単一引用符で囲み、それが完全修飾名であることを示します。TSO 接頭部を追加する場合は、1 セットの単一引用符でデータ・セット名を囲みます。

プログラム名 ISFAFD を使用する場合の注

- 継続文字として末尾コンマを使用し、複数のカードにわたって上書きを続行することができます。この継続文字は、まとめて処理する必要のある上書き (印刷パネルの値など) を複数のカードに指定する場合に必要です。Open Print Data Set パネルにデータ・セット名、メンバー名、および後処理を入力するには、次のようにします。

```
PRINT D
++<='droyek.sdsfdata.december'>,
<='report'>,
<='old'>
++AFD PF03
```

- /* */ で囲んでコメントを記述したり、ブランク行を組み込むこともできます。それらは入力データの処理時には無視されます。
- エラー・メッセージ (AFD CURSOR *row,column*) を回避するには、SET CURSOR を OFF にし、カーソルが常にコマンド行に戻されるようにしてください。

第3章 SDSF コマンド

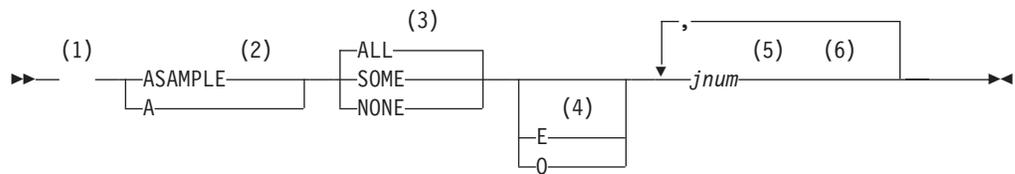
本章では、SDSF コマンドをアルファベット順に紹介します。コマンドの中には、使用する許可が必要なものもあります。

本章では、MVS コマンドおよび JES2 コマンドには触れていません。MVS コマンドおよび JES2 コマンドについては、該当のマニュアルをご覧ください。

形式の表記法

どの SDSF コマンドの説明にも、そのコマンドの形式を示す構文図が含まれています。構文図は、コマンドのオペランドを示しています。特に断わりがなければ、各オペランドを空白で区切ってください。

構文図からコマンドを組み立てるには、図を左から右へ移動して、必要に応じて適切な経路を選択してください。図6 では、構文図の例を示し、コマンドの組み立て方を説明します。このコマンドは、単に例として示してあるにすぎません。これをそのまま使用することはしないでください。



注:

- 1 ここから始めます。
- 2 ASAMPLE または A を選択します。
- 3 オプションのいずれかを選択します。デフォルトは、常に中央線より上方にあります。この場合は、ALL がデフォルトです。
- 4 E か Q を選択するか、どちらも選択しません。
- 5 *jnum* を任意の回数繰り返し、そのたびにコンマを付けます。変数は常にイタリックで表記してあります。
- 6 ここで終わります。

例 : `COMMAND INPUT ==> asample some q 10`

図6. SDSF コマンドの構文図の例

パターン・マッチング

コマンドによっては、パラメーターとして文字ストリングを指定することができます。ストリング内の文字を、パターン・マッチング文字またはワイルド・カード文字と呼ばれる特殊文字で置換することができます。

複数の文字の置換

アスタリスク (*) は、任意の文字ストリングを表すことができます。アスタリスクは、ストリング中の任意の場所に必要だけ使用できます。たとえば、T*E*S は、T4EDS や TDCE0MVS を表します。

単一の文字の置換

パーセント記号 (%) は、任意の単一の文字を示します。パーセント記号は、ストリング中の任意の場所に必要だけ使用できます。たとえば、T%DE%%S は T0DE010S や TADE003S を表します。

* と % はデフォルトで、システム・プログラマーは ISFPARMS 内でこれを変更することができます。

? による値の表示

コマンドによっては、? を入力すれば、その現行値または設定値を表示することができます。ISPF の場合は、現行値をポップアップ・ウィンドウまたは情報行に表示することができます。TSO の下では、現行値をコマンド行か情報行に表示することができます。

システム・プログラマーは、? 文字を別のものに変更することができます。

欄の名称の指定

次の規則を使用して欄の名称を指定してください。

- ヘッダーは、パネルに表示されるのとまったく同じに指定します。
- そのパネルで固有になっていれば、欄のヘッダーは短縮できます。
たとえば、定義された欄のヘッダー (C など) が、そのパネル上の別の欄のヘッダーの省略形 (たとえば、CR) よりも短い場合、SDSF は C をそのパネルに定義されたヘッダーとして認識するので、それを使うことができます。
逆に、CRDATE および CDUMP というようなヘッダーがパネルにあって、C がない場合、C は CRDATE または CDUMP のいずれを示しているかが区別できないので、使うことはできません。
- 欄のヘッダーに組み込みブランクが含まれている場合は、そのブランクが含まれないように欄のヘッダーを短くするか、そのヘッダーを引用符で囲んでください (たとえば、'xxx xxxx')。
すべての単一引用符は、必ず一対にしてください (すなわち、偶数個の単一引用符を使用してください)。
- テキストの入力は、大文字でも小文字でもかまいませんが、SDSF は、小文字を大文字に変換します。SDSF は、この変換によって欄の名称が重複しても、それを区別しません。

時刻と日付の入力

一般に、SDSF パネルに表示される日付と時刻と同じ形式を使用してください。日付と時刻の有効な形式は、次のとおりです。

時刻 hh:mm:ss

日付 mm-dd-yy

SDSF は、2桁の年表示に接頭部として現在の年の先頭の2桁を付加することにより、4桁表示に変換します。区切り記号にピリオドを使用して年を入力する場合は、4桁の年表示形式で入力する必要があることに注意してください。これにより、SDSF は、年と時刻を区別することができます。

日付 / 時刻フィールドの場合、時刻はオプションで、デフォルトは全桁 0 です。

日付形式の指定については、111ページの『SET DATE -- 日付形式』を参照してください。

? -- 代替形式のパネルを使用する

? コマンドは、表形式パネルで入力した場合、代替形式の表形式パネルを表示します。

SDSF のインストール時に、システム・プログラマーが、SDSF パネルごとに基本形式と代替形式を定義します。基本形式はパネルに入るとすぐに表示され、即時に入手可能なデータが含まれているのが普通です。代替形式は、? コマンドを使って表示され、据え置きデータが入っているのが普通です。

パネルにアクセスすると、SDSF は常にそのパネルの基本形式を表示します。? コマンドにより、基本形式と代替形式を交互に切り替えることができます。代替フィールドを表示するために、画面を右にスクロールしなければならない場合もあります。

? をコマンド行にタイプするか、View プルダウンから Change field list to ... を使用してオン / オフを切り替えます。

形式

▶▶?◀◀

例

COMMAND INPUT ==>> ?

このコマンドを表形式パネルで入力すると、SDSF は、その表形式パネルの代替形式か、基本形式 (代替形式が既に表示されている場合) のいずれかを表示します。

? -- SYSOUT 属性を表示する

? コマンドを入力すると、現在表示されている SYSOUT データ・セットの属性が表示されます。

属性はメッセージ行に表示されます。属性表示を消すには、Enter キーを押してください。

?

? は、ODS パネルのコマンド行に入力します。

形式

▶—?—◀

例

COMMAND INPUT ==> ?

ODS パネルでは、これはデータ・セットの属性を示します。

```

SDSF OUTPUT DISPLAY RAMSEYX JOB00037 DSID      2 LINE 0      COLUMNS 02- 81
COMMAND INPUT ==>                                SCROLL ==> PAGE
FORMS   FCB UCS WTR   FLASH C CPY  REC-CNT  LRECL  CCTL DEST
STD     **** ****          **** H  1      21   5674  NONE DETROIT
15.43.54 JOB00037 $HASP373 RAMSEYX  STARTED - INIT 21 - CLASS T - SYS SP31

```

/ -- MVS コマンドと JES2 コマンドを出す

/ コマンドは、SDSF コマンド行から MVS または JES2 のシステム・コマンドを出したり、長い MVS または JES2 コマンドを入力するためのポップアップを表示するのに使用します。

/ コマンドは、任意の SDSF パネル (ヘルプ・パネルとチュートリアル・パネルを除く) のコマンド行に入れてください。

形式

▶—

M
I

 / command [+]—◀

M MVS コマンドを出す場合はマスター・コンソールを使用し、JES2 コマンドを出す場合は、内部コンソール ID 0 を使用することを示します。

I コマンドを出すときに、内部コンソール ID 0 を使用することを示します。

コマンドなし

最後に入力した / コマンドによって用意されたポップアップが表示されます。

command

有効な MVS コマンドまたは JES2 コマンド。

+ システム・コマンド拡張ポップアップが表示されます。これを使用すれば、長いシステム・コマンドを入力できます。コマンド行にコマンド・テキストの一部を入力済みである場合、ポップアップに表示されるので、コマンドの入力を続行することができます。

ユーザーへの注

1. / コマンドを使用する場合には、/ の後に入力する MVS コマンドあるいは JES2 コマンドを出す許可を得ていなければなりません。非 SAF 環境では、コマン

ド・レベルが正しくなければなりません。SAF 環境では、SDSF は / コマンドとともに入力されたコマンド・テキストをチェックしません。

2. コマンドへの応答を見るには、ULOG パネルへアクセスでき、拡張コンソールの使用を許可されていなければなりません。応答は次のようになります。
 - 現在の遅延応答時間 (SET DELAY コマンドで設定される) が 0 である場合、あるいは指定されたタイムアウトより後で応答が届いた場合、応答はありません。
 - 1 行の応答が画面の幅より長い場合は、2 行目に折り返します。
 - 複数行の応答のテキストが画面に入りきらない場合は、画面の最後に + 記号が表示されます。残りの応答を見るために先にスクロールすることはできませんが、ULOG パネルでこれを見ることができます。
 - 複数のメッセージが出される場合は、すべてを見ることができないことがあります。応答のサブセットが表示されます。表示されるメッセージ数は場合によって異なります。すべてのメッセージは ULOG パネルに表示されます。
3. コマンドを出す場合、SDSF は以下のいずれかを使います。
 - アクティブな場合、拡張コンソール ID (またはマイグレーション ID)
 - MVS コマンドの場合はマスター・コンソール、JES2 コマンドの場合はコンソール ID 0
 - 0 (ゼロ) のコンソール ID

M パラメーターと I パラメーターを使用する場合、これをオーバーライドすることができます。
4. システム・コマンド拡張ポップアップを、そこに何もコマンドを出さずに取り消すには、次のようにします。
 - ISPF のもとでは、PF3 または PF12 (取り消し) を押します。
 - TSO のもとでは、PF3 (終了) を押します。
5. バッチ処理では、/ の後にコマンドがなかったり、+ がある場合は、無効になります。
6. コマンドは英大文字に変換されます。ISPF のシステム・コマンド拡張ポップアップを使用すると、コマンド・パラメーターを単一引用符で囲むことによって、その大文字小文字を保持できます。

例

- COMMAND INPUT ==> /
このコマンドは、現行セッションで入力した最後のコマンドに用意されたポップアップを表示します。
- COMMAND INPUT ==> / +
このコマンドは、ブランクのシステム・コマンド拡張ポップアップを表示するので、長いシステム・コマンドを入力することができます。
- COMMAND INPUT ==> m/d a,l
このコマンドは、マスター・コンソールを使用して、D A,L を出す必要があることを示します。
- COMMAND INPUT ==> /setprog apf,add, +

このコマンドは、すでに入力したテキストによって用意されたシステム・コマンド拡張ポップアップを表示するので、コマンドへの追加を継続することができます。

```

System Command Extension

Type or complete typing a system command, then press Enter.

====> SETPROG APF,ADD,_
====>
====>

F1=Help F12=Cancel

```

関連するコマンド

SET DELAY

応答を待つデフォルトのタイムアウト値を設定します (112 ページ)。

SET SCREEN

応答のカラー特性および強調表示特性を変更します (117 ページ)。

ULOG

すべてのコマンドおよび応答をログに記録します (132 ページ)。

& -- コマンドを出し直す

& コマンドを、時間間隔を指定して単独で、あるいはなんらかの SDSF コマンドに続けて使用すると、そのコマンドは所定の時間間隔で出し直されます。このコマンドは、パネルを定期的に更新したいとき、あるいはログ・パネルを末尾まで定期的にスクロールして最新情報を見たいとき役に立ちます。

コマンド行に & と時間間隔を入力します。SDSF コマンドは付けても付けなくても構いません。

形式



command

有効な任意の SDSF コマンド。後ろに空白を付けしないでください。また、*command* と *&second* を分けるための空白を使わないでください。

seconds

時間間隔を 1 桁 から 3 桁の秒数で指定します。

ユーザーへの注

1. システム・プログラマーは、インストール時に最小時間間隔を設定しておくことができます。
2. & コマンドの働きは、RESET キーを押し、続いて PA1 キーを押すことにより、いつでも取り消せます。SNA 端末の使用時には、自動更新を停止するには ATTN キーを押してください。

3. & と時間間隔にコマンドを付けずに入力した場合、SDSF は指定された時間間隔で定期的に現行パネルを更新します。& にコマンド (RETRIEVE など) を付けて入力した場合、コマンドからの戻りの代わりに、コマンド行に `**** AUTO UPDATE - n seconds ****` が表示されます。
4. Set Screen パネルで & コマンドを使うことはできません。

例

- `COMMAND INPUT ==> da ojob&10`
このコマンドは、DA パネル (ジョブのみを表示) を 10 秒ごとに最新表示させます。
- `COMMAND INPUT ==> &5`
このコマンドは、現在表示されている SDSF パネルを 5 秒おきに更新します。
- `COMMAND INPUT ==> bot&3`
このコマンドを SYSLOG パネルで出すと、SYSLOG が 3 秒おきに更新されます。その他のパネルで出しても、パネル表示は更新されません。

ABEND -- SDSF を異常終了させる

ABEND コマンドを使用すると、SDSF はユーザー 222 異常終了コードで異常終了します。SYSABEND データ・セット、SYSMDUMP データ・セット、または SYSUDUMP データ・セットが割り振られていれば、システムはダンプを書き出します。

SDSF は、SDUMP を SYS1.DUMPxxx データ・セットに取り込みます。SDSF ダンプ・データ・セットを割り振ると、SDSF はさらに、SNAP ダンプを SDSFDUMP データ・セットに書き込みます。

ABEND コマンドは、SDSF の問題を文書化するとき有用です。

コマンド行に ABEND と入力します。

形式

▶▶—ABEND—◀◀

ユーザーへの注

ABEND コマンドを出す許可は、システム・プログラマーが特定ユーザーにしか与えないように限定することができます。

例

`COMMAND INPUT ==> abend`

このコマンドにより、SDSF は異常終了して、ユーザー異常終了コード 222 を返します。ダンプ・データ・セットが割り振られているときは、Enter キー を押せば、ダンプが得られます。

ACTION -- WTOR メッセージの表示を制御する

ACTION コマンドを使用すると、ログの最下部にどの要応答オペレーター書き込み (WTOR) メッセージを表示するかを制御することができます。

コマンド行に ACTION と入力します。

形式



OFF

WTOR メッセージを表示しません。これはデフォルトです。

ALL

すべての宛先コードに対するすべての WTOR を表示します。

routing-code-list

次のうちの 1 つまたは複数から構成されるリストです。

routing-code

4 つの数字による宛先コードの 1 つです。1 から 28 までの数値宛先コードを使用できます。ここで指定された宛先コードをもつメッセージが、表示されるメッセージのリストに追加されます。

USER

宛先コードを、ユーザーが使用するために予約できます。

MVS

MVS で宛先コードを使用できるようにします (1 から 12)。

複数の ACTION コマンドを出すと、各コマンドの効果は累積します。

個々の MVS 宛先コードとその意味については、適切な資料を参照してください。

? ACTION の現行設定値を表示します。

ユーザーへの注

1. パラメーターは 4 個まで使用できます。宛先コード・リスト、MVS、USER の各パラメーターは組み合わせることができます。その働きは累積的です。
2. ACTION ALL と ACTION OFF は、他の ACTION コマンド形式とは同時に用いることができません。
3. ACTION コマンドは、セッション内では累積的に働きます。
4. ACTION コマンドを出す許可は、システム・プログラマーが特定ユーザーにしか与えないように限定することができます。

例

- COMMAND INPUT ==>> action

このコマンドは、宛先コード・リストを無効にします。 ログ・パネルの末尾に WTOR メッセージが表示されません。

- `COMMAND INPUT ==> action all`
このコマンドが有効になると、すべての WTOR メッセージはログ・パネルの末尾に表示されます。
- `COMMAND INPUT ==> action 1 4 5`
このコマンドは、ログ・パネルの末尾に表示する WTOR メッセージのリストに、1、4、5 の各宛先コードを追加します。
- `COMMAND INPUT ==> action mvs`
`COMMAND INPUT ==> action 13 14 15`
この一連のコマンドは、ログ・パネルの末尾に表示されるメッセージのリストに、1 から 12 および 13、14、15 の MVS 宛先コードをもつすべての WTOR を追加します。
- `COMMAND INPUT ==> action user 1 2 3`
このコマンドは、ログ・パネルの末尾に表示されるメッセージのリストに、ユーザー用に予約されている宛先コードと、1、2、3 の宛先コードをもつ WTOR を追加します。
- `COMMAND INPUT ==> action ?`
このコマンドは、現行の ACTION 設定値をメッセージ行に表示します。

関連するコマンド

RSYS

システムを基にして WTOR をフィルターに掛けます (103 ページ)。

APPC -- APPC トランザクションの表示を制御する

APPC を使用すると、H パネルおよび O パネルでの拡張プログラム間通信 (APPC) トランザクションの表示を制御することができます。

任意の SDSF パネルのコマンド行に APPC を入力するか、Filter プルダウンを使用してオンまたはオフに切り替えます。 H パネル および O パネルのみに影響を与えます。

形式



パラメーターなし

H パネル および O パネルに APPC トランザクションを表示します。

ON

H パネル および O パネルに APPC トランザクションを表示します。 これはデフォルトです。

APPC

OFF

- H パネル および O パネルでの APPC トランザクションの表示を終了します。
- ? APPC の現行設定値をコマンド行に表示します。

ユーザーへの注

APPC トランザクションの表示は、必要なときのみに行うようにすると、SDSF のパフォーマンスを改善することができます。

例

```
COMMAND INPUT ==>> appc off
```

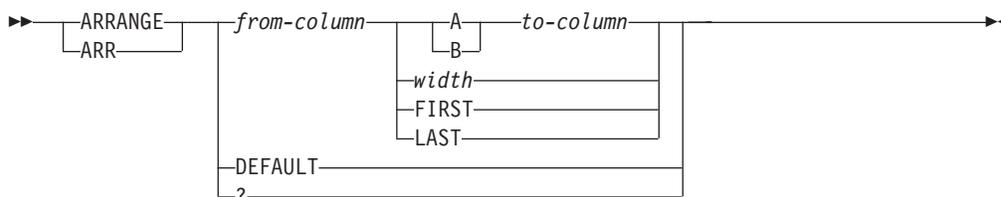
このコマンドは、H パネル および O パネルでの APPC トランザクションの表示を抑止します。

ARRANGE -- 表形式パネル上の欄の順序を変更する

ARRANGE コマンドは、表形式パネル上の欄の順序を変更したり、欄の幅を変更したりする場合に使います。

コマンド行に ARRANGE と入力するか、または View プルダウンを使用します。

形式



from-column、*to-column*

SDSF パネル上の欄の名前。

表形式パネルの欄名を指定する場合の規則については、40ページの『欄の名称の指定』を参照してください。

A *from-column* を *to-column* の後に移動します。

B *from-column* を *to-column* の前に移動します。

width

欄 *from-column* の幅を設定します。*width* は 1 から 127 の数値です。

FIRST

欄 *from-column* を固定フィールドの後の最初の欄にします。

LAST

欄 *from-column* を最後 (右端) の欄にします。

DEFAULT

欄の順序および幅をデフォルトの値にリセットします。

- ? ISPF のもとでは、この指定は Arrange ポップアップを表示します。(Arrange ポップアップの例については、19ページの『表形式表示での欄の順序変更』を参照してください。)

ユーザーへの注

1. 順序変更は、現行フィールド・リスト (基本または代替) に関して有効です。
2. 固定フィールドは移動できません。また、固定フィールドの前に他のフィールドを移動することもできません。
3. 欄の幅を欄の表題より短く設定すると、表題はパネル上で切り捨てられます。ただし、この欄は、SDSF には引き続き完全な表題によって認識されます。欄の表題 (SORT、FILTER、および LOCATE) を使用する SDFS の各機能は、依然として、完全な表題か、その欄の表題に固有の省略語を受け入れます。場合によっては、SDSF コマンドに、固有のものとして欄表題を入力するために、その欄の表題として表示されている文字より多くの文字を入力する必要があることもあります。完全な欄の表題は、Arrange ポップアップに表示することができます。
4. 欄の幅をデータより短く設定すると、数値データは可能であれば単位を変えて示され、そうでない場合はアスタリスクで表示されます。文字データは切り捨てられます。
5. 上書き可能欄全体の幅を表示するときは、その欄に + を入力してください。その欄と行を示すポップアップが表示されます。

例

- COMMAND INPUT ==> arrange pgn a dp
このコマンドは、PGN 欄を DP 欄の後に移動します。
- COMMAND INPUT ==> arrange dest 8
このコマンドは、DEST 欄の長さを 8 文字にします。

BOOK -- オンライン資料のために BookManager を使用する

BookManager READ/MVS プロダクトを呼び出し、オンライン資料を表示したり探索する場合は、BOOK コマンドを使います。

コマンド行に BOOK とタイプするか、Help プルダウンからそれを選択してください。

形式

▶▶ BOOK search-string ▶▶

パラメーターなし

BookManager を呼び出すことにより、ブックシェルフを選択し、資料をオープンすることができます。

search-string

デフォルト・ブックシェルフをオープンした場合に、オプション・ストリングを探索引き数として使うことを示します。ブランクまたは特殊文字が入っている

BOOK

場合は、*search-string* を引用符で囲みます。入力する文字は、大文字でも小文字でもかまいません。SDSF はコマンド行に入力したすべての入力を大文字に変換します。

ユーザーへの注

1. BOOK コマンドが有効なのは、SDSF が ISPF ダイアログとして実行されている場合のみです。
2. パラメーターを付けずに BOOK コマンドを入力した場合、SDSF はカーソルの位置によって決定されるデフォルトの *search-string* を出すことができます。
 - カーソルがコマンド行より下にある場合、*search-string* は、カーソルのあるワードになります。カーソルは英数字の下になければなりません。また、英数字以外の文字 (ブランクや句読点) が前後についたストリングでなければなりません。

BookManager は *search-string* の長さを 44 文字に制限しています。そのワードが 44 文字を超える場合、SDSF はカーソルの前にある最大文字数を使ってストリングを作ります。

 - カーソルがメッセージ域にある場合、SDSF はメッセージ・テキスト全体を *search-string* として使います。
3. BookManager を呼び出す場合は、多少の遅延があることをご承知ください。

例

- COMMAND INPUT ==> book
このコマンドは BookManager を呼び出しますが、*search-string* は提供しません。
- COMMAND INPUT ==> book isf002i
このコマンドは BookManager を呼び出し、ストリング "ISF002I" についてデフォルト・ブックシェルフを探索します。

```
SDSF OUTPUT ALL CLASSES ALL FORMS LINES 123 INVALID VALUE  
COMMAND INPUT ==> BOOK SCROLL ==> PAGE
```

BOOK コマンドを入力した時、カーソルはメッセージ "INVALID VALUE" の下にあります。このコマンドは、*search-string* として "INVALIDVALUE" を使って BookManager を呼び出します。

関連するコマンド

SET SHELF

デフォルト・ブックシェルフをセットアップします (118 ページ)。

BOTTOM -- データ末尾までスクロールする

BOTTOM コマンドは、SDSF パネルをデータの最終行まで直接スクロールさせる場合に使います。

コマンド行に BOTTOM または BOT と入力します。

形式



例

```
COMMAND INPUT ==> bot
```

このコマンドは、データの最終行までスクロールします。

COLS -- 欄情報を表示する

COLS コマンドは表形式パネルで使用してください。このコマンドは、(表示されている行と合計行数を示す) 通常の表題行メッセージを、表示されている最上行の行番号と欄番号を示すメッセージに変更します。

ブラウザ・パネルで COLS コマンドを使用すると、欄番号行を表示できます。欄番号行の形式は次のとおりです。

```
-----1-----2-----3-----4-----5 ...
```

コマンド行に COLS と入力します。

形式



例

```
COMMAND INPUT ==> cols
```

関連するコマンド
RESET

COLS コマンドの結果を取り消します (101 ページ)。

DA -- アクティブ・ユーザーを表示する

DA コマンドは、シスプレックス内の任意のシステムで実行中のジョブを表示する場合に使用します。

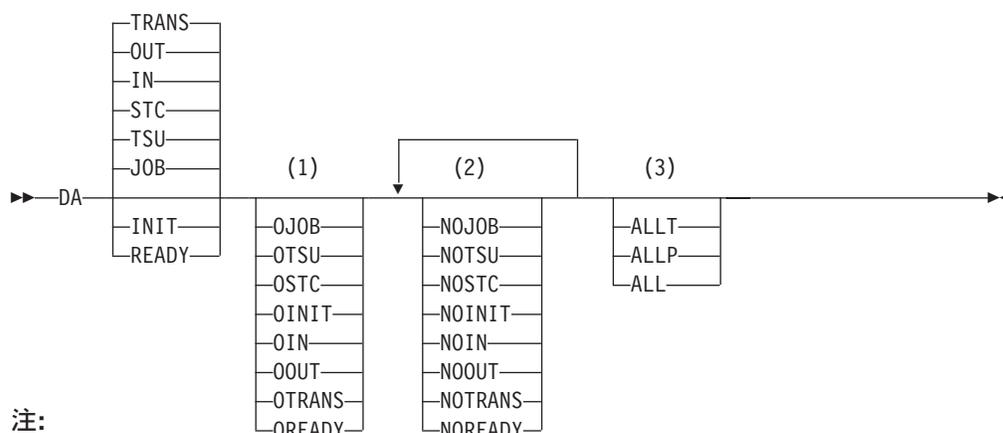
このコマンドにより、アクティブ・ユーザーをリストし、ジョブ、開始済みタスク、イニシエーター、または TSO ユーザーについて、MVS アドレス・スペースに関する情報を DA パネルに表示することができます。RMF がインストールされている場合には、SDSF は、そのパネルのデータのソースとして RMF を使います。

DA コマンドは、タイプと位置 (場所) に従って表示されたアドレス・スペースを制限するパラメーターを受け入れます。このパラメーターは、表示されるアドレス・スペースのタイプ (ジョブ、開始済みタスク、TSO ユーザー、イニシエーター) と、位置 (スワップイン、スワップアウト、推移中、作動可能) を制御します。

DA

コマンド行に DA とタイプするか、Display プルダウンからそれを選択してください。DA コマンドには、パラメーターを 4 個まで指定できます。

形式



注:

- 1 ONLY COLUMN
- 2 NO COLUMN
- 3 ALL COLUMN

パラメーターなし

スワップインまたはスワップアウトされたか、または移行中のすべての活動ジョブ、開始済みタスク、および TSO ユーザーの情報を表示します。

JOB

表示にジョブを含めます。

TSU

表示に TSO ユーザーを含めます。

STC

表示に開始済みタスクを含めます。

IN 表示にスワップイン状態を含めます。

OUT

表示にスワップアウト状態を含めます。

TRANS

表示に推移中の状態を含めます。

INIT

表示にイニシエーターを含めます。

READY

表示に作動可能な状態を含めます。

OJOB

ジョブだけを表示します。

OTSU

TSO ユーザーだけを表示します。

OSTC

開始済みタスクだけを表示します。

OINIT

イニシエーターだけを表示します。

OIN

スワップインされた状態だけを表示します。

OOUT

スワップアウトされた状態だけを表示します。

OTRANS

移行中の状態だけを表示します。

OREADY

作動可能の状態だけを表示します。

NOJOB

ジョブを表示しません。

NOTSU

TSO ユーザーを表示しません。

NOSTC

開始済みタスクを表示しません。

NOINIT

イニシエーターを表示しません。

NOIN

作動可能でない限り、スワップインされた状態を表示しません。

NOOUT

作動可能でない限り、スワップアウトされた状態を表示しません。

NOTRANS

作動可能でない限り、移行中の状態を表示しません。

NOREADY

作動可能の状態を表示しません。

ALLT

すべてのジョブ、TSO ユーザー、開始済みタスク、イニシエーターを表示します。

ALLP

すべての状態を表示します。

ALL

すべての状態にあるすべてのジョブ、TSO ユーザー、開始済みタスク、イニシエーターを表示します。

ユーザーへの注

1. JOB、TSU、STC、IN、OUT、TRANS の各パラメーターは、SDSF が提供するデフォルトです。システム・プログラマーがデフォルトを変更しているときは、これとは異なるアドレス・スペースのタイプや状態が使用されることがあります。
2. ONLY 欄からは、ただ 1 つのパラメーターしか選択できません。複数個選択すると、SDSF は最後に入力された ONLY パラメーターを使用します。

DA

3. 矛盾した 2 つのパラメーターが入力されると、SDSF は後で入力されたパラメーターを使用します。 ONLY パラメーターを最後に入力すると、それは他のすべてのパラメーターと矛盾します。 この場合、ONLY は他のすべてのパラメーターより優先されます。
4. NO 欄からは、最大 4 個のパラメーターを選択できます。
5. ALL 欄からは、ただ 1 つのパラメーターしか選択できません。 複数個選択すると、SDSF は最後に入力されたパラメーターを使用します。
6. ALL 欄のパラメーターを他のパラメーターと併用すると、予期しない結果になることがあります。
7. シスプレックス DA 表示には、RMF が必要です。システム・プログラマーは、DA パネルをシスプレックス全体規模にするかどうか制御できます。

例

- COMMAND INPUT ==> da nojob oin
このコマンドにより、SDSF は、スワップインされたジョブ、TSO ユーザー、および開始済みタスクを表示します。最後に入力するパラメーターが ONLY パラメーターの場合には、他の全パラメーターより優先されるのでご注意ください。
- COMMAND INPUT ==> da ojob allp oin
このコマンドも、SDSF に、スワップインされたジョブ、TSO ユーザー、および開始済みタスクを表示させます。また、最後に入力したパラメーターが ONLY パラメーターの場合は、他の全パラメーターに優先するのでご注意ください。
- COMMAND INPUT ==> da nojob notrans
このコマンドにより、SDSF は、スワップイン、スワップアウト、作動可能のいずれかの状態にある開始済みタスクと TSO ユーザーだけを表示します。
- COMMAND INPUT ==> da otsu init
このコマンドにより、SDSF は、TSO ユーザーとイニシエーターを表示します。
- COMMAND INPUT ==> da init otsu
このコマンドにより、SDSF は、TSO ユーザーだけを表示します。
- COMMAND INPUT ==> da otsu oinit
このコマンドにより、SDSF は、イニシエーターだけを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、DEST、FILTER、PREFIX、OWNER、SELECT

DA が表示するものを制限します (48、55、57、84、87、105 の各ページ)。

? 代替形式の DA パネルにアクセスします (41 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

SYSNAME

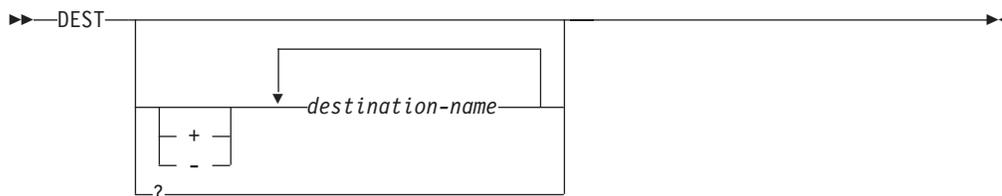
選択したシステムを組み込む行を制限します (127 ページ)。

DEST -- 宛先によってパネルを制限する

DEST コマンドを使用すると、SDSF パネル上のジョブを特定の宛先を持つジョブのみに制限できます。

コマンド行に DEST とタイプするか、Filter プルダウンからそれをこれを選択します。これは H、I、O、PR、PUN、および ST の各パネルだけに影響を与えます。

形式



パラメーターなし

ISFPARMS に IDEST リストが指定されていない場合は、許可されたすべての宛先に対するジョブを表示します。ISFPARMS に IDEST リストと DEST リストが両方とも指定されているときは、IDEST リストにある許可された宛先名に対するジョブを表示します。詳しくは後述のユーザーへの注をご覧ください。

destination name

JES2 で受け入れられる形式の、現行宛先リストを置き換える 1 から 4 個の宛先名。

- + 現行宛先リストに、この後に続く宛先名を追加します。
- 現行宛先リストから、この後に続く宛先名を削除します。
- ? DEST の現行設定値を表示します。

ユーザーへの注

1. 宛先名は、JES2 に受け入れられる任意の形式で入力することができます。ユーザー ID を指定しないでノード名を入力すると、そのノードあてのすべてのジョブと出力が表示されます。
2. どの JES2 環境でも、宛先を選択的に追加または削除することができます。
3. 宛先名を指定せずに DEST コマンドを入力すると、すべての許可された宛先に対するジョブか、セッションの初期設定対象に含まれている許可された宛先に対するジョブが表示されます。

例

- COMMAND INPUT ==> dest chicago omaha
このコマンドは、CHICAGO または OMAHA を宛先とするすべてのジョブを表示します。現行宛先リストは、このリストに置き換えられます。
- COMMAND INPUT ==> dest + laramie
このコマンドは、宛先が LARAMIE であるすべてのジョブを追加します。
- COMMAND INPUT ==> dest - chicago

DEST

このコマンドは、現行宛先リストから CHICAGO を削除し、宛先が CHICAGO であるすべてのジョブを画面から除去します。 CHICAGO がリストにない場合、SDSF はエラー・メッセージを出します。

- **COMMAND INPUT ==> dest**

このコマンドは、このユーザーがアクセスを許可されている宛先を持つすべてのジョブを表示します。

- **COMMAND INPUT ==> dest + billings.john**

このコマンドは、特定の宛先 BILLINGS.JOHN を持つすべてのジョブを現行宛先リストに追加します。

- **COMMAND INPUT ==> dest kgnvmc**

このコマンドは、宛先がノード KGNVMC であるすべてのジョブおよび出力をリストします。

```
SDSF STATUS DISPLAY ALL CLASSES                                LINE 1-3 (3)
COMMAND INPUT ==>                                           SCROLL ==> PAGE
PREFIX=BKELLER*  DEST=KGNVMC  OWNER=*
NP  JOBNAME  JOBID  OWNER  PRY  QUEUE  C  POS  PRDEST
BKELLERP  JOB23751  BKELLER  1  PRINT  U  6874  KGNVMC.BKELLER
BKELLERP  JOB28271  BKELLER  1  PRINT  U  8959  KGNVMC.BKELLER
BKELLERP  JOB30676  BKELLER  1  PRINT  U  10680  KGNVMC.DLR
```

関連するコマンド

SET DISPLAY

DEST の現行設定値を表示します (113 ページ)。

DOWN -- 下へスクロールする

DOWN コマンドは、SDSF パネルを上から下へスクロールさせます。

コマンド行に DOWN と入力します。

形式



パラメーターなし

SCROLL の数値を使用します。

number of lines

スクロールする行数を制御します。

MAX

示された方向へ可能なかぎりスクロールします。

PAGE

パネルを 1 ページだけスクロールさせます。

HALF

パネル上の行数の半分をスクロールさせます。

DATA

パネルを 1 ページより 1 行だけ少なくスクロールさせます。

CSR

パネルをカーソルの位置にスクロールさせます。

例

- COMMAND INPUT ==> down 100

ISPF では、このコマンドにより、パネルがデータ末尾の方向へ 100 行だけスクロールします。

- COMMAND INPUT ==> down CSR

ISPF では、このコマンドにより、パネルがカーソル位置にスクロールし、その行を最上行にします。

END -- パネルを終了させる

END コマンドは SDSF を終了させるか、コマンドを入力した場所に応じて、前に表示したパネルか SDSF 基本オプション・メニューに戻ります。このコマンドは、PF3 と同じ働きをします。

- SDSF 基本オプション・メニューでこのコマンドを使用すると、SDSF が終了し、TSO または ISPF に戻ります。どちらに戻るかは、SDSF セッションの開始方法によります。
- パネルのアクセス元であるパネルに戻る場合は、JDS パネル、ODS パネル、OD パネル、ULOG パネル、または HELP パネルでこのコマンドを使います。たとえば、SDSF が表示しているのが DA パネルから選択した ODS パネルである場合、END コマンドを入力すると、DA パネルが再度表示されます。
- 上記以外の任意の SDSF パネルでこのコマンドを使用すると、SDSF 基本オプション・メニューに戻ります。

コマンド行に END と入力します。

形式

▶▶—END—◀◀

例

COMMAND INPUT ==> end

FILTER -- 表形式パネル上の行をフィルターに掛ける

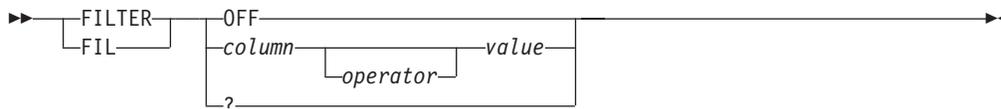
FILTER コマンドは、表形式パネルに表示する行を制限します。このコマンドを使用すると、Filter ポップアップを表示し、フィルター操作をオンまたはオフにし、単一のフィルターを入力することができます。FILTER コマンドで入力されたフィルターは、以前のフィルターをすべて置き換えます。

FILTER

このコマンドは、コマンドを入力したパネルだけをフィルター操作します。

任意の表形式パネルのコマンド行に **FILTER** を入力するか、あるいは **Filter** プルダウンからそれを選択します。

形式



OFF

フィルターをオフにし、保管したフィルター基準を破棄します。

column

フィルター操作が必要な欄の名前。

欄名の指定に関する規則については、40 ページを参照してください。

operator

フィルター・フィールドを値と比較するのに使用する演算子。 *operator* の有効な値は次のとおりです。

EQ または **=**

等しい (デフォルト)

NE または **≠**

等しくない

LT または **<**

より小さい

GT または **>**

より大きい

LE または **<=**

以下

GE または **>=**

以上

パターン・マッチング (デフォルトは * と %) を使用しない場合に有効な演算子は、「より小さい」または「より大きい」のみです。パターン・マッチングの説明については、39 ページを参照してください。

value

比較に使用する 1 から 25 文字の値。値は、欄の形式に従っていなければなりません。たとえば、欄が数値である場合は数値を使用します。欄が 16 進数であれば、16 進値を使用します。欄名の指定に関する規則については、40 ページを参照してください。

- ? ISPF のもとでは、**Filter** ポップアップを表示するので、フィルター基準を選択したり、フィルターのリストから選択することができます。TSO のもとでは、コマンド行に現行フィルターを表示します。フィルターがコマンド行に入りきらない場合、SDSF はメッセージ行にフィルターを表示します。

ユーザーへの注

Filter ポップアップを使用すれば、複数のフィルターを入力できます。さらに、SDSF が複数のフィルターに AND または OR のどちらの演算を行うべきかも指定できます。複数の欄 (たとえば、JOBNAME と PRTY) に適用するために AND または OR を選択し、単一の欄内の複数の値に適用するために、別の AND または OR を選択します。

詳細については、20ページの『パネル情報のフィルター操作およびソート』を参照してください。

コマンドの例

- COMMAND INPUT ==> fil status ne active
このコマンドは、非アクティブなすべての行を表示します。
- COMMAND INPUT ==> fil jobid lt job30000
このコマンドは、30000 未満であるすべてのジョブ ID を表示します。
- COMMAND INPUT ==> filter off
このコマンドは、すべてのフィルターをオフにして廃棄します。

ポップアップの例

```

Filter                               Row 1 to 9 of 25
Command ==> _____

Type filter criteria. Type a / in the Column or Oper
field for valid values. Press F11/23 to clear input.

AND/OR between columns  ___ (AND/OR)
AND/OR within a column or (AND/OR)

Column      Oper  Value (may include * or %)
owner_____ eq   theresa_____
owner_____ eq   nickijoe_____

```

上記のフィルターは、所有者が THERESA または NICKIJOE であるすべてのジョブを表示します。

```

Filter                               Row 1 to 9 of 25
Command ==> _____

Type filter criteria. Type a / in the Column or Oper
field for valid values. Press F11/23 to clear input.

AND/OR between columns  and (AND/OR)
AND/OR within a column  ___ (AND/OR)

Column      Oper  Value (may include * or %)
jobname_____ eq   laurie*_____
owner_____  ne   lauriel_____

```

上記のフィルターは、名前が LAURIE で始まるすべてのジョブから、所有者が LAURIEL であるジョブを除いて表示します。

JOBID

ジョブ ID

CONSOLE

コンソール名

MSGID

メッセージ ID (メッセージ・テキストの先頭 8 文字のトークン)

MSGTEXT

メッセージ・テキスト (メッセージ ID を含む)

operator

フィルター・フィールドを値と比較するのに使用する演算子 *operator* の有効な値は次のとおりです。

EQ または =

等しい (デフォルト)

NE または !=

等しくない

LT または <

より小さい

GT または >

より大きい

LE または <=

以下

GE または >=

以上

パターン・マッチング (デフォルトは * と %) を使用しない場合に有効な演算子は、「より小さい」または「より大きい」のみです。パターン・マッチングの説明については、39 ページを参照してください。

value

比較に使用する 1 から 25 文字の値。

- ? ISPF の場合、この値を指定するとフィルターを組み合わせられる Filter ポップアップが表示されます。TSO のもとでは、コマンド行に現行フィルターを表示します。フィルターがコマンド行に入りきらない場合、SDSF はメッセージ行にフィルターを表示します。

ユーザーへの注

1. Filter ポップアップを使用すれば、複数のフィルターを入力できます。さらに、SDSF が複数のフィルターに AND または OR のどちらのフィルター操作を行うべきかも指定できます。異なる複数の欄 (たとえば、SYSNAME と JOBNAM など) に適用する場合に AND または OR を選択し、単一の欄の複数の値に適用する場合に、別の AND または OR を選択します。詳細については、20ページの『パネル情報のフィルター操作およびソート』を参照してください。

FILTER

2. 複数行メッセージの任意の行がフィルター基準に適合する場合は、メッセージのすべての行が表示されます。

コマンドの例

- `COMMAND INPUT ==> fil sysname ne sy1`
このコマンドを実行すると、システム SY1 のメッセージ以外のすべてのメッセージが表示されます。
- `COMMAND INPUT ==> filter off`
このコマンドは、すべてのフィルターをオフにして破棄します。

ポップアップの例

Command ==>		Filter	Row 1 to 9 of 25
Type filter criteria. Type a / in the Column or Oper field for valid values. Press F11/23 to clear input.			
AND/OR between columns		___	(AND/OR)
AND/OR within a column		or_	(AND/OR)
Column	Oper	Value (may include * or %)	
sysname_____	eq	sy1_____	
sysname_____	eq	sy2_____	

これらのフィルターで、システム SY1 または SY2 のすべてのメッセージが表示されます。

関連するコマンド

ACTION

OPERLOG パネルの一番下に表示されている WTOR をフィルターに掛けます (46 ページ)。

LOGLIM

フィルター基準と一致するレコードを検索した OPERLOG データの量を制限します (79 ページ)。

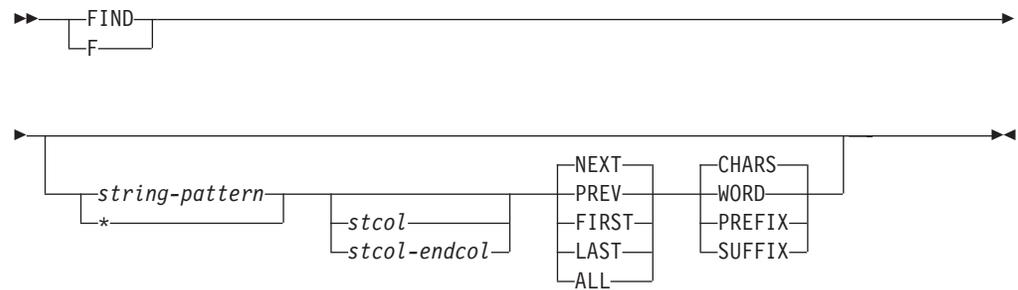
FIND -- 文字ストリングを検出する

FIND コマンドはデータを探索し、指定されたストリングの最初の出現までデータをスクロールさせます。SDSF は、次のものを探索します。

- ログおよび ODS パネル内のすべてのデータ
- 表形式パネルの固定フィールド (DA、I、ST、O、H の各パネルのジョブ名フィールドなど)。

コマンド行に FIND と入力します。

形式



パラメーターなし

最後に出された FIND コマンドを再度入力します。パラメーター *stcol* と *endcol* は、ブラウザ・パネル間では記憶されますが、他のパネル間では記憶されません。ALL は、どのパネル間でも記憶されません。

string-pattern

文字ストリング。SDSF がこのストリングがある所までデータをスクロールさせます。表形式パネルでは、*string* は 8 文字までに制限されます。ただし、INIT パネルでは 4 文字までになります。文字ストリングに空白が含まれている場合、または文字ストリングがアスタリスク 1 個の場合は、ストリング全体を単一引用符で囲む必要があります。文字ストリングが 1 重引用符で始まっているときは、全体を 2 重の引用符で囲まなければなりません。FIND コマンドは、大文字と小文字を区別しません。つまり、文字ストリングもデータも大文字に変換したうえで、探索を行います。

ブラウザ・パネルでは、X'*string*' を使って、18 文字までの 16 進数でできた文字ストリングを指定できます。このストリングには 16 進数字 (0 から 9、A から F) しか入れられません。また、数字は偶数個でなければなりません。これに関連するメッセージを表示する場合、SDSF は変換した 16 進数ストリングでなく、実際の 16 進数ストリングを表示します。

- * SDSF は、最後の FIND コマンドで入力された文字ストリングを探索します。*string* と * は一緒に指定できませんが、それ以外のパラメーターと * を併用し、最後に入力された FIND コマンドを変更することができます。他のパラメーターを入力しないと、デフォルトにより、NEXT と CHARS が指定されたものと見なされます。

最後の探索以後にスクロールや他のコマンドが実行されていても、SDSF は最後のストリングを『記憶』しています。

stcol

探索するストリングが、*stcol* で指定される桁番号から始まっていないことを意味します。*stcol* が、探索するフィールドの論理レコード長より大きな値であってはなりません。*stcol* は省略できます。

stcol endcol

指定はオプションです。*stcol* と *endcol* で探索の範囲を限定します。指定するストリングは、この範囲の長さ以下でなければなりません。

NEXT

SDSF は、カーソル位置から正方向へ (データ末尾の方向へ) 探索を行います。NEXT はデフォルトで、指定を省略できます。

FIND

PREV

SDSF は、カーソル位置から後方へ (データの先頭方向へ) 探索を行います。

FIRST

指定は任意です。指定のストリングの最初の出現を見付けます。データの先頭から探索を開始し、ストリングが見付かるか、データの末尾に達するまで、正方向へ探索を続けます。 **FIRST** は、FINDLIM による制限を受けません。

LAST

指定はオプションです。指定のストリングの最後の出現を見付けます。データの最終行の終わりから探索を開始し、ストリングが見付かるか、データの先頭に達するまで、後方に探索を続けます。 **LAST** は、FINDLIM による制限を受けません。

ALL

指定はオプションです。データの最初から探索を開始し、データの最後に達するまで探索を続けます。ストリングが見付かると、SDSF は最初の出現を含む行を表示します。全部で何個のストリングが見付かったのかをメッセージで伝えます。表形式パネルでは、探索されたフィールドでそれが何度現れても 1 回のみとカウントされます。 **ALL** は、FINDLIM による制限を受けません。

CHARS

文字ストリングを意味します。指定はオプションで、これがデフォルトです。

WORD

指定はオプションです。ストリングの前後に英数字以外の文字があることを示します。これはブラウザ・パネル上でのみ有効です。

PREFIX または PRE

指定はオプションです。ストリングの前に英数字以外の文字が、また後ろに英数字が付いていることを示します。これはブラウザ・パネル上でのみ有効です。

SUFFIX または SUF

指定はオプションです。ストリングの前に英数字が、また後ろに英数字以外の文字が付いていることを示します。これはブラウザ・パネル上でのみ有効です。

ユーザーへの注

1. ブラウズ・パネルまたは出力データ・セットで FIND ALL を使う場合、SDSF は 999999 を超える数字を切り捨てます。999999+ と表示されます。
2. 開始桁だけを指定して、終了桁を指定しない場合、ストリングはその開始桁から始まっていなければなりません。
3. SDSF は、FIND コマンドで入力された *string* とその他のパラメーターを、別の FIND コマンドで新しいパラメーターが入力されるまで、または SDSF セッションが終了するまで『記憶』しています。ただし、次の例外があります。
 - ALL パラメーターは記憶されません。
 - パラメーター *stcol* と *endcol* は、ブラウザ・パネル間のみでしか記憶されません。

最後に出した FIND コマンドを再度出すには、パラメーターなしの FIND を入力するか、検索繰り返し PF キー (デフォルトの設定は PF5 キーで、IFIND として定義されている) を使用してください。

パラメーターなしの FIND を出すと、コマンド行から探索が再開されます。

探索繰り返し PF キーを押すと、最後に見付かったストリングから探索が再開されます。

4. FIND ALL コマンドまたは FIND FIRST コマンドに続いて探索繰り返しを出す
と、SDSF は NEXT パラメーターの規則に従って、ストリングの次の出現を捜
します。FIND LAST コマンドに続いて探索繰り返しを出す
と、SDSF は PREV パラメーターの規則に従って、ストリングの 1 つ手前の出現を捜します。
5. FIND コマンドを入れると、次のいずれかが起こるまでデータが探索されます。
 - 要求された文字ストリングが見付かるまで
 - データの末尾に達するまで (FIRST 要求または NEXT 要求)
 - データの先頭に達するまで (LAST 要求または PREV 要求)
 - 探索限界に達するまで (ただし、FIRST、LAST、ALL を除きます)。この探
索限界は、インストール時にシステム・プログラマーが設定します。この限
界は、FINDLIM コマンドを使用してリセットします。
6. 英数字と見なされる EBCDIC 文字が 3 個あります。すなわち、#、\$、@ の 3
個です。
7. 前回の探索がデータの先頭または末尾に到達して終了していた場合は、継続され
る探索はそれぞれデータの末尾または先頭に戻り、そこから始まります。

例

- COMMAND INPUT ==> find job1
ブラウザ・パネルでは、このコマンドは、文字ストリング JOB1 を探すため前方
に全桁を探索します。
表形式パネルでは、このコマンドは、文字ストリング JOB1 を探すため、SDSF
に最初のフィールド (ジョブ名、プリンター名、イニシエーター ID、または DD
名) を前方に探索させます。
- COMMAND INPUT ==> find * prev
上の例に示す FIND コマンドに続いてこのコマンドを入力すると、SDSF は
JOB1 という文字ストリングを後方へ探索します。
- COMMAND INPUT ==> find 'job004' 12 prev
ブラウザ・パネルでは、このコマンドにより、SDSF が文字ストリング JOB004
を後方に探索します。文字ストリングは 12 桁目から始まっていなければなりま
せん。
表形式パネルでは、このコマンドは失敗します。それは、探索されるフィールド
が 12 桁より短いためです。
- COMMAND INPUT ==> f user 2 10
このコマンドは、2 桁目から 10 桁目のどこかにある USER という文字ストリン
グを前方に探索します。
- COMMAND INPUT ==> f

FIND

このコマンドは、前回の探索をコマンド行から再開します。最後の FIND コマンドに指定されていたとおりのパラメーターを使用します。

関連するコマンド

FINDLIM

検索する行数についての制限をリセットすることができます (66 ページ)。

COLS

ブラウザ・パネル上でスケール行を表示します (51 ページ)。

FINDLIM -- FIND 限界をリセットする

FINDLIM コマンドは、ブラウザ・パネルで FIND コマンドを入力した場合の探索行数の限界をリセットするのに使用します。

コマンド行に FINDLIM とタイプするか、Options プルダウンからそれを選択してください。このコマンドが効力をもつのはブラウザ・パネル上のみです。

形式

▶▶—FINDLIM—number—▶▶
 └─?─┘

number

1000 から 9999999 までの任意の数値。これが、FIND コマンドの新しい探索限界になります。

? FINDLIM の現行設定値を表示します。表示された設定値は、Enter キーを押してそのまま保存することも、新しいパラメーターを入れて変更することもできます。

例

```
COMMAND INPUT ==>> findlim 100000
```

このコマンドは、探索限界を 100,000 行に設定し直します。

H -- 保留出力キューを表示する

H コマンドは、保留中の JES2 出力キュー上にあるジョブ、開始済みタスク、TSO ユーザーについて、出力データ・セットに関する情報をリストしたり、表示するために使用します。

コマンド行に H とタイプするか、Display プルダウンから選択してください。

形式

▶▶—H—output-class—ALL—string-pattern—▶▶

パラメーターなし

名前の接頭部が自分のユーザー ID になっているジョブをすべて表示します。

output-class

最大 7 個の出力クラスからなるリストです。H は、そのクラスのジョブだけをパネルに表示します。H と出力クラスの間、また出力クラス同士の間には、空白を置きません。

ALL

すべてのジョブを表示します。

string-pattern

文字ストリング。ジョブの名前がこの文字ストリングと一致するジョブだけがパネルに表示されます。

string-pattern には、39 ページで説明した特殊なパターン・マッチング文字を組み込むことができます。

ユーザーへの注

1. 表示画面を限定するための DEST コマンドと OWNER コマンドが設定されていない場合、H コマンドを使うには、次のようにします。
 - a. H コマンドの直後に (スペースを置かず) 出力クラスのリストを入れてください。これらの保留出力クラスに入っているデータ・セットおよびユーザー PREFIX の設定値で名前が始まるデータ・セットだけが表示されます。PREFIX は、PREFIX コマンドによって、あるいは ISFPARMS で設定されず。
 - b. H コマンドで 1 個のパラメーター (文字ストリング) を指定してください。その文字ストリングと一致する名前をもつジョブだけが表示されます。このパラメーターは、PREFIX の設定による制限をさらに厳しく制限するものです。SDSF のパフォーマンス向上のために、できるだけ使用するようになっています。H ALL と文字ストリングをともに指定することはできません。SDSF は、まず、ジョブ名を PREFIX の設定値と突き合わせます。ジョブ名と PREFIX の設定値が一致すると、次に、SDSF は、そのジョブ名を H コマンドに指定された文字ストリングと突き合わせます。ジョブ名が、その PREFIX の設定値と H 文字ストリング・パラメーターの両方と一致しない限り、そのジョブは表示されません。
2. ユーザーのユーザー ID を接頭部としてもつすべてのジョブを表示させるには、次のいずれかを行ってください。
 - a. H *userid* * を入力する。
 - b. PREFIX が * に設定されているときは、まずパラメーターなしの PREFIX コマンドを出してから、文字ストリングを指定せずに H を出す。
 - c. パラメーターなしの PREFIX コマンドを出し、次に H を出す。
3. すべてのジョブを表示するには、次のいずれかを行ってください。
 - a. PREFIX を ** に設定してから、H を入力する。
 - b. PREFIX と、H ALL を出す。この後、H コマンドを入力して H パネルを最新表示した場合、パネルは元に戻り、ユーザー ID のジョブのみを表示します。すべてのジョブをもう 1 度表示させるには、H ALL を出してください。

H

4. 現行の PREFIX がジョブのネット・メール ID に一致する場合は、ネット・メールが表示されます。ネット・メール ID は、JES2 のリリースによって、WTR フィールドに入っていたり、DEST フィールドの一部となっています。

例

次の例では、表示を制限するための DEST、OWNER、および FILTER が設定されていないことを前提としています。

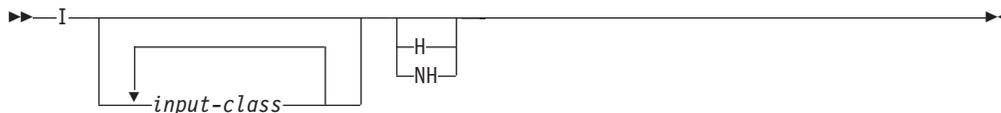
- COMMAND INPUT ==> h
PREFIX が * に設定されている場合、このコマンドによって、自分のユーザー ID を接頭部にもつジョブの保留出力データ・セットがすべて表示されます。
- COMMAND INPUT ==> h all
このコマンドによって、PREFIX が * に設定されているすべてのジョブの保留出力データ・セットがすべて表示されます。
- COMMAND INPUT ==> hr
PREFIX がストリングに設定されている場合、このコマンドは、そのストリングに一致する保留クラス R で待機中のすべてのジョブの出力データ・セットを表示します。
PREFIX が * に設定されている場合、このコマンドは、自分のユーザー ID に一致する保留クラス R で待機中のジョブの保留出力データ・セットをすべて表示します。
- COMMAND INPUT ==> hr all
PREFIX が * に設定されている場合、このコマンドは、保留クラス R で待機中のすべてのジョブを表示します。
- COMMAND INPUT ==> hxq ieb
このコマンドは、保留 JES2 出力クラス X および Q にある出力のうち、ジョブ名がストリング IEB に一致するジョブの出力だけを表示します。ただし、PREFIX がストリングに設定されていないか、設定されていても IEB がその PREFIX 値のサブセットであるものとします。
- COMMAND INPUT ==> prefix
COMMAND INPUT ==> h all
この一連のコマンドにより、H パネル上の全ジョブが表示されます。
- COMMAND INPUT ==> prefix *
COMMAND INPUT ==> h
この一連のコマンドにより、ユーザー ID に一致する H パネル上のジョブがすべて表示されます。文字ストリング ABC を接頭部にもつすべてのジョブを表示するには、次のコマンドを追加します。
COMMAND INPUT ==> prefix abc*
- COMMAND INPUT ==> h abc*
このコマンドは、ABC を接頭部にもつすべてのジョブを表示します。ABC を接頭部にもつすべてのジョブを表示するには、必ず総称文字を使用しなければなりません。これを使用しないと、ABC という名前をもつすべてのジョブが表示されます。
- COMMAND INPUT ==> h abc

I -- 入力キューを表示する

I コマンドは、JES2 入力キュー上にあるか実行中であるジョブ、開始済みタスク、TSO ユーザーに関する情報をリストしたり、表示するために使用します。

コマンド行に I とタイプするか、Display プルダウンから選択してください。

形式



パラメーターなし

入力キューで待機中のクラス A から Z、0 から 9 に属するすべてのジョブと、コンバーター・キューを表示します。TSO ユーザーと開始済みタスクを表示するには特殊文字を使用しなければなりません。次の、ユーザーへの注を参照してください。

input-class

最大 7 個の入力ジョブ・クラスからなるリストです。このクラスのジョブだけが表示されます。I と入力クラスの間、また入力クラス同士の間には、空白を置きません。

H 保留になっているジョブだけを表示します。

NH

保留になっていないジョブだけを表示します。

ユーザーへの注

1. I コマンドの後にはスペースを入れず、最高 7 個までの入力ジョブ・クラスのリストを入力してください。指定された入力クラスのジョブだけが表示されます。

タスクと TSO ユーザーを表示するには、特殊文字を使用しなければなりません。特殊文字は次のとおりです。

- * コンバーター・キュー
- \$ TSO ユーザー
- # 開始済みタスク
- @ 別ノードで実行するため、別ノードへ転送されるのを待っているジョブ
- ! ハードコピー・キュー

ハードコピー・キューには、そのシステムのすべてのタイプの出力をもつすべてのジョブが含まれています。I コマンドを使ってハードコピー・キューにアクセスすると、ジョブの出力が保留 JES2 出力キューに入っているか、非保留 JES2 出力キューに入っているかが分ります。印刷されたが JES2 スプールに入ったままになっている出力を表示するためにも、ハードコピー・キューを使うことができます。

2. リストを指定したくないときは、I コマンドに 1 個のパラメーターか 1 個のブランクだけを指定してください。指定の意味は次のとおりです。

H 保留になっているジョブだけを表示します。
NH 保留になっていないジョブだけを表示します。
blank 保留中および保留中でない全ジョブを表示します。

例

- **COMMAND INPUT ==> i**
このコマンドは、入力キューで待機中のクラス A から Z、0 から 9 に属するすべてのジョブと、コンバーター・キューを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> iak nh**
このコマンドは、入力キューで待機中の、クラス A または K の非保留ジョブを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> i\$**
このコマンドは、入力キューで待機中のすべての TSO ユーザーを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> iabc**
このコマンドは、入力キューで待機中のクラス A、B、C のジョブを表示します。保留・非保留を問いません。
- **COMMAND INPUT ==> ia\$#**
このコマンドは、クラス A のジョブ、TSO ユーザー、開始済みタスクを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、DEST、FILTER、OWNER、PREFIX、SELECT

I が表示するものを制限します (48、55、57、84、87、105 の各ページ)。

? 代替形式の I パネルを表示します (41 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

INIT -- イニシエーターを表示する

INIT コマンドは INIT パネルにアクセスします。このパネルには、MAS について定義された JES2 イニシエーターに関する情報が表示されます。

コマンド行に INIT とタイプするか、Display プルダウンから選択してください。

形式

▶—INIT—▶

例

COMMAND INPUT ==> init

このコマンドは、シスプレックスのイニシエーターを表示します。

INIT

関連するコマンド

- | **ARRANGE、FILTER、SELECT、SYSNAME**
INIT が表示するものを制限します (48、57、105、127 ページ)。
- | ? 代替形式の INIT パネルを表示します (41 ページ)。
- SORT**
このパネルで欄をソートします (121 ページ)。
- SET TIMEOUT**
シスプレックス・データのタイムアウトを設定します (119 ページ)。

INPUT -- SYSIN データ・セットを組み込むように表示を変更する

INPUT コマンドは、DA パネル、ST パネル、または I パネルから選択した ODS パネルに SYSIN データ・セットを入れるかどうかを制御するために使用します。

上記のパネルのコマンド行に INPUT とタイプするか、Options プルダウンの Change include SYSIN to ... を使用してオン / オフを切り換えてください。このコマンドを入力する場合は、必ず どれか 1 つのパラメーターを入力してください。

形式

▶▶ INPUT ON OFF ◀◀

ON

SYSIN データ・セットを表示するように指定します。

OFF

SYSIN データ・セットを表示しないように指定します。

ユーザーへの注

1. INPUT コマンドを出すと、JES2 内部テキスト・データ・セットがその他の SYSIN データ・セットと一緒に表示されます。
2. INPUT ON コマンドは、INPUT OFF コマンドが入力されるまで有効です。
3. SDSF セッションの開始時には、INPUT が常に OFF にセットされます。
4. INPUT OFF により、ダミーのクラスが使用されていたデータ・セットが表示されないようになります。

例

- COMMAND INPUT ==> input on
このコマンドが有効である間、DA パネル、ST パネル、または I パネルから選択された ODS パネルには SYSIN データ・セットが含まれます。
- COMMAND INPUT ==> input off
このコマンドが有効である間、DA パネル、I パネルまたは ST パネルから選択された ODS パネルには、SYSIN データ・セットは含まれません。

JC -- ジョブ・クラスを表示する

JC コマンドは、ジョブ・クラスに関する情報を表示するために使用します。

コマンド行に JC とタイプするか、Display プルダウンから選択してください。

形式

▶—JC—┐
 └─「クラス」─┘

パラメーターなし

すべてのジョブ・クラスを表示します。

classes

最大 6 個のジョブ・クラスからなるリストです。これらのクラスだけが表示されます。クラスは A から Z または 0 から 9 であるか、次に挙げる特殊文字である必要があります。

- \$ -- TSO ユーザー
- # -- 開始済みタスク

例

- COMMAND INPUT ==> JC
このコマンドはジョブ・クラス・パネルを表示します。
- COMMAND INPUT ==> jcabc
このコマンドはジョブ・クラス A、B および C を持つジョブ・クラス・パネルを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、DEST、FILTER、OWNER、PREFIX、SELECT

JC が表示するものを制限します (48、55、57、84、87、105 の各ページ)。

? 代替形式の JC パネルを表示します (41 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

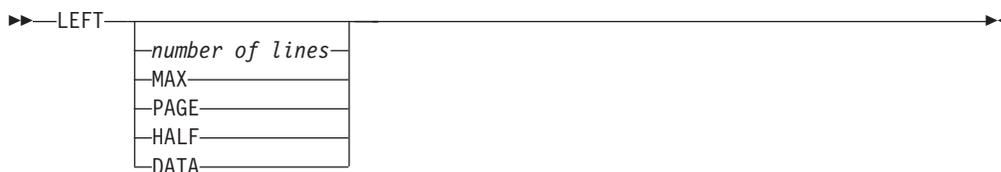
LEFT -- 左へスクロールする

LEFT コマンドは、SDSF パネルを右から左へスクロールさせるために使用されます。

コマンド行に LEFT と入力します。

形式

LEFT



パラメーターなし

SCROLL の数値を使用します。

number of lines

スクロールする位置の数を制御します。

MAX

示された方向へ可能なかぎりスクロールします。

PAGE

パネルを左に 1 ページ、スクロールします。

HALF

パネル上の行数の半分をスクロールさせます。

DATA

パネルを 1 ページより 1 行だけ少なくスクロールさせます。

例

COMMAND INPUT ==> left SCROLL ==> PAGE

ISPF では、このコマンドにより、パネルが左へ 1 ページ分スクロールします。
TSO では、1 桁だけスクロールします。

LI -- 回線を表示する

LI コマンドは、JES2 回線に関する情報を表示する場合に使用します。

コマンド行に LI とタイプします。

形式



パラメーターなし

システム上のすべての回線についての情報を表示します。

line-list

次のうち 1 から 4 個のパラメーターで構成されます。

line-number

送受信機を含めて、回線に関する情報を表示します。1 から 9999 の数値が有効です。

line-number-range

送受信機を含めて、その範囲内の回線に関する情報を表示します。最初の番号と最後の番号は、ハイフン (-) で区切ってください。先頭と末尾の番号は、1 から 9999 の範囲の数値である必要があります。

SHORT または S

回線に関する情報だけを表示するようにします。送受信側は、表示されません。

例

- COMMAND INPUT ==> LI
このコマンドは、すべての JES2 回線を表示します。
- COMMAND INPUT ==> LI 1-3 5
このコマンドを実行すると、1、2、3、および 5 の JES2 回線が表示されます。

関連するコマンド**ARRANGE、FILTER、SELECT**

LI が表示するものを制限します (48、57、105 の各ページ)。

? 代替形式の LI パネルにアクセスします (41 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

LOCATE -- 表形式パネルの行または欄を探索する

LOCATE コマンドは、特定の行または欄にパネルを直接スクロールする場合に使用します。行は行番号、欄は欄ヘッダーで要求します。

表形式パネルのコマンド行に LOCATE、LOC、または L を入力します。

形式*line-number*

パネルのスクロール先の行の 1 から 8 桁の行番号。ブラウザ・パネルの場合、行番号は現行データ・セットの始まりに関連しています。

column-heading

探索する欄のヘッダーです。パネルは、この欄が固定フィールドの後に続く先頭の欄になるようにスクロールされます。40ページの『欄の名称の指定』を参照してください。

例

- COMMAND INPUT ==> locate 3457

LOCATE

このコマンドは、データの 3457 行目にパネルをスクロールさせます。データが 3457 行に満たないときは、データの末尾までスクロールさせます。

- COMMAND INPUT ==> locate crdate

このコマンドを実行すると、パネルが CRDATE 欄にスクロールされ、その欄が固定フィールドの後に続く先頭の欄になります。

LOCATE -- ブラウズ・パネル上でデータを探す

この LOCATE コマンドは、ブラウズ・パネル上のデータを探すために使用します。ログ・パネルでは、このコマンドは時刻と日付を受け入れます。

ブラウズ・パネルのコマンド行に LOCATE と入力します。

形式

ODS パネルおよび ULOG パネル:



ログ・パネル:



line-number

現行ログまたは出力データ・セットの先頭からの行数を指定する 1 から 8 桁の数値。OPERLOG の場合、これは、パネルの最上行からの行数です。

time

ログをスクロールする先の時刻。24 時間形式で示します (時刻の入力に関する規則については、40 ページを参照してください)。

date

ログをスクロールする先の日付 (現在の日付形式で)。(日付の入力に関する規則については、40 ページを参照してください)。日付を指定しない場合、SDSF はパネルの最上部にある日付であると想定します。

ユーザーへの注

時刻による探索では、指定の時刻にできるだけ近い場所にログ・パネルが位置付けられます。たとえば、真夜中を指定した場合、以下ようになります。

- SYSLOG パネルは、真夜中を含んでいる物理スプールの先頭または末尾を表示します。
- OPERLOG パネルは、メッセージが出された時刻にではなく、真夜中にログ・ストリームに書き込まれたレコードのブロックを表示します。

例

- **COMMAND INPUT ==> locate 156**
このコマンドは、SYSLOG、ULOG、または出力データ・セットに表示中の最上行から正方向に 156 行スクロールします。
OPERLOG では、表示中の最上行から正方向に 156 行スクロールします。
- **COMMAND INPUT ==> loc 10:25:00**
このコマンドは、時刻が 10:25 a.m. である最初の行にスクロールします。
- **COMMAND INPUT ==> loc 13.00.00**
このコマンドは、表示されている日付の 1:00 p.m. より前の一番近い行に、パネルをスクロールさせます。
- **COMMAND INPUT ==> l 07:45:00 11/12/98**
このコマンドは、1998 年 11 月 12 日の午前 7 時 45 分に対応するデータまで、パネルをスクロールさせます。

関連するコマンド

SET DATE

日付パラメーターで使用する日付形式を設定します (111 ページ)。

LOG -- SYSLOG または OPERLOG を表示する

LOG コマンドは、SYSLOG パネルまたは OPERLOG パネルにアクセスし、日時順形式で MVS システム・ログを表示するために使用します。

SYSLOG は、MVS システム・ログ・データを、日付と時刻の論理的な順番で表示します。OPERLOG は、シスプレックス全体に関するシステム・メッセージ・ログのマージ、すなわち、システム・ログに使用される DASD データ・セットの代替であるログ・ストリームを表示します。

両方のログの最下部に、未処理の要応答オペレーター書き込み (WTOR) を表示することもできます。

コマンド行に LOG と入力するか、Display プルダウンから選択してください。

形式

**パラメーターなし**

デフォルトのログ・パネルを表示します。

OPER または O

OPERLOG パネルを表示することを示します。

LOG

SYSLOG または S

SYSLOG パネルを表示することを示します。

ユーザーへの注

1. ログ・パネルに最初にアクセスすると、最後の項目が (最下部に) 表示されま
す。
終了してパネルに戻ると、それらのパネルを終了した個所から再開することにな
ります。
2. SDSF が 2 次 JES2 サブシステムのもとで実行中で、2 次 JES2 SYSLOG を処
理中である場合、SYSLOG データ・セットに関連した項目が常にあるとは限り
ません。 その場合、LOG コマンドを出すと、SYSLOG は表示されますが、項
目は 1 つもありません。
3. 日付と時刻を指定して SYSLOG を印刷すると、SDSF は指定の日付から開始
し、その日付の最後から数レコード後に終了します。
4. SDSF は、すべての SYSLOG データの正しい日付を SYSLOG パネルに表示し
ようとします。 レコードにタイム・スタンプが含まれていない場合、SDSF は
推定値を想定します。

例

- COMMAND INPUT ==> log
このコマンドはデフォルトのログ・パネルを表示します。
- COMMAND INPUT ==> log oper
このコマンドは OPERLOG パネルを表示します。

関連するコマンド

FILTER

OPERLOG が表示するものを制限します (57 ページ)。

RSYS

ログの一番下に表示されている WTOR を制限します (103 ページ)。

SET LOG

デフォルトのログ・パネルを設定します (115 ページ)。

SR

システム要求パネルを表示します (123 ページ)。

SYSID

JES2 多重アクセス・スプール環境で表示する SYSLOG を選択します (126 ペ
ージ)。

ULOG

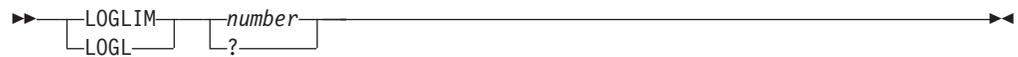
ユーザーのセッションに関するコマンドと応答だけを表示します (132 ペ
ージ)。

LOGLIM -- OPERLOG のフィルターを制限する

LOGLIM コマンドは、SDSF が検索する、フィルター基準に一致するレコードの OPERLOG データの量を制限する場合に使用します。

コマンド行に LOGLIM とタイプするか、Options プルダウンから選択してください。

形式



number

制限として使用する 0 から 999 の時間数。0 は制限なしを表します。

フィルターが有効な場合、SDSF は、OPERLOG パネルのフィルター基準と一致するレコードの、時間数が *number* 以下のデータを検索します。

- ?
- 現在の設定値を表示します。この設定値は、Enter を押して保存することも、新しい値をタイプして変更することもできます。

ユーザーへの注

1. SDSF は、画面全体のデータを検索し終わるか、制限値に達する（どちらか早い方）と、フィルター基準と一致するレコードの検索を停止します。
2. スクロールして、SDSF によるフィルター基準と一致するレコードの検索を再開する場合、SDSF は画面の一番上の行の日時から制限値を算出します。
3. 制限値の計算にレコードを使用できない場合、SDSF は現在の日時を使用します。
4. SDSF 機能の中には、NEXT、PREV、LOCATE、および最大 UP または最大 DOWN を使用したスクロール機能など、LOGLIM の設定値に関係なく OPERLOG を再処理するものがあります。制限値の外部の開始日時を使用して PRINT を実行する場合も、OPERLOG は再処理されます。

例

```
COMMAND INPUT ==>> LOGLIM 2
```

このコマンドを実行すると、SDSF は現在のフィルターと一致するレコードの 2 時間分の OPERLOG データを検索し、それ以上は検索しません。

関連するコマンド

FILTER

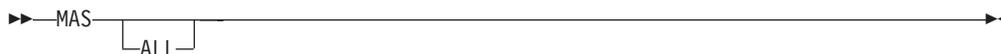
OPERLOG パネルのデータをフィルター操作します (60 ページ)。

MAS -- JES2 多重アクセス・スプールを表示する

MAS コマンドは、JES2 MAS (多重アクセス・スプール) 構成のメンバーをリストし、制御する場合に使用します。

コマンド行に MAS とタイプするか、Display プルダウンから選択してください。

形式



パラメーターなし

現在定義されているメンバーのみをリストした MAS パネルにアクセスします。

ALL

現在定義されていないものを含め、MAS の全メンバーをリストした MAS パネルにアクセスします。

例

- COMMAND INPUT ==> mas
このコマンドは、MAS パネルを表示し、MAS の定義済みメンバーをすべてリストします。
- COMMAND INPUT ==> mas all
このコマンドは、MAS パネルを表示し、MAS のメンバーをすべてリストします。

関連するコマンド

ARRANGE、FILTER、SELECT

MAS が表示するものを制限します (48、57、105 の各ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

NEXT -- データ・セット間を前方にスクロールする

NEXT コマンドは、あるデータ・セットから別のデータ・セットへ ODS パネルを迅速にスクロールさせるために使用します。NEXT コマンドは、PREV コマンドと反対の働きをします。

ジョブからの入出力には複数の SYSOUT データ・セットあるいは SYSIN データ・セットが含まれていることが多いため (JES2 ジョブ・ログ、JCL、および割り振り / 終了メッセージは、すべて別のデータ・セット)、ODS パネルに入るデータは、画面ごとにスクロールさせるには大量すぎる場合が多くなります。

NEXT コマンドは、指定された SYSOUT データ・セットの先頭まで、パネルを前方に (データ末尾の方向に) スクロールさせます。

現行の SYSOUT データ・セットの番号は、パネル最上行のデータ・セット ID のあとに表示されています。

ODS パネルのコマンド行に NEXT と入力します。

形式



number

前方へスクロールされるデータ・セットの数。 *number* のデフォルトは 1 です。 *number* が 0 の場合、パネルは現行のデータ・セットの先頭までスクロールされます。

ユーザーへの注

JDS または OD から ODS パネルにアクセスする際、SDSF は一度に 1 個のデータ・セットのみをブラウズし、NEXT は次のデータ・セットまでスクロールしません。

例

COMMAND INPUT ==>> next

このコマンドは、ODS パネルを次の SYSOUT または SYSIN データ・セットの始めにスクロールします。

NEXT -- OPERLOG 内を前方へスクロールする

NEXT コマンドは、次の日、時間、分、または秒のログ・データにす早くスクロールする場合に OPERLOG パネルで使用します。NEXT コマンドは、PREV コマンドと反対の働きをします。

OPERLOG パネルのコマンド行に NEXT と入力します。

形式



パラメーターなし

1 時間分、前方へスクロールします。

number

前方スクロールする日数、時間数、分数、または秒数を表す、1 から 99 の数値。 *number* のデフォルトは 1 です。

H *number* の単位が時間数であることを示します。これはデフォルトです。

NEXT

- M** *number* の単位が分数であることを示します。
- S** *number* の単位が秒数であることを示します。
- D** *number* の単位が日数であることを示します。

例

- COMMAND INPUT ==> next
このコマンドは、次の 1 時間に関する最初のログ・データまで、OPERLOG パネルを前方にスクロールします。画面上の最初のレコードが 10:15 のものであった場合、画面上の最初のレコードは 11:15 のレコードになります。
- COMMAND INPUT ==> n 2 d
このコマンドは、OPERLOG パネルを 2 日分前方へスクロールします。画面上の最初のレコードが 9/8/98 の 10:15 のものであった場合、画面上の最初のレコードは 9/10/98 の 10:15 のものとなります。

関連するコマンド

PREV

OPERLOG を直前の日、時間、分、または秒にスクロールします (90 ページ)。

NODES -- ノードを表示する

NODES コマンドは、JES2 ノードに関する情報を表示する場合に使用します。

コマンド行に NODES とタイプします。

形式



パラメーターなし

システム上のすべてのノードについての情報を表示します。

node-list

次のうち 1 から 4 個のパラメーターで構成されます。

node-number

ノードに関する情報を表示します。1 から 9999 の数値が有効です。

node-number-range

範囲内のノードに関する情報を表示します。最初の番号と最後の番号は、ハイフン (-) で区切ってください。先頭と末尾の番号は、1 から 9999 の範囲の数値である必要があります。

例

- COMMAND INPUT ==> NODES
このコマンドは、すべての JES2 ノードを表示します。

- COMMAND INPUT ==> NODE 2-4 7

このコマンドを実行すると、2、3、4、および 7 の JES2 ノードが表示されます。

関連するコマンド

ARRANGE、FILTER、SELECT

NO が表示するものを制限します (48、57、105 の各ページ)。

- ? 代替形式の NO パネルにアクセスします (41 ページ)。

SORT

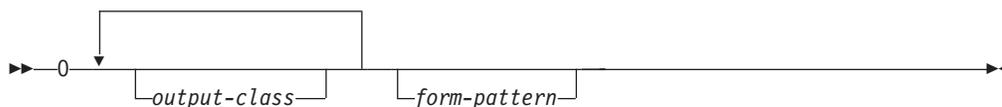
このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

O -- 出力キューを表示する

O コマンドは、非保留中の JES2 出力キュー上にあるジョブ、開始済みタスク、TSO ユーザーについて、SYSOUT データ・セットに関する情報をリストしたり、表示するために使用します。

コマンド行に O とタイプするか、Display プルダウンから選択してください。

形式



パラメーターなし

任意の非保留出力キューで待機中のすべてのジョブ、開始済みタスク、TSO ユーザーについての情報を表示します。

output-class

最大 7 個の出力クラスからなるリストです。O の直後に、空白を入れずに、出力クラスを指定してください。これらの非保留出力クラスのデータ・セットだけが表示されます。

form-pattern

この形式番号をもつデータ・セットだけをパネルに表示します。最大 8 文字までの形式番号を入力し、パターン・マッチングを使用できます (説明は 39 ページ)。

ユーザーへの注

1. 特殊な種類の出力データ・セットを指定するための特殊文字が 1 個用意されています。
 - @ 印刷用として別のノードに転送されるのを待機している出力。
2. このコマンドによるクラス指定は、累積的です。たとえば、@ が指定されても、それによって、他クラスから表示されるジョブが別ノードあてのジョブだけに制限されることはありません。

O

3. 現行の PREFIX がジョブのネット・メール ID に一致する場合は、ネット・メールが表示されます。ネット・メール ID は、JES2 のリリースによって、WTR フィールドに入っていたり、DEST フィールドの一部となっています。

例

- COMMAND INPUT ==> o
このコマンドは、すべての出力キューから、すべてのジョブのすべての形式番号をもつデータ・セットを表示します。
- COMMAND INPUT ==> oak std
このコマンドは、非保留 JES2 出力クラス A および K にある出力のうち、形式番号 STD をもつ出力だけを表示します。
- COMMAND INPUT ==> o s*
このコマンドは、形式番号が S で始まる出力だけを表示します。
- COMMAND INPUT ==> oa@
このコマンドは、すべてのクラスにあるすべての非保留出力のうち、別ノードでの印刷のために転送されるのを待っている出力、またはダンプされるのを待っている出力を表示します。また、出力クラス A のすべての非保留出力も表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、DEST、FILTER、PREFIX、OWNER、SELECT

O が表示するものを制限します (48、55、57、84、87、105 の各ページ)。

? 代替形式の O パネルにアクセスします (41 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

OWNER -- 所有者 ID に基づいてパネルを制限する

OWNER コマンドは、SDSF パネルに表示されるジョブを、これらのジョブの所有者のユーザー ID に制限するために使用します。所有者のユーザー ID と一致する書き出しプログラム ID をもつジョブがあれば、それらも表示されます。

コマンド行に OWNER とタイプするか、Filter プルダウンから選択してください。このコマンドが影響を与えるのは、DA パネル、H パネル、I パネル、O パネル、ST パネルのジョブのみです。

形式



パラメーターなし

すべての所有者 ID についてすべてのジョブを表示します。

owner-pattern

そのジョブの所有者ユーザー ID またはネット・メール ID。WTR フィールドにあるか、O パネルの DEST フィールドの一部になっています。これが指定されると、SDSF は、指定された *owner-pattern* に一致する所有者 ID か ネット・メール ID が付いているジョブまたは出力だけを表示します。

owner-pattern は 8 文字以内です。また、39 ページで説明した特殊なパターン・マッチングを組み込むこともできます。

? OWNER の現行設定値を表示します。

例

- COMMAND INPUT ==> owner *

他のフィルター操作が有効になっていなければ、このコマンドは、すべての所有者 ID についてすべてのジョブを表示します。

- COMMAND INPUT ==> owner kenjon

他のフィルター操作が有効になっていなければ、このコマンドは KENJON という所有者のジョブだけを表示します。

- COMMAND INPUT ==> owner lwe*

他のフィルター操作が有効になっていなければ、このコマンドは、LWE で始まる所有者 ID のジョブのみを表示します。

- COMMAND INPUT ==> owner sl%er

他のフィルター操作が有効になっていなければ、このコマンドは、SL で始まって ER で終わり、その間に 2 つの文字を持つ所有者 ID のジョブのみを表示します。

- COMMAND INPUT ==> owner

他のフィルター操作が有効になっていなければ、このコマンドは、すべての所有者 ID についてすべてのジョブを表示します。

関連するコマンド

SET SCHARS

* または % の値を別の文字に変更します (116 ページ)。

SET DISPLAY ON

SDSF 表形式パネル上で OWNER の設定値を表示します (113 ページ)。

PR -- プリンターを表示する

PR コマンドは PR パネルにアクセスします。このパネルには、MAS について定義された JES2 プリンターに関する情報が表示されます。

コマンド行に PR とタイプするか、Display プルダウンから選択してください。

形式

▶▶PR [printer-list]▶▶

パラメーターなし

シスプレックス内のすべてのプリンターについての情報を表示します。

printer-list

下記のパラメーター 1 から 4 個からなるリスト。パラメーターは、どのような組み合わせでも入力できます。

number

ID が *number* のローカル・プリンターについての情報を表示します。このパラメーターには、1 から 9999 の値を指定しなければなりません。

number-range

ID が *number-range* で指定された範囲であるローカル・プリンターに関する情報を表示します。最初の番号と最後の番号は、ハイフン (-) で区切ってください。範囲を定める最初の番号と最後の番号は、どちらも 1 から 9999 の値でなければなりません。

Rnumber

number で指定されたりモート・ロケーションのプリンターに関する情報を表示します。*number* は 1 から 9999 の値でなければならず、頭に R を付けなければなりません。

Rnumber-range

number-range で指定された範囲のリモート・ロケーションにあるプリンターに関する情報を表示します。最初の番号と最後の番号は、ハイフン (-) で区切ってください。範囲を定める最初の番号と最後の番号は、どちらも 1 から 9999 の値でなければなりません。最初の番号の頭に R を付けなければなりません。

LCL

全ローカル・プリンターに関する情報を表示します。

RMT

全リモート・ロケーションのプリンターすべてに関する情報を表示します。

ユーザーへの注

PR コマンドのパラメーターを使用して、表示されるプリンターを制限すると、パフォーマンスが向上することがあります。たとえば、リモート・プリンター 5 に関する情報だけを確認する必要がある場合は、`pr r5` と入力します。

例

- | • COMMAND INPUT ==> pr
- | このコマンドは、シスプレックスのローカル・プリンターとリモート・プリンターを表示します。
- | • COMMAND INPUT ==> pr 20-300
- | このコマンドは、20 から 300 までの範囲の ID をもつローカル装置を表示します。
- | • COMMAND INPUT ==> pr r50-100
- | このコマンドは、50 から 100 までの範囲の ID をもつ、リモート・ノードのプリンターについての情報を表示します。

- COMMAND INPUT ==> pr rmt
このコマンドは、リモート・ロケーションにあるすべてのプリンターを表示します。
- COMMAND INPUT ==> pr 20-300 rmt
このコマンドは、20 から 300 までの範囲の ID をもつローカル・プリンターと、すべてのリモート・ロケーションにあるすべてのプリンターを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、DEST、FILTER、SELECT、SYSNAME

PR の表示内容を制限します (48、55、57、105、127 ページ)。

DEST コマンドは、PR コマンドに優先します。たとえば、DEST U1 R4 と入力すると、パラメーターを伴わない PR コマンドは、ローカル・プリンター 1 とリモート・プリンター 4 に関する情報しか表示しません。

PUN

パンチ・パネルにアクセスします。

? 代替形式の PR パネルにアクセスします (41 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

SET TIMEOUT

シスプレックス・データのタイムアウトを設定します (119 ページ)。

PREFIX -- 接頭部によってパネル表示を制限する

PREFIX コマンドは、ユーザーのパネルを、名前が特定のストリングと一致するジョブに制限するために使用します。

コマンド行に PREFIX とタイプするか、Filter プルダウンから選択してください。このコマンドの影響を受けるのは、DA パネル、I パネル、O パネル、H パネル、ST パネルだけです。

形式



パラメーターなし

H パネルの場合以外は全ジョブを表示します。H パネルの場合は、ユーザーのユーザー ID で始まる名前をもったジョブをすべて表示します。

H パネルで全ジョブを表示する場合は、H ALL コマンドを入力した後、PREFIX * コマンドを入力します。PREFIX コマンドを入力しないと、PREFIX の設定は、デフォルトで、ISFPARMS の PREFIX の設定値になります。この設定の詳細については、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティー を参照してください。

PREFIX

string-pattern

8 文字までのストリング。DA パネル、I パネル、ST パネル、O パネル、H パネルで表示されるジョブを制限できます。

string-pattern と一致する名前のジョブだけが表示されます。また、O パネルでは、*string-pattern* と一致するネット・メール ID のジョブも表示されます。

string-pattern には、39 ページで説明した特殊なパターン・マッチング文字を組み込むことができます。

- ? PREFIX の現行 *string-pattern* 設定値を表示します。表示された設定値は、Enter キーを押してそのまま保存することも、新しいパラメーターを入れて変更することもできます。

ユーザーへの注

- O パネルでは、PREFIX がジョブのネット・メール ID に一致した場合には、ネット・メールも表示されます。O パネルのネット・メール ID は、WTR フィールドにあるか、DEST フィールドの一部になっています。これは JES2 のリリースによって異なります。
- PREFIX コマンドの使用は、システム・プログラマーにより ISFPARMS か SAF のいずれかで制御できます。システム・プログラマーは、次のことをすることができます。
 - ユーザーの一部には、前もってデフォルト PREFIX を設定しておく。
 - ユーザーの一部には、PREFIX コマンドを使用不能にする。
 - PREFIX または FILTER コマンドがどのように設定されるかに関係なく、特定のジョブが常にパネルに含まれるようにしておく。

例

次の例では、表示を限定するための DEST コマンドおよび OWNER コマンドが設定されていないことを前提としています。

- COMMAND INPUT ==> prefix ieb*

このコマンドが有効である間、DA パネル、I パネル、ST パネル、O パネル、H パネルは、文字ストリング *IEB* で始まる名前のジョブだけを表示します。

- COMMAND INPUT ==> prefix

このコマンドが有効である間、DA パネル、I パネル、ST パネル、O パネルは全ジョブを表示します。H パネルは、ユーザーのユーザー ID を接頭部にもつ名前のジョブのみを表示します。

- COMMAND INPUT ==> prefix abc

このコマンドは、ジョブ名が *ABC* であるすべてのジョブを表示します。

- COMMAND INPUT ==> prefix *

COMMAND INPUT ==> h abc*

この一連の コマンドは、ストリング *ABC* で始まる名前の H パネル上のジョブをすべて表示します。

関連するコマンド

SET SCHARS

* または % の値を別の文字に変更します (116 ページ)。

SET DISPLAY ON

SDSF 表形式パネル上で FILTER または PREFIX の現行設定値を表示します (57、113 の各ページ)。

PREV -- データ・セット間を後方へスクロールする

PREV コマンドは、あるデータ・セットから別のデータ・セットに ODS パネルを迅速にスクロールするために使用します。

ジョブからの入出力には複数の SYSOUT データ・セットあるいは SYSIN データ・セットが含まれていることが多いため (JES2 ジョブ・ログ、JCL、および割り振り / 終了メッセージは、すべて別のデータ・セット)、ODS パネルに入るデータは、画面単位でスクロールさせるには大量すぎる場合が多くなります。

PREV コマンドは、指定された SYSOUT データ・セットの先頭まで、パネルを後方に (データの先頭方向に) スクロールさせます。パネル最上行に表示されているのが、現行の SYSOUT データ・セットです。このデータ・セットの番号は、ODS パネルによって表示されます。

PREV は、NEXT コマンドと反対の働きをします。

ODS パネルのコマンド行に PREV と入力します。

形式



パラメーターなし

最後の 1 時間に関するログ・データまで後方にスクロールします。パネルは、その時間の最初のレコードが画面の最上行になります。

number

後方へスクロールする時間数または日数。

ユーザーへの注

JDS または OD から ODS パネルにアクセスする際、SDSF は一度に 1 個のデータ・セットのみをブラウズし、PREV は前のデータ・セットまでスクロールしません。

例

- COMMAND INPUT ==>> prev 3

このコマンドは、現行データ・セットより 3 つ前の SYSOUT データ・セットまたは SYSIN データ・セットの始めまで ODS パネルを後方にスクロールさせます。

PREV

- COMMAND INPUT ==> p 0

このコマンドは、現行 SYSOUT または SYSIN データ・セットの始めまで ODS パネルをスクロールさせます。

PREV -- OPERLOG 内を後方へスクロールする

PREV コマンドは、直前の日、時間、分、または秒のログ・データにす早くスクロールする場合に使用します。PREV コマンドは、NEXT コマンドと反対の働きをします。

OPERLOG パネルのコマンド行に PREV と入力します。

形式



パラメーターなし

1 時間分、後方へスクロールします。

number

後方スクロールする日数、時間数、分数、または秒数を表す、1 から 99 の数値。*number* のデフォルトは 1 です。

H *number* の単位が時間であることを示します。これはデフォルトです。

M *number* の単位が分であることを示します。

S *number* の単位が秒であることを示します。

D *number* の単位が日であることを示します。

例

- COMMAND INPUT ==> prev

このコマンドは、直前の 1 時間に関する最初のログ・データまで、OPERLOG パネルを後方にスクロールします。画面上の最初のレコードが 10:15 に関するものであった場合、Enter を押した後の最初のレコードは 9:15 に関するものになります。

- COMMAND INPUT ==> p 6 m

このコマンドを実行すると、OPERLOG パネルが 6 分だけ後方スクロールされます。この最初のレコードが 10:15 に関するものであった場合、表示される最初のレコードは 10:09 に関するレコードになります。

関連するコマンド

NEXT

OPERLOG を次の日、時間、分、または秒にスクロールします (81 ページ)。

PRINT -- 画面イメージまたはデータを印刷する

PRINT コマンドは、SDSF 表形式パネルまたはブラウザ・パネルの画面イメージ、出力データ、およびログからのデータを印刷データ・セットに印刷するために使用します。印刷データ・セットには、SYSOUT かデータ・セットのいずれかです。(表形式パネルでは、このコマンドの代わりに X アクション文字およびそのパラメーターが使えます。)

印刷には以下の事柄が含まれます。

1. オプションの SDSF 印刷オープン・パネルを使って印刷データ・セットの値を指定し、印刷済み出力を受け取るため、印刷データ・セットをオープンすること。
2. 画面イメージ、出力データ、およびログ・データを印刷データ・セットへ印刷すること。
3. 印刷データ・セットをクローズすること。

上記のステップの説明については、26ページの『SDSF パネルからの印刷』を参照してください。

次に示すのは PRINT コマンドの概要です。すべてのパラメーターが載っているわけではありません。パラメーターについては、構文図の後で説明します。

PRINT パラメーターなし

表形式、ログ

デフォルトの SYSOUT ファイルをオープンします。

ODS データ・セット全体を印刷します。

ULOG ユーザー・ログ全体を印刷します。

PRINT OPEN

印刷された出力を受け取るための SYSOUT データ・セットをオープンします。

PRINT SYSOUT

SYSOUT 値を表示して変更し、また印刷宛先を入力できるように、SYSOUT 用の印刷オープン・パネルを表示します。

PRINT ODSN

印刷された出力を受け取るためのデータ・セットをオープンします。

PRINT DATASET

ユーザーが新しいデータ・セットを割り振れるように、印刷オープン・データ・セット・パネルを表示します。

PRINT FILE

DD 名を使用して、印刷出力を受け取る印刷ファイルをオープンします。

PRINT SCREEN

TSO で、画面イメージを印刷します。

PRINT-HI

ISPF で、画面イメージを印刷します。

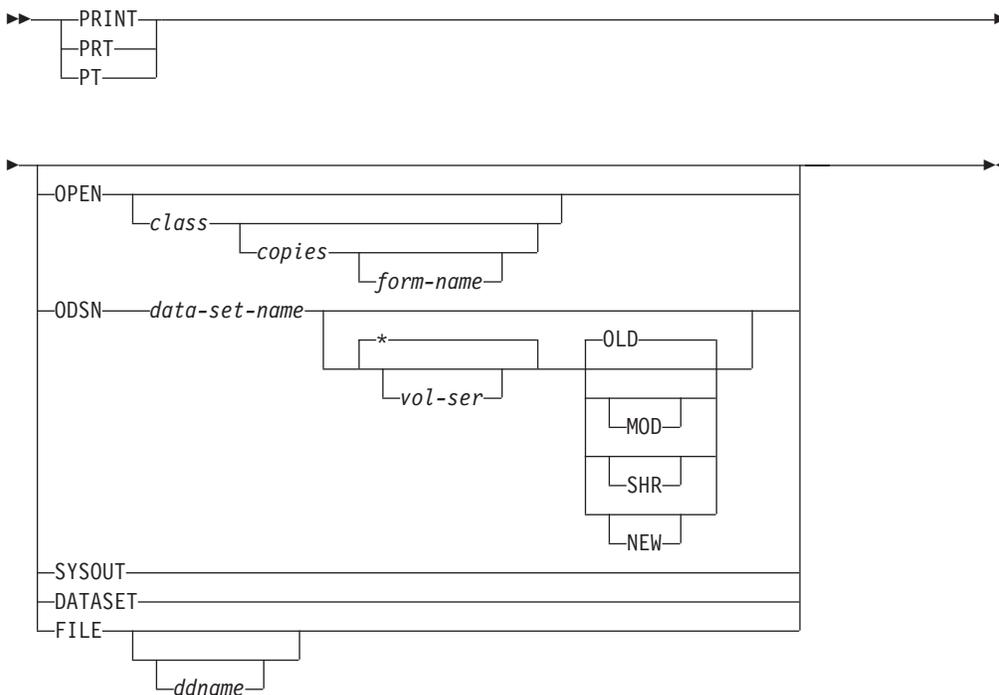
PRINT

PRINT CLOSE

印刷データ・セットをクローズして、印刷に使用できるようにします。

コマンド行に **PRINT** とタイプするか、**Print** プルダウンを使用します。ユーザーが使うコマンド・パラメーターは、印刷しているデータのタイプ、および使用する印刷データ・セットのタイプにより異なります。

印刷データ・セットのオープン



パラメーターなし

表形式、ログ

印刷データ・セットがまだオープンされていない場合は、デフォルトの *class* の値を使用して、デフォルトの **SYSOUT** データ・セットをオープンします。

ODS 出力データ・セット全体を印刷します。

ULOG ユーザー・ログ全体を印刷します。

OPEN

出力を受け取る **SYSOUT** データ・セットをオープンします。

class

ファイルに使用する **SYSOUT** クラス。 *class* を省略すると、**SDSF** は、**SDSF** のインストール時にシステム・プログラマーが指定したデフォルトを使用します。

copies

印刷したいコピーの部数です。

form-name

印刷された出力用の書式 ID です。デフォルトの値は、インストール先のシステムにおける指定されたクラス用の書式 ID です。

ODSN

印刷出力を受け取るために DASD データ・セットをオープンします。

data-set-name

データ・セット名です。ユーザー ID を *data-set-name* の接頭部に付けない場合は、それを引用符で囲ってください。

data-set-name を指定するときに、後処理が NEW または MOD でそのデータ・セットが存在しない場合は、SDSF はデフォルトの属性のセットを使って、そのデータ・セットを割り振ります。その割り振りを特定のボリュームに振り向けるために、オプションでボリューム通し番号を指定することができます。

- * データ・セットがカタログされ、*vol-ser* が使われないことを指定します。後処理を入力する場合は、*vol-ser* または * のいずれかが必要です。

vol-ser

データ・セットを割り振るときに使用する必要があるボリューム通し番号を指定します。

OLD または O

データ・セットの後処理として OLD を指定します。OLD がデフォルトです。OLD は、そのデータ・セットがすでに存在すること、上書きされること、およびユーザーがそのデータ・セットを専用で使用する必要があることを意味します。(データ・セットが存在しない場合は、OLD を指定してはなりません。)

MOD または M

データ・セット後処理として MOD (変更) を指定します。MOD は、ユーザーが、順次データ・セットへのデータの追加を希望していることを示します。データ・セットが存在しないときに MOD を指定すると、データ・セットが 1 個作成されます。

NEW または N

データ・セット後処理として NEW を指定します。NEW は、ユーザーが新しいデータ・セットの割り振りを要求していることを示します。

SHR または S

データ・セット後処理として SHR (共用) を指定します。SHR は、データ・セットがすでに存在すること、上書きされること、およびユーザーがそのデータ・セットを専用で使う必要がないことを意味します。(データ・セットが存在しない場合は、SHR を指定してはなりません。)

SYSOUT または S

SYSOUT 割り振り値を表示して変更し、また印刷宛先を入力できるように SYSOUT 用の印刷オープン・パネルを表示します。(これは、表形式パネルで XS アクション文字を入力するのと同じことです。)

SDSF がバッチで実行されているときは、SYSOUT パラメーターは無効です。

PRINT

DATASET または D

ユーザーが新しいデータ・セットを割り振れるように、印刷データ・セット・オープン・パネルを表示します。(これは、表形式パネルで XD アクション文字を入力するのと同じことです。)

SDSF がバッチで実行されているときは、DATASET パラメーターは無効です。

FILE または F

ユーザーが印刷ファイルの DD 名 を指定できるように、印刷ファイル・オープン・パネルを表示します。SDSF は、データを「現状のまま」制御文字を挿入しないでファイルに印刷します。(これは、表形式パネルで XF アクション文字を入力するのと同じことです。)

ddname

事前割り振りされている DD 名 を使用します。

ユーザーへの注 (印刷データ・セットのオープン)

1. ディスク・データ・セットを使うことによって、236 文字より多い文字の出力を印刷することができます。ディスク・データ・セットの論理レコード長が、SYSOUT データ・セットの論理レコード長より短い場合は、そのデータは切り捨てられ、メッセージは出ません。
2. データ・セットを割り振るときは、データ・セットの編成について、順次 (DSORG=PS) であるか区分 (DSORG=PO) であるかのいずれかを指定する必要があります。
3. プリンターの紙送り制御を含んでいない SYSOUT ファイルを印刷するのに ODSN オプションを使うときは、指定されるデータ・セットの論理レコード長は、SYSOUT ファイルの論理レコード長より 1 バイト長くなければなりません。すべての PRINT コマンドは、出力データ・セット中に ANSI 制御文字を生成します (ただし、ページ・モード・データを除きます)。
4. SYSOUT ファイルが JES2 に対してページ・モード・データとして定義されていると、プリンター制御文字は ANSI に変換されません。ページ・モード・データと機械文字データの両方を含んでいる SYSOUT ファイルは、JES2 ではページ・モード・データとしては定義されません。

例 (印刷データ・セットのオープン)

- COMMAND INPUT ==> print

このコマンドは、ODS パネルまたは ULOG パネルで入力した場合、表示中の出力データ・セットまたはユーザー・ログの全体の内容を印刷します。

その他のパネルで入力すると、このコマンドは、デフォルトの *class* および *form-pattern* で SYSOUT 印刷データ・セットをオープンします。

- COMMAND INPUT ==> print open c 2 std

このコマンドは SYSOUT 印刷データ・セットをオープンし、SYSOUT クラスとして C、印刷部数として 2 部、書式番号として STD を指定します。

- COMMAND INPUT ==> print odsn 'sys2.print' ipores mod

このコマンドは、ボリューム IPORES にある SYS2.PRINT という名前の事前割り振りディスク・データ・セットをオープンし、後処理として MOD を指定します。

- COMMAND INPUT ==> print odsn 'sys3.print' * shr

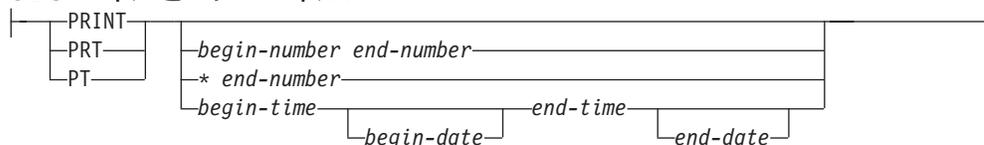
このコマンドは、事前に割り振られ、カタログされている SYS3.PRINT というディスク・データ・セットをオープンし、後処理として SHR を指定します。

選択されたデータを印刷する

表形式パネル:



ODS パネルとログ・パネル:



パラメーターなし

92 ページの説明を参照してください。

SCREEN

SDSF が TSO コマンド・プロセッサとして実行しているときに、現行の画面イメージを印刷します。PF キー 9 と PF キー 21 も、画面の印刷に使用できます。

ISPF で稼働しているときは、PRINT-HI コマンドを使う必要があります。

PRINT-HI を使用するために、データ・セットをオープンする必要はありません。ISPF リスト・データ・セットに印刷されます。

begin-number end-number

ODS パネルまたはログ・パネルで印刷したい行の範囲を指定します。ODS の場合、行番号は、現行データ・セットの先頭を基準にした相対番号であって、表示中の全データにおける相対番号ではありません。

* *end-number*

begin-number の代わりに値 * は、表示中の最上行を指定し、*end-number* が最上行からの行数であることを示します。

OPERLOG の場合、*begin-number* は * になっている必要があります。

OPERLOG パネルは、絶対行番号を使用しないため、行番号の範囲を受け入れることができません。

begin-time end-time

行の印刷の開始時刻および終了時刻を指定します (ログ・パネルのみ)。時刻形式の規則については、40 ページを参照してください。

begin-date end-date

行の印刷の開始日付および終了日付を指定します (ログ・パネルのみ)。省略すると、SDSF は現在の最上行の日付を使用します。日付を 1 つしか指定しないと、SDSF は開始日付として使用します。日付形式の規則については、40 ページを参照してください。

ユーザーへの注 (選択されたデータの印刷)

1. 時刻 / 日付範囲を指定して印刷を行う場合、得られる出力データ・セットは、指定された時刻に最も近いレコードで始まり、最も近いレコードで終わります。
たとえば、第 1 日の午前 8 時から第 2 日の午前 8 時まで印刷する場合、出力データ・セットは、第 1 日の午前 8 時を含んでいる物理スプールから始まり、第 2 日の午前 8 時を含んでいる物理スプールで終わります。そのため、指定された時刻 / 日付範囲の外にあるレコードが、いくつか出力データ・セットに含まれることがあります。
2. 日付と時刻を指定して OPERLOG を印刷する場合、時刻は、メッセージが出された時刻ではなく、レコードが OPERLOG に記録された時刻に適用されます。

例 (選択されたデータの印刷)

- `COMMAND INPUT ==> print`

このコマンドは、ODS パネルで入力した場合、表示中の出力データ・セット全体の内容を印刷します。

その他のパネルで入力すると、このコマンドは、デフォルトの *class* および *form-pattern* で SYSOUT 印刷データ・セットをオープンします。

- `COMMAND INPUT ==> print 22 113`

このコマンドは、ブラウザ・パネルの 22 行目から 113 行目を印刷します。まだオープンされていない場合は、動的にオープンします。

- `COMMAND INPUT ==> PT 08.00.00 11/13/1998 12.00.00 11/14/1998`

このコマンドは、1998 年 11 月 13 日午前 8 時から 1998 年 11 月 14 日正午まで ログ・パネルの行を印刷し、まだオープンされていない場合は、動的オープンを実行します。

- `COMMAND INPUT ==> print * 893`

OPERLOG パネルで入力すると、このコマンドは、現在行から開始して、次の 893 行に関する operlog を印刷します。

- `COMMAND INPUT ==> print 10:00:00 05/11/98 10:00:00 05/13/98`

このコマンドは、SYSLOG または OPERLOG のいずれの場合も、1998 年 5 月 11 日 10 時から 1998 年 5 月 13 日 10 時までのすべての行を印刷します。

印刷データ・セットのクローズ



PRINT CLOSE コマンドは、SYSOUT データ・セットを開放してそれを印刷に使用できるようにするか、DASD データ・セットをクローズします。

例 (印刷データ・セットのクローズ)

- `COMMAND INPUT ==> print close`

このコマンドは印刷データ・セットをクローズします。

PUN 例

- **COMMAND INPUT ==> PUN**
このコマンドは、システムのローカル・パンチとリモート・パンチを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> PUN 20-30**
このコマンドは、20 から 30 までの範囲の ID をもつローカル・パンチを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> PUN r50-100**
このコマンドは、50 から 100 までの範囲の ID をもつ、リモート・ノードのパンチについての情報を表示します。
- **COMMAND INPUT ==> PUN rmt**
このコマンドは、リモート・ロケーションにあるすべてのパンチを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> PUN 20-30 rmt**
このコマンドは、20 から 30 までの範囲の ID をもつローカル・パンチと、すべてのリモート・ロケーションにあるすべてのパンチを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、DEST、FILTER、SELECT

PUN が表示するものを制限します (48、55、57、105 の各ページ)。

DEST コマンドは、PUN コマンドに優先します。たとえば、DEST U1 R4 と入力すると、パラメーターを伴わない PUN コマンドは、ローカル・パンチ 1 とリモート・パンチ 4 に関する情報しか表示しません。

? 代替形式の PUN パネルにアクセスします (41 ページ)。

SORT

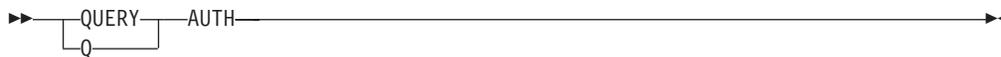
このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

QUERY AUTH -- 許可コマンドを表示する

QUERY AUTH コマンドは、使用許可が与えられている SDSF コマンドを表示する場合に使用します。許可が必要なコマンドだけが表示されます。

SDSF パネルのコマンド行に QUERY AUTH とタイプします。

形式



AUTH

メッセージ行で許可されているコマンドのリストを表示します。

ユーザーへの注

このリストを除去するには、Enter を押します。

RDR

区切ってください。 範囲を定める最初の番号と最後の番号は、どちらも 1 から 9999 の値でなければなりません。 最初の番号の頭に R を付けなければなりません。

LCL

すべてのローカル・リーダーに関する情報を表示します。

RMT

すべてのリモート・ロケーションのリーダーすべてに関する情報を表示します。

例

- **COMMAND INPUT ==> RDR**
このコマンドは、システムのローカル・リーダーとリモート・リーダーを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> RDR 10-15**
このコマンドは、10 から 15 までの範囲の ID をもつローカル・リーダーを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> RDR r15-20**
このコマンドは、15 から 20 までの範囲の ID をもつ、リモート・ノードのリーダーについての情報を表示します。
- **COMMAND INPUT ==> RDR rmt**
このコマンドは、リモート・ロケーションにあるすべてのリーダーを表示します。
- **COMMAND INPUT ==> RDR 30-50 rmt**
このコマンドは、30 から 50 までの範囲の ID をもつローカル・リーダーと、すべてのリモート・ロケーションにあるすべてのリーダーを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、FILTER、SELECT

RDR が表示するものを制限します (48、57、105 の各ページ)。

? 代替形式の RDR パネルにアクセスします (41 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

RES -- リソースを表示する

RES コマンドは、スケジューリング環境、MAS、またはシスプレックスに定義されているリソースに関する情報を表示する場合に使用します。

リソースを表示するには、コマンド行に RES とタイプするか、Display プルダウンからこれを選択してください。また、スケジューリング環境内のリソースを表示するには、スケジューリング環境パネルに R アクション文字を入力することもできます。

形式



パラメーターなし

MAS 内のすべてのシステムのリソースを表示します。

MAS

MAS 内のすべてのシステムのリソースを表示します。これはデフォルトです。

ALL

シスプレックス内のすべてのシステムのリソースを表示します。

例

```
COMMAND INPUT ==>> RES
```

このコマンドは リソースパネルを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、FILTER、SELECT

RES が表示するものを制限します (48、57、105 の各ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

RESET -- 最後の COLS コマンドをリセットする

RESET コマンドは次の場合に使用します。

- 最後に実行した COLS コマンドの結果をリセットします (51 ページ)。このコマンドは、ブラウザ・パネルから欄スケール行を取り除いたり、表形式パネルの通常の見出し行メッセージを再表示します。
- Enter を押す前に、未処理のブロック・コマンドを取り消し、すべてのアクション文字またはフィールドの上書きによって行った変更を除去します。
- + によって表形式パネルの NP 欄を拡張した後、NP 欄のデフォルトの幅を復元します。

コマンド行に RESET と入力します。

形式



例

```
COMMAND INPUT ==>> reset
```

RESET

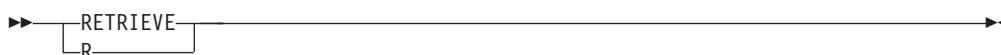
このコマンドは、最後の COLS コマンドの結果をリセットします。また、終了時に保留になっているアクション文字コマンドやパネル・フィールドへの上書きがある場合は、それらも取り消し、NP 欄のデフォルト・サイズを復元します。

RETRIEVE -- 最後のコマンドのリトリブ

RETRIEVE コマンドは、コマンド・スタックから最後のコマンドを取り出してきました。最後のコマンドが RETRIEVE だったときは、その前のコマンドを取り出してきました。RETRIEVE により取り出されたコマンドは、コマンド入力域に置かれます。

コマンド行に RETRIEVE と入力します。

形式



ユーザーへの注

1. このコマンドでは、4 文字未満のコマンドを取り出すことはできません。また、ISPF では、このコマンドは HELP、TUTOR、または UP、LEFT などのスクロール・コマンドも取り出しません。
2. コマンドをリトリブしようとして DATA TRUNCATED という ISPF メッセージが出たときは、いったんコマンド行を消去してから、RETRIEVE を入力し直してください。

例

```
COMMAND INPUT ==>> retrieve
```

最後のコマンド (単数または複数) が再表示されます。

RIGHT -- 右へスクロールする

RIGHT コマンドは、SDSF パネルを左から右へスクロールさせるのに用いられます。

コマンド行に RIGHT と入力します。

形式



パラメーターなし

SCROLL の量を使用します。

number of lines

スクロールする位置の数を制御します。

MAX

示された方向へ可能なかぎりスクロールします。

PAGE

パネルを右に 1 ページ分スクロールします。

HALF

パネル上の行数の半分をスクロールさせます。

DATA

ISPF のもとで 1 ページより 1 行だけ少なくパネルをスクロールさせます。

例

```
COMMAND INPUT ==> right 25          SCROLL==> PAGE
```

このコマンドは、パネルを 25 桁または 25 文字右へスクロールさせます。

RSYS -- ログ上の WTOR をフィルターに掛ける

RSYS コマンドは、ログ・パネルの一番下に表示される WTOR を制限するために使用します。

コマンド行に RSYS コマンドを入力するか、または Filter プルダウンから選択してください。このコマンドは、ログ・パネルだけに影響します。

形式



パラメーターなし

ユーザーがログオンしているシステムの WTOR だけに制限します。

system-name

表示する WTOR をシステムに基づいて制限する 8 文字までの文字ストリング。

system-name に一致する起点システムの WTOR だけが表示されます。

system-name には、で説明されている特殊なパターン・マッチング文字を使用できます。

? RSYS の現在の設定値を表示します。

ユーザーへの注

ログ・パネルの表題行には、RSYS の設定値に関係なく、未解決の WTOR の合計数が表示されます。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

SELECT -- 表形式パネル上の行を制限する

SELECT コマンドは、表形式パネル上の行を制限する場合に使用します。このコマンドは、現行の接頭部、所有者、宛先、またはフィルターの値を変更せずに、表形式パネルにジョブをす早く表示するための高速パスとして使用できます。

キュー・パネル (DA、I、O、H、および ST) で SELECT を実行すると、パネル・コマンドのパラメーター、および FILTER、PREFIX、DEST、OWNER によって設定された他のフィルターが一時変更されます。PREFIX、DEST、または OWNER を指定変更するには、そのコマンドを出す許可を持っている必要があります。DEST を指定変更するには、宛先に対する許可を持っている必要があります。そのコマンドまたは宛先に対する許可がないのに SELECT を実行すると、フィルター操作によって除かれなかった行だけが処理されます。

キュー・パネル (DA、I、O、H、および ST) では、ジョブ名、ジョブ番号、またはジョブ ID に基づいて指定したジョブだけに、表示する行を制限できます。他の表形式パネルでは、固定フィールドに基づいて、表示する行を制限することができます。たとえば、PR パネルを特定のプリンターだけに制限したり、INIT パネルを特定のイニシエーターだけに制限することができます。

SELECT コマンドは、1 回限りのフィルターを提供します。接頭部、所有者、宛先、およびフィルターの値と異なり、SELECT コマンドの値は ISPF のセッションでは保管されません。値は、表示に再アクセスするまでの間しか持続しません。

コマンド行に SELECT と入力します。

形式

すべての表形式パネル:

```

|-----|
| SELECT |
|  S     |  rows-to-select
|-----|

```

キュー・パネル (DA、I、O、H、および ST):

```

|-----|
| SELECT |
|  S     |  jobname
|         |  jobnumber
|         |  jobname jobid
|         |  jobname workid
|-----|

```

JDS パネル:

```

|-----|
| SELECT |
|  S     |  ddname
|         |  ddname stepname
|-----|

```

SELECT

パラメーターなし

SELECT コマンドによって設定したすべてのフィルターを除去します。

rows-to-select

選択する行を指定します。すべての表形式パネルは、固定フィールド (NP の後の最初の欄) を受け入れます。たとえば、PR パネルの固定フィールドはプリンター名であり、INIT パネルではイニシエーター ID です。キュー・パネルおよび JDS パネルは、他の欄も同様に受け入れます。

パターン・マッチング文字値 * および % を使用できます。39 ページを参照してください。

jobname

ジョブ名が固有でない場合、その名前をもつすべてのジョブを表示します。

jobnumber

ジョブ番号。先行ゼロを入力する必要はありません。

jobname jobid

ジョブ名、およびそれに続くジョブ ID (JOB、TSU、または STC と番号)。*jobid* を J、T、または S とそれに続くジョブ番号に省略することができます。先行ゼロを入力する必要はありません (たとえば、TSU00438 の代わりに T438 と入力することができます)。

jobname workid

ジョブ名および作業 ID。システム作業 ID は、文字 A に続く作業 ID 番号として指定できます。先行ゼロを入力する必要はありません。

ddname

DD 名です。

ddname stepname

DD 名およびステップ名です。

例

- COMMAND INPUT ==> select psmith
このコマンドは、PSMITH というジョブ名をもつすべてのジョブを表示します。
- COMMAND INPUT ==> s psm*
このコマンドは、文字 PSM で始まるすべてのジョブを表示します。
- COMMAND INPUT ==> s 512
このコマンドは、ジョブ 512 がシステム内に存在していれば、表示します。
- COMMAND INPUT ==> s payroll j100
このコマンドは、ジョブ番号が 100 である PAYROLL ジョブを表示します。
- COMMAND INPUT ==> s
このコマンドは、SELECT を使用して設定したすべてのフィルターを除去します。

SET ACTION -- アクション文字の表示をオンまたはオフに設定する

SET ACTION コマンドは、有効なアクション文字を、SDSF パネルの情報行に表示するために使用します。

コマンド行に SET ACTION と入力するか、Options プルダウンからそれを選択してください。

形式



パラメーターなし

各表形式パネルの情報行に、有効なアクション文字とその説明を表示します。
これは、ON または LONG パラメーターを入力した場合と同様です。

LONG または ON

各表形式パネルに、有効なアクション文字とその説明を表示します。

SHORT

各表形式パネルに、有効なアクション文字を説明なしで表示します。

OFF

アクション文字の表示をオフにします。

? SET ACTION の現行設定値を表示します。

ユーザーへの注

アクション文字とそのパラメーターについてさらに知りたい場合は、SDSF オンライン・ヘルプ・パネルまたは SDSF 資料を使用してください。

例

- COMMAND INPUT ==> set action on

このコマンドは、アクション文字とその説明を表示します。

```
SDSF HELD OUTPUT DISPLAY ALL CLASSES LINES 452,893 LINE 429-449 (449)
COMMAND INPUT ==> SCROLL ==> CSR
ACTION=//-Block,--Repeat,+-Extend,?-JDS,A-Release,C-Cancel,H-Hold,L-List
ACTION=0-Release,P-Purge,Q-Outdesc,S-Browse,X-Print
NP JOBNAME JOBID OWNER PRTY C ODISP DEST TOT-REC
DB2LU32 JOB09111 DB2JOB 7 H HOLD LOCAL 730
DB2LU33 JOB09112 DB2JOB 7 H HOLD LOCAL 1,255
DB2LU34 JOB09115 DB2JOB 7 H HOLD LOCAL 1,033
```

- COMMAND INPUT ==> set action short

このコマンドは、アクション文字を説明なしで表示します。

```
SDSF HELD OUTPUT DISPLAY ALL CLASSES LINES 452,893 LINE 429-449 (449)
COMMAND INPUT ==> SCROLL ==> CSR
ACTION=//,+,?,A,C,H,L,O,P,Q,S,SB,SE,SJ,X,XC,XD,XDC,XF,XFC,XS,XSC
NP JOBNAME JOBID OWNER PRTY C ODISP DEST TOT-REC
DB2LU32 JOB09111 DB2JOB 7 H HOLD LOCAL 730
DB2LU33 JOB09112 DB2JOB 7 H HOLD LOCAL 1,255
DB2LU34 JOB09115 DB2JOB 7 H HOLD LOCAL 1,033
```

SET ACTION

関連するコマンド

SET SCREEN

情報行上のアクション文字のカラー、強調表示、または輝度を変更します (117 ページ)。

SET CONFIRM -- アクション文字の確認

SET CONFIRM は、ジョブ指向の表形式パネルでのアクション文字の確認を SDSF が要求するかどうかを制御する場合に使用します。

コマンド行に SET CONFIRM とタイプするか、Options プルダウンから選択してください。

形式



パラメーターなし

値を ON に設定します。

ON

ジョブ指向の表形式パネル (DA、H、I、JDS、O、および ST) で取り消し、除去、および再始動のアクション文字を使用する場合は確認が必要であることを示します。

OFF

アクション文字の確認の必要がないことを示します。

? コマンド行に現行設定値を表示します。

例

```
COMMAND INPUT ==>> SET CONFIRM ON
```

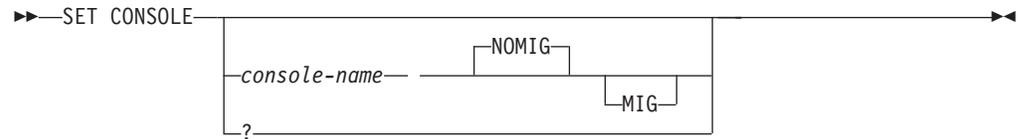
このコマンドを使用すると、ジョブと出力についてアクション文字の確認が可能になります。

SET CONSOLE -- 拡張コンソールを設定する

SET CONSOLE コマンドは、SDSF が活動化する拡張コンソールの名前を設定し、オプションでマイグレーション・コンソール ID を要求する場合に使用します。

コマンド行に SET CONSOLE とタイプするか、Options プルダウンから Set console name を選択してください。

形式



パラメーターなし

コンソール名をユーザー ID にリセットし、マイグレーション ID は割り当てないことを指定します。

console-name

ULOG パネル用に拡張コンソールをアクティブにする際に使うコンソール名を指定します。

console-name は 2 から 8 文字で、数字から始めることはできません。文字は英数字ですが、#、\$、@ の文字を入れることもできます。コンソール名の割り当ての詳細については、MVS 運用の計画の該当するマニュアルを参照してください。

- ? SET CONSOLE の現行設定値を表示します。表示された設定値は、Enter キーを押してそのまま保存することも、新しいパラメーターを入れて変更することもできます。

NOMIG

アクティブにされたコンソールにマイグレーション ID が不要であることを示します。

MIG

アクティブにされたコンソールにマイグレーション ID が必要であることを示します。マイグレーション ID が必要なのは、拡張コンソール ID をサポートしないコマンド・プロセッサからのコマンド応答を受け取るためです。そのシステムのマイグレーション ID の数は限られているため、マイグレーション ID を要求するのは必要な場合のみにしてください。

ユーザーへの注

1. SDSF が最初の MVS コマンドまたは JES コマンドを出した場合、あるいはユーザーが ULOG コマンドを入力し、コンソールがまだアクティブでない場合には、ログ記録が開始されます。コンソール名を設定する場合には、SET CONSOLE コマンドを使います。
2. コンソール・マイグレーション ID を指定して、拡張コンソール ID をサポートしないコマンド・プロセッサからのコマンド応答を受け取れるようにできます。
3. 現在使われているコンソール名は、ULOG パネルの表題行に表示されます。

例

- COMMAND INPUT ==> set console tape
このコマンドは、ULOG 表示に拡張コンソール名 TAPE を使うよう指定しています。
- COMMAND INPUT ==> set console

SET CONSOLE

このコマンドは、コンソール名を自分のユーザー ID にリセットします。

- `COMMAND INPUT ==> set console ken mig`

このコマンドは、コンソール名を `KEN` に設定し、マイグレーション ID を指定するよう要求しています。

関連するコマンド

ULOG

ユーザー・セッション・ログを表示します (132 ページ)。

SET CURSOR -- カーソルの配置

`SET CURSOR` は、`SDSF` が表形式パネル上でカーソルを配置する方法を制御する場合に使用します。

コマンド行に `SET CURSOR` とタイプするか、Options プルダウンから選択してください。

形式



パラメーターなし

値を `ON` に設定します。

ON

カーソルが最後に作業した行の `NP` 欄に戻るようになります。行がパネル上に見えなくなる場合、または、まず、アクション文字をタイプしたりフィールドを上書きしないで、`Enter` を押すと、カーソルはコマンド行に戻ります。

これはデフォルトです。

OFF

`SDSF` がカーソルを常にコマンド行に戻すようにします。

? コマンド行に現行設定値を表示します。

ユーザーへの注

カーソル配置の設定は、`OD` パネルには適用されません。

例

```
COMMAND INPUT ==> SET CURSOR ON
```

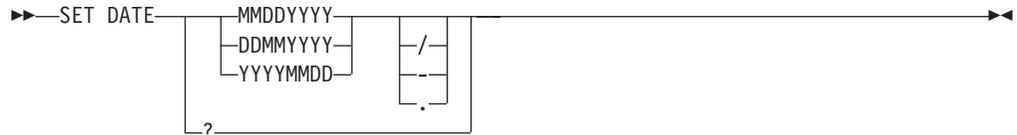
このコマンドを使用すると、カーソルは表形式パネル上の最後に作業した行に戻されます。

SET DATE -- 日付形式

SET DATE は、日付形式を選択する場合に使用します。SDSF は、表形式パネルの日付欄、ログ・パネルの表題行、および日付を受け入れるコマンドで日付形式を使用します。

コマンド行に SET DATE とタイプするか、Options プルダウンから選択してください。

形式



MMDDYYYY

日付形式を、月 日 年に設定します。

DDMMYYYY

日付形式を、日 月 年に設定します。

YYYYMMDD

日付形式を、年 月 日に設定します。

- / 日付区切り文字を斜線 (/) に設定します。この区切り文字は年月日を区切るために使用します。
- 日付区切り文字をダッシュ (-) に設定します。
- . 日付区切り文字をピリオド (.) に設定します。
- ? SET DATE の現行設定値を表示します。

ユーザーへの注

1. 年は 4 桁ではなく 2 桁で入力できます。SDSF は、2 桁の年表示に接頭部として現在の年の先頭の 2 桁を付加することにより、2 桁の数値を 4 桁に変換します。ただし、区切り文字としてピリオドを使用して日付を入力する場合 (たとえば 1998.09.06)、年は 4 桁にする必要があります。これにより、SDSF は、年と時刻を区別することができます。
2. SET DATE を実行すると、ログ・パネルの表題行に表示されている日付の形式は変更されますが、ログ・データの日付形式は変更されません。

例

- COMMAND INPUT ==> SET DATE YYYYMMDD .
このコマンドを使用して、SDSF パネルおよびコマンドの日付形式を *year.month.day* に変換します。
- COMMAND INPUT ==> SET DATE DDMMYYYY
このコマンドは、日付情報の順序を、日 月 年 に変更します。区切り文字は変更されません。

SET DATE

関連するコマンド

LOCATE、PRINT、FILTER

日付をパラメーターとして受け入れます (76、91、57 の各ページ)。

SET DELAY -- 設定 / タイムアウト値

SET DELAY コマンドは、スラッシュ (/) コマンドへの応答を待つ場合のデフォルト・タイムアウトの値を設定する場合に使用します。(/ コマンドは、SDSF コマンド行から MVS コマンドと JES2 コマンドを入力します。)

コマンド行に SET DELAY とタイプするか、Options プルダウンから Set delay for responses を選択してください。

形式



パラメーターなし

デフォルト・タイムアウト値に 1 秒を指定します。

timeout-value

SDSF がスラッシュ (/) コマンドへのメッセージ応答を待つ場合のデフォルト・タイムアウト値 (秒) を指定します。

タイムアウトの値は 0 から 9999 秒の範囲で指定する必要があります。0 を指定すると、SDSF はメッセージ行でメッセージ応答を待たず、表示もしません。メッセージ応答は、この場合もユーザー・ログに書き込まれます。

デフォルトは 1 秒です。SDSF はタイムアウト値が過ぎるまで、あるいは最初の応答を受け取るまで待ちます。

- ? SET DELAY の現行設定値を表示します。表示された設定値は、Enter キーを押してそのまま保存することも、新しいパラメーターを入れて変更することもできます。

ユーザーへの注

遅延間隔が有効なのは、拡張コンソールがアクティブな時にユーザーがスラッシュ・コマンドを入力した場合のみです。

例

- COMMAND INPUT ==> set delay 5
このコマンドは、コマンド応答遅延間隔を 5 秒に設定します。
- COMMAND INPUT ==> set delay 0
このコマンドは、SDSF がメッセージ行で、スラッシュ (/) コマンドへの応答のメッセージを待たないか、表示しないよう設定します。応答は ULOG で見ることができます。
- COMMAND INPUT ==> set delay

このコマンドは、コマンド応答遅延を 1 秒 (デフォルト) に設定します。

SET DISPLAY -- 特性を表示する

SET DISPLAY は、DEST、OWNER、PREFIX、および SORT コマンドの現行値を表示し、有効なフィルター数を表示する場合に使用します。

コマンド行に SET DISPLAY とタイプするか、Options プルダウンからそれをオフ / オンに設定してください。

形式



ON

SDSF 表形式パネルの情報行に現行値を表示します。これはデフォルトです。

OFF

現行値の表示を終了します。

? SET DISPLAY の現行設定値を表示します。

ユーザーへの注

- SDSF はデータを表示するために、最高 3 行まで使用することができます。

```

PREFIX=RSMITH* OWNER=RSMITH* SORT=OUTPUT-HOLD-TEXT/A PROGRAMMER-NAME//D
DEST=KINGSTON.BOBJONES SANJOSE.JOSEJON POUGHKP.PAYROLL ENDICOTT.REMOTES
FILTERS=3

```
- SORT の場合は、欄ヘッダーとソート順序を区別する区切り文字は / です。指定された欄が入出力操作を行う可能性があるため、パフォーマンスを低下させる心配がある場合は、// を使います。ソートがこのパネルで有効でない場合、SORT= は表示されません。フィルター操作がこのパネルで有効でない場合、FILTER= は表示されません。

例

```
COMMAND INPUT ==>> set display on
```

このコマンドは、SDSF 表形式パネルの情報行に、現行設定値と有効なフィルター数を表示します。

関連するコマンド

SET SCREEN

情報行上の値のカラー、強調表示、または輝度を変更します (117 ページ)。

SET HEX -- 16 進数で表示する

SET HEX コマンドは、出力データ・セットの印刷可能な紙送り制御文字を 16 進形式で表示するために使用します。ログも 16 進形式で表示することができます。SET HEX コマンドは、新しい SET HEX コマンドで変更しない限り、そのセッションが終わるまで有効です。

16 進形式で表示されている画面を PRINT SCREEN コマンドまたは PRINT-HI コマンドで印刷すると、値は 16 進形式で印刷されます。SDSF の PRINT コマンドで印刷すると、値は 16 進形式にはなりません。

コマンド行に SET HEX とタイプするか、View プルダウンからそれをオフ / オンに設定してください。

形式

▶▶ SET HEX ON
 OFF ◀◀

ON

データを 16 進形式で表示することを指定します。これはデフォルトです。

OFF

16 進形式での表示を終了させます。

例

```
COMMAND INPUT ==> set hex on
```

このコマンドは、ODS パネルまたはログを 16 進形式で表示します。

HEX をオンにセットすると、データの各行は 4 行で表示されます。

- 第 1 行 EBCDIC に変換されたバイトが入ります。
- 第 2 行 ゾーン・フィールドが入ります (左の半バイト)。
- 第 3 行 数値フィールドが入ります (右の半バイト)。
- 第 4 行 行を分けるためのダッシュ行が入ります。

次の例では、J は 'XD1' です。先行ブランクは 'X40' です。

```
SDSF OUTPUT DISPLAY RAMSEYX JOB00037 DSID      2 LINE 0      COLUMNS 02- 81
COMMAND INPUT ==>                                SCROLL ==> PAGE
***** TOP OF DATA *****
-----
1          J E S 2  J O B  L O G  --  S Y S T E M
2  44444444444444444444444444444444D4C4E4F44D4D4C44D4D4C446644E4E4E4C4D
3  00000000000000000000000010502020010602003060700000020802030504
-----
```

- 1** 変換された EBCDIC 行
- 2** ゾーン・フィールド (左)
- 3** 数値フィールド (右)

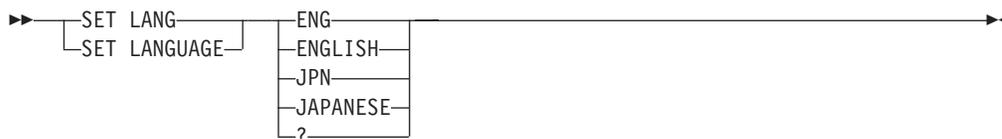
SET LANG -- 言語を選択する

SET LANG コマンドは、ISPF のもとで、ヘルプおよびチュートリアル・パネルの言語を日本語または英語に設定する場合に使用します。

ISPF のもとでは、LANG または LANGUAGE は、インストール先のシステムでこの機能がインストールされている場合、ヘルプおよびチュートリアル・パネルを次回表示する時の言語を設定します。

コマンド行に SET LANG とタイプするか、Options プルダウンからそれを選択してください。

形式



ENG または ENGLISH

ヘルプ・パネルとチュートリアル・パネルに英語を使用します。

JPN または JAPANESE

ヘルプ・パネルとチュートリアル・パネルに日本語を使用します。

? 現行言語を表示します。表示された設定値は、Enter キーを押してそのまま保存することも、新しいパラメーターを入れて変更することもできます。

ユーザーへの注

言語を日本語に設定すると、表形式パネルのすべての欄の名称が、英大文字で表示されます。

例

```
COMMAND INPUT ==> set lang jpn
```

ISPF では、このコマンドにより、ヘルプ・パネルとチュートリアル・パネルの表示を日本語に変更します。

SET LOG -- ログ・デフォルト

SET LOG は、LOG コマンドのデフォルトを設定する場合に使用します。このデフォルトは、パラメーターを指定せずに LOG コマンドを入力した場合、または Display プルダウンから Log 選択項目を選択した場合に SYSLOG または OPERLOG パネルを表示するかどうかを決定します。

コマンド行に SET LOG とタイプするか、Options プルダウンから選択してください。

SET LOG

形式



OPERACT または **A**

ユーザーがログオンしているシステムで Operlog コンポーネントがアクティブである場合、OPERLOG パネルが表示されるよう指定します。そうでない場合は、SYSLOG パネルが表示されます。

OPERLOG または **O**

OPERLOG パネルが表示されるよう指定します。

SYSLOG または **S**

SYSLOG パネルが表示されるよう指定します。

? SET LOG の現行設定値を表示します。

例

- COMMAND INPUT ==> SET LOG S
このコマンドは、ログ・デフォルトを SYSLOG に設定します。パラメーターを指定せずに LOG コマンドを入力すると、SYSLOG パネルが表示されます。
- COMMAND INPUT ==> SET LOG OPERACT
このコマンドは、ログ・デフォルトを OPERACT に設定します。パラメーターを指定せずに LOG コマンドを入力すると、ログオンしているシステムで OPERLOG がアクティブである場合は、OPERLOG パネルが表示されます。そうでない場合は、SYSLOG パネルが表示されます。

関連するコマンド

LOG

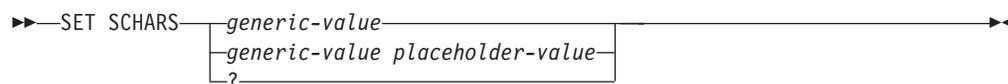
S または O パラメーターを指定すると、SYSLOG または OPERLOG を明示的に要求します (77 ページ)。

SET SCHARS -- 総称値を設定する

SET SCHARS コマンドは、総称値およびプレースホルダー値の設定を変更する場合に使用します。デフォルトにより、これらのパターン・マッチング文字の値は * と % です。パターン・マッチングの説明については、39 ページを参照してください。

コマンド行に SET SCHARS とタイプするか、Options プルダウンからそれを Set search characters... を選択してください。

形式

*generic-value*

総称値を表します。

placeholder-value

プレースホルダー値を表します。

総称値およびプレースホルダー値としては、以下のものは使えません。

- 英字
- 数字
- 国別文字 (@、#、\$)
- ブランク
- &
- ISPF の行の終わり文字と等しいもの
- 現行の照会文字と等しいもの
- 互いに等しいもの

? SET SCHARS の現行設定値を表示します。

例

```
COMMAND INPUT ==>> set schars ( !
```

このコマンドは、総称値を (に、プレースホルダー値を ! に設定します。

関連するコマンド**FILTER、OWNER、PREFIX、SELECT**

総称値およびプレースホルダー値の設定を変更します (57、84、87、105 の各ページ)。

H、ST

ストリング値を変更します (66、124 の各ページ)。

SET SCREEN -- 表示画面をカスタマイズする

ISPF のもとでは、SET SCREEN コマンドは、SDSF パネルで使用するカラー、強調表示、および輝度を設定したり、アクション・バーのオン / オフを切り換えるポップアップを表示する場合に使用します。

コマンド行に SET SCREEN とタイプするか、Options プルダウンからそれを選択してください。

形式

bookshelf-name

BookManager に渡す 1 から 8 文字のブックシェルフ名を指定します。

? SET SHELF コマンドの現行設定値を表示します。

ユーザーへの注

1. BookManager を通じてデフォルト・ブックシェルフを設定することも可能です。
2. SET SHELF コマンドが有効なのは、SDSF が ISPF ダイアログとして実行されている場合のみです。
3. SDSF は、入力されたストリングが有効なブックシェルフ名かどうかを検証しません。そのストリングは、BookManager を呼び出すために使われたコマンド上のパラメーターとして渡されるだけです。
4. ブックシェルフの作成と使用についての詳細については、*BookManager READ/MVS: Displaying Online Books* IBM BookManager READ/MVS: Displaying Online Books SC38-2034 を参照してください。

例

```
COMMAND INPUT ==>> set shelf myshelf
```

このコマンドは、ブックシェルフ MYSHELF を BookManager 探索のデフォルトとして設定します。

関連するコマンド

BOOK

SET SHELF ではなく、BookManager を通じてブックシェルフを設定します (49 ページ)。

SET TIMEOUT -- タイムアウト値を設定する

SET TIMEOUT コマンドは、シस्पレックス・データを待つデフォルトのタイムアウト値を設定するために使用します。

コマンド行に SET TIMEOUT と入力するか、Options プルダウンから Set communications timeout を選択してください。

形式

```
▶▶—SET TIMEOUT—timeout-value—▶▶
```

パラメーターなし

デフォルトのタイムアウト間隔を指定します。ISFPARMS を使用して変更しない限り、デフォルトのタイムアウト間隔は 5 秒です。

timeout-value

SDSF が PR、INIT、出力データ・セット、およびログの各パネルでシस्पレックス・データを待機する時間 (秒単位) を指定します。

SET TIMEOUT

タイムアウトの値は 0 から 9999 秒の範囲で指定する必要があります。0 を指定すると、SDSF は PR、INIT、またはブラウザ・パネルでシスプレックス・データを待たず、表示もしません。SDSF サーバー間の通信は中断状態になります。PR および INIT パネルには、単一システムの装置が表示されます。ログおよび出力データ・セット・パネルには、ログオンしているシステム以外のシステムの最新情報 (まだスプールに書き込まれていない情報) は表示されません。

- ? 現行の設定値を表示します。この設定値は、Enter を押して保存することも、新しい値をタイプして変更することもできます。

例

- COMMAND INPUT ==> set timeout 15
このコマンドは、タイムアウト間隔を 15 秒に設定します。
- COMMAND INPUT ==> set timeout 0
このコマンドは、SDSF がシスプレックス・データを待機しないように指定します。その結果、PR パネルと INIT パネル上の、およびジョブ出力または SYSLOG のブラウザ時に、シスプレックス・サポートが使用不可になります。
- COMMAND INPUT ==> set timeout
このコマンドは、タイムアウト値をデフォルトの設定値に設定します。

関連するコマンド

SET DELAY

コマンド応答を待機する遅延間隔を設定します (112 ページ)。

SYSID

SYSLOG パネルの MAS メンバーを選択します (126 ページ)。

SO -- スプール・オフローダーを表示する

SO コマンドは、JES2 スプール・オフローダーに関する情報を表示する場合に使用します。

コマンド行に SO とタイプするか、Display プルダウンからそれを選択してください。

形式

スプール・オフロード コマンド

▶▶ SO offload-list ▶▶

パラメーターなし

システムに定義されているすべてのスプール・オフローダーを表示し制御するための スプール・オフロード 画面を呼び出します。

offload-list

次の 4 つのうち 1 から 4 個のパラメーターで構成されます。

offload-number

送受信側を含めて、オフローダーに関する情報を表示します。1 から 8 の数値が有効です。

offload-number-range

送受信側を含めて、その範囲内のオフローダーに関する情報を表示します。最初の番号と最後の番号は、ハイフン (-) で区切ってください。先頭と末尾の番号は、1 から 8 の数値である必要があります。

SHORT または S

オフローダーに関する情報だけを表示するようにします。送受信側は、表示されません。

例

- **COMMAND INPUT ==> SO**
このコマンドを実行すると、システムに定義されているすべてのスプール・オフローダーと関連する送受信側が表示されます。
- **COMMAND INPUT ==> SO SHORT**
このコマンドを実行すると、オフローダーだけが表示され、送受信側は表示されません。

関連するコマンド**ARRANGE、FILTER、SELECT**

SO が表示するものを制限します (48、57、105 の各ページ)。

? 代替形式の SO パネルにアクセスします (41 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

SORT -- 表形式パネルでデータをソートする

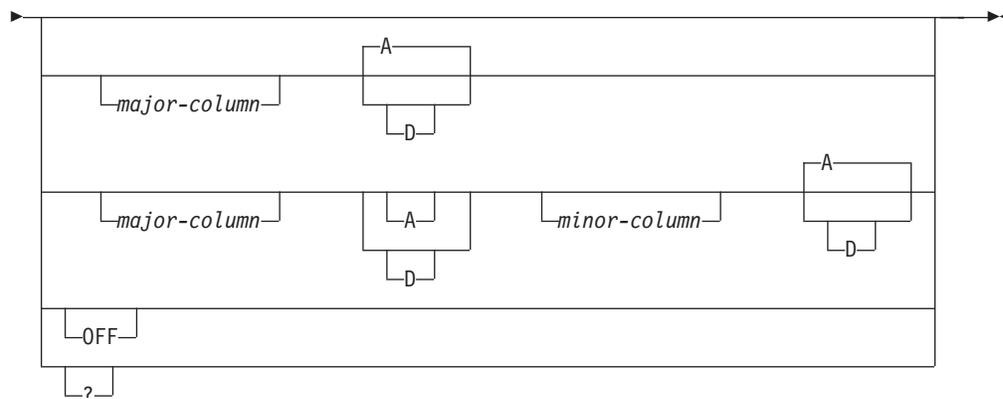
SORT コマンドは、情報が表形式になっている SDSF パネルで、データをソートする場合に使用します。各パネルごとに独自のソート基準を設定することができます。SDSF は、表形式パネルの基本形式と代替形式の両方をソートします。

SDSF 表形式パネルのコマンド行に SORT とタイプするか、View プルダウンからそれを選択してください。

形式

▶—SORT—▶

SORT



パラメーターなし

パネルの固定フィールドをソートされる欄として使って、パネルをソートします。欄のソートは昇順に行われます。

major-column

最初にソートされる欄のヘッダーです。これはメジャー・キーです。40ページの『欄の名称の指定』を参照してください。

minor-column

major-column がソートされた後でソートされる欄のヘッダーです。これはマイナー・キーです。

minor-column を指定する場合、*major-column* のためのソート順序 (A または D) を指定する必要があります。

minor-column を指定するときには、40 ページで説明されている規則を使用してください。

A 欄のソートをキーで昇順に行うことを指定します。これは、次の場合にデフォルトとなります。

- 主キーだけが指定されている場合。
- マイナー・キーについては、主キーとマイナー・キーの両方が指定されているが、マイナー・キーのための順序が指定されていない場合。

D 欄のソートをキーで降順に行うことを指定します。

OFF

そのパネルではソート基準を削除することを指定します。そのパネルは再表示され、ソートは行われません。

? 現行の SORT パラメーターを表示します。表示された設定値は、Enter キーを押してそのまま保存することも、新しいパラメーターを入れて変更することもできます。

ユーザーへの注

1. 同じ欄のヘッダーでも、パネルの基本形式と代替形式とは異なる場合もあります。異なる場合には、SDSF はその相違を認識して、そのパネルの基本形式と代替形式の両方でソートします。

2. データの入出力操作が必要な欄を指定すると、ソートによりパフォーマンスが低下する可能性があります。SET DISPLAY コマンドで SORT の現行設定値を表示した時に、// 区切り文字が表示されるのは、そのソートがシステム・パフォーマンスを低下させる可能性があることを示しています。

例

- COMMAND INPUT ==> sort
このコマンドは、データを固定フィールドにより昇順にソートします。
- COMMAND INPUT ==> sort jobname
このコマンドは、データを JOBNAME 欄により昇順にソートします。
- COMMAND INPUT ==> sort forms a tot-rec d
このコマンドは、データをまず書式 (FORMS) 欄により昇順にソートし、次にレコード・カウント (TOT-REC) により降順にソートします。
- COMMAND INPUT ==> sort c d prty
このコマンドは、データをまずクラス (C) 欄により降順にソートし、次に優先順位 (PRTY) により昇順にソートします。
- COMMAND INPUT ==> sort c a cr d
このコマンドは、データをまずクラス (C) 欄により昇順にソートし、次に作成日 (CR) 欄により降順にソートします。クラス (C) 欄の表題が、その作成日 (CRDATE) 欄の省略表記形のように見えますが、SDSF は、それを別の欄の表題を定義したものとして認識し、2 つの欄でソートを実行します。
- COMMAND INPUT ==> sort tgn
このコマンドは、省略形の TGN を使用して、データをトラック・グループ (TGNUM) 欄により昇順にソートします。
- COMMAND INPUT ==> sort off
このコマンドは、このコマンドが入力されたパネルでのソートを取り消します。

関連するコマンド

SET DISPLAY

SORT の現行設定値を表示します (113 ページ)。

SR -- システム要求を表示する

SR コマンドは、システム要求パネルを表示するために使用します。

コマンド行に SR と入力するか、Display プルダウンから選択してください。

形式



SR

ALL

すべての応答およびアクション・メッセージを表示します。これはデフォルトです。

ACTIONS または A

すべてのアクション・メッセージを表示します。

MOUNTS または M

すべての DASD およびテープのマウント・メッセージを表示します。SDSF は、テープまたは DASD プールの宛先コードが存在するときは、メッセージをマウント・メッセージと見なします。

REPLIES または R

すべての応答メッセージを表示します。

例

```
COMMAND INPUT ==>> SR M
```

このコマンドは、DASD およびテープのマウント・メッセージを表示する SR パネルを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、FILTER、SELECT

SR の表示内容を制限します (48、57、105 ページ)。

SORT

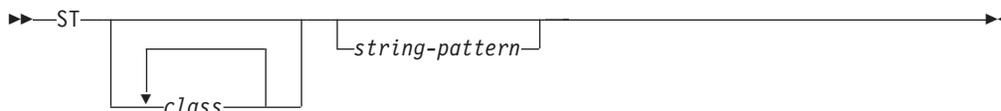
このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

ST -- ジョブ状況を表示する

ST コマンドは、JES2 キューの中のどのような状態の JES2 ジョブについても、ジョブをリストしたり、情報を表示するために使用します。

コマンド行に ST とタイプするか、Display プルダウンからそれを選択してください。

形式



パラメーターなし

すべてのジョブを表示します。

class

下のリストに示したクラスです。最大 6 個のクラスを入力できますが、クラスの間にも ST の後にも空白を置くことはできません。これらのクラスで実行中のジョブだけが表示されます。

ST パネルを制約する際に使われる文字は次のとおりです。

A-Z	クラス A から Z
0-9	クラス 0 から 9
*	コンバーター・キュー
#	実行モードで開始されたタスク
+	出力キュー
?	除去キュー
\$	実行モードの TSO ユーザー
!	ハードコピー・キュー
-	入力キュー
@	別のキューへの転送を待っているジョブ
)	受信キュー
=	SPIN キュー
/	セットアップ・キュー

string-pattern

1 から 8 文字からなるストリングです。その文字ストリングに一致する名前をもつジョブだけが表示されます。

string-pattern には、39ページの『パターン・マッチング』で説明されている特殊なパターン・マッチング文字を組み込むことができます。

例

- `COMMAND INPUT ==> st`
このコマンドは、SDSF セッション接頭部の現在の設定値に一致するすべての JES2 ジョブを表示します。
- `COMMAND INPUT ==> st sys*`
このコマンドは、SYS が接頭部のサブセットである場合に、“SYS” で始まるすべての JES2 ジョブを表示します。
- `COMMAND INPUT ==> stabc`
このコマンドは、クラス A、B、C のすべての JES2 ジョブを表示します。
- `COMMAND INPUT ==> sta#`
このコマンドは、クラス A の実行モードにあるすべての開始済みタスクを表示します。

関連するコマンド

ARRANGE、DEST、FILTER、PREFIX、OWNER、SELECT

ST が表示するものを制限します (48、55、57、84、87、105 の各ページ)。

? 代替形式の ST パネルにアクセスします (41 ページ)。

SET SCHARS

* または % の値を別の文字に変更します (116 ページ)。

SORT

このパネルで欄をソートします (121 ページ)。

SYSID -- SYSLOG パネルのシステムを選択する

SYSID コマンドは、SDSF SYSLOG パネル上でシステムのどの論理 SYSLOG データ・セットを表示するかを選択するために使用します。これは特に MAS 環境で役立ちます。

コマンド行に SYSID と入力します。

形式

```
▶▶SYSID_____◀◀
      |-----|
      |jes2-member-name|
      |?                |
```

パラメーターなし

LOG コマンドが、ログオンしているシステムについての SYSLOG を表示することを示します。

jes2-member-name

1 から 4 文字の JES2 メンバー名です。SYSLOG パネルは、そのシステムのシステム・ログを表示します。

- ？ SYSID の現設定値がコマンド行に表示されます。表示された設定値は、Enter キーを押してそのまま保存することも、別のパラメーターを入れて変更することもできます。

MAS 内で定義されたすべての SYSID のリストが、メッセージ行から開始して必要な行数だけ表示されます。リストされた SYSID のいずれか、あるいはスプールにあるが MAS にはないログの SYSID を入力できます。

ログオンしているシステムの SYSID は括弧に入れて表示されます。

ユーザーへの注

1. SYSID コマンドは、別の SYSID が入力されるまで有効です。
2. *jes2-member-name* パラメーターの JES2 システムは、MAS メンバーでなくても構いません。

例

- COMMAND INPUT ==> sysid ipo1
このコマンドが有効である間、SYSLOG パネルには、IPO1 という名前の JES2 システムのログが表示されます。
- COMMAND INPUT ==> sysid
このコマンドは、ログオンしている JES2 システムのログを表示します。
- COMMAND INPUT ==> sysid ?
ログオンしているシステムの SYSID は括弧で囲んで表示されます。(たとえば、次の例の MA19)

```

SDSF SYSLOG 15289.101 MA16 MA19 5/20/98 LINE      0 COLUMNS 0 00
COMMAND INPUT ==> sysid ma16 SCROLL ==> HALF
MAS SYSIDS=MA01,MA02,MA08,MA09,MA10,SY11,SY12,MS14,MB15,MA16,MS17,
MAS SYSIDS=MC17,(MA19),M20,S1,S2,S3,T123
:
:

```

関連するコマンド

SET SCREEN

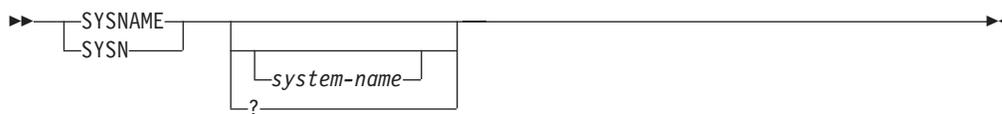
カラーを変更すること、あるいは強調表示を行うことにより、表示内容を読みやすくします (117 ページ)。

SYSNAME -- シスプレックス内の選択したシステムに行を制限する

SYSNAME コマンドは、DA、INIT、および PR パネルに表示するシスプレックス内のシステムを選択するために使用します。

コマンド行に SYSNAME と入力するか、または Filter プルダウンからそれを選択してください。このコマンドは、DA、INIT、および PR パネルだけに影響します。

形式



パラメーターなし

DA、INIT、および PR パネルに表示するシステムを、ユーザーがログオンしているシステムだけに限定します。

system-name

DA、INIT、および PR パネルに表示するシステムを制限するための 8 文字までの文字ストリング。

名前が *system-name* に一致するシステムのデータだけが表示されます。39ページの『パターン・マッチング』で説明されている特殊なパターン・マッチング文字を、*system-name* に使用することができます。

? SYSNAME の現行設定値を表示します。

ユーザーへの注

シスプレックス全体のパネル (DA 以外) では、SDSF サーバーを使用して、表示するデータを収集します。SDSF の初期設定パラメーターの *server group* に、サーバーのセットが定義されています。パネルには、そのサーバーのセットが処理する JES2 メンバーだけが表示されます。このとき、フィルター・コマンドの設定 (SYSNAME を含む) は関係ありません。

パラメーターなしで SYSNAME を入力するか、SYSNAME *local-system* と入力すると、SDSF では、サーバー・グループのサーバーを使用してデータを収集しません。ローカル・システムと共にサーバー・グループを使用するには (たとえば、サ

SYSNAME

| ヴァー・グループが JES2 と SY1 上の JESA のデータを表示する場合)、
| SYSNAME コマンドで指定するローカル・システム名にアスタリスク (*) を追加し
| ます (たとえば、SYSNAME SY1*)。

例

- COMMAND INPUT ==> sysn system10
| このコマンドは、DA、INIT、および PR パネルに SYSTEM10 だけを表示しま
| す。
- COMMAND INPUT ==> sysname
| このコマンドは、ユーザーがログオンしているシステムのデータを表示しま
| す。
- COMMAND INPUT ==> sysname *
| このコマンドは、シスプレックス内のすべてのシステムのデータを表示しま
| す。

関連するコマンド

FILTER

シスプレックス全体に関する OPERLOG パネルを制限します (60 ページ)。

TOP -- パネルの先頭までスクロールする

TOP コマンドは、SDSF データを先頭行まで直接スクロールさせるために使用しま
す。

コマンド行に TOP と入力します。

形式

▶—TOP—▶

例

COMMAND INPUT ==> top

このコマンドは、データを最初の行までスクロールさせます。

TRACE -- トレース・レコードを作成する

SDSF トレース・データを含むトレース・レコードを作成する場合には、TRACE コ
マンドを使います。作成したトレース・レコードは、SYSOUT ファイルとラップ・
アラウンド DASD データ・セットのどちらにでも書き出せます。

コマンド行に TRACE と入力します。

形式



パラメーターなし

現在有効な *mask* を使用して SDSF トレースを開始します。

ISFTRACE ファイルを割り振っていない場合、SDSF は動的に SYSOUT ファイルを割り振ります。

ON

現在有効な *mask* を使用して SDSF トレースを開始します。ISFTRACE ファイルを割り振っていない場合、SDSF は動的に SYSOUT ファイルを割り振ります。

OFF

SDSF トレースを停止します。

RESET

現在有効な *mask* を使用して SDSF トレースを開始します。ISFTRACE ファイルを割り振っていない場合、SDSF は動的に SYSOUT ファイルを割り振ります。トレース・データが DASD データ・セットである場合には、SDSF はデータ・セットの先頭からトレースを開始します。トレース・データ・セットが SYSOUT データ・セットである場合には、SDSF はデータをこのデータ・セットに追加します。

? TRACE コマンドの現行設定値を表示します。

ALL

すべてのイベントに関してトレースをオンにします。

mask

使用するイベント・マスクを指定します。マスクの値 (16 進数) を結合することによって、1 度に複数のイベントをトレースすることができます。*mask* は長さが 2、4、6、または 8 文字の 16 進数です。数値の各ビットは、トレースする必要がある特定の SDSF イベントを示します。先行ゼロは不要ですが、作成されるマスクは偶数の数字を持つ必要があります。指定できる *mask* の値は次のとおりです。

00800000

メッセージ・サービス

00400000

通信イベント

00200000

ISFPARMS ステートメント

00100000

フィルター

TRACE

00080000
ログ処理

00040000
内部インターフェース

00020000
ISPF サービス

00010000
RMF 処理

00008000
SDSF の初期化

00004000
SDSF JES2 の初期化

00002000
呼び出し

00001000
戻り

00000800
TSO データ・ストリーム、ISPF バッファ、バッチの入出力

00000400
装置とノード処理

00000200
GDDM 処理

00000100
SJF 処理

00000080
SAF 処理

00000040
スプール入出力と SRB 処理

00000020
SSI 処理、MVS/JES2 コマンドおよびジョブ・クラス

00000010
データ・セット処理

00000008
外部インターフェース、WLM スケジューリング環境および WLM リソース

00000004
ユーザー出口呼び出し、戻り、パラメーター・リスト

00000002
ULOG の機能

00000001
予約済み

00000000

無条件トレース

明示的に定義されていない他のトレース・マスクは、予約済みです。

ユーザーへの注

1. SDSF を呼び出す前にトレース・データ・セットを割り振っていない場合、TRACE コマンドを出すと、SDSF は SYSOUT ファイルを割り振ります。
2. SDSF セッションを終了するとき、SDSF は、ISFTRACE ファイルを解放しません。

例

- COMMAND INPUT ==> tr 3400

このコマンドは、呼び出し、戻り、プリンターの各イベントのトレースを可能にします。

- COMMAND INPUT ==> trace on

このコマンドは、現在有効なイベントのトレースを可能にします。 ISFTRACE ファイルが現在割り振られていない場合は、sysout ファイルが割り振られます。

TUTOR -- SDSF チュートリアルを表示する

ISPF のもとでは、TUTOR コマンドを使用して、SDSF チュートリアルを表示することができます。 ご使用のシステムに日本語 / 英語機能がインストールされている場合、日本語と英語のどちらでもチュートリアルを表示できます。

コマンド行に TUTOR とタイプするか、Help プルダウンからそれを選択してください。

形式

▶▶—TUTOR—▶▶

例

COMMAND INPUT ==> tutor

このコマンドは、SDSF チュートリアルを表示します。

関連するコマンド

SET LANG

SDSF チュートリアルを英語か日本語のどちらかに設定します (ご使用のシステムにその言語機能がインストールされている場合) (115 ページ)。

BOOK

BookManager を介してオンライン・ブック資料の追加情報を検索します (49 ページ)。

HELP

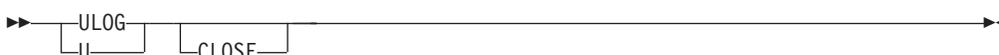
ヘルプ画面を通じて、コマンド、フィールド、アクション文字、上書き可能フィールドおよびメッセージに関する追加情報を提供します (69 ページ)。

ULOG -- ユーザー・ログを表示する

ULOG コマンドを使用すれば、ユーザー・ログをブラウズし、現行 SDSF セッション中に出されたシステム・コマンドと応答のすべてを、古い順から表示することができます。

コマンド行に ULOG とタイプするか、Display プルダウンからそれを選択してください。

形式



パラメーターなし

ユーザー・ログにアクセスし、MVS 拡張コンソールをアクティブにします (これがまだアクティブでない場合)。

CLOSE

ユーザー・ログの全項目を削除し、拡張コンソールを非活動化します。

ユーザーへの注

1. システム・プログラマーは、ULOG コマンドを使用する許可をユーザーに与えなければなりません。また、ユーザーは、拡張コンソールをアクティブにする許可を得ていなければなりません。
2. ULOG を 2 回目に見る時には、前にブラウズした最終行が表示されます。この機能の詳しい説明については、78ページの1の注を参照してください。
3. スラッシュ (/) コマンドによってコマンドを出す場合、サブシステムの中にはコンソール名をサブシステムに対して定義しなければならないものがあります (NetView や CICS など)。これを行う場合は、システム・プログラマーに連絡してください。
4. 応答を ULOG に戻ることができるのは次の場合のみです。
 - コマンド・プロセッサが、拡張コンソールのコンソール ID を使ってメッセージを出している。
 - コマンド・プロセッサが CART (コマンド / 応答トークン) の使用をサポートしている。 / コマンドを入力したパネルと同じパネルにコマンドの応答を表示するためには、コマンド・プロセッサはコンソール ID と CART の両方を指定する必要があります。応答を ULOG に入れる場合は、コンソール ID だけが必要です。
 - メッセージ応答が、MPF (メッセージ処理機能) により抑止されていない。
 - D R, L コマンドが、コマンドを出したコンソール ID に基づき、応答をフィルターに掛ける。未処理の応答すべてを見る場合は、D R,L,CN=(ALL) を入力してください。

例

- COMMAND INPUT ==> ulog
このコマンドは、ULOG 表示にアクセスします。
- COMMAND INPUT ==> ulog close
このコマンドは、ユーザー・ログの項目を削除し、拡張コンソールを非アクティブにします。

関連するコマンド

/ MVS コマンドまたは JES2 コマンドを出します (42 ページ)。

FIND

ユーザー・ログ内の項目を検索します (108 ページ)。

PRINT

ユーザー・ログのコピーを作成します (91 ページ)。

SET CONSOLE

ユーザー・ログ名を変更します (108 ページ)。

SET DELAY

/ コマンドへの応答を待つタイムアウト値を設定します (112 ページ)。遅延をゼロ (0) に設定した場合、応答は ULOG でしか見られません。

UP -- 上へスクロールする

UP コマンドは、SDSF パネルを最下部からデータの最上部へスクロールさせます。

コマンド行に UP と入力します。

形式

**パラメーターなし**

SCROLL の量を使用します。

number of lines

スクロールする行数を制御します。

MAX

示された方向へ可能なかぎりスクロールします。

PAGE

パネルを 1 ページだけスクロールさせます。

UP

HALF

パネル上の行数の半分をスクロールさせます。

DATA

パネルを 1 ページより 1 行だけ少なくスクロールさせます。

例

COMMAND INPUT ==> up SCROLL ==> PAGE

ISPF では、このコマンドにより、パネルがデータの先頭方向へ 1 ページ分だけスクロールします。 TSO では、1 行だけスクロールします。

WHO -- ユーザー情報を表示する

WHO コマンドは、次に挙げるものを表示する場合に使用します。

userid	ユーザー ID
proc	TSO ログオン・プロシージャー名
terminal	ユーザーの端末 ID
grpindex	ISFPARMS グループ索引
grpname	ISFPARMS グループ名
mvs	MVS レベル
jes2	JES2 レベル
sdsf	SDSF レベル (FMID)
ispf	ISPF レベル
rmf/da	RMF レベル (DA で使用する場合)
server	SDSF 初期設定時の SDSF サーバーへの接続
servername	SDSF サーバー名
jesname	JES2 名
member	JES2 メンバー名
sysname	MVS システム名
comm	SDSF サーバー通信の状況

情報は、SDSF パネルのメッセージ行に表示されます。

コマンド行に WHO と入力するか、View プルダウンからそれを選択してください。

形式

▶▶ WHO ◀◀

ユーザーへの注

1. JES が使用可能でない場合、JES2= および JESNAME= フィールドには N/A と表示されます。

- |
- |
2. SDSF= フィールドには、SDSF の FMID (たとえば、OS/390 V2R10 SDSF の HQX7703) が表示されます。
 3. RMF= フィールドの表示内容は、次のとおりです。
 - DA が現在の SDSF セッションでアクセスされていない場合は NOTACC。
 - RMF の使用が出口ルーチンによって使用不能になっている場合は DISABLED。
 - RMF が未インストールの場合は、NOTINST。
 4. SDSF が ISPF で実行されていない場合、ISPF= フィールドには N/A と表示されます。
 5. SDSF 初期設定時に SDSF がサーバーに接続されていた場合は、SERVER= フィールドに YES と表示されます。このフィールドは、サーバーが現在アクティブであるかどうかについては示しません。
 6. COMM= フィールドには、SDSF サーバー間の通信に関する情報が次のように表示されます。
 - 通信が可能である場合は、ENABLED
 - 入出力エラーなどのエラーによって通信が不可能になっている場合は、DISABLED
 - サーバー・グループがアクティブでないか、SDSF サーバーが始動されていないために、通信が不可能である場合は、NOTAVAIL
 - たとえば、通信タイムアウト設定プルダウン項目や SET TIMEOUT コマンドによって、通信が一時的に不可能になっている場合は、SUSPENDED

| **例**

COMMAND INPUT ==> who

| このコマンドを実行すると、ユーザーと現在の環境に関する情報が戻されます。

第4章 SDSF のメッセージとコード

メッセージ・ヘルプを表示するには	137
ユーザー許可	137
SDSF メッセージ	138
メッセージ番号付きのメッセージ	167
SDSF ユーザー異常終了コード	189

この章では、SDSF が端末またはコンソールに出すメッセージと異常終了コードについて説明します。

メッセージ・ヘルプを表示するには

各 SDSF メッセージには、ヘルプ・パネルがあり、説明とメッセージへの応答を見るためにこれを表示することができます。SDSF ヘルプ・パネルには、メッセージ・ヘルプの表示に関する情報が含まれています。

また、BOOK コマンドを使用してオンライン資料を検索することもできます (14ページの『BookManager の使用』および 49ページの『BOOK -- オンライン資料のために BookManager を使用する』を参照してください)。カーソルがメッセージ域にある場合、BOOK はメッセージ・テキストを検索ストリングとして使用します。

ユーザー許可

ある特定の作業の実行を許可されていないことを示すメッセージが表示される場合があります。許可が必要な場合は、以下のことを行ってください。

1. WHO コマンドを出します。これにより、ユーザーのユーザー ID、TSO ログオン・プロシージャ名、端末 ID、グループ索引、および ISFPARMS の ISFGRP マクロに基づいてユーザーが割り当てられた許可グループのグループ名が表示されます。(たとえば、索引番号 3 は、ユーザーが、ISFPARMS の 3 番目の ISFGRP マクロにより定義されたグループに割り当てられていることを示します。)
2. システム・プログラマーに、ISFPARMS の ISFGRP、ISFNTBL、および ISFFLD マクロに対してユーザーの許可グループをチェックするように依頼します。このマクロについては、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティーを参照してください。
3. プログラマーが、セキュリティーのための許可に関してシステム許可機能 (SAF) を使用し、必要な検査を行うためにそのリソース・クラスをアクティブにしている場合、SDSF は ISFPARMS 情報を無視します。
4. SAF によってセキュリティー検査が拒否されたときは、次のようにしてください。
 - a. TSO コマンド PROFILE WTPMSG を出す。
 - b. 失敗した SDSF 要求を出し直す。

- c. 表示される ICH408I メッセージのテキストを記録する。このメッセージは、許可が失敗した原因となったプロファイル (その名前とクラス) を示します。許可を要求するときは、このメッセージの全テキストを報告してください。

SDSF メッセージ

この項では、SDSF メッセージについて説明します。メッセージは、すべてアルファベット順になっています。

オペレーター書き込みメッセージは、ログ・パネルの最下部に表示されます。この説明は、167 ページから 189 ページにあります。

各メッセージの項目には、メッセージの意味およびご提案する応答についての簡単な説明が入っています。

ACTIVE MODIFY INVALID

説明: アクティブ・ジョブ、ユーザー、開始済みタスク、プリンター、またはノードに対して、アクション文字を出すかフィールド変更が試みられました。しかし、アクティブ・ジョブ、ユーザー、開始済みタスク、プリンター、またはノードに対するアクション文字またはフィールド変更は無効です。

応答: フィールドを復元するかブランクにしてパネルからアクション文字または変更を除去するか、RESET コマンドを入力してください。

AFD CURSOR *row,column*

説明: プログラム名 ISFAFD で SDSF を呼び出すジョブが SDSF パネルで作業中に、エラーが検出されました。カーソルは、*row*、*column* に配置されます。*row* は、画面の一番上から数えた行数、*column* は、パネルの左側から数えた文字数です。*row* と *column* の有効値は、1 から 9999 です。

AFD ERROR *error-number*

説明: プログラム名 ISFAFD で SDSF を呼び出すジョブでエラーが検出されました。

応答: エラー番号を使用して、エラーを解決してください。エラー番号は、次のとおりです。

001 コメントが囲まれていません。コメントは、/* */ で囲む必要があります。たとえば、次のようにします。

```
/* This is a comment */
```

002 アクション文字または上書きが、印刷パネルなど、表形式でないパネルに入力されました。

アクション文字と上書きが有効なのは、表形式パネルの場合だけです。

003 レコードが最大長 9999 バイトを超過しました。末尾きコンマが継続文字として処理されました。

004 入力構文にエラーがあります。構文の完全な説明については、30ページの『バッチでの SDSF の使用』を参照してください。

005 パネルに行がないため、入力を処理できませんでした。すべての行が、FILTER、PREFIX、DEST、および OWNER などのフィルターによってフィルター操作されたことが原因と思われる。

006 アクション文字を入力しようとしたますが、NP 欄には入力条件がありません。OD パネルの NP 欄には、入力条件がありません。他の表形式パネルでは、すべての行が、FILTER、PREFIX、DEST、および OWNER などのフィルターによってフィルターに掛けられ、行がなくなってしまったために、問題が発生した可能性があります。

007 指定された欄が見つかりません。パネルの有効な欄でないか、パネルの欄を固有に識別しない省略形であるかのどちらかです。欄の名前が省略形である場合は、省略しない欄の名前を指定します。

008 上書き可能でない欄を上書きしようとした。その欄が、パネル上で上書きできる有効な欄である場合は、ユーザーが ISFPARMS または SAF を介してその欄を使用する許可を受けていない可能性があります。

009 欄または値なしでブラケットが入力されました。つまり、< > が表形式パネルに入力されま

した。この構文が有効なのは、印刷パネルなど表形式でないパネルの場合だけです。

- 010** 欄の名前なしで上書きが入力されました。つまり、<=value> が表形式パネルに入力されました。この構文が有効なのは、印刷パネルなど表形式でないパネルの場合だけです。
- 011** 固定フィールドを上書きしようとした。固定フィールドは上書きできません。
- 012** 画面に行がないため、入力を処理できませんでした。すべての行が、FILTER、PREFIX、DEST、および OWNER などのフィルターによってフィルターに掛けられたことが原因と思われる。
- 013** 入力構文にエラーがあります。構文の完全な説明については、30ページの『バッチでの SDSF の使用』を参照してください。

ALLOC ERROR *return-code error-code information-code*

説明: 印刷ファイルの動的割り振りに失敗しました。SDSF は、PRINT コマンド、印刷アクション文字 (X)、または印刷オープン・データ・セット・パネルの処理に対する応答として、印刷ファイルを割り振ったり、作成したりできませんでした。

エラーを説明するメッセージも一緒に表示される場合があります。

動的割り振りエラー・コードについては、システム・マクロと機能、あるいはジョブ管理に関する該当の解説書をご覧ください。

応答: メッセージ・テキストのなかのコードで、エラーのソースを判別してください。

ALLOCATION ERROR - *error-code*

説明: SYSOUT データ・セットの動的割り振りでエラーが起きました。

応答: 動的割り振りエラー・コードについては、システム・マクロと機能、あるいはジョブ管理に関する該当の解説書をご覧ください。

AMRF NOT ACTIVE

説明: AMRF (アクション・メッセージ保存機能) がアクティブでないときに、SR パネルにアクセスしました。AMRF がアクティブでないときには、パネルにアクション・メッセージは表示されません。表示されるのは、応答メッセージだけです。

応答: 必要ありません。AMRF は、PARMLIB メンバ

ー CONSOL xx の AMRF パラメーターで制御されま
す。

ARR CRITERIA DISCARDED

説明: 最後のセッションから保管された整列基準が無効であることを SDSF が検出しました。整列基準は、ユーザーの ISPF プロファイルから削除されました。

応答: Arrange ポップアップまたは ARRANGE コマンドを使用して、欄の順序を変更してください。

ARRANGE CRITERIA OBSOLETE

説明: 最後の整列コマンドから保管された 1 つまたは複数の欄が、このパネルに関する ISFPARMS 定義から除去されています。セキュリティ変更、リリース移行、あるいはフィールド・リストのカスタマイズにより、欄が除去された可能性があります。

応答: 除去された欄の個数については、メッセージ行に表示される INVALID COLUMN メッセージを見てください。

ARRANGE PENDING

説明: 1 つの欄または欄のブロックを選択しましたが、その宛先を入力していません。

応答: 必要な欄までリストをスクロールし、その隣りに a または b を入力して宛先をマークしてください。

AUTHORIZED DEST REQUIRED

説明: SDSF の初期設定または DEST コマンドの処理中で、許可されている宛先名が見付かりませんでした。すべての宛先へのアクセスは許可されていないので、ISFPARMS の IDEST によって指定した有効な宛先リストが必要です。宛先照会 (DEST ?) コマンドを出したときも、許可された宛先名がないと、このメッセージが表示されます。

応答: 許可された 1 つまたは複数の宛先を指定して、DEST コマンドを入れてください。セッション初期設定の際に ISF005I メッセージが出されたときは、SDSF 管理者またはセキュリティ管理者に連絡してください。

AUTHORIZED DESTINATION REQUIRED. PRESS THE HELP KEY FOR MORE INFORMATION.

説明: このメッセージは、現在の AUTHORIZED DEST REQUIRED メッセージに対応しており、Destination ポップアップとともに表示されます。

応答: 完全な情報を表示するには、PF1 を押してくだ

さい。また、システム・プログラマーに連絡してください。

****** AUTO UPDATE - number SECONDS ******

説明: SDSF が自動更新モードで稼働しています。更新から次の更新までの間隔が秒数で示されています (自動更新モードの詳細については、44ページの『& -- コマンドを出し直す』を参照してください。)

応答: なし。

BLOCK COMMAND INCOMPLETE

説明: ブロック・コマンドを入力しましたが、クローズしていません (ブロックの開始を // でマークしましたが、ブロックの終了を // でマークしていません)。SDSF は、ブロックがクローズされるまで、保留状態のアクションを処理しません。

応答: オープンのブロックをクローズするか、または RESET コマンドを使用して、保留状態のすべてのアクションを取り消します。

BLOCK COMMAND INVALID

説明: 繰り返す必要があるブロックの最初の行と最後の行の両方にデータを入力しました。ブロックの最初の行または最後の行のどちらか一方にしか、データを入力できません。

応答: ブロックの最初の行または最後の行のどちらかの変更を空白で取り消すか、または RESET コマンドを使用して、保留状態のすべてのアクションを取り消します。

BLOCK INPUT REQUIRED

説明: ブロック・コマンドを入力しましたが、アクション文字または上書きを指定しませんでした。ブロックの第 1 行が現行の行になり、アクション文字を入力するか、ブロック全体の上書きを繰り返すことが可能になります。

応答: ブロックの最初の行または最後の行のどちらかでアクション文字または上書きを指定するか、または RESET コマンドを使用して、保留状態のすべてのアクションを取り消します。

BLOCK IS INCOMPLETE

説明: ブロックの開始を // のマークで示しましたが、ブロックの終了を // のマークで示していません。

応答: // のマークでブロックの終了を示してください。

BOOKMANAGER IS REQUIRED

説明: コマンドまたはプルダウン選択には、BookManager READ/MVS が必要です。

応答: コマンドまたはプルダウン選択を消去してください。

BOOKMGR SELECT RC=return-code

説明: BOOK コマンドが出ましたが、SDSF は BookManager プロダクトを呼び出せませんでした。そのメッセージ・テキストには、BOOKMGR コマンドの呼び出しに使われる ISPF 選択サービスからの 10 進戻りコードが入っています。

応答: BookManager 製品がインストールされ、ユーザーの SDSF セッションで使用できることを確認した上で、BOOK コマンドを再試行してください。

BOTTOM OF DATA REACHED

説明: FIND コマンドで、要求されたストリングが見付からないままデータの終わりに達しました。

応答: データの先頭から探索を再開するには、探索繰り返し PF キーを押すか、コマンド行に F を入れてください。

BRIF ERROR RC=return-code

説明: ISPF ブラウズ・サービスの呼び出し中に予期しないエラーが起きました。このメッセージには、ISPF からの 10 進戻りコードが入っています。SDSF はブラウズ要求を終了します。

応答: ISPF のエラー・コードについては、OS/390 ISPF サービスの手引き を参照してください。

BROWSE NOT AVAILABLE

説明: ISPF を使ってデータ・セットをブラウズするため SB アクション文字を入力しましたが、SDSF が ISPF のもとで稼働していないか、ISPF のレベルが不十分です。代わりに、SDSF がブラウズを行います。

応答: 必要なレベルの ISPF のもとで実行しているときに、SB アクション文字を再入力してください。

CANNOT MOVE FIXED FIELD

説明: ARRANGE コマンドを使用して固定フィールドの移動を試みました。ARRANGE は、固定フィールドの後ろの欄を移動するために使用できますが、固定フィールド自体を移動することはできません。

応答: なし。

number CHARS '*string*'

説明: ODS パネルまたはログ上の FIND ALL コマンドへの応答で、多数の文字ストリングの出現が見付かりました。999,999 個を超えるストリングが見付かった場合、SDSF は *number* に 999999+ と表示します。カーソルはその文字ストリングに置かれています。

応答: なし。

CHARS '*string*' FOUND

説明: FIND コマンドに応じて、要求された文字ストリングが見付かりました。カーソルはその文字ストリングに置かれています。

応答: なし。

number CHARS '*string*' FOUND

説明: FIND ALL コマンドの結果、多数の文字ストリングの出現が見付かりました。9,999 個を超えるストリングが見付かった場合、SDSF は *number* に 9999+ と表示します。カーソルはその文字ストリングに置かれています。

応答: なし。

CHECKPOINT OUT OF DATE

説明: チェックポイント・バージョンが入手されましたが、データが古い可能性があります。これは、JES2 がダウンしているか、応答していないことを示している可能性があります。このパネルは古いデータを使用して作成されています。

応答: 要求を再試行してください。それでも問題が続くようであれば、システム・プログラマーに連絡して、古いデータの原因を判別してください。

CHECKPOINT READ ERROR

説明: ユーザーがコマンドを出す許可を得ているかどうかを判別するため、SDSF がチェックポイント・データ・セットから読み込もうとしたとき、エラーが起きました。

応答: コマンドを出し直してください。それでも問題が続くようであれば、システム・プログラマーに連絡してください。

CHOICE NOT AVAILABLE ON THIS PANEL

説明: 現行 SDSF パネルでは、プルダウン選択を使用できません。

応答: プルダウン選択については、HELP PF キーを使用してください。

CKPT OBT ERR *return-code-reason-code*

説明: チェックポイント・バージョンを入手するときに、エラーが発生しました。メッセージ・テキスト内で、*return-code* は SSOBRETN からの 16 進数の SSI 戻りコードで、*reason-code* はフィールド SSJIRETN からの 16 進数の理由コードです。このバージョンが入手されていません。

応答: 障害の原因究明をシステム・プログラマーに依頼してください。戻りコードと理由コードについては、マクロ IAZSSJI に説明があります。

CKPT REL ERR *return-code-reason-code*

説明: チェックポイント・バージョンをリリースするときに、エラーが発生しました。メッセージ・テキスト内で、*return-code* は SSOBRETN からの 16 進数の SSI 戻りコードで、*reason-code* はファイル SSJIRETN からの 16 進数の理由コードです。このバージョンは、リリースされません。

応答: 障害の原因究明をシステム・プログラマーに依頼してください。戻りコードと理由コードについては、マクロ IAZSSJI に説明があります。

CKRD RETURN CODE *return-code*

説明: チェックポイント読み取り要求は、戻りコード *return-code* で失敗しました。

応答: 戻りコードは次のとおりです。

- 4 -- 誤ったオプションを渡しました。
- 8 -- 許可状態ではありません。
- 12 -- JES2 システムが違います。
- 16 -- 要求されたアドレス・スペース ID が無効です。
- 20 -- 要求されたアドレス・スペース ID が TSO ユーザーではありません。
- 24 -- JES2 がアクティブではありません。
- 28 -- ジョブ・キーが誤っています。
- 32 -- SRB が異常終了しました。
- 36 -- パラメーターが無効です。
- 40 -- ユーザーはスワップアウトされています。
- 44 -- ISFLPA サブルーチンが使用不能です。
- 48 -- 異常終了処理パラメーター。
- 52 -- データ・セット・キーが誤っています。

56 -- メンバー - トラック - トラック・レコード (MTTR) が誤っています。

SUBS RETURN CODE 56 がログ中にランダムに現れ、ユーザーが Enter を押すと消える場合、およびシステムのページング率が高い場合は、このメッセージはタイミング上で問題が起こる可能性があることを示しています。メッセージが表示されたら、Enter キーを押してください。

エラー・メッセージが一貫して繰り返し現われるときは、ISFLPA モジュールまたは ISFSUBS モジュールが稼働している JES2 システムとは異なるレベルにある可能性があります。次の点を確認してください。

- 最後に JES2 に保守を適用した後、ISFSUBS と ISFLPA を再アセンブルしたか。
- ISFSUBS と ISFLPA のバージョンをどこに保管したか。
- モジュールは正しいレベルか。レベルを検査するため、ダンプ中の日付と比較して、ISFSUBS と ISFLPA のリストの日付を調べてください。

60 -- バッファーがいっぱいです。

64 -- GETMAIN は失敗しました。

68 -- ユーザーは取り消されました。

72 -- アテンション・キーが押されました。

76 -- クロス・メモリーがアクティブではありません。

80 -- アプリケーション・コピーが誤っているためのエラー。

84 -- アプリケーション・コピー・レベルのエラー。

88 -- アプリケーション・コピー更新エラー。

92 -- アプリケーション・コピーがもう使用できません。

96 -- ECSA アプリケーション・コピーがもう使用できません。

100 -- スプール・データ・セット名に対する呼び出しが無効です。

104 -- バッファー・サイズが無効です。

108 -- 動的プリンターの追加がオーバーフロー。

112 -- JQE が無効になりました。

116 -- SJB/SDB が無効です。

120 -- チェックポイント・バージョンのエラー。

124 -- サブシステムが定義されていません。

| 128 -- バッファー・ヘッダーが無効です。

| 132 -- プリンター・データを取得できません。

ISFLPA 戻りコードは次のとおりです。

4 -- 誤ったオプションを渡しました。

52 -- データ・セット・キーが誤っています。

56 -- メンバー - トラック - トラック・レコード (MTTR) が誤っています。

ISFSUBS 戻りコード 56 については、上記を参照してください。

60 -- バッファーがいっぱいです。

104 -- バッファー・サイズが無効です。

116 -- SJB/SDB が無効です。

count CMDS NOT ISSUED

説明: ユーザーの要求により、アクション文字のブロックが廃棄されました。count は、廃棄されたアクション文字の数です。コマンドは実行されてません。

応答: なし。

COLUMN NOT FOUND

説明: パネルに存在していない欄を指定しました。カーソルは、その欄名の下に置かれています。

応答: 欄名を訂正して、コマンドを出し直してください。

COLUMN NOT UNIQUE

説明: 欄名が、現行パネル上の複数の欄と同じです。カーソルは、その欄名の下に置かれています。

応答: 欄の名前を再入力してください。

COLUMN TRUNCATED

説明: 1 つまたは複数の欄について Arrange 機能で指定した欄の幅が、その欄の名称より短い値になっています。欄は指定した幅に切り捨てられます。

応答: 必要ありません。

COMM NO LONGER AVAIL

| 説明: ユーザーはすでに、ローカル SDSF サーバーと通信していません。SDSF は、ユーザーがログオンしているシステムのデータだけを表示します。

| 応答: システムは、これより前のエラー記述メッセージを出した可能性があります。通信をリストアするには、エラーを訂正し、SDSF に再度アクセスしてください。

COMMAND ISSUED

説明: SDSF は、要求された MVS または JES2 システム・コマンドを出しました。

応答: なし。

COMMAND NOT AUTHORIZED

説明: 出すことを許可されていない SDSF コマンドを入力しました。詳細については、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

応答: そのコマンドを削除してください。

COMMAND NOT ISSUED

説明: ユーザーの要求により、アクション文字が廃棄されました。コマンドは出されていません。

応答: なし。

COMMAND NOT VALID

説明: このコマンドは、ポップアップのコマンド行上では無効です。

応答: コマンドを訂正するか、消去してください。

COMMAND TRUNCATED

説明: 単一の JES 要求で処理可能なフィールドより多くのフィールドを上書きしました。JES2 限界までの全フィールドが処理されます。

応答: SDSF 表示画面をリフレッシュし、更新されていないフィールドに上書きしてください。

command-count COMMANDS ISSUED

説明: ブロック・コマンドが正常に実行され、*command-count* コマンドが出されました。

応答: なし。

CONS ACT ERR *return-code reason-code*

説明: 拡張コンソールをアクティブにしようとしたが失敗しました。メッセージ・テキストには、MCSOPER マクロからの 16 進数の *return-code* と *reason-code* が入っています。メッセージ ISF032I は、ULOG 表示にも書き込まれます。

応答: *return-code* と *reason-code* を使って、エラーの原因を判別してください。コンソールをアクティブにする場合は、ULOG コマンドを出します。

CONS DEACT ERR *return-code reason-code*

説明: 拡張コンソールの非アクティブにできませんでした。メッセージ・テキストには、MCSOPER マクロからの 16 進数の *return-code* と *reason-code* が入っています。

応答: *return-code* と *reason-code* を使って、エラーの原因を判別してください。

CONSOLE *console-name* SHARED

説明: 拡張コンソールをアクティブにしようとしたが、コンソールが使用中です。SDSF は、コンソール ID を使ってコマンドを出し、コンソールを共有します。ただし、そのコマンドを出した SDSF セッションに応答は戻されません。

(分割画面などで) 別の SDSF セッションがコンソール使用している場合、共有セッションから発生したコマンド応答は、そのセッションに戻されます。

メッセージ ISF031I が、ULOG 表示に書き込まれます。

応答: なし。

CONVERSION COMPLETE.

説明: ISFPARMS の SDSF パラメーターが変換ユーティリティによってアSEMBルされ、ステートメント形式の ISFPARMS に変換されました。

応答: これらのステートメントはポップアップから編集できます。ISFPARMS をアクティブにしたり、その構文を検査するには、MODIFY コマンドを使用します。

DATA ACCESS ERROR

| **説明:** SDSF パネルを作成するためのデータの検索の際
| に、エラーが起きました。サーバーとの通信が切れた可
| 能性があります。エラーを記述する追加のメッセージが
| 出されることがあります。現在の要求は打ち切られま
| す。

| **応答:** この問題の詳細については、追加のメッセージを
| 参照してください (そのようなメッセージが存在する場
| 合)。要求を再試行してください。

DATA NOT SAVED

説明: あるユーザーが、ISPF を使ってデータ・セットの編集を行うために SE アクション文字を入力し、SAVE コマンドを入力したか、ISPF セッション中にデータの変更を行いました。永続的な変更を行えないため、変更内容は終了時に保管されませんでした。

応答: なし。

DATA SET DISPLAYED

説明: SDSF は、要求された SYSOUT データ・セットを出力データ・セット・パネルに表示しています。

応答: なし。

**** DATA SET NOT CATALOGED DSNAME= *data-set-name*

説明: 要求されたデータ・セットがカタログされていません。このメッセージは、ALLOC ERROR *return-code error-code information-code*、または LOCATE ERROR *return-code* というメッセージとともに出され、印刷ファイルの割り振りに失敗した理由を説明します。

応答: なし。

DATA SET NOT ELIGIBLE

説明: データ・セットは変更、削除、またはリリース操作に適格ではありません。データ・セットは変更されません。

この条件は次の場合に起こり得ます。

- 出力グループがオペレーターによる保留状態またはシステム保留状態である。
- データ・セットが最初から保留状態で割り振られなかった。
- データ・セットが最初保留状態で割り振られたが、その後でリリースされた。

応答: 要求された制限事項が出力の処理に適していることを確認してください。

DATA SET NOT FOUND

説明: SDSF パネルに入力されたデータ・セットが見付かりませんでした。

応答: その SDSF パネルのデータ・セットを割り振るか、そのデータ・セットの名前を変更してください。

**** DATA SET NOT ON VOLUME DSNAME= *data-set-name*

説明: 要求されたデータ・セットが指定のボリュームにありません。このメッセージは、ALLOC ERROR *return-code error-code information-code*、または OBTAIN ERROR *return-code* というメッセージとともに出され、印刷ファイルの割り振りに失敗した理由を説明します。

応答: なし。

**** DATA SET OPEN DSNAME = *data-set-name*

説明: データ・セット *data-set-name* はオープンされています。このメッセージは、ALLOC ERROR *return-code error-code information-code* とともに出され、印刷ファイルの動的割り振りに失敗した理由を説明します。

応答: なし。

**** DATA SET UNAVAILABLE DSNAME= *data-set-name*

説明: 要求されたデータ・セットは使用できません。このメッセージは、ALLOC ERROR *return-code error-code information-code* とともに出され、印刷ファイルの動的割り振りに失敗した理由を説明します。

応答: なし。

DATA TRUNCATED FOR EDIT

説明: SE アクション文字を使ってデータ・セットの編集を行うための要求が行われましたが、編集がサポートする最大レコード長を超えるデータ・セットがジョブに入っています。編集要求は処理されますが、データは最大 255 文字までに切り捨てられます。

応答: S または SB アクション文字を使って、レコード全体を表示してください。

DEALLOCATION ERROR - *error-code*

説明: SYSOUT データ・セットの動的割り振り解除をしているとき、エラーが起きました。

応答: 動的割り振りエラー・コードについては、システム・マクロとユーティリティ、あるいはジョブ管理に関する該当の解説書を参照してください。

DEST ALREADY EXISTS

説明: 宛先追加のために DEST コマンドが出されましたが、その宛先はすでに現宛先リストに含まれていません。

応答: DEST ? または SET DISPLAY で現宛先を表示し、コマンドを訂正してください。

DEST NOT FOUND

説明: 宛先削除のために DEST コマンドが出されましたが、その宛先は現宛先リストに含まれていません。リストにない宛先の下にカーソルが置かれています。

応答: DEST ? または SET DISPLAY で現宛先を表示し、コマンドを訂正してください。

DISPLAY RESET

説明: 論理画面サイズが変更され、SDSF は表示を再作成します。SDSF は、ユーザーが入力したが実行されていないアクション文字またはコマンドを無視し、消去します。

応答: なし。

DSORG NOT PS OR PO

説明: PRINT ODSN コマンドで指定されたデータ・セットが、順次データ・セット (DSORG=PS) でも区分データ・セット (DSORG=PO) でもありませんでした。

応答: 受け入れ可能なデータ・セット名を指定して、PRINT ODSN コマンドを出し直してください。データ・セットを割り振る場合は、データ・セット編成は、順次か区分を指定しなければなりません。

EDIF ERROR RC=*return-code*

説明: ISPF 編集サービスの呼び出し中に予期しないエラーが起きました。このメッセージには、ISPF からの 10 進の 戻りコード が入っています。SDSF は編集要求を終了させます。

応答: ISPF のエラー・コードの説明については、OS/390 ISPF サービスの手引き を参照してください。

EDIT NOT AVAILABLE

説明: ISPF を使ってデータ・セットを編集するため SE アクション文字を入力しましたが、SDSF が ISPF のもとで稼働していません。代わりに、SDSF がブラウズを行います。

応答: SDSF が必要なレベルの ISPF のもとで稼働しているときに、SE アクション文字を再入力してください。

END OF DATA ON MENU

説明: SDSF は、要求されたヘルプ・パネルを、SDSF ヘルプ・パネル・データ・セットから読み取れませんでした。

応答: システム・プログラマーは、SDSF ヘルプ・パネル・データ・セットに対して行った変更の内容を調べてください。問題が見付からないときは、システム・プログラマーは、インストールされている SDSF ヘルプ・パネル・データ・セットを、SDSF 配布テープにあるオリジナルのヘルプ・パネル・データ・セットで置き換えてみる策もあります。

ENGLISH HELP NOT AVAILABLE

説明: 英語を選択しましたが、英語のヘルプ・パネルがありません。

応答: 選択を消去するか、インストールについてシステム・プログラマーに問い合わせてください。

ENTER REQUIRED FIELD

説明: 必須フィールドにデータが入力されていません。カーソルは、エラーの起こったフィールドに置かれています。

応答: 要求されたデータを入力してください。

ERROR IN ASSEMBLING PARAMETERS. RETURN CODE *return-code*

説明: 変換ユーティリティーによりアSEMBル中の SDSF パラメーターが原因で、エラーが発生しました。

応答: アSEMBラーからの戻りコードを使用して、問題を識別する参考にしてください。変換ユーティリティー・ポップアップを使用して、ISFPARMS ソース・データ・セットを編集したり (PF4)、アSEMBラー・リストをブラウズ (PF5) することができます。

ERROR PROCESSING DATA

説明: SDSF が、パネルに表示されているジョブのうち、ある 1 つのジョブのスプール制御ブロックを正常に処理できませんでした。

応答: ユーザーまたはシステム・プログラマーは、フィルター・コマンドの中のいずれかを使用すれば、どのジョブが問題の原因なのかを突き止めることができます。

たとえば、ユーザーのパネルに次のジョブが表示されているとします。

```
ABLEJOB
ABLEBJOB
ANDJOB
BJOB
BBBJOB
CJOB
```

ユーザーが PREFIX A* を出すと、パネルには次のジョブが表示されます。

```
ABLEJOB
ABLEBJOB
ANDJOB
```

パネル上にまだエラー・メッセージが表示されていれば、問題はこの 3 つのジョブのうちの 1 つにあることになります。次に、ユーザーは、2 つ目の PREFIX コ

マンドとして PREFIX ABLE* を出します。 パネルには、次のジョブが表示されます。

ABLEJOB
ABLEBJOB

エラー・メッセージがパネルに表示されなくなります。このことにより、ユーザーは、問題が ABLEJOB でも ABLEBJOB でもなく、ANDJOB に関するものであることが分かります。

ERROR PROCESSING LINE *line-number: text-of-line*

説明: 変換 exec が、示された行でエラーを検出しました。

応答: ローカル・プロシージャに従って、問題を IBM に報告してください。

service **FAILED WITH RC=***return-code*

REASON=*ispf-message-text*

説明: ISPF または TSO サービス *service* が失敗しました。戻りコード、および ISPF メッセージのテキスト(それがあつた場合) が示されます。

応答: 戻りコードとメッセージ・テキスト(存在する場合)を使って、問題を理解し解決してください。問題が続くようであれば、ローカル・プロシージャに従って、問題を IBM に報告してください。

FIELD INVALID

説明: フィールドに無効な情報がタイプされました。

応答: フィールドに入力した内容を訂正するか、コマンド行に RESET と入力してください。

FIELD NOT NUMERIC

説明: 数値フィールドが、数字以外のデータで上書きされました。あるいは、数値フィールドにブランクがあります。カーソルは、エラーの起こつたフィールドに置かれています。

応答: フィールドに数値データを入力してください。表形式パネルでは、RESET コマンドを使って、上書きされたデータを消去してください。

FILE SIZE NOT AVAILABLE

説明: データ・セットの表示要求を出しましたが、JES2 からファイル・サイズ(バイト単位)が得られません。SDSF は、GDDM が使用する一時ファイルを割り振るためにファイル・サイズを必要とします。表示用データ・セットは構成されません。

応答: ジョブがアクティブである間は、データ・セット

のファイル・サイズは得られません。表示要求が現在実行中のジョブに対するものであれば、そのジョブが終了してから要求を出し直してください。そうでない場合は、ファイル・サイズがない原因を突き止めてください。

FILTER CRIT DISCARDED

説明: 最後のセッションから保管されたフィルター基準が無効であることを SDSF が検出しました。このフィルター基準は、ユーザーの ISPF プロファイルから削除されました。

応答: Filter ポップアップまたは FILTER コマンドを使用して、フィルターを定義してください。

FILTER CRITERIA OBSOLETE

説明: 最後のセッションから保管された 1 つまたは複数の欄が、このパネルに関する ISFPARMS 定義から除去されています。セキュリティ変更、リリース移行、あるいはフィールド・リストのカスタマイズにより、欄が除去された可能性があります。定義から除去されているフィルター基準は削除されます。

SDSF は、残っている欄を使用して欄のフィルター操作を行います。除去された欄の個数については、メッセージ行に表示される INVALID COLUMN メッセージを見てください。

応答: アクションは必要ありません。

FILTER VALUE TRUNCATED

説明: 直前のコマンドで入力されたフィルター値が、Filter ポップアップの値フィールドの長さ 25 文字を超えました。この値は、フィールドに入るように切り捨てられます。

応答: 必要ありません。値を変更するには、ポップアップに変更内容をタイプします。

GDDM ERROR *severity-msgnumber*

説明: GDDM サービスの実行中にエラーが起きました。*severity* はメッセージの重大度コード(10 進数)で、*msgnumber* は GDDM のメッセージ番号(10 進数)です。

データ・セット表示要求は打ち切られます。理由を説明するメッセージが、ほかにも GDDM から端末ユーザーあてに出されている可能性があります。

応答: GDDM メッセージのテキストに記述されているエラーの部分を変更し、表示要求を出し直してください。GDDM エラー・コードとその説明は、GDDM メッセージにあります。

GDDM LEVEL ERR *gddm-level*

説明: 表示機能が要求されましたが、いまインストールされているレベルの GDDM は、SDSF では使用できません。 *gddm-level* は、いま SDSF がアクセスしている GDDM のレベルです。 SDSF には、GDDM 第 2 版リリース 2 以降が必要です。

応答: システム・プログラマーは、STEPLIB またはシステム LINKLST を使って、SDSF セッションで正しいレベルの GDDM を使用できるようにしてください。

GDDM NOT AVAILABLE

説明: ページ・モード・データ・セットの構成を求める表示要求がありましたが、SDSF は GDDM インターフェース・モジュールの ADMASPT をロードできませんでした。 GDDM サービスを使用できないため、表示機能は使えません。

応答: システム・プログラマーは、STEPLIB またはシステム LINKLST を使って、SDSF セッションで GDDM ロード・モジュールを使用できるようにしてください。

HELP MENU ERROR= *member-name*

説明: SDSF は、要求されたヘルプ・メニューを見付けられませんでした。

応答: システム・プログラマーは、SDSF ヘルプ・パネル・データ・セットに対して行った変更の内容を調べてください。問題が見付からないときは、システム・プログラマーは、インストールされている SDSF ヘルプ・パネル・データ・セットを、SDSF 配布テープにあるオリジナルのヘルプ・パネル・データ・セットで置き換えてみる策もあります。

HEX STRING INVALID

説明: 16 進数ストリングを含む FIND コマンドが、ログあるいは ODS パネル以外のパネルで出されました。

応答: コマンドを訂正して、出し直してください。

INCONSISTENT PARAMETERS

説明: FIND コマンドが出されましたが、パラメータ間に矛盾があります。

応答: コマンドを訂正して、出し直してください。

**** INCORRECT UNIT NAME SUPPLIED

説明: テープ装置の動的割り振りが失敗し、X'021C' 戻りコードが返されてきました。この戻りコードは、誤った装置名が指定されたことを意味します。サポートされている有効な装置は、3480、3400-3、3400-5、3400-6、および 3400-9 です。

応答: サポートされているテープ装置上にあるカタログ式データ・セット名を指定してください。

INPUT FILE ALLOC FAILED

説明: 構成用の入力ファイルを割り振ろうとしているとき、エラーが起きました。割り振り失敗の理由を説明するメッセージが、別にシステムから出されます。ファイルを割り振ることができないので、GDDM を使ってそれを表示することはできません。

応答: エラー原因の究明をシステム・プログラマーに依頼してください。

INPUT INVALID WITH BLOCK

説明: オープン・ブロック内でアクション文字あるいは上書きが入力されました。繰り返しのデータを入れられるのは、ブロックの最初の行または最後の行のみです。表示は、ブロック内のデータを含む行に位置付けられます。

応答: 行の上のデータをブランクにするか、RESET コマンドを入力して未処理のアクションをすべて取り消してください。

INPUT INVALID WITHIN BLOCK

説明: ポップアップ上のブロック内に 1 つまたは複数の文字を入力しました。

応答: 文字を消去してください。

INVALID CALL TYPE

説明: 初期設定の際、このユーザーに対する ISFGRP マクロの IDEST パラメーターで指定されている ISFNTBL マクロを処理しているとき、SDSF がエラーを発見しました。ISFGRP マクロは ISFPARMS モジュールにあります。

応答: システム・プログラマーは、このユーザーをユーザー・グループに入れるのに用いた ISFGRP マクロを参照し、その IDEST パラメーターで指定されている ISFNTBL マクロに誤りがないか調べてください。ISFGRP マクロについては、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティー で解説しています。

また、インストール先のシステムで独自に定義した名前

が最もエラーの原因になりやすいので、システム・プログラマーは、インストール先のシステムで定義した名前を ISFNTBL マクロの最後に置くようにしてください。SDSF は、初期設定の途中で宛先名にエラーを発見すると、そのエラーまでに処理が完了していた宛先名を用いて初期設定を続けます。

INVALID CLASS *class* ENTERED

説明: ST、I、O のいずれかのコマンドで、無効なクラスが入力されました。クラスは無視されます。有効なクラス名は次のとおりです。

ST コマンド:

A から Z、0 から 9、+、!、\$、*、)、-、?、#、@、= および /

I コマンド:

A から Z、0 から 9、!、\$、*、#、および @

JC コマンド:

A から Z、0 から 9、\$ および #

O コマンド:

A から Z、0 から 9、および @

応答: 有効なクラスを指定して、コマンドを出し直してください。

INVALID CLASS NAME

説明: このフィールドが無効なクラス名で更新されました。有効なクラス名は A から Z および 0 から 9 です。

応答: 有効なクラス名またはブランクをフィールドにタイプするか、コマンド行に RESET と入力してください。

INVALID COLUMN: *column-info*

説明: このパネルに関する欄基準が、最後の SDSF セッションからのもの保管されましたが、1 つまたは複数の欄がこのパネルから除去されています。SDSF は、この基準を無視し、SDSF プロファイルから削除します。*column-info* は欄の数であるか、SORT の場合は欄のリストです。このメッセージは、ARRANGE、FILTER、または SORT CRITERIA OBSOLETE メッセージに伴う説明情報として出されます。

応答: アクションは必要ありません。新しい順序変更、フィルター、またはソート基準を設定することができます。

INVALID COMMAND

説明: SDSF が認識しないコマンドまたはアクション文字が入力されたか、サポートされていない環境で入力されました。あるいは無効なパネルまたは行で入力されました。コマンドまたはアクション文字が、無効なパラメーターを指定して入力された可能性もあります。

応答: コマンドまたはアクション文字を訂正して、その要求を出し直してください。有効な SDSF コマンドおよびアクション文字のリストについては、SDSF の参考資料またはオンライン・ヘルプを参照してください。システム・コマンドについては、適切な MVS の資料および JES2 の資料を参照してください。AFD コマンドについては、30ページの『バッチでの SDSF の使用』を参照してください。

INVALID DESTINATION NAME

説明: 指定された宛先名は、このシステムでは無効です。その宛先名がインストール先のシステムで独自に定義された宛先名であるときは、JES2 がアクティブでないので、このメッセージが出されることもあります。JES2 がアクティブでないと、SDSF はインストール先のシステムで独自に定義された宛先名を使用できません。

応答: 有効な宛先名を入れてください。

INVALID DSN - LENGTH

説明: 44 文字より長いデータ・セット名が入力されました。

応答: 入力中のデータ・セット名を訂正してください。

INVALID DSN - QUOTES

説明: データ・セット名が、対をなしていない引用符を指定して入力されました。

応答: 入力中のデータ・セット名を訂正してください。

INVALID HEX STRING

説明: フィールドの上書きまたは FIND コマンドによって、無効な 16 進データが入力されました。無効なデータには、16 進数以外の文字が入っているか、奇数桁になっています。

応答: 16 進数ストリングを訂正してください。

INVALID LEFT BOUNDARY

説明: FIND コマンドで開始桁に入力された値は、論理レコード・サイズより大きいか、フィールドの長さより大きい値です。

応答: FIND コマンドを訂正し、出し直してください。

INVALID RETURN CODE

説明: 内部 SDSF サブルーチンへの呼び出し後、無効な戻りコードが返されてきました。表示されているテーブルは不完全である可能性があります。

応答: コマンドを再試行してください。問題が持続するようであれば、IBM に連絡し、プログラミングの援助を求めてください。

INVALID SAVED DEST

説明: 前の SDSF セッションで保管された宛先名は、もはや有効ではありません。このエラーは、SDSF セッションが MVS/ESA SP-JES2 4.2.0 より前のシステムで実行されていた場合、その SDSF セッションから拡張宛先名が検索された場合に起こることがあります。DEST ? または SET DISPLAY ON を用いて、現在の宛先リストを表示してください。

応答: なし。SDSF は、残りの保管値で初期化されません。

INVALID SCROLL AMOUNT

説明: パネルの SCROLL フィールドで指定されたスクロール量、またはスクロール・コマンドで指定されたスクロール量が無効です。

応答: 次に示す有効なスクロール量のいずれかを入れてください。

PAGE 1 つのパネル分をスクロールする。

HALF 1 つのパネルの半分をスクロールする。

number 指定の行数または欄数をスクロールする。
number は最大 4 桁にすることができます。

MAX データ末尾までスクロールする。

CSR カーソルの位置にスクロールする。

DATA 1 ページより 1 行または 1 桁少なくスクロールする。これは ISPF のもとでのみ有効です。

メッセージに加えて音響アラームが鳴ると、それは ISPF からのメッセージです。HELP に割り当てられた PF キーを押せば、表示の 3 行目に有効なスクロール項目を表示するように ISPF に伝えられます。

INVALID SELECTION

説明: このパネルでは無効な入力が行われました。

応答: 有効なコマンドまたはメニュー・オプションを入力してください。

INVALID SYNTAX

説明: コマンド行に入力されたコマンドは、パラメーターが多すぎるか、対になっていない引用符が入っているか、無効な範囲にあります。

応答: 適切な資料またはオンライン・ヘルプを使用して、コマンドの構文を確かめてください。

INVALID UNIT

説明: PR、PUN、RDR または LI パネルで無効な装置番号を入力したか、印刷データ・セット・オープン・パネルで、ポリューム通し番号と総称装置の両方を指定しました。

PR または PUN パネルの場合、装置番号はすべて 16 進数で構成する必要があります。

LI パネルの場合、装置番号はすべて 16 進数か SNA にする必要があります。

JES2 5.1.0 以降の環境では、装置番号を斜線 (/) から開始することができます。先行のゼロが必要です。

印刷データ・セット・オープン・パネルの場合、指定できるのは 1 つのフィールド (ポリューム通し番号または装置番号) のみです。

応答: 有効な装置番号を入力するか、印刷パネル・フィールドを 1 つだけ指定してください。

INVALID UPDATE VALUE

説明: ユーザーが上書き可能フィールドに無効な更新値を入力しました。無効な値には、セミコロン、括弧で囲まれていないコンマ、複数値の入力を許さないフィールドにおける最初の更新文字としての左括弧が含まれません。

応答: 有効な名前を入力してください。

INVALID VALUE

説明: 現行パネルで認識されていない、または許可されていない値が入力されました。

応答: 入力を許容される値に変更してください。

I/O ERROR ON INDEX

説明: SDSF SYSLOG 索引を読んでいるとき、入出力エラーが起きました。SDSF をはじめて使用する際にこのメッセージが現われるのは正常です。

応答: システム・プログラマーは、このメッセージとともに出されるシステム・メッセージを参照して、入出力エラーの詳細を調べてください。

ISFTRACE DD MISSING

説明: TRACE コマンドが入力されましたが、ISFTRACE ファイルが割り振られていません。TRACE コマンドは処理されません。

応答: ISFTRACE ファイルを割り振ってから、TRACE コマンドを出し直してください。

ISPF REQUIRED

説明: SDSF が ISPF のもとで作動していないときに、当該コマンドが出されました。これらのコマンドは、SDSF が ISPF からアクセスされた場合のみ有効です。

応答: ISPF から SDSF にアクセスし、コマンドを出し直してください。

JAPANESE HELP NOT AVAILABLE

説明: 日本語ヘルプ / チュートリアル機能がインストールされていません。

応答: システム・プログラマーに連絡してください。

JCT NOT AVAILABLE

説明: その項目にはジョブ制御テーブル (JCT) がないか、その項目の JCT を処理しようとしているときエラーが起きました。

応答: コマンドを削除するか、コマンド行に RESET と入力してください。

jesx NOT ACTIVE

説明: JES2 サブシステム *jesx* がアクティブでないときに、以下のいずれかが起きました。

- JES2 を必要とする、コマンドの入力、プルダウン項目の選択、またはポップアップの処理を試みました。
- SDSF がチェックポイント・バージョンの入手を試みました。チェックポイントは入手されません。

応答: SDSF を終了し、*jesx* がアクティブなときに要求を再試行してください。

JES REQUIRED

説明: JES を必要とする、コマンドを出したか、プルダウン項目の選択、またはポップアップの処理を試みました。しかし、JES は現在、アクティブではありません。

応答: システム・プログラマーに連絡してください。JES がアクティブになってから、SDSF を終了し、再アクセスし、すべての SDSF 機能を使用可能にします。

JES REQUIRED FOR MAS

説明: ユーザーは、RES パネルにアクセスする際、MAS のデフォルトのパラメーターを、コマンドかプルダウン選択のいずれかで使用しましたが、SDSF はどのメンバーが MAS 内のものかを判別することができません。SDSF は MAS のメンバーを判別する場合、JES2 が必要となりますが、JES2 を使用することができません。その結果、パネルにはシスプレックス内のすべてのシステムが表示されます。

応答: 必要ありません。

JOB IS PROTECTED

説明: P アクション文字が、保護されているジョブに対して使用されました。ジョブは取り消されていません。

応答: 保護されているジョブを取り消すには、PP アクション文字を使用してください。

JOB NO LONGER VALID

説明: あるジョブに対してコマンドが出されましたが、そのジョブはすでに除去されています。

応答: そのコマンドを削除してください。

JPN HELP NOT AVAILABLE

説明: 日本語ヘルプ / チュートリアル機能がインストールされていません。

応答: システム・プログラマーに連絡してください。

number LINES PRINTED

説明: PRINT コマンドまたは印刷アクション文字 (X) が出され、それに対して *number* の行数が印刷されました。複数の X アクション文字を入力すると、*number* は、最後に印刷されたデータ・セットの行数になります。

応答: なし。

LOCATE ERROR *return-code*

説明: 印刷データ・セットのオープンが試みられましたが、指定のデータ・セットの LOCATE 要求が出されましたが、失敗し、戻りコード *return-code* が返されてきました。システムが、説明のためのメッセージも出す場合があります。

応答: 処理中のデータ・セットが既存のデータ・セットであることを確認してください。

LOG BROWSE ERR *return-code reason-code*

説明: OPERLOG パネルに表示されたログ・ストリームのブラウザを試みているときに、エラーが起きました。メッセージ・テキストには IXGBRWSE マクロからの 16 進数の戻りコードと理由コードが入っています。

応答: *return-code* と *reason-code* を使って、エラーの原因を判別してください。

LOG CONN ERR *return-code reason-code*

説明: OPERLOG パネルに表示されたログ・ストリームへの接続を試みているときに、エラーが起きました。メッセージ・テキストには IXGCONN マクロからの 16 進数の戻りコードと理由コードが入っています。

応答: *return-code* と *reason-code* を使って、エラーの原因を判別してください。

LOG DISC ERR *return-code reason-code*

説明: OPERLOG パネルに表示されたログ・ストリームからの切断を試みているときに、エラーが起きました。メッセージ・テキストには IXGCONN マクロからの 16 進数の戻りコードと理由コードが入っています。

応答: *return-code* と *reason-code* を使って、エラーの原因を判別してください。

LOG FUNCTION INOPERATIVE

説明: SDSF 初期設定エラーのため、SDSF SYSLOG パネルが使用できません。

応答: システム・プログラマーは、このメッセージに付随するオペレーターへの書き込みメッセージで詳細を調べてください。

LOGIC ERROR 1

説明: SDSF は、入力されたままの形ではコマンドを処理できませんでした。

応答: コマンドを削除するか、正しいコマンドを入れてください。

LOGIC ERROR 2

説明: SDSF は、入力されたままの形ではコマンドを処理できませんでした。

応答: コマンドを削除するか、正しいコマンドを入れてください。

LOGIC ERROR 3

説明: アクション文字または上書きを処理中に、内部エラーが起きました。最後の入力以後のアクションの一部が失われた可能性があります。

応答: Enter を押してリフレッシュし、アクションまたは上書きを再実行してください。問題が解決されないようであれば、IBM にご連絡ください。

LOGIC ERROR IN INDEX

説明: 論理エラーからの回復のため、SYSLOG 索引の形式が再設定され、再検査されました。その論理エラーは、TSO ユーザーが初期設定の途中で PA1 キーを押し、SDSF を打ち切ろうとしたために起こったと考えられます。

応答: これは通知用のメッセージです。しかし、このエラーが常時起こるようであれば、システム・プログラマーに連絡してください。

LOGLIM *yyyy.ddd hh:mm:ss*

説明: OPERLOG はフィルター操作されており、検索時間数の制限値に達しました。*yyyy.ddd hh:mm:ss* は、制限値に達した時点での処理中のレコードの日付と時刻です。現在の要求に関する処理は終了します。

SDSF は、OPERLOG を前方か後方に読み取っていました。SDSF が 1 つの要求を処理しているときに 2 つ以上の制限値を検出すると、処理された中で最後のレコードでメッセージが出ます。

応答: LOGLIM コマンドを入力して、operlog 表示の制限値を変更してください。また、LOCATE コマンド (日付と時刻で)、NEXT および PREV コマンド、SCROLL UP または DOWN MAX コマンドを入力し、OPERLOG の新しい位置にスクロールすることもできます。

LRECL TOO LARGE FOR GDDM

説明: V アクション文字を使ってファイルを表示しようとした。しかし、ファイルの入力レコード長が、GDDM で処理できる最大長を超えているため、GDDM を呼び出すことができません。GDDM で処理できる最大レコード長については、GDDM の資料を参照してください。

応答: 表示要求は打ち切られます。そのファイルは、SDSF を使ってブラウズできますが、GDDM を使って表示することはできません。

MAJOR COLUMN IS MISSING

説明: マイナー欄を指定しましたが、メジャー欄を指定していません。マイナー欄は、メジャー欄がなければ、無効です。

応答: メジャー欄を指定するか、マイナー欄を削除してください。

MEMBER NAME MISSING

説明: SDSF パネルにメンバー名が指定されていませんでしたが、使用中のデータ・セットは区分データ・セットです。

応答: そのデータ・セットのメンバー名を指定するか、別のデータ・セット名を使ってください。

MEMBER NAME NOT ALLOWED

説明: コマンドまたはパネルにメンバー名が指定されていましたが、使用中のデータ・セットは順次データ・セットです。

応答: そのデータ・セットのメンバー名を削除するか、別のデータ・セット名を使ってください。

MEMBER NOT FOUND

説明: PDS のメンバーが SDSF パネルに指定されていましたが、PDS にその名前前のメンバーがありません。

応答: メンバー名を訂正してください。

MENU READ LOOP

説明: TSO のもとで SDSF ヘルプ・パネルを処理中に、ループが発生しました。

応答: IBM に援助を依頼してください。

MERGE ERROR *returncode-reasoncode*

説明: SJF マージ要求を出しているときにエラーが起きました。メッセージ・テキストで、*returncode* は SJF マージ・サービスが返した 10 進数の戻りコードで、*reasoncode* は 10 進数の理由コードです。

応答: 変更要求を出し直してみてください。エラーが継続する場合には、システム・プログラマーに連絡して援助を求めてください。

MIGRAT ALLOC FAILURE

説明: PRINT ODSN コマンドに応じて、要求された印刷データ・セットはマイグレーションされましたが、割り振られませんでした。

応答: その印刷データ・セットを再び呼び出して、PRINT ODSN コマンドを出し直してください。

MIGRATION ID NOT AVAIL

説明: マイグレーション ID をもつ拡張コンソールをアクティブにしようとしたが、システムに使えるコンソールがありません。メッセージ ISF032I は、ULOG 表示にも書き込まれます。

コマンド応答は ULOG 表示では入手できません。あるいは、非マイグレーション・コンソール ID をサポートしないコマンド・プロセッサからのスラッシュ (/) コマンドに対してもコマンド応答は表示できません。

応答: マイグレーション ID が不要な場合は、SET CONSOLE コマンドを使って、NOMIGID オプションを選択してください。

MOD NOT ALLOWED FOR PDS

説明: MOD で印刷データ・セットを割り振ろうとしたが、そのデータ・セットは区分データ・セットです。この場合 SDSF は MOD をサポートしません。

応答: 後処理を OLD または NEW に変更するか、順次データ・セットを指定してください。

MODIFY ISSUED-*number* DS

説明: 出力記述子を変更するという要求が、スケジュールされています。*number* は、要求が出された時点で出力グループにあったデータ・セットの数です (先行ゼロは抑止されます)。SWB 変更要求はグループ内の全データ・セットに適用されます。

応答: なし。

MUTUALLY EXCLUSIVE UPD

説明: アクション文字または上書きの使用が、同時に使用されている他の上書きと互換性がありません。たとえば、クラス・フィールドに上書きしながら、それと同時に H 表示上で P アクション文字を使うことはできません。ページとクラス変更とは、互いに排他的です。

応答: フィールドをリストアまたは削除するか、コマンド行に RESET とタイプしてください。

NO *sysid* SYSLOG FOUND

説明: *sysid* システムのどのキューにも SYSLOG データがありませんでした。 *sysid* は、SYSID コマンドに入力された JES2 システム名です。次の原因が考えられます。

- JES2 に対して保守を行ったあと、SDSF を再アセンブルしていない。
- SDSF のアセンブリーで、現行システムに一致しない SYS1.HASPSRC データ・セットが SYSLIB DD ステートメントへの連結として使用された。
- SDSF のインストールに SMP が使用され、JES2 に対して保守が適用されたが、受け入れられなかった。そのため、SDSF が誤った SMPMTS データ・セットをポイントしている可能性がある。
- SYSLOG を印刷中。
- SYSID コマンドに入力した *sysid* が正しくなかった。

応答: システム・プログラマーは、上記のどれが原因でメッセージが出されたのかを突き止め、問題を訂正してください。

SYSLOG の印刷は、SYS1.PARMLIB の IEASYS00 メンバーにある HARDCPY パラメーターで制御されます。SYSLOG が印刷中であれば、IEASYS00 の HARDCPY パラメーターを変更し、下記の MVS コマンドを入力して SYSLOG データ・セットへのログ記録を開始してください。

```
W START
V SYSLOG,HARDCPY,CMDS,ROUT=ALL
```

NO ACTIVE SYSLOG

説明: 指定されたシステム ID のアクティブな SYSLOG データ・セットが見付かりませんでした。

応答: アクティブな SYSLOG があるかどうかを調べる場合、システム・プログラマーまたはオペレーターは、DA パネルを選択し、NP 欄で S を使って *MASTER* という名前のジョブの出力データ・セットを表示した後、アクティブな SYSLOG タスクの出力データ・セットをブラウズしてください。

アクティブな SYSLOG がないときには、次の 2 つの原因が考えられます。

- JES2 が停止されており、IPL なしで再始動された。
- SYSLOG をプリンターへ転送中。

SYSLOG をプリンターへ転送中であるかどうかを見るには、システム・プログラマーが SYS1.PARMLIB の IEASYS00 という名前のメンバーにある HARDCPY パラメーターを調べてください。

SYSLOG を SYSLOG データ・セットに送るには、システム・プログラマーが次の MVS コマンドを入力する必要があります。

```
W START
V SYSLOG,HARDCPY,CMDS,ROUT=ALL
```

NO CHARS '*string*' FOUND

説明: FIND コマンドが文字ストリング *string* を見付けられませんでした。

応答: なし。

NO COMMAND PROVIDED

説明: システム・コマンド拡張ポップアップまたは / コマンドで、コマンドとともにコマンド・テキストが入力されませんでした。

応答: なし。

NO DATA IN DATA SETS

説明: 選択されたジョブのデータ・セットは、どれも空のデータ・セットです。ブラウズするデータがありません。

応答: なし。

NO DATA SETS ALLOCATED

説明: 表示するジョブの各データ・セットについて、割り振りの失敗が起きました。データ・セットは 1 つも割り振られないため、ブラウズできません。

システムは、さらに特定の割り振りエラーを表すメッセージを出すことがあります。

応答: システム・メッセージを使い、割り振りエラーの原因を判別し、要求を再試行してください。

NO DATA SETS AUTHORIZED

説明: ユーザーがジョブを表示しようとしたのですが、そのユーザーが表示することを許可されたデータ・セットはありません。

応答: 誤って許可を否定された場合は、詳細は、137ページの

ージの『ユーザー許可』を参照してください。

NO DATA SETS OPENED

説明: 表示するジョブの各データ・セットのオープン・エラーが起きました。データ・セットは 1 つもオープンされないため、ブラウズできません。

システムは、さらに、このエラーを説明するメッセージを出すことがあります。

応答: メッセージのエラー・コードを使って、オープン・エラーの原因を判別してください。

NO DISPLAYABLE DATA

説明: ユーザーがジョブの SYSOUT データを表示しようとしたのですが、そのジョブには、そのユーザーが表示できるデータがありません。

応答: コマンドを削除するか、コマンド行に RESET と入力してください。

NO HELP AVAILABLE

説明: SDSF ヘルプ・パネル・データ・セットの割り振りまたはオープンができなかったため、SDSF が TSO のもとでヘルプ・パネルを表示できませんでした。

応答: SDSFMENU データ・セットが SDSF ヘルプ・パネル・ライブラリーに割り振られているかどうかを調べてください。ISFPARMS 内で MENUS パラメーターと MENUVOL パラメーターが正しくコーディングされているかどうかを調べてください。

NO OPERLOG FOUND

説明: OPERLOG パネルを表示するために LOG コマンドを入力しましたが、表示できるログ・ストリームがありません。

応答: 単一のシステムに関するメッセージが入っている SYSLOG パネルを表示するには、LOG S と入力してください。

NO PREFIX 'string' FOUND

説明: FIND コマンドが出されましたが、ストリング *string* は見付かりませんでした。

応答: なし。

NO PREVIOUS INPUT

説明: 繰り返しコマンドを入力しましたが、繰り返すための変更がまだ行われていません。

応答: アクション文字を入力するか、繰り返しコマンド

を使う前にフィールドを上書きしてください。

NO RESPONSE FROM RMF

説明: SDSF の、DA パネルを表示するための、RMF からの応答を待機するタイムアウト限界を超えました。

応答: 要求を再試行してください。このエラーを回避するには、SYSNAME コマンドまたはプルダウン選択を使用して、処理されるシステム数を制限してください。

NO RESPONSE RECEIVED

説明: コマンド応答またはシस्पレックス・データの遅延間隔に達しました。SDSF パネルにコマンド応答またはデータは表示されません。

応答: コマンド応答を表示するには、ULOG コマンドを出して、ユーザー・ログを表示してください。遅延間隔を大きくするには、SET DELAY コマンドを使用してください。

シस्पレックス・データの遅延間隔を大きくするには、SET TIMEOUT コマンドを使用してください。

また、次のもの (1 つまたは複数) を使用して、戻されるシस्पレックス・データの量を制限することもできます。

- パネル・コマンドのパラメーター。たとえば、PR 1 と入力すると、プリンター 1 だけが表示されます。
- SYSNAME コマンドまたはプルダウン選択。表示されるシステムを制限します。
- DEST コマンドまたはプルダウン選択。表示される宛先を制限します。
- SELECT コマンド。固定フィールドを基にパネルを制限します。たとえば SELECT PRT33 と入力するとプリンター PRT33 だけが表示されます。

Filter 機能を実行しても、戻されるデータは制限されないことに注意してください。

これらの方法で問題を解決できない場合は、オペレーターまたはシステム・プログラマーが、F *server*,D,C コマンドを出して、1 つ以上の SDSF サーバーが停止していないことを確認してください。また、システム・プログラマーは、通信の問題が起きていないかどうかを確認するため、MQSeries 構成についても検討してみてください (OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティ を参照)。

NO SUFFIX 'string' FOUND

説明: FIND コマンドが出されましたが、文字ストリング *string* は見付かりませんでした。

応答: なし。

NO SYSLOG DATA

説明: どの SYSLOG データ・セットにも SYSLOG データが見付かりませんでした。

応答: 適切な SYSLOG データ・セットに対して SYSID コマンドが出されているのか、あるいは保管された SYSID の値が正しいかどうかを検査してください。

NO WORD 'string' FOUND

説明: FIND コマンドが出されましたが、文字ストリング *string* は見付かりませんでした。

応答: なし。

NOT ALLOWED WITH OUTDESC

説明: 出力記述子名とともに、書式、処理モード、PAGEDEF、または FORMDEF の値が入力されました。出力記述子名が使われている場合、これらのフィールドは指定できません。

応答: 出力記述子名が使われている場合は、書式、処理モード、PAGEDEF、または FORMDEF の値を削除してください。あるいは、出力記述子名を削除してください。

NOT AUTH TO OPERLOG

説明: OPERLOG パネルを表示するために LOG コマンドを入力しましたが、OPERLOG パネルに表示されるログ・ストリームへのアクセスが許可されていません。

応答: 単一のシステムに関するメッセージが入っている SYSLOG パネルを表示するには、LOG S と入力してください。

NOT AUTHORIZED BY EXIT

説明: SDSF ユーザー出口が使用を許可していないコマンドを出そうとしました。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合は、システム・プログラマーは、SDSF ユーザー出口モジュール ISFUSER を調べてください。

NOT AUTHORIZED FOR CHOICE

説明: このプルダウン選択項目の選択を許可されていません。

応答: 別の項目を選択するか、PF3 を押してプルダウンをクローズしてください。現行 SDSF セッション中にユーザーの許可を変更し、変更内容がプルダウンにま

だ反映されていない場合は、選択項目に関連した SDSF コマンドを入力するか、または SDSF を終了して再開します。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR CLASS

説明: ユーザーは、そのクラスに対してコマンドを出す許可を得ていません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR CMD

説明: 許可されていない、アクション文字を出すか、フィールドの上書き、MVS コマンドあるいは JES2 コマンドの実行を試みました。

応答: 出されたアクション文字、上書きされた情報、または出された MVS コマンドか JES2 コマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR CONS

説明: 拡張コンソールをアクティブにしようとしたのですが、このコンソールへのアクセスが許可されていません。コンソールはアクティブにされず、ULOG パネルにはメッセージ応答が表示されません。あるいは、スラッシュ (/) コマンドにはメッセージ応答がありません。

応答: セキュリティ管理者に連絡し、拡張コンソールへのアクセスの許可をもらってください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR DEV

説明: ユーザーは、その装置に対してコマンドを出す許可を得ていません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

行先: メッセージ域

NOT AUTHORIZED FOR DEST

説明: 要求した宛先名へのアクセスが許可されていません。

応答: 宛先名を削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR FUNCTION

説明: ポップアップが提供する機能へのアクセスが許可されていません。

応答: このポップアップを取り消してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR INIT

説明: イニシエーターへコマンドを出すことが許可されていません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR JOB

説明: このジョブへコマンドを出すことを許可されていません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR NODE

説明: ユーザーには、そのノードに対してコマンドを出す権限がありません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR PRT

説明: このプリンターへコマンドを出すことが許可されていません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR RES

説明: WLM リソースにコマンドを出すことが許可されていません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR SE

説明: WLM スケジューリング環境にコマンドを出すことが許可されていません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED FOR SYS

説明: この MAS のメンバーへコマンドを出すことが許可されていません。

応答: そのコマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

NOT AUTHORIZED TO DATA

説明: 許可の問題が原因で、サーバーがシスプレック
| ス・データの要求を拒否しました。データは表示されま
| せん。

応答: SDSF を終了し、再びアクセスしてください。

NOT PAGE MODE DATA

説明: ページ・モードではないデータ・セットに対して表示要求が出されました。SDSF は、JES2 によってページ・モードと識別されているデータ・セットのみをページ・モードにあると認識します。SDSF は、表示要求をブラウザ要求に変換します。データ・セットは表示ユーティリティー向けにできていなくても、ODS パネルに表示されます。

応答: なし。

NOT VALID FOR TYPE

説明: アクション文字は、そのジョブ・タイプには無効なアクションです。

応答: 正しいアクション文字を入力してください。

『O』 ACTION REQUIRED

説明: ユーザーが行なおうとしたフィールド変更には、O アクション文字が必要です。

応答: O アクション文字を出してください。

OBTAIN ERROR *return-code*

説明: 印刷データ・セットのオープンが試みられました。OBTAIN 要求が失敗し、戻りコード *return-code* が返されてきました。

システムが、説明のためのメッセージも出す場合があります。

応答: 処理中のデータ・セットが、カタログがポイントするボリューム、あるいはその要求で指定されるボリュームのいずれかに存在することを確認してください。

OFFSET NOT ZERO

説明: ISFNTBL マクロで宛先名の後ろに指定された値が 1 ではありません。IDEST パラメーターで指定された ISFNTBL マクロでは、この値は必ず 1 でなければなりません。

応答: システム・プログラマーは、ISFGRP マクロの IDEST パラメーターで指定されている ISFNTBL マクロを調べてください。

OPERLOG NOT ACTIVE

説明: LOG O コマンドを入力しましたが、ログオンしているシステムで OPERLOG がアクティブではありません。OPERLOG パネルは表示されますが、ユーザーがログオンしているシステムからのメッセージは入っていない可能性があります。

応答: ログオンしているシステムからのメッセージを表示するには、LOG または LOG S を入力してください。

OPTS=mask REC-CNT=record-count

DSNAME=data-set-name

説明: このメッセージは、TRACE コマンドに応じてメッセージ行に表示されます。*mask* はトレースに使用されるイベント・マスク、*record-count* はトレース・データ・セットに書き込まれるレコード数、*data-set-name* はトレース・データ・セットの名前です。

応答: なし。

**** OS CVOL ERROR

説明: このメッセージは、ALLOC ERROR *return-code error-code information code* というメッセージとともに出されます。

応答: なし。

OS/390 2.4.0 JES2 REQUIRED IN ALL MEMBERS OF THE MAS

問題判別: プルダウン選択には、MAS のすべてのメンバーに OS/390 2.4.0 JES2 環境が必要です。MAS の 1 つまたは複数のメンバーの場合、JES2 のレベルが OS/390 2.4.0 より前であるか、OS/390 2.4.0 JES2 機能が使用可能になっていません。JES2 機能を使用可能にするに関する詳細については、OS/390 JES2 コマンドの \$ACTIVATE コマンドの説明を参照してください。この要求は処理されません。

応答: プルダウン選択を削除します。

OS/390 2.4.0 JES2 REQ

問題判別: MAS の 1 つまたは複数のメンバーの JES2 レベルが OS/390 2.4.0 より前であるか、OS/390 2.4.0 JES2 機能が使用可能になっていない状態で、JC コマンドが入力されました。JES2 機能を使用可能にするに関する詳細については、OS/390 JES2 コマンドの \$ACTIVATE コマンドの説明を参照してください。この要求は処理されません。

応答: そのコマンドを削除してください。

OUTADD ERROR *return-code-reason-code*

説明: PRINT コマンドに出力記述子を作成しているときにエラーが起きました。*return-code* は OUTADD マクロからの 10 進数の戻りコードで、*reason-code* は 16 進数の理由コードです。PRINT 要求は実行されません。

応答: 戻りコードおよび理由コードを使ってエラーを診断してください。

OUTPUT DESC NOT AVAIL *return-code*

説明: JDS パネルに表示されているデータ・セットのうち少なくとも 1 つについて、出力記述子を得ようとしたが、エラーが発生しました。出力記述子フィールドは、PAGEDEF、FORMDEF、TITLE、NAME、BUILDING、DEPARTMENT、ROOM、ADDRESS (1 行から 4 行)、NOTIFY、および USERLIB です。

メッセージ・テキストにある *return-code* は、エラーの発生場所を示す理由コードで、次のとおりです。

- 01 -- SJF サービス・エラー
- 02 -- SWBIT ブロック妥当性検査エラー
- 03 -- SWBIT ジョブまたはデータ・セット・キーの妥当性検査エラー
- 04 -- SWBIT 読み取り入出力エラー

そのデータ・セットの出力記述子は表示されません。理由コードが 01 であれば、メッセージ ISF027I も出され、そのデータ・セットと発生したエラーをさらに詳しく識別します。

応答: エラー原因の究明をシステム・プログラマーに依頼してください。

OVERTYPE VALUE TOO LONG

説明: 上書き拡張ポップアップに入力された値が、そのフィールドの最大幅より長くなっています。

応答: 値を訂正してください。

number PAGES PRINTED

説明: PRINT コマンドが出され、*number* ページが印刷されました。

応答: なし。

PARM INVALID

説明: 入力したコマンドに、無効なパラメーターが入っているか、無効なプリンター名が入っています。または、そのパラメーターが現行環境では使えません。カーソルは、エラーのあるパラメーターの下に置かれます。

応答: 無効なパラメーターを訂正してください。

PARTIAL DATA SHOWN

説明: PR パネルの生成中、SDSF はプリンターが動的に追加されたことを検知しました。プリンター・リストがテーブル再試行制限を超えたため、SDSF は完全なプリンター・リストを作成できませんでした。プリンター・リストが不完全です。

応答: プリンターの動的追加が完了した後、PR パネルをリフレッシュしてください。

number PREFIX string

説明: FIND コマンドが実行され、指定の文字ストリングが *number* 個見付かりました。SDSF が 999,999 個を超える文字ストリングを見付けた場合、*number* は 999999+ になります。カーソルはその文字ストリングに置かれます。

応答: なし。

PREFIX INVALID

説明: SYSLOG パネルまたは ODS パネル以外のパネルで、FIND コマンドで PREFIX パラメーターが使われました。カーソルはその文字ストリングに置かれます。

応答: なし。

PRINT ABEND *abend-code*

説明: SDSF 印刷要求の途中で異常終了が起きました。*abend-code* は 16 進数の異常終了完了コードです。印刷操作は打ち切られ、印刷ファイルはクローズされません。

応答: 異常終了コードを用いて、その異常終了の原因を判別してください。異常終了についてさらに説明するメッセージが、システムから出されることもあります。

PRINT ALREADY OPEN

説明: オープンしようとした印刷ファイルは、すでにオープンされていました。

応答: 別の印刷ファイルを使う場合は、PRINT CLOSE コマンドを出して現ファイルをクローズしてください。

現印刷ファイルを使う場合は、PRINT コマンドまたは印刷アクション文字 (X) を用いて、そのファイルに印刷してください。

PRINT CLOSED *number* LINE

説明: PRINT CLOSE コマンドまたは印刷アクション文字が出され、*number* だけの行を印刷してから、印刷ファイルがクローズされました。

応答: なし。

PRINT ENDED -- LOOP COND

説明: 印刷オープン・データ・セットを印刷しようとした。データ・セットは印刷されませんでした。このエラーは、アクティブな印刷ファイルを印刷しようとしたり、アクティブな SDSF トレース・データ・セットを印刷しようとする発生します。

応答: ユーザーの TSO セッションに属する印刷オープン・データ・セット以外のデータ・セットは、JDS パネルから個別に印刷することができます。印刷を行う前に、PRINT CLOSE または TRACE OFF コマンドを出してください。

PRINT FILE ERROR

説明: 印刷のために指定した *DD* 名が見付かりません。

応答: *ddname* を割り振ってから、要求を再試行してください。

PRINT NOT OPENED

説明: 印刷オープン・データ・セットを要求するコマンドが出されましたが、印刷データ・セットがオープンされていませんでした。

応答: PRINT OPEN コマンドか PRINT ODSN コマンドのいずれかを出して、その要求を再試行してください。印刷の詳細については、91ページの『PRINT -- 画面イメージまたはデータを印刷する』またはオンライン・ヘルプを参照してください。

PRINT OPEN ERROR

説明: PRINT OPEN コマンドまたは印刷アクション文字が失敗に終わりました。

応答: エラーの原因の診断には、91ページの『PRINT -- 画面イメージまたはデータを印刷する』またはオンライン・ヘルプを参照してください。

PRINT OPENED

説明: 印刷ファイルが正常にオープンされました。

応答: なし。

PRINT SCREEN UNAVAILABLE

説明: 画面印刷パネルを要求したときに、別の印刷ジョブが実行中でした。

応答: コマンドを出し直してください。

**** PRIVATE CATALOG ERROR

説明: このメッセージは、ALLOC ERROR *return-code error-code information-code*、または LOCATE ERROR *return-code* メッセージとともに表示され、印刷ファイルの割り振りに失敗した理由を説明します。

応答: PRINT ODSN コマンドで指定したデータ・セットが既存のデータ・セットであることを確認してください。

PROFILE DESCRIPTIONS CREATED.

説明: ISFPARMS から RACF への変換の最初のステップが完了しました。ISFPARMS のプロファイル記述が作成されています。

応答: プロファイル記述が完全かつ適正であるかどうか検討してください。特に、CHANGE のマークが付いている行に注意してください。マークが付いている行は、編集する必要があります。詳細については、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティを参照してください。

PROFILE DESCRIPTIONS DATA SET MUST BE ALLOCATED.

説明: 選択したメニュー・オプションにはプロファイル記述データ・セットが必要ですが、プロファイル記述データ・セットは割り振られていません。プロファイル記述データ・セットは変換ユーティリティー・プロファイル・ポップアップで指定します。このポップアップは、変換ユーティリティー・メニューのオプション 1 を指定すると表示されます。

応答: 別のメニュー・オプションを選択するか、プロファイル記述データ・セットを割り振ってください。このデータ・セットは、レコード長が少なくとも 80 の順次ファイルでなければなりません。

RACF COMMANDS CREATED.

説明: プロファイル記述からの RACF コマンドの作成が完了しました。

応答: RACF コマンドが完全かつ適正であるかどうか検討してください。特に、CHANGE のマークが付いている行に注意してください。マークが付いている行は、編集する必要があります。詳細については、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティを参照してください。

RACF COMMANDS DATA SET MUST BE ALLOCATED.

説明: 選択したメニュー・オプションには RACF コマンド・データ・セットが必要ですが、RACF コマンド・データ・セットは割り振られていません。このデータ・セットは、SDSF セキュリティ支援 (Security Assist) プロファイルで指定します。

応答: 別のメニュー・オプションを選択するか、または RACF コマンド・データ・セットを割り振ってください。このデータ・セットは、レコード長が少なくとも 133 の順次ファイルでなければなりません。

number RECORDS SEARCHED

説明: FIND コマンドで、*number* 個の SYSLOG データ・セット・レコードまたは出力データ・セット・レコードを探索しましたが、要求されたストリングは見付かりませんでした。FIND は、FINDLIM に達する前に終了しました。

応答: 探索繰り返し PF キーを押すかコマンド入力域に F を入れて、探索を再開するか、あるいは許可を得ていれば FINDLIM をリセットしてください。

RESPONSE NOT RECEIVED

説明: 1 つ以上の SDSF サーバーがデータによって応答する前に、タイムアウト間隔に達しました。SDSF パネル上のデータは不完全です。

応答: タイムアウト間隔を大きくするには、SET TIMEOUT コマンドまたはプルダウン選択を使用してください。

また、次のもの (1 つまたは複数) を使用して、戻されるシプレックス・データの量を制限することもできます。

- パネル・コマンドのパラメーター。たとえば、PR 1 と入力すると、プリンター 1 だけが表示されます。
- SYSNAME コマンドまたはプルダウン選択。表示されるシステムを制限します。
- DEST コマンドまたはプルダウン選択。表示される宛先を制限します。
- SELECT コマンド。固定フィールドを基にパネルを制限する。たとえば SELECT PRT33 と入力するとプリンター PRT33 だけが表示されます。

Filter 機能を実行しても、戻されるデータは制限されないことに注意してください。

これらの方法で問題を解決できない場合は、オペレーターまたはシステム・プログラマーが、F *server*,D,C コマンドを出して、1 つ以上の SDSF サーバーが停止していないことを確認してください。また、システム・プログラマーは、通信の問題が起きていないかどうかを確認するため、MQSeries 構成についても検討してみてください (*OS/390 SDSF* カスタマイズおよびセキュリティを参照)。

number RESPONSES NOT SHOWN

説明: 入力したアクション文字またはスラッシュ・コマンドに対して画面上にメッセージが表示され、受け取られたメッセージ応答の数が画面の縦の長さを超えました。*number* のメッセージ応答が表示できませんでした。

応答: すべてのメッセージ応答を表示するためには、ULOG または LOG コマンドを入力してください。

RMF EXIT NOT INSTALLED

説明: SDSF 提供の RMF データ削減出口が、シプレックス内のすべてのシステムにインストールされていません。RMF はインストール済みでアクティブですが、SDSF 出口が RMF *steplib* 内にはないか、アクセスできません。

応答: 出口のインストールについては、*OS/390 SDSF* カスタマイズおよびセキュリティを参照してください。

RMF LOCAL ERR *return-code reason-code*

説明: RMF ERBSMFI アプリケーション・インターフェースの呼び出し中にエラーが起きました。*return-code* と *reason-code* は、インターフェースからの 10 進数の戻りコードと理由コードです。

応答: 戻りコードと理由コード、および適切な RMF 資料を用いて、エラーの原因を判別してください。

RMF NOT ENABLED

説明: データのソースとして RMF による DA パネルへのアクセスが試みられました。RMF は、このシステムでは使用可能になっていません。

応答: 必要ありません。DA パネルは、RMF ではなく、MVS 制御ブロックから入手される情報によって表示されます。DA が RMF ではなく MVS 制御ブロックを使用するように要求し、このメッセージが表示されないようにするために、インストール先のシステムは ISFUSER インストール・システム出口ポイントを使用することができます。インストール・システム出口ルーチンについては、*SDSF* カスタマイズとセキュリティに説明があります。

RMF PLEX ERR *return-code reason-code*

説明: RMF ERB2XDGS アプリケーション・インターフェースの呼び出し中にエラーが起きました。*return-code* と *reason-code* は、インターフェースからの 10 進数の戻りコードと理由コードです。

応答: 戻りコードと理由コード、および適切な RMF 資料を用いて、エラーの原因を判別してください。

オペランドなしで SYSNAME を入力して、ローカル・システムに関するデータを表示すれば、問題を回避することができます。

RMF SYSPLEX NOT ACTIVE

説明: RMF サーバーがアクティブではありません。DA 表示用のシスプレックス・データを入手できません。

応答: オペランドなしで SYSNAME を入力して、ローカル・システムに関するデータを表示すれば、問題を回避することができます。

RMF サーバーについては、システム・プログラマーにお問い合わせください。

SCHED ENV NOT FOUND

説明: 選択されたスケジューリング環境を検索できませんでした。削除された可能性があります。

応答: RES パネルでほかのスケジューリング環境を表示するには、RES コマンドでそれに再度アクセスしてください。別のスケジューリング環境を選択するには、SE パネルに戻ってスケジューリング環境の隣に R アクション文字を入力してください。元々選択されたスケジューリング環境に関する情報については、システム・プログラマーにお問い合わせください。

SCREEN DEFINITION ERROR

説明: SDSF のバッチ実行に、誤ったあるいは無効な画面サイズが指定されました。そのサイズは無視されません。

エラーの原因として次のことが考えられます。

- サイズが大きすぎる
- サイズに数字以外を指定した
- パラメーター指定の構文にエラーがある

応答: 画面サイズを訂正して、SDSF ジョブを再入力してください。

SCREEN IMAGE PRINTED

説明: SDSF の PRINT SCREEN コマンドにより、画面の内容が印刷されました。

応答: なし。

SDSF ABEND *abend-code*

説明: 回復可能な異常終了が起きました。*abend-code* は 16 進数の異常終了完了コードです。SDSF は続行されます。使用できなくなる機能もあります

応答: 異常終了コードとダンプを使用して、問題を診断してください。

SERVER NAME *server-name* TOO LONG

説明: SERVER パラメーターに指定されたサーバー名 *server-name* が 8 文字を超えています。

応答: *server-name* を訂正してください。

SERVER *server-name* NOTAVAIL

説明: SDSF が SERVER キーワードを使用して呼び出されましたが、ネーム・サーバーが使用できません。SDSF は、アセンブラー・マクロ形式の ISFPARMS のパラメーターを使用して続行します。

応答: ネーム・サーバーが実行中であり、ISFPARMS ステートメントがアクティブにされていることを確かめてください。

SET COMMAND COMPLETE

説明: ユーザーが SET コマンドを出し、その処理が完了しました。

応答: なし。

SET SCREEN FAILED *function code*

説明: SDSF が ISPF ダイアログ管理機能からエラーを受け取りました。*function* は、失敗した ISPF ダイアログ機能を示す番号です。番号とそれに対応する機能は次のとおりです。

- 01 -- VDEFINE
- 02 -- VGET
- 03 -- DISPLAY
- 04 -- VPUT
- 05 -- VCOPY
- 06 -- ADDPOP
- 07 -- VREPLACE

code は、失敗に終わった機能から返されてきた戻りコードです。戻りコードの意味については、*ISPF ダイアログ管理の手引きおよび解説* または *OS/390 ISPF サービスの手引き* を参照してください。

応答: システム・プログラマーは、ISPF 機能のエラーを訂正してください。

SORT COLUMN NOT FOUND

説明: SORT コマンドが入力されましたが、指定の欄名がそのパネルにありません。カーソルは、認識されなかった欄名の下に置かれます。

応答: 欄名を訂正して、コマンドを出し直してください。

SORT COLUMN NOT UNIQUE

説明: 簡略表記形の欄名を用いて SORT コマンドが入力されましたが、その欄名がそのパネル内の 1 つの欄だけを固有に識別するものではありません。カーソルは、エラーのある欄名の下に置かれます。

応答: 固有の省略表記形または完全な欄名を指定して、コマンドを再入力してください。

SORT COLUMN REPEATED

説明: SORT コマンドが入力されましたが、メジャー・ソート欄とマイナー・ソート欄に同じ欄が指定されています。カーソルは、マイナー欄名に置かれます。

応答: ただ 1 つの欄名を指定するか、別々の欄を示す 2 つの名前を指定して、コマンドを再入力してください。たとえば、基本パネルと代替パネルの両方に表示される欄は、その欄名称が両方のパネルで異なっている場合、SORT コマンドでは一度だけ指定してください。

SORT CRITERIA OBSOLETE

説明: これは、SDSF の現セッション中にそのパネルで表示された、最初の表示です。最初の表示では、前のセッションで保管されたソート基準を使います。この保管された基準の両方あるいは片方が、このパネルの ISFPARMS 定義で除去されている欄名を指定しています。セキュリティ変更、リリース移行、あるいはインストール先作成のフィールド・リストのカスタマイズにより、欄が除去された可能性があります。

古い基準は削除されます。まだ有効なソート基準がある場合は、その有効な基準のみを用いてパネルがソートされます。

追加メッセージ INVALID COLUMN が、メッセージ行に表示され、その欄名がもはや存在しないことを知らせます。

応答: アクションは必要ありません。新しいソート基準を設定するために、新しい SORT コマンドを出すこともできます。さらに詳しくは、メッセージ行の追加メッセージを参照してください。

SORT ORDER NOT A OR D

説明: SORT コマンドが出されましたが、指定されたソート順序が A (昇順ソート) でも D (降順ソート) でもありません。カーソルは、エラーのあるオペランドに置かれます。

応答: コマンドを訂正して、再入力してください。

SPOOL DATA ERROR

説明: あるジョブの SYSOUT データを表示しているとき、そのジョブのスパール・データが無効になりました。これは、ジョブが除去された場合、あるいは SYSOUT データが DA パネルから選択され、ジョブがスワップアウトされた場合に起こることがあります。

応答: しばらく時間をおいてから SYSOUT を表示してみてください。ジョブがアクティブでスワップアウトされたのであれば、SYSOUT にアクセスできます。ジョブが除去されているのであれば、SYSOUT は見付かりません。

SPOOL RECORD ERROR

説明: SYSLOG データ・セット中のスパール・レコードが無効になりました。このエラーは、通常、表示中の SYSLOG データがちょうど印刷を終了したことを意味します。

応答: (END コマンドまたは PF キーで) SYSLOG パネルを終了し、(LOG で) 再アクセスしてください。

SSI RETURN CODE *return-code*

説明: ユーザーが H パネルまたは JDS パネルから出力グループを再度キューに入れようとした時、あるいは OD パネルのフィールドに上書きしようとした時に、*return-code* というサブシステム・インターフェース (SSI) 戻りコードが出されました。

応答: システム・プログラマーは、次に挙げる戻りコードについて調べてください。

- 4 -- サブシステムは、この機能をサポートしていません。
- 8 -- サブシステムはありますが、アクティブではありません。
- 12 -- サブシステムがありません。
- 16 -- 機能が完了しませんでした。
- 20 -- 論理エラー。

SSOB RETURN CODE *return-code*

説明: ユーザーが、H パネルまたは JDS パネルから出力グループを再度キューに入れようとした時に、*return-code* という SSOB 戻りコードが出されました。

応答: システム・プログラマーは、次に挙げる戻りコードについて調べてください。

- 4 -- 選択するデータ・セットがもうありません。
- 8 -- ジョブが見付かりません。

- 12 -- 探索アーギュメントが無効です。
- 16 -- 現在は処理できません。
- 20 -- ジョブ名が重複しています。
- 24 -- ジョブ名とジョブ ID の組み合わせが無効です。
- 28 -- 指定した宛先は無効です。

STEP NAME NOT AVAILABLE

説明: ユーザーは、ある開始済みタスクのパフォーマンス・グループ番号をリセットしようとしています。ステップ名が使用不能です。

応答: なし。

SUBS RETURN CODE *return-code*

説明: SDSF の ISFSUBS モジュールまたは ISFLPA モジュールが、戻りコード *return-code* を戻しました。

応答: 戻りコードは次のとおりです。

- 4 -- 誤ったオプションを渡しました。
- 8 -- 許可状態ではありません。
- 12 -- JES2 システムが違います。
- 16 -- 要求されたアドレス・スペース ID が無効です。
- 20 -- 要求されたアドレス・スペース ID が TSO ユーザーではありません。
- 24 -- JES2 がアクティブではありません。
- 28 -- ジョブ・キーが誤っています。
- 32 -- SRB が異常終了しました。
- 36 -- パラメーターが無効です。
- 40 -- ユーザーはスワップアウトされています。
- 44 -- ISFLPA サブルーチンが使用不能です。
- 48 -- 異常終了処理パラメーター。
- 52 -- データ・セット・キーが誤っています。
- 56 -- メンバー - トラック - トラック・レコード (MTTR) が誤っています。

SUBS RETURN CODE 56 がログ中にランダムに現れ、ユーザーが Enter を押すと消える場合、およびシステムのページング率が高い場合は、このメッセージはタイミング上で問題が起こる可能性があることを示しています。メッセージが表示されたら、Enter キーを押してください。

エラー・メッセージが一貫して繰り返し現われるときは、ISFLPA モジュールまたは ISFSUBS モジュールが稼働している JES2 システムとは異なるレベルにある可能性があります。次の点を確認してください。

- 最後に JES2 に保守を適用した後、ISFSUBS と ISFLPA を再アSEMBルしたか。
- ISFSUBS と ISFLPA のバージョンをどこに保管したか。
- モジュールは正しいレベルか。レベルを検査するため、ダンプ中の日付と比較して、ISFSUBS と ISFLPA のリストの日付を調べてください。

- 60 -- バッファーがいっぱいです。
- 64 -- GETMAIN は失敗しました。
- 68 -- ユーザーは取り消されました。
- 72 -- アテンション・キーが押されました。
- 76 -- クロス・メモリーがアクティブではありません。
- 80 -- アプリケーション・コピーが誤っているためのエラー。
- 84 -- アプリケーション・コピー・レベルのエラー。
- 88 -- アプリケーション・コピー更新エラー。
- 92 -- アプリケーション・コピーがもう使用できません。
- 96 -- ECSA アプリケーション・コピーがもう使用できません。
- 100 -- スプール・データ・セット名に対する呼び出しが無効です。
- 104 -- バッファー・サイズが無効です。
- 108 -- 動的プリンターの追加がオーバーフロー。
- 112 -- JQE が無効になりました。
- 116 -- SJB/SDB が無効です。
- 120 -- チェックポイント・バージョンのエラー。
- 124 -- サブシステムが定義されていません。
- 128 -- バッファー・ヘッダーが無効です。
- 132 -- プリンター・データを取得できません。

ISFLPA 戻りコードは次のとおりです。

- 4 -- 誤ったオプションを渡しました。
- 52 -- データ・セット・キーが誤っています。
- 56 -- メンバー - トラック - トラック・レコード (MTTR) が誤っています。

ISFSUBS 戻りコード 56 については、上記を参照してください。

60 -- バッファがいっぱいです。

104 -- バッファ・サイズが無効です。

116 -- SJB/SDB が無効です。

number **SUFFIX** '*string*'

説明: FIND ALL コマンドが実行され、指定の文字ストリングが *number* 個見付かりました。SDSF が 999,999 個を超える文字ストリングを見付けた場合、*number* は 999999+ になります。カーソルはその文字ストリングに置かれます。

応答: なし。

SUFFIX INVALID

説明: ログ・パネルまたは ODS パネル以外のパネルで、FIND コマンドとともに SUFFIX パラメーターが使われました。

応答: コマンドを訂正して、出し直してください。

SWB ERROR *nnnn-real-rea2*

説明: SWB 変更要求を出している際にエラーが起きました。メッセージ・テキストで、*nnnn* は SWB 変更要求からの 10 進数の戻りコードです。*real* および *rea2* は、10 進数の理由コードです。

応答: 変更要求を出し直してみてください。エラーが継続する場合には、システム・プログラマーに連絡して援助を求めてください。

field-name **SYNTAX ERROR**

説明: 出力記述子が上書きされましたが、SJF は、*field-name* キーワードの入力に構文エラーを検出しました。変数 *field-name* は出力記述子の名前で、表示画面上のフィールド名称とは必ずしも一致していない可能性があります。

応答: 上書きを訂正してください。

number **SYSOUT REQUEUED | PURGED**

説明: ユーザーの要求に対する応答で、*number* SYSOUT データ・セットが再びキューに入れられるかまたは除去されました。

応答: なし。

SYSPLEX DA NOT AVAIL

説明: シスプレックス全体に関する DA 表示を要求しましたが、RMF ERB2XDGS インターフェースがロードできなかったか、インストール先が、DA 表示のための RMF の使用を禁止しています。

応答: アクションは必要ありません。RMF サーバーについては、システム・プログラマーにお問い合わせください。

SYSTEM NOT CONNECTED

説明: MAS のメンバーに対してコマンドが出されました。このコマンドはシステムに対して出されなければなりません、システムにアクセスできません。

応答: システムが接続されたら、コマンドを再試行してください。

TEMP FILE ALLOC FAILED

説明: GDDM 表示ユーティリティに必要一時ファイルを割り振ろうとしているとき、エラーが起きました。データ・セット表示要求は打ち切られます。

応答: システムがエラーを説明するメッセージを出している、それを参照してください。

TEMP FILE OPEN FAILED *reason-code*

説明: GDDM 表示ユーティリティに必要一時ファイルをオープンしようとしているとき、エラーが起きました。データ・セット表示要求は打ち切られます。*reason-code* は次のいずれかです。

01 -- SDSF は、一時ファイル DCB をオープンできませんでした。エラーの詳細は、これとともに出されるメッセージで説明されています。

02 -- 一時ファイルのブロック・サイズが、割り振られた DASD 装置の容量を超えました。

応答: エラーの原因を突き止め、表示要求を出し直してください。*reason-code* が 02 であれば、システム・プログラマーは一時ファイルの装置名 (ISFPARMS にある ISFGRP マクロの VIO キーワードで定義) を、作成されるページ・モード・データのコピーを収められるだけの容量をもつ装置に変更してください。

TOO FEW PARMS

説明: コマンドに指定されているパラメーターが少なすぎます。SDSF はコマンドを処理しません。

応答: コマンドを訂正して、要求を再試行してください。

TOO MANY COLUMNS SELECTED

説明: ポップアップで選択した欄またはブロックが多すぎます。

応答: 選択を訂正してください。ARRANGE の場合、1 つの欄しか選択できません。

TOO MANY DEST NAMES

説明: ユーザーの ISFGRP マクロの IDEST パラメーターで指名している ISFNTBL マクロで、4 個を超える宛先名が指定されました。

ISFGRP マクロの IDEST パラメーターで指定される ISFNTBL マクロでは、宛先名を 4 個までしか指定できません。

応答: システム・プログラマーは、ユーザーの ISFGRP マクロの IDEST パラメーターで指定されている ISFNTBL マクロを調べてください。DEST コマンドを削除するか、最大数を超えないように訂正してください。

TOO MANY PARMS

説明: コマンドで指定されたパラメーターが多すぎます。

応答: コマンドを訂正するか、削除してください。

* TOP OF DATA REACHED *

説明: FIND PREV コマンドまたは FIND FIRST コマンドで、要求された文字ストリングが見付からないままデータの先頭に達しました。

応答: 探索繰り返し PF キーを押すか、コマンド入力域に F を入力し、データ末尾から探索を再開してください。

TRACE DCB ALREADY CLOSED

説明: TRACE OFF コマンドが入力されましたが、ISFTRACE ファイルはすでにクローズされています。TRACE OFF コマンドは無視されます。

応答: なし。

TRACE DCB ALREADY OPENED

説明: TRACE ON コマンドが入力されましたが、ISFTRACE ファイルはすでにオープンされています。TRACE ON コマンドは無視されます。

応答: なし。

TRACE DCB CLOSED

説明: TRACE OFF コマンドが出され、ISFTRACE ファイルがクローズされました。

応答: なし。

TRACE DCB OPENED

説明: TRACE ON コマンドに応じて、ISFTRACE ファイルがオープンされました。

応答: なし。

TRACE NOT AVAILABLE

説明: SDSF は分割画面モードで動作しています。このメッセージが出された方のセッションでは、トレース機能を使用できません。他方のセッションでは、トレース機能を使用することができます。

応答: トレース機能を使用するには、セッションをスワップしてください。

TRACE OFF - ABEND *abend-code*

説明: 入出力エラーが起こったため、SDSF がトレースをオフにしました。異常終了コード *abend-code* のシステム異常終了が起こりましたが、SDSF によって処理されました。

応答: トレースを続けるには、新しいトレース・データ・セットを割り振ってください。異常終了の詳細については、適切なシステム・コードの資料を参照してください。

TRACE OFF - PERM I/O ERR

説明: 入出力エラーが起こったため、SDSF がトレースをオフにしました。

応答: トレースを続けるには、新しいトレース・データ・セットを割り振ってください。

TRACING IS ON/OFF

説明: TRACE コマンドが出されました。トレースの状況 (オンまたはオフ) が示されます。

応答: なし。

TYPE A COLUMN NAME

説明: 欄名が必要なフィールドがブランクのままです。

応答: 有効な欄名をフィールドに入力してください。

TYPE A NUMBER IN THIS FIELD

説明: 数値フィールドに数値でないデータを入力したか、数値フィールドがブランクのままです。カーソルがエラーのあるフィールドに位置付けられています。

応答: 数値データをフィールドに入力してください。

TYPE A OR D FOR SORT ORDER

説明: Sort ポップアップに、A、D、またはブランク以外を入力しました。有効な値は、A (昇順) または D (降順) です。文字がブランクの場合、昇順になります。

応答: A または D を入力するか、あるいは文字をブランクで消去してください。

TYPE DIFFERENT COLUMNS FOR MAJOR AND MINOR

説明: メジャー欄のフィールドとマイナー欄のフィールドに同じ欄名を入力しました。1 つの欄名は、メジャー欄またはマイナー欄のいずれか一方としてしか使用できません。

応答: いずれかの欄名を変更するか、マイナー欄を除去してください。

TYPE LINES OR TIMES AND DATES

説明: Print ポップアップで Enter を押しましたが、印刷する行数または日時を指定しませんでした。

応答: 行数または日時を示す値をタイプしてください。

ULOG CLOSED

説明: ULOG CLOSE コマンドが出され、ユーザー・ログが正常にクローズされました。すべてのメッセージ応答はユーザー・ログから削除され、拡張コンソールは非活動化されます。

応答: なし。

UNAUTHORIZED SAVED DEST

説明: 前の SDSF セッションで保管された宛先をこのユーザーが表示することは、もはや許可されていません。

応答: なし。SDSF は、残りの保管された値で初期設定されます。許可されている宛先が 1 つもないと SDSF は ISFPARMS の IDEST パラメーターに基づいて初期設定されます。

UNBALANCED PARENTHESIS

説明: ユーザーはフィールドへの上書きで、必要な括弧を指定し忘れました。

応答: 必要な括弧を入れてください。

UNBALANCED QUOTES

説明: 終了引用符がないか、末尾に余分な引用符があります。

応答: 引用符を訂正するか、または新しいストリングを入力してください。

UPDATE LENGTH TOO LONG

説明: & コマンドで入力された更新間隔が、3 桁を超えています。

応答: 間隔に 999 以下を指定して、& コマンドを再入力してください。

UPDATE NOT AUTHORIZED

説明: 自動更新モードに入るための & コマンドを出そうとしましたが、許可されていません。

応答: & コマンドを削除してください。

誤って許可を否定された場合、詳細は、137ページの『ユーザー許可』を参照してください。

UPDATE TIME TOO SMALL

説明: ユーザーは、& コマンドを出して自動更新モードに移行しようとしたのですが、指定された更新間隔が、インストール先定義の最小間隔に満たない値でした。

応答: もっと大きな間隔を指定して、& コマンドを再試行してください。

USE EQ,NE WITH PATTERNS

説明: 「より小さい」または「より大きい」の演算子を、パターン・マッチングを含んでいる値に対して指定しました。

応答: 演算子を EQ または NE に変更するか、またはパターン・マッチングを除去してください。

USE EQ OR NE WHEN THE FILTER VALUE INCLUDES PATTERN MATCHING

説明: 「より小さい」または「より大きい」の演算子を、パターン・マッチングを含んでいる値に対して指定しました。

応答: 演算子を EQ または NE に変更するか、または

パターン・マッチングを除去してください。

**** VOLUME NOT MOUNTED

説明: このメッセージは、ALLOC ERROR *return-code error-code information-code* または OBTAIN ERROR *return-code* というメッセージとともに出され、印刷ファイルの割り振りに失敗した理由を説明しています。

応答: PRINT ODSN コマンドが、有効な既存のデータ・セットを指定して出されていることを確かめてください。

WIDTH CANNOT EXCEED *maximum*

説明: Arrange 機能で指定した欄の幅が、許容最大値の *maximum* を超えています。

応答: 欄の幅を有効な数値に変更してください。

メッセージ番号付きのメッセージ

この項では、SDSF から出されるメッセージ番号付きメッセージについて説明します。

メッセージ番号に続く文字は、次のようにメッセージの重大度を表します。

- I** 通知
- W** 警告。 コマンドは処理されるか、ISFPARMS がアクティブにされます。ISFPARMS の場合は、SDSF が矛盾を検出し、パラメーター値を変更した可能性があります。
- E** エラー。コマンドは処理されず、ISFPARMS はアクティブにされません。

ISF001I ERROR PROCESSING SYSLOG *Sdata-set-number*

説明: SYSLOG データ・セット *data-set-number* のスプール制御ブロックを読んでいるとき、エラーが起きました。SYSLOG データ・セットの制御ブロック・ストラクチャーが無効です。このメッセージが出されたのは、SDSF が SYSLOG データ・セットにアクセスできないためである可能性があります。その理由としては、データ・セットにエラーが含まれているか、データ・セットがスピン・データ・セットでないことが考えられます。

応答: 問題が SYSLOG データ・セットにあるかどうかを確かめるため、SDSF を使ってそのデータ・セットを探し、ブラウズしてみてください。SDSF がそのデータ・セットをブラウズできなければ、データ・セットにエラーがあります。この場合、スプールからページしなければなりません。

number WORD 'string'

説明: FIND ALL コマンドが実行され、指定の文字ストリングが *number* 個見付かりました。SDSF が 999,999 個を超える文字ストリングを見付けた場合、*number* は 999999+ になります。カーソルはその文字ストリングに置かれます。

応答: なし。

WORD INVALID

説明: ログ・パネルまたは ODS パネル以外のパネルで、FIND コマンドとともに WORD パラメーターが使われました。

応答: なし。

ISF002I MASTER SYSLOG INDEX FULL

説明: SDSF SYSLOG 索引のマスター索引レコードがいっぱいです。これは、出力キューで待機中の SYSLOG データ・セットの数が、索引の現ブロック・サイズでは収容しきれないほど多いためです。

応答: システム・プログラマーは、SYSLOG データ・セットをいくつか印刷するか、ISFPARMS にある ISFPMAC マクロの IDBLKS パラメーターにもっと大きなブロック・サイズを指定してください。

問題が続くようであれば、システム・プログラマーは次のことを行ってください。

1. W CLOSE を出して、SYSLOG を停止させる。
2. SYSLOG データ・セットをバージする。
3. 以下のコマンドを出して、再 IPL を行わずに SYSLOG タスクをリスタートする。

```
W START
V SYSLOG,HARDCPY,ROUT=ALL
```

ISF003I NEEDED SPOOL VOLUME NOT OPEN

説明: SDSF が必要とするスプール・ボリュームをオープンできません。これはスプール・ポインターが無効であるか、割り振りが失敗したか、スプール・ボリュームが使用不能のためです。システムは、さらに、このエラーを説明するメッセージを出すことがあります。

応答: 割り振りエラーが発生した場合、システム・メッセージを使って、エラーの原因を判別してください。

スプール・ボリュームが使えない場合は、システム・オペレーターに連絡し、スプール・ボリュームをマウントしてください。

ISF004I I/O ERROR ON SPOOL READ

説明: スプール・レコードを読み取ろうとしているとき、入出力エラーが起こりました。SDSF の論理エラーが原因である場合もあるし、処理中のジョブにおける制御ブロック・エラーが原因である可能性もあります。

応答: 問題が処理中のジョブにある場合は、オペレーターはフィルター・コマンドを使用して、どのジョブが問題を起こしているのかを突き止めてください。

たとえば、オペレーターが次のジョブについて、ある SDSF パネルを呼び出したとします。

```
ABLEJOB
ABLEBJOB
ANDJOB
BJOB
BBBJOB
CJOB
```

オペレーターが PREFIX A* を出すと、パネルに次のジョブが表示されます。

```
ABLEJOB
ABLEBJOB
ANDJOB
```

パネル上にまだエラー・メッセージが表示されていれば、問題はこの 3 つのジョブのうちの 1 つにあることになります。オペレーターが 2 つ目の PREFIX コマンドとして PREFIX ABLE* を出すと、パネルには次のジョブが表示されます。

```
ABLEJOB
ABLEBJOB
```

エラー・メッセージがパネルに表示されなくなりました。オペレーターは、問題が ABLEJOB に関するものでもなければ ABLEBJOB に関するものでもなく、したがって ANDJOB に関するものであるに違いないことがわかります。

エラーを引き起こしているジョブが突き止められたら、そのジョブを SDSF を使用せずに処理してみてください。

い。JES2 がそのジョブをうまく処理できなければ、エラーは SDSF でなくジョブ自体にあると思われます。

ISF005I INVALID IDEST FOR userid entry reason

説明: *userid* の初期設定の際、SDSF は、ISFGRP マクロの IDEST パラメーターに指定されている ISFNNTBL マクロの *entry* の処理中にエラーを発見しました。

ISFGRP マクロは ISFPARMS モジュールにあります。

reason の値は次のとおりです。

INVALID CALL

SDSF に論理エラーがあることを意味します。ローカル・プロシージャーに従って、IBM に連絡してください。問題に関する次の資料を用意しておいてください。

- そのメッセージが出されたとき使用中だったパネルと実行中だった作業の記述。
- メッセージの記録。

INVALID DEST

宛先名がこのシステムでは無効であることを意味します。その名前がインストール先定義の名前であれば、SDSF のインストール時に JES2 がアクティブでなかったことがエラーの原因である可能性があります。

NAME NOT AUTH

SDSF の初期設定時に、ユーザーの ISFGRP マクロの IDEST パラメーターの ISFNNTBL マクロの中に、ユーザーがアクセスする許可を持っていない 1 つまたは複数の宛先名が含まれていることを発見しました。IDEST パラメーターと DEST パラメーターの両方をコーディングしてある場合、ユーザーに権限を与えるためには、IDEST ISFNNTBL マクロに指定した宛先名は、DEST ISFNNTBL マクロにも指定しなければなりません。

これが問題ではない場合は、SDSF に論理エラーがある可能性があります。ローカル・プロシージャーに従って、IBM に連絡してください。その際発生した問題に関する次の資料を用意しておいてください。

- そのメッセージが出されたとき使用中だったパネルと実行中だった作業の記述。
- メッセージの記録。

nnnn NOT SPECIFIED

SDSF の初期設定時または DEST コマンドの処理時に、SDSF は、許可されている宛先名を見つけられませんでした。ユーザーはすべての宛先へのアクセスを許可されているわけではないため、有効な許可済み宛先リストが必要です。nnnn は宛先の数です。

宛先照会 (DEST ?) コマンドを出したときも、許可された宛先名がないと、このメッセージが表示されます。

システム・プログラマーまたはセキュリティー管理者は、そのユーザーの ISFGRP マクロに IDEST パラメーターを追加するか、そのユーザーに ISFOPER.ANYDEST.jesx リソースへのアクセス許可を与えてください。これらの条件が満たされていないと、そのユーザーの宛先フィルターは、ブランクまたは QQQQ の文字ストリングに設定され、パネルにジョブが表示されません。

OFFSET NOT ZERO

ISFNTBL マクロで宛先名の後ろに指定された値が 1 ではないことを意味します。IDEST パラメーターで指定された ISFNTBL マクロでは、この値は必ず 1 でなければなりません。

TOO MANY DESTS

4 個を超える宛先名が指定されたことを意味します。IDEST パラメーターで指名する ISFNTBL マクロには、4 個までの宛先名しか指定できません。

応答: システム・プログラマーは、ユーザーの ISFGRP マクロの IDEST パラメーターで指定されている ISFNTBL マクロを調べてください。ISFGRP マクロについては、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティーで解説しています。

また、インストール先のシステムで独自に定義した名前が最もエラーの原因になりやすいので、システム・プログラマーは、インストール先のシステムで定義した名前を ISFNTBL マクロの最後に置くようにしてください。SDSF は、初期設定の途中で宛先名にエラーを発見すると、そのエラーまでに処理が完了していた宛先名を用いて初期設定を続けます。

**ISF006I ERROR PROCESSING INITIAL
CHECKPOINT REQUEST FOR
SUBSYSTEM *subsystem-name*,
CODE=*error-code*, REASON=*reason-code***

説明: SDSF が初期設定中に *subsystem-name* からチェックポイント・データを入手しようしているときに、エラーが起きました。エラー・コード *error-code* は、以下にリストのように、障害の理由を示します。チェックポイント・バージョンを処理中にエラーが起こった場合、*reason-code* は、チェックポイント・バージョン入手要求からの戻りコード (SSJIRETN) を示します。

応答: 戻りコードおよび理由コードを使ってエラーを診断してください。

- 4 -- 誤ったオプションを渡しました。
- 8 -- 許可状態ではありません。

- 12 -- JES2 システムが違います。
 - 16 -- 要求されたアドレス・スペース ID が無効です。
 - 20 -- 要求されたアドレス・スペース ID が TSO ユーザーではありません。
 - 24 -- JES2 がアクティブではありません。
 - 28 -- ジョブ・キーが誤っています。
 - 32 -- SRB が異常終了しました。
 - 36 -- パラメーターが無効です。
 - 40 -- ユーザーはスワップアウトされています。
 - 44 -- ISFLPA サブルーチンが使用不能です。
 - 48 -- 異常終了処理パラメーター。
 - 52 -- データ・セット・キーが誤っています。
 - 56 -- メンバー - トラック - トラック・レコード (MTTR) が誤っています。
 - 60 -- バッファーがいっぱいです。
 - 64 -- GETMAIN は失敗しました。
 - 68 -- ユーザーは取り消されました。
 - 72 -- アテンション・キーが押されました。
 - 76 -- クロス・メモリーがアクティブではありません。
 - 80 -- アプリケーション・コピーが誤っているためのエラー。
 - 84 -- アプリケーション・コピー・レベルのエラー。
 - 88 -- アプリケーション・コピー更新エラー。
 - 92 -- アプリケーション・コピーがもう使用できません。
 - 96 -- ECSA アプリケーション・コピーがもう使用できません。
 - 100 -- スプール・データ・セット名に対する呼び出しが無効です。
 - 104 -- バッファー・サイズが無効です。
 - 108 -- 動的プリンター定義のオーバーフロー。
 - 112 -- JQE がもう無効です。
 - 116 -- SJB/SDB が無効です。
 - 120 -- チェックポイント・バージョンのエラー。
 - 124 -- サブシステムが定義されていません。
-

**ISF007I CAN NOT FIND MASTER
CHECKPOINT RECORD**

説明: マスター・チェックポイント・レコードが、妥当性検査でエラーになりました。次の原因が考えられません。

- JES2 に対して保守を行った後、SDSF を再アセンブルしていない。
- SDSF のアセンブル中、SYSLIB 連結で使われた SYS1.HASPSRC データ・セットが、処理中の JES2 システムとマッチしていない。
- SDSF インストール時に SMP/E を使用し、JES2 に保守が適用されたが受け入れられなかった。また、SMPMTS データ・セットが、SYSLIB 連結で最初のデータ・セットになっていない。

応答: システム・プログラマーは、上記のどれが原因でメッセージが出されたのかを突き止め、問題を訂正してください。

ISF008I DYNAMIC ALLOCATION ERROR
RC=return-code EC=error-code
IC=information-code DDN=ddname
VOL=volume-serial DSN=data-set-name

説明: データ・セットの動的割り振りでエラーが起きました。

応答: 動的割り振りの戻りコード、エラー・コード、情報コードについては、システム・マクロと機能、またはジョブ管理に関する該当の解説書をご覧ください。

ISF009I SDSF TRACE I/O ERROR

説明: トレース出力データ・セットにレコードを書き出そうとしているとき、エラーが起きました。この SDSF セッションでは、もはやトレースはできません。

応答: 新しいトレース出力データ・セットを割り振ってください。

ISF011I OPEN ERROR ddname

説明: 指示された *ddname* をオープンしようとした時にエラーが発生しました。指定できる *ddname* は次のとおりです。

HASPINDX

SYSLOG 索引データ・セット

SDSFMENU

SDSF ヘルプ・パネル・データ・セット

応答: *ddname* が適切なデータ・セットに割り振られているかどうかを確認してください。

ISF012I SDSF ABEND USERISYSTEM
abend-code AT address IN MODULE
module-name OFFSET offset

説明: SDSF が異常終了し、ユーザーまたはシステムの異常終了コード *abend-code* を戻しました。ユーザー異常終了コードは 10 進数、システム異常終了コードは 16 進数です。

異常終了アドレスがモジュール *module-name* にないと、*address* として UNKNOWN が表示されます。

応答: システム・プログラマーは、ユーザー異常終了コードについては、189ページの『SDSF ユーザー異常終了コード』、システム異常終了コードについては適切なシステム・コードの資料を参照してください。

ISF013I SDSF ABEND R0-R7 *reg0 reg1 reg2*
reg3 reg4 reg5 reg6 reg7

説明: ここにリストしたレジスターは、ISF012I とともに表示されます。

応答: なし。

ISF014I SDSF ABEND R8-R15 *reg8 reg9 reg10*
reg11 reg12 reg13 reg14 reg15

説明: ここにリストしたレジスターは、ISF012I とともに表示されます。

応答: なし。

ISF015I SDSF COMMAND
ATTEMPTEDIEXECUTED *command*
userid logon-proc terminal-name

説明: このメッセージは、処理中のコマンドの最初の 42 文字を示します。テキストが 42 文字を超える場合、テキストの末尾に + 符号が含まれます。

応答: オペレーターは、個々のインストール先で定めている手順に従って対応してください。

注: 実行した (あるいは、実行を試みた) コマンドが REPLY コマンドであれば、このメッセージのコマンド・フィールドには "REPLY *nn*TEXT of REPLY IS SUPPRESSED" が入ります。機密データがログに記録されないよう、REPLY コマンドのテキストは抑止されます。

ISF016I HASPACE OPEN FAILED,
VOL=volume-serial, DSN=data-set-name

説明: SDSF が、ボリューム *volume-serial* にある HASPACE (スプール) データ・セット *data-set-name* を

オープンしようとして、失敗しました。

応答: メッセージに示すスプール・データ・セットは使用できません。したがって、処理中のジョブについてのデータも得られません。システムは、エラーについて説明する追加のメッセージを出していることがあります。システム・プログラマーは、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティを参照して、HASPSPACE データ・セットの割り振りについて調べてください。

**ISF019I OUTPUT REQUEUEIRELEASEIPURGE
ATTEMPTEDISUCCESSFUL
JOBNAME=*jobname* JOBID=*jobid*
CLASS=*class* DEST=*dest* *userid*
logon-proc terminal-name**

説明: 端末 *terminal-name* 上のログオン・プロセス *logon-proc* で実行しているユーザー *userid* が、示されたジョブ (*jobname* と *jobid*) を、クラス *class*、宛先 *dest* に再度キューに入れるか、クラス *class*、宛先 *dest* への出力キューにリリースするか、除去するよう要求しました。メッセージに、再度キューに入れるを試みたが失敗したことが示されている場合、ユーザーは要求を行う許可を持っていなかったということです。

応答: なし。

**ISF020E SDSF LEVEL ERROR FOR MODULE
module, SDSF ASSEMBLED FOR level
BUT JES2 IS AT level *jes2-level***

説明: モジュール *module* のアセンブリー・レベル *level* が、JES2 の実行レベル *jes2-level* にマッチしていないことを SDSF が判別しました。SDSF の初期設定は打ち切られます。

応答: システム・プログラマーは、SDSF が正しいレベルの JES2 MACLIBS を使ってインストールされていることを確かめてください。

**ISF022W RECORD TOO LONGILENGTH ZERO,
jobname (*jobid*), *ddname*, RECORD
number**

説明: あるデータ・セットについて表示機能が要求されましたが、データの読み取り中にエラーが起きました。*number* は、どのレコードでエラーが検出されたかを示す番号です。*jobname* (*jobid*) は処理中だったジョブのジョブ名とジョブ ID で、*ddname* はそのジョブの DD 名です。RECORD TOO LONG の場合、ファイルのレコード長より大きな長さをもつレコードが見付かりました。RECORD LENGTH ZERO の場合、長さが 0 のレコードが見付かりました。

エラーを起こしたレコード以前のレコードは、すべて表

示ユーティリティに渡されます。その他のレコードは無視されます。表示ユーティリティにはデータの一部しか渡されないので、フォーマット設定エラーが起こる可能性もあります。

応答: 表示しようとしているデータ・セットに、表示ユーティリティ用の正しいデータ・ストリームが入っていることを確認してください。

ISF023I I/O ERROR *text*

説明: GDDM 表示ユーティリティへの入力として使われる一時ファイルを SDSF が作成しているとき、入力エラーが起きました。メッセージ中の *text* は、エラーのタイプを記述しています。

エラーを起こしたレコード以前のレコードは、すべて表示ユーティリティに渡されます。その他のレコードは無視されます。表示ユーティリティにはデータの一部しか渡されないので、フォーマット設定エラーが起こる可能性もあります。

応答: 表示しようとしているデータ・セットに、表示ユーティリティ用の正しいデータ・ストリームが入っていることを確認してください。

**ISF024I USER NOT AUTHORIZED TO SDSF,
*reason***

説明: 許可のないユーザーが SDSF を使用しようとしてきました。

応答: ユーザーは、自分が SDSF の使用を許可してもらう必要があるかどうかを、システム・プログラマーまたはヘルプ・デスクに問い合わせてください。

ユーザーは、次のいずれかの理由により、SDSF の使用を許可されていません。

- NO GROUP ASSIGNMENT. ISFPARMS で定義されたユーザーのグループのどれにも入っていない。
- DENIED BY USER EXIT. 初期化出口ルーチンが許可を拒否している。
- SERVER NOT AVAILABLE. ISFPARMS にサーバーが必要であるのにアクティブになっていない。ISFPARMS にとっては、ユーザーがアセンブラー・マクロによって定義された ISFPARMS に戻る許可がない場合は、サーバーが必要です。
- PRODUCT NOT ENABLED. SDSF が OS/390 リリース 2 システムでその呼び出しの登録を試みましたが、登録は失敗しました。実行のために SDSF を使用可能にする必要がある場合は、SDSF の項目について IFAPRDxx parmlib メンバーを調べてください。
- UNEXPECTED INIT FAIL. SDSF が実行中に回復不能エラーを検出しました。ローカル・プロセスから従って、問題を IBM に報告してください。

**ISF025I SDSF SYSLOG INDEX BEING
FORMATTED. DO NOT HIT
ATTENTION!**

説明: 索引で入出力エラーが起こったか、索引で論理エラーが起こったか、JES2 スプール・システムの構成が変更になったため、SDSF SYSLOG 索引 (HASPINDX データ・セット) のフォーマットを再設定しています。アテンション・キーを押さないでください。

SYSLOG 索引が異なる JES2 レベルでフォーマットされていて、ユーザーが異なるレベルの JES にアクセスしようとする、最初のアクセスでフォーマットの再設定が起こります。

応答: なし。

**ISF026I SDSF SYSLOG INDEX IN USE. DO
NOT HIT ATTENTION!**

説明: ユーザーが アテンション・キーを押したとき、SDSF SYSLOG 索引 (HASPINDX データ・セット) は使用中でした。もう 1 度 アテンション・キーを押すと、索引内で論理エラーが起こることがあります。

応答: なし。

**ISF027I ERROR OCCURRED PROCESSING
OUTPUT DESCRIPTORS FOR *jobname*,
procstep, *stepname*, *ddname*,
RC=*return-code* *reason-code***

説明: ジョブ *jobname*、プロシージャ・ステップ *procstep*、ステップ *stepname*、および DD 名 *ddname* の出力記述子を取り出そうとしているとき、エラーが起こりました。スケジューラ JCL 機能 (SJF) SWBTUREQ サービスが失敗し、戻りコード *return-code* と理由コード *reason-code* を返してきました。

示されたデータ・セットの出力記述子は JDS パネルに表示されていません。SDSF メッセージ域に "OUTPUT DESC NOT AVAIL" というメッセージが表示されません。

応答: 戻りコードと理由コードの意味は、SJF マクロ IEF SJTRC に記載されています。SDSF の TRACE コマンドで SJF サービス呼び出しをトレースし、問題に関する情報をさらに入手してください。

**ISF028E ISFGRP INDEX *return-code* HAS AN
INVALID ISFNTBL SPECIFICATION for
listname.**

説明: SDSF の初期設定時に、非宛先リストに対して組み込みリストまたは除外リストを処理しています。そのリストの指定には ISFNTBL TYPE=DEST マクロが使

用されていました。メッセージ・テキスト中の *return-code* は処理中の ISFGRP マクロの索引番号、*listname* は処理中の ISFGRP リストの名前です。

残りの組み込みリストと除外リストが処理されたのち、初期設定は打ち切られます (U0016 異常終了)。

応答: メッセージに示す ISFGRP ステートメントで示された ISFNTBL マクロを訂正してください。

**ISF029I SWB MODIFY
ATTEMPTEDIEXECUTED *data-set-name*
userid *logon-proc* *terminal-name***

説明: 端末 *terminal-name* でログオン・プロシージャ *logon-proc* を使用して実行しているユーザー *userid* が、データ・セット *data-set-name* の出力記述子を変更するよう要求しました。

メッセージに ATTEMPTED と示されている場合、ユーザーにはこの要求を出す許可がありません。メッセージに EXECUTED と示されている場合、要求は実行のためにスケジュールされています。

応答: なし。

**ISF030E SDSF TERMINATING DUE TO
PROGRAM AUTHORIZATION
FAILURE, REASON=*reason-code***

説明: SDSF が呼び出されましたが、許可状態を得ることができません。SDSF 実行は終了します。10 進数の *reason-code* が、以下のようにエラーを説明します。

- 4 -- SDSF SVC オプション・コードが認識できません。
- 8 -- SDSF SVC はプログラム要求ブロック (PRB) から呼び出されていません。
- 12 -- SDSF SVC は SDSF モジュールから呼び出されていません。
- 16 -- SDSF SVC は、許可されたライブラリーにあるモジュールから呼び出されていません。
- 20 -- SDSF SVC は、無効な接頭部をもつモジュールから呼び出されました。
- 24 -- SDSF SVC は、アクティブな ESTAE をもつモジュールから呼び出されました。
- 28 -- SDSF SVC は、XCTL を介して呼び出されたモジュールに呼び出されました。
- 32 -- SDSF SVC は、再入不能モジュールから呼び出されました。
- 36 -- SDSF SVC は、SDSF モジュール内から呼び出されていません。

応答: 理由コードを使って、エラーの原因を判別してください。SDSF が、許可を受けたライブラリーから呼び出され、適切な環境にあることを確認してください。

ISF0311 **CONSOLE** *console-name* (*migration-id*)
ACTIVATED (*share-status*)

説明: コンソール *console-name* を使って、ユーザー・ログが開始されました。マイグレーション ID が割り当てられている場合、*migration-id* には、使用中の ID が入っています。コンソールを共用している場合、*share-status* は (SHARED) になります。

応答: なし。

ISF0321 **CONSOLE** *console-name* **ACTIVATE**
FAILED, RETURN CODE *return-code*,
REASON CODE *reason-code*

説明: 拡張コンソールをアクティブにしようとしたことが失敗しました。メッセージ・テキストには、MCSOPER マクロからの 16 進数の *return-code* と *reason-code* が入っています。

応答: 戻りコードと理由コードを使って、エラーの原因を判別してください。

ISF0331 *console-name* **MESSAGE RETRIEVAL**
FAILED, MCSOPMSG RETURN CODE
return-code, **REASON CODE** *reason-code*

説明: 拡張コンソール *console-name* からメッセージを取り出そうとしましたが失敗しました。メッセージ・テキストには、MCSOPMSG マクロからの 16 進数の *return-code* と *reason-code* が入っています。コンソールは、一部のメッセージを廃棄している場合があります。

応答: 戻りコードと理由コードを使って、エラーの原因を判別してください。ULOG CLOSE コマンドのあとに ULOG コマンドを出し、コンソールをリセットすることができます。

ISF0341 **ULOG IS EMPTY**

説明: ユーザー・ログにアクセスしようとしたが、ユーザー・ログにはレコードが入っていません。

応答: ULOG がアクティブでない場合は、ULOG コマンドを出してアクティブにしてください。

ISF0351 **SDSF SDUMP FAILED, RETURN**
CODE=*return-code* **REASON**=*reason-code*

説明: SDSF が SDUMP を取れませんでした。SDUMP は戻りコードと理由コードを戻します。

応答: 戻りコードと理由コードを使って、エラーの原因を判別してください。

ISF0361 **NO RECORDS TO DISPLAY**

説明: OPERLOG パネルを表示するために LOG コマンドが入力されましたが、表示するログ・レコードがありません。

応答: 単一のシステムに関するメッセージが入っている SYSLOG パネルを表示するには、LOG S と入力してください。

ISF0371 **SDUMP NOT TAKEN, SUPPRESSED**
BY DAE

説明: SDSF が SDUMP を取ろうとしましたが、ダンプ分析重複回避機能 (DAE) コンポーネントによって抑止されました。

応答: なし。

ISF0391 **ERROR PROCESSING ISPF** *service*
RC=*return-code*: *message-text*

説明: ISPF サービス *service* の使用中に、エラーが起こりました。そのサービスからの戻りコードと、ISPF メッセージのテキストが表示されます。

応答: 戻りコードとメッセージ・テキストを使って、問題を理解し解決してください。問題が続くようであれば、ローカル・プロシージャーに従って、問題を IBM に報告してください。

ISF0401 **INVALID MDB DISCARDED FOR**
BLOCKID *blockid*

説明: SDSF は、OPERLOG パネルの表示中に、無効なメッセージ・データ・ブロック (MDB) を検出しました。MDB は廃棄されます。その MDB が検出されたブロックの ID は *blockid* です。

応答: なし。

行先: ERLOG

**ISF101E SDSF INTERNAL ERROR OCCURRED
IN MODULE *module*, REASON CODE
reason-code. ADDITIONAL
INFORMATION: *additional-information***

説明: SDSF または SDSF で必要なシステム・サービスでエラーが発生しました。

応答: 理由コードと追加情報 (存在する場合) を使用して、エラーの原因を判別してください。

理由コードは、次のとおりです。

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>101 実行環境が認識されませんでした。</p> <p>104 サーバーの SVT の妥当性検査が失敗しました。</p> <p>105 IFAEDREG サービスの呼び出しが失敗しました。</p> <p>106 IFAEDDRG サービスの呼び出しが失敗しました。</p> <p>110 システム・シンボル・サービス ASASYMBM が失敗しました。</p> <p>111 システム・シンボル・サービス ASASYMBM 用に提供された出力域が小さすぎます。</p> <p>130 名前 / トークン・サービスのレベルが正しくありませんでした。</p> <p>131 名前 / トークン・サービスの持続インディケータが正しくありませんでした。</p> <p>132 名前 / サービス呼び出しがエラー終了しました。</p> <p>142 IXCARM 登録サービスが失敗しました。</p> <p>143 IXCARM レディー・サービスが失敗しました。</p> <p>144 IXCARM 登録解除サービスが失敗しました。</p> <p>160 SAF 暗号化サービスが失敗しました。</p> <p>161 暗号化鍵が無効です。</p> <p>176 AXSET サービス時にエラーが発生しました。</p> <p>178 ESTAE 設定時にエラーが発生しました。</p> <p>179 ESTAE を削除しているときにエラーが発生しました。</p> <p>180 ATTACH サービス時にエラーが発生しました。</p> <p>182 リソースの ENQ を試行時にエラーが発生しました。</p> <p>184 リソースの DEQ を試行時にエラーが発生しました。</p> <p>174 OS/390 V2.10 SDSF ガイドおよび解説書</p> | <p>185 CIB に予期しないコマンド動詞があります。</p> <p>186 QEDIT サービスの実行時にエラーが発生しました。</p> <p>187 リソース終了マネージャーを作成しているときにエラーが発生しました。</p> <p>188 リソース終了マネージャーを削除しているときにエラーが発生しました。</p> <p>189 現行タスク・トークンを取得しているときにエラーが発生しました。</p> <p>192 ETDES サービスを出す試行時にエラーが発生しました。</p> <p>197 DEVTYPE サービス呼び出し中にエラーが発生しました。</p> <p>198 IEFQMREQ サービス呼び出し中にエラーが発生しました。</p> <p>211 タスク管理テーブルに TCB アドレスがありません。</p> <p>301 必要な REQ アドレスが提供されませんでした。</p> <p>302 予期しない要求がルーチンに送られました。</p> <p>303 現行バージョンでは要求レベルがサポートされていません。</p> <p>511 ルーチンが無効なパラメーター値を検出しました。</p> <p>512 ルーチンが無効な機能コードを検出しました。</p> <p>513 サービスが無効な環境で呼び出されました (たとえば、クライアント要求がサーバー環境で呼び出された場合など)。</p> <p>514 必要なストレージ域が存在しません。</p> <p>515 ストレージ域にアクセスできないか、ストレージ域のキーが誤っています。</p> <p>531 STIMER サービスの実行時にエラーが発生しました。</p> <p>532 TTIMER サービスの実行時にエラーが発生しました。</p> <p>533 サーバー・サブタスクの終了時にエラーが発生しました。</p> <p>555 QEDIT を使用して CIB カウントを設定するときにエラーが発生しました。</p> <p>558 システム LX を予約できません。</p> <p>559 エントリー・テーブルを作成できません。</p> <p>560 エントリー・テーブルを接続できません。</p> <p>561 ALESERV 抽出サービスが失敗しました。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- 562 ALESERV 追加サービスが失敗しました。
- 563 ALESERV 削除サービスが失敗しました。
- 576 リンク・リストにノードを挿入できません。
- 577 DETACH マクロの処理時にエラーが発生しました。
- 578 リンク・リストからノードを削除できません。
- 583 解析アクション・ルーチンに予期しないトークンが渡されました。
- 584 解析トークンを認識できません。
- 585 表示タイプ・キーが正しくありません。
- 586 バッファが小さすぎます。
- 601 CSCA チェーンでデフォルト CSCA が見つかりませんでした。
- 602 サーバー・グループでローカル・サーバーが見つかりませんでした。
- 603 サーバー・グループでサーバーが見つかりませんでした。
- 604 サーバー・グループ内のサーバーの通信プロトコルが指定されていませんでした。
- 605 通信プロトコルのタイプが無効でした。
- 606 要求キューの名前が提供されませんでした。
- 607 サーバー状況テーブルの索引が無効です。
- 608 要求にサーバー状況テーブルが必要ですが、テーブルが定義されていません。
- 609 サーバー状況テーブルにアクティブのマークが付けられていません。
- 610 サーバー状況テーブルを構築できません。
- 611 メッセージを受け取る時にエラーが発生しました。
- 612 要求の関連データ検索ルーチンが割り当てられませんでした。
- 613 要求内のフィールド・オフセットが割り当てられませんでした。
- 614 要求の伝送長がゼロです。
- 615 要求の伝送長が要求の全長より長くなっています。
- 616 現行コンテキストでは要求の発信元が無効です。要求は処理された可能性があります、信頼できません。
- 617 要求にすでに失敗のマークが付けられているので、要求は拒否されます。

- 618 要求キューの名前が無効です。名前が長すぎる可能性があります。

ISF102E I/O ERROR DETECTED BY *module* ON I/O request FOR DDNAME *ddname*, RETURN CODE *return-code*, REASON CODE *reason-code*, additional-information.

説明: SDSF が入出力機能を要求したときにエラーが発生しました。

応答: 追加情報 (存在する場合) には、要求された入出力機能のシステム・メッセージが含まれています。詳しくは、該当するシステム・メッセージ・マニュアルを参照してください。

ISF103E MEMBER *member-name* NOT FOUND, DDNAME *ddname*.

説明: サーバーへの入力として指定したメンバー名が見つかりませんでした。

応答: メンバー名を訂正し、要求を再試行してください。

ISF104E ALLOCATION OF LOGICAL PARMLIB FAILED, RETURN CODE *return-code*, REASON *reason-code*

説明: IEFPRMLB サービスを使用して論理 parmlib の割り振りを試行しているときにエラーが発生しました。

応答: IEFPRMLB サービスからの戻りコードと理由コードを使って、エラーの原因を判別してください。

ISF105E DEALLOCATION OF LOGICAL PARMLIB FAILED, RETURN CODE *return-code*, REASON *reason-code*

説明: IEFPRMLB サービスを使用して論理 parmlib の割り振り解除を試行しているときにエラーが発生しました。

応答: IEFPRMLB サービスからの戻りコードと理由コードを使って、エラーの原因を判別してください。

ISF106W SDUMP ERROR OCCURRED IN MODULE *module*, RETURN CODE *return-code*, REASON CODE *reason-code*.

説明: SDUMP を取っているときにモジュール *module* でエラーが発生しました。示されている戻りコードと理由コードが戻されました。

応答: 戻りコードと理由コードを使って、エラーの原因を判別してください。

ISF107W SNAP ERROR OCCURRED IN MODULE *module*, REASON CODE *reason-code*.

説明: SNAP ダンプを取っているときにモジュール *module* でエラーが発生しました。示されている理由コードが戻されました。

応答: この理由コードを使用して、エラーの原因を判別してください。

ISF108E DCB SYNAD INFORMATION *synad-text*.

説明: SDSF が入出力機能を要求したときに I/O エラーが発生しました。エラーの結果として戻された DCB SYNAD 情報は、*synad-text* にリストされます。

応答: このテキストを使用して、エラーの原因を判別してください。

ISF109E DYNAMIC ALLOCATION OF DDNAME *ddname* FAILED, RETURN CODE *return-code*, REASON *reason-code*, INFO CODE *information-code*.

説明: SDSF は DD 名 *ddname* の割り振りを試行しましたが、割り振りは失敗しました。

応答: 動的割り振りエラー・コードについては、システム・マクロおよび機能、あるいはジョブ管理に関する該当の解説書をご覧ください。

ISF110I LOGGING TO DDNAME *ddname* SUSPENDED, MESSAGES WILL BE DIRECTED TO THE HARDCOPY LOG.

説明: SDSF が、*ddname* をサーバー・ログとして使用したときにエラーが発生しました。このログに書き込まれるすべてのサーバー・メッセージは、ハードコピー・ログに渡されます。

応答: 必要ありません。サーバー・メッセージをサーバー・ログに書き込みたい場合は、割り振ったサーバーがあることを確かめて、サーバーを停止し、開始してください。ログを記録しない場合は、サーバー・ログをダミー・データ・セットに割り振ってください。

ISF111E DYNAMIC ALLOCATION OF *dataset-name* FAILED, RETURN CODE *return-code*, REASON *reason-code*, INFO CODE *information-code*

説明: SDSF がデータ・セット *dataset-name* の割り振りを試行しましたが、割り振りは失敗しました。

応答: 動的割り振りエラー・コードについては、システ

ム・マクロおよび機能、あるいはジョブ管理に関する該当の解説書をご覧ください。

ISF112I SDSF ABEND *code* REASON *code* SERVER *server-name* MODULE *module* OFFSET *offset* LEVEL *level* PSW *psw* CAB *cab* contents of registers

説明: SDSF が異常終了し、ユーザーまたはシステムの異常終了コード *abend-code* を返してきました。ユーザー異常終了コードは 10 進数、システム異常終了コードは 16 進数です。

応答: システム・プログラマーは、ユーザー異常終了コードについては 189ページの『SDSF ユーザー異常終了コード』、システム異常終了コードについては適切なシステム・コードの資料を参照してください。

ISF137I SDSF SDUMP NOT TAKEN, SUPPRESSED BY DAE.

説明: SDSF が SDUMP を取ろうとしましたが、ダンプ分析重複回避機能 (DAE) コンポーネントによって抑止されました。

応答: なし。

ISF150E COMMUNICATIONS ERROR OCCURRED PROCESSING *service-name* RETURN CODE *return-code* REASON CODE *reason-code*. ADDITIONAL INFORMATION: *additional information*

説明: メッセージに示されている通信サービスを処理中に、エラーが発生しました。必要な通信が完了していません。

応答: サービス名が MQ で始まる場合は、MQSeries for OS/390 サービスが失敗しました。MQSeries サービスの戻りコードと理由コード、および追加情報を使用して、エラーの原因を判別してください。

ISF151E MESSAGE REJECTED FROM UNSUPPORTED PLATFORM, PLATFORM CODE *code*, PLATFORM NAME *name*

説明: SDSF サーバー間の通信にエラーが発生しました。サポートされていないプラットフォームからメッセージを受け取りました。メッセージは無視されます。

応答: エラー発生時にメッセージを受け取った場合は、ローカル・プロシージャーに従って IBM サポートに連絡してください。

**ISF152E MESSAGE REJECTED FROM
USER *user-identity* DUE TO
UNEXPECTED FORMAT NAME
format-name.**

説明: フォーマット名が誤っていたため、サーバー要求が拒否されました。フォーマットは認識されません。サーバーはこの要求を処理しません。

応答: 必要ありません。エラー発生時にメッセージを受け取った場合は、ローカル・プロシージャに従って IBM サポートに連絡してください。

**ISF153E MESSAGE REJECTED FROM USER
user-identity DUE TO INCORRECT
APPLICATION IDENTITY.**

説明: アプリケーションのデータが無効であるため、サーバー要求が拒否されました。この要求は処理されません。

応答: エラー発生時にメッセージが出された場合は、ローカル・プロシージャに従って、IBM に連絡しサポートを受けてください。

**ISF170I SERVER *server-name* ARM
REGISTRATION COMPLETE FOR
ELEMENT TYPE *element-type*,
ELEMENT NAME *element-name*.**

説明: サーバーが、メッセージに示されているエレメント・タイプと名前を使用して、ARM に正常に登録されました。

応答: 必要ありません。

**ISF171E SERVER *server-name* ARM
REGISTRATION FAILED FOR
ELEMENT TYPE *element-type*,
ELEMENT NAME *element-name*,
RETURN CODE *return-code*, REASON
CODE *reason-code*.**

説明: サーバーが、メッセージに示されているエレメント名とタイプを使用して ARM に登録しようとした。しかし、リストされている IXCARM からの戻りコードと理由コードにより、登録に失敗しました。

応答: 戻りコードと理由コードを使用して、問題を説明してください。 *OS/390 MVS* プログラミング：シスプレックス・サービス 解説書 を参照してください。

**ISF172E SERVER *server-name* ARM
DEREGISTRATION FAILED, RETURN
CODE *return-code*, REASON CODE
reason-code.**

説明: サーバーが ARM から登録解除しようとしたが、示されている戻りコードと理由コードにより IXCARM サービスが失敗しました。

応答: 戻りコードと理由コードを使用して、問題を説明してください。 *OS/390 MVS* プログラミング：シスプレックス・サービス 解説書 を参照してください。

**ISF174E *xxxx* UNABLE TO LOAD MODULE
module, RETURN CODE *return-code*,
REASON CODE *reason-code*.**

説明: SDSF は、示されているモジュールをロードできませんでした。

応答: 問題に関する情報については、戻りコードと理由コードを参照してください。これらのコードに、ロード・モジュールが見付からなかったことが示されている場合は、SDSF のロード・モジュールが入っているライブラリーが正しくインストールされていない可能性があります。

**ISF175W *xxxx* UNABLE TO DELETE MODULE
module, RETURN CODE *return-code*,
REASON CODE *reason-code*.**

説明: SDSF は、示されているモジュールを削除できませんでした。

応答: 問題に関する情報については、戻りコードと理由コードを参照してください。

**ISF180I TASK *task-id* IS BEING RESTARTED
DUE TO ABEND.**

説明: 異常終了に対する応答として、*task-id* に示されているタスクをリスタート中です。

応答: 必要ありません。

**ISF181I TASK (*task-name*, *taskid*) CANNOT BE
RESTARTED DUE TO ABEND.**

説明: メッセージに示されているタスクが異常終了したので、リスタートできません。SDSF サーバーの実行にこのタスクが必要である場合は、サーバーが終了します。

応答: 異常終了に示されている問題を訂正するか、またはローカル・プロシージャに従って IBM サポートに連絡してください。

ISF182I **TASK** (*task-name*, *taskid*) **HAS BEEN RESTARTED.**

説明: メッセージに示されているタスクが正常に再始動しました。

応答: 必要ありません。

ISF300E **MODIFY COMMAND IGNORED DUE TO ERRORS.**

説明: オペレーター MODIFY コマンド *command* のテキストが認識されませんでした。

応答: コマンドを訂正して、要求を再試行してください。

ISF301E *value* **WAS EXPECTED IN COMMAND POSITION** *position* **BEFORE** *keyword*.

説明: 値 *value* が、コマンドの示されている位置にありません。

応答: コマンドを訂正して、要求を再試行してください。

ISF302E *value* **WAS SEEN IN COMMAND POSITION** *position* **WHERE ONE OF THE FOLLOWING WAS EXPECTED:**
valid-values.

説明: コマンドの示されている位置に、無効な値 *value* があります。

応答: リストに記載されている有効値のどれかを使用して、コマンドを訂正してください。

ISF303E **MODIFY COMMAND TEXT MISSING, COMMAND IGNORED.**

説明: MODIFY コマンドが、必要なコマンド・テキストなしで入力されました。コマンドは無視されます。

応答: コマンドを訂正して、要求を再試行してください。

ISF304I **MODIFY** *parameter* **COMMAND ACCEPTED.**

説明: MODIFY コマンドの、示されているパラメーターが受け入れられ、処理されます。

応答: 必要ありません。

ISF305E **ABEND** *abend-code* **OCCURRED PROCESSING MODIFY COMMAND.**

説明: MODIFY コマンドを処理中に異常終了が発生しました。このコマンドは実行されません。

応答: 異常終了コードを使用して、問題を診断してください。

ISF306E **MODIFY** *command* **COMMAND IGNORED DUE TO AUTHORIZATION FAILURE.**

説明: SAF 検査で、このコマンドを出す許可がユーザーに与えられていないことが判明したため、MODIFY コマンドを処理できませんでした。

応答: 誤ってアクセスを拒否された場合、詳細は 137 ページを参照してください。

ISF310I *server-name* **COMMUNICATIONS**

id server status system jes member

説明: オペレーター・コマンドに対する応答として、サーバー通信に関する次のような情報が表示されています。

id サーバーに関連付けられている ID

server サーバーの名前

status サーバーの状況

system

サーバーを処理中のシステム

jes サーバーがデータを収集する JES2 サブシステム

member

JES2 サブシステムの MAS のメンバー

応答: 必要ありません。

ISF311I **NO SERVERS TO DISPLAY, COMMUNICATIONS NOT ACTIVE.**

説明: サーバー通信に関する情報を表示するためのコマンドが出されましたが、SDSF サーバー間の通信がアクティブではありません。

応答: 必要ありません。SDSF サーバー間の通信を使用可能にする方法については、SDSF カスタマイズとセキュリティを参照してください。

| **ISF312I** *server-name* **DISPLAY** **SERVER**
| **STATUS:** *status* **COMMUNICATIONS:**
| *status* **PARMS:** *member/dataset-name*
| **TRACE:** *status***MASK:** *trace-mask*

| **説明:** オペレーター・コマンドに対する応答として、サ
| ーバー通信の状況に関する情報が表示されています。

| **応答:** 必要ありません。

| **ISF401I** **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS INITIALIZATION IN**
| **PROGRESS.**

| **説明:** SDSF サーバー間の通信が初期設定されていま
| す。

| **応答:** 必要ありません。

| **ISF402I** **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS READY.**

| **説明:** メッセージに示されている SDSF サーバーの通
| 信の初期設定が、正常に完了しました。このサーバー
| は、ほかの SDSF サーバーとの通信を開始する準備が
| 整っています。

| **応答:** 必要ありません。

| **ISF403E** **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS INITIALIZATION**
| **FAILED, COMMUNICATIONS NOT**
| **AVAILABLE.**

| **説明:** メッセージに示されている SDSF サーバーの通
| 信が、正常に初期設定されませんでした。このサーバー
| は、ほかの SDSF サーバーとの通信を開始する準備が
| 整っていません。

| **応答:** このエラーについては、関連するメッセージを参
| 照してください。

| **ISF404I** **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS STOPPED.**

| **説明:** メッセージに示されているサーバーの通信が停止
| しました。これ以上通信はできません。

| **応答:** ISFPARMS 内のサーバー・グループ定義を訂正
| して、リフレッシュしてください。

| **ISF405I** **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS IN USE,**
| **SERVERGROUP DEFINITION**
| **UNCHANGED.**

| **説明:** ISFPARMS が SDSF サーバーによって処理され
| ているときに、ISFPARMS 内のサーバー・グループを
| 変更しようとした。この要求は無視されます。

| **応答:** 必要ありません。サーバーが ISFPARMS の処
| 理を開始したあとで、ISFPARMS に定義されているサ
| ーバー・グループのプロパティーを変更することはでき
| ません。サーバー・グループのプロパティーを変更する
| には、STOP コマンドを使用して、まずサーバーを停止
| してください。

| **ISF406I** **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS WAITING FOR**
| **CONNECTION.**

| **説明:** メッセージに示されているサーバーの通信が、接
| 続を待機しています。サーバーは、そのグループ内のほ
| かのサーバーと通信することはできないので、そのよう
| なサーバーからのデータは SDSF パネルに表示されま
| せん。MQSeries for OS/390 がアクティブでない可能性
| があります。

| **応答:** 詳しくは、あとに続くメッセージを参照してくだ
| さい。MQSeries for OS/390 がアクティブでない場合
| は、始動してください。

| **ISF407I** **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS WAITING FOR**
| **ACCESS TO REQUEST QUEUE.**

| **説明:** 通信の初期設定時に、要求キュー名が使用中であ
| ることをサーバーが検出しました。サーバーは、要求キ
| ューの排他制御を必要とします。キュー名が使用可能に
| なるまで、初期設定は待機状態になります。サーバーが
| リサイクルされたものである場合は、キュー・マネージ
| ャーがそのキューに使用可能のマークを付けるまで、遅
| 延が生じる可能性があります。

| キュー名がアクセスされるまで、サーバーは失敗した要
| 求を定期的に試行します。

| **応答:** 詳しくは、あとに続くメッセージを参照してくだ
| さい。キュー名がほかのアプリケーションで使用され
| ていないことを確認してください。

ISF408I **SERVER** *server-name* **CREATING**
| **OBJECT** *object-name* **ON QUEUE**
| **MANAGER** *queue-manager-name*.

| **説明:** *queue-name* が必要なのに、システムに存在しないことを SDSF が検出しました。SDSF は、メッセージに示されているキュー・マネージャーを使用して、キュー名の定義を試行します。

| **応答:** 必要ありません。

ISF409E **SERVER** *server-name* **UNABLE TO**
| **CREATE OBJECT** *object-name* **ON**
| **QUEUE MANAGER** *queue-manager-name*.

| **説明:** SDSF が、メッセージに示されているキュー・マネージャー上に、示されているオブジェクトを作成できませんでした。

| **応答:** 詳しくは、あとに続くメッセージを参照してください。

ISF410I **SERVER** *server-name* **HAS CREATED**
| **OBJECT** *object-name* **ON QUEUE**
| **MANAGER** *queue-manager-name*.

| **説明:** SDSF が、メッセージに示されているキュー・マネージャー上に、示されているオブジェクトを作成しました。

| **応答:** 必要ありません。

ISF411I **RESPONSE FROM** *queue-manager*
| *response-text*.

| **説明:** SDSF サーバーが MQSeries システム・コマンド・インターフェースを呼び出して、キュー作成などの管理要求を実行しました。キュー・マネージャーが、メッセージに示されているテキストによって応答しました。

| **応答:** 必要ありません。

ISF412I **COMMUNICATIONS WITH SERVER**
| *server-name* **SYSTEM** *system-name*
| **STOPPED**.

| **説明:** サーバー・グループ内の、メッセージに示されているサーバーで、通信が停止しました。要求はこれ以上、処理のためにサーバーに転送されません。

| **応答:** 通信開始コマンドを使用して、サーバーの処理を再開してください。

ISF413E **SERVER ID** *server-id* **NOT**
| **PROCESSED, SERVER NOT FOUND**
| **IN SERVERGROUP**.

| **説明:** サーバー・グループ内のサーバーを変更するためのコマンドが入力されましたが、サーバー ID が認識されませんでした。コマンドは処理されません。

| **応答:** 正しいサーバー ID を指定してコマンドを再試行してください。サーバー ID を表示するには、サーバー・オペレーター・コマンド F *server-name*,DISPLAY,C を使用してください。

ISF414E **SERVER** *server-name* **SYSTEM**
| *system-name* **NOT PROCESSED,**
| **SERVER NOT FOUND IN**
| **SERVERGROUP**.

| **説明:** サーバー・グループ内のサーバーを変更するためのコマンドが入力されましたが、サーバーおよびシステム名のパターンが、どのサーバーにも一致しません。コマンドは処理されません。

| **応答:** 正しいサーバー ID を指定してコマンドを再試行してください。サーバーおよびシステム名を表示するには、サーバー・オペレーター・コマンド F *server-name*,DISPLAY,C を使用してください。

ISF415I **SERVER** *server-name* **SYSTEM**
| *system-name* **STARTED, CURRENT**
| **STATUS IS** *status-text*.

| **説明:** 名前がメッセージに示されているサーバーが始動されました。サーバーの状況が *status-text* に示されます。

| **応答:** 必要ありません。

ISF416I **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS WILL BE**
| **RESTARTED**.

| **説明:** *server-name* との通信が再始動されています。接続が切断されたため、または静止していたために、リスタートが必要でした。リスタートが完了すると、そのことを示す追加のメッセージが出されます。

| **応答:** 必要ありません。

ISF417I **SERVER** *server-name*
| **COMMUNICATIONS STOPPING**.

| **説明:** *server-name* の通信が終了します。これ以上シスプレックス要求は処理されません。

| **応答:** 必要ありません。

ISF418I **COMMAND TO** *queue-manager-name:*
command-text

説明: メッセージに示されているキュー・マネージャー管理コマンドが、処理のためにキュー・マネージャーに送られています。

応答: 必要ありません。

ISF488E **SDSF NOT STARTED DUE TO
ERRORS IN START PARAMETERS.**

説明: SDSF サーバーに関する EXEC ステートメントに 1 つ以上のパラメーターが認識されませんでした。

応答: パラメーターを訂正して、要求を再試行してください。

ISF491E *value* **WAS EXPECTED IN START
PARAMETER POSITION** *position*
BEFORE *string*.

説明: SDSF は、START コマンドのパラメーターにエラーを検出しました。

応答: エラーの位置とストリングの値を用いて、エラーが出たパラメーターを識別してください。訂正したパラメーターを指定して START コマンドを再試行してください。

ISF492E *value* **WAS SEEN IN START
PARAMETER POSITION** *position*
**WHERE ONE OF THE FOLLOWING
WAS EXPECTED:** *list-of-values*.

説明: SDSF は、START コマンドのパラメーターにエラーを検出しました。コマンド・ストリングのエラー位置は、*position* に示されています。

応答: 有効値のどれかを使用して、START コマンドを再試行してください。

ISF493I **ABEND** *abend-code* **OCCURRED
PROCESSING START PARAMETERS.**

説明: START コマンドを処理中に異常終了が発生しました。このコマンドは、異常終了の前に処理された任意のパラメーターを使用して実行されます。

応答: 異常終了コードを使用して、問題を診断してください。MODIFY コマンドを使用して、サーバー・オプションをリセットすることができます。

ISF515E **SDSF INITIALIZATION FAILED FOR
SERVER** *server*.

説明: サーバー *server* の初期設定が完了しませんでした。このメッセージの前に失敗の理由を説明するメッセージが出されています。

応答: SDSF から出されたエラー・メッセージを参考にして、初期設定が失敗した原因を判別してください。

ISF517E **SDSF SERVER WAS NOT STARTED
DUE TO INVALID EXECUTION
ENVIRONMENT, POSSIBLE MISSING
PPT ENTRY.**

説明: 実行環境が正しくなかったため、SDSF サーバーが開始できませんでした。サーバーが実行されている保護キーが正しくありません。

応答: SYS1.PARMLIB の SCHED_{xx} メンバーに、PPT 項目が、プログラム ISFHCTL のために定義されているかを検証してください。MQSeries for OS/390 ライブラリーが SCSQLOAD を含めて APF 許可を受けているかどうかを検証してください。

ISF518E **SDSF SERVER** *server* **NOT STARTED,
NOT ENABLED FOR EXECUTION**

説明: SDSF サーバーが、その呼び出しを OS/390 リリース 2 システムに登録しようとしたましたが、登録は失敗しました。サーバーは初期設定されません。

応答: 実行のために SDSF を使用可能にする必要がある場合は、SDSF の項目について IFAPRD_{xx} parmlib メンバーを調べてください。

ISF527E **SDSF SERVER** *server* **NOT STARTED,
START COMMAND MUST BE USED.**

説明: SDSF サーバー *server* をバッチ・ジョブを介して開始しようとした。サーバーは、MVS START コマンドで開始する必要があります。

応答: MVS START コマンドを出して、SDSF サーバーを開始してください。

ISF528E **SDSF SERVER** *server* **NOT STARTED,
MVS 4.3.0 REQUIRED.**

説明: SDSF サーバーには、MVS/ESA SP4.3.0 以降の環境が必要です。サーバーは開始されませんでした。

応答: なし。

ISF538E SDSF SERVER *server* ALREADY ACTIVE.

説明: すでにアクティブになっている SDSF に対して START コマンドが入力されました。コマンドは無視されます。

応答: なし。

ISF711I SDSF TRACE STARTED USING TRACE MASK *trace-mask*.

説明: TRACE コマンドに応じて、示されているトレース・マスクを指定してトレースが開始されました。

応答: 必要ありません。

ISF713E SDSF TRACE INITIALIZATION FAILED, RETURN CODE *return-code*, REASON CODE *reason-code*.

説明: TRACE コマンドに応じて行われる SDSF トレースの初期設定が失敗しました。示されている戻りコードと理由コードが戻されました。

応答: 示されている戻りコードと理由コードを使って、問題を診断してください。

ISF714I SDSF TRACE IS NOW INACTIVE.

説明: TRACE OFF コマンドに応じて、SDSF トレースが非アクティブになりました。

応答: 必要ありません。

ISF715I SDSF TRACE IS ALREADY ACTIVE USING TRACE MASK *trace-mask*

説明: TRACE ON コマンドが入力されましたが、SDSF トレースはすでにアクティブになっており、示されているトレース・マスクが指定されています。

応答: 必要ありません。

ISF716E SDSF TRACE DATA SET IS NOT ALLOCATED.

説明: TRACE ON コマンドが入力されましたが、SDSF トレース・データ・セットを動的に割り振ることができませんでした。SDSF トレースは開始されません。

応答: コンソールに、追加のシステム・メッセージが出されている場合があります。詳しくは、そのメッセージを参照してください。

ISF717I SDSF TRACE IS ALREADY INACTIVE.

説明: TRACE OFF コマンドが入力されましたが、SDSF トレースはすでに非アクティブになっています。コマンドは無視されます。

応答: 必要ありません。

ISF718E SDSF TRACE FAILED TO INACTIVATE.

説明: TRACE OFF コマンドが入力されましたが、SDSF トレースはオフになりませんでした。トレースは続行されます。

応答: 要求を再試行してください。

ISF724I SDSF LEVEL *fmid* INITIALIZATION COMPLETE FOR SERVER *server*.

説明: SDSF サーバーの初期設定が正常完了しました。

応答: なし。

ISF725I SDSF SHUTDOWN IN PROGRESS FOR SERVER *server*.

説明: SDSF サーバーをシャットダウン中です。

応答: なし。

ISF726I SDSF PARAMETER PROCESSING STARTED.

説明: SDSF パラメーターの処理が開始されました。

応答: なし。

ISF727I SDSF PARAMETER PROCESSING STARTED IN TEST MODE.

説明: SDSF パラメーターの処理が、テスト・モードで開始されました。パラメーターの構文は検査されますが、これらのパラメーターはアクティブにされません。

応答: なし。

ISF728I SDSF PARAMETERS HAVE BEEN ACTIVATED.

説明: SDSF パラメーターの処理が正常完了し、パラメーターがアクティブになりました。

応答: なし。

ISF729I NO ERRORS DETECTED IN SDSF PARAMETERS.

説明: SDSF パラメーターの処理がエラーなしで完了しました。

応答: なし。

ISF731E SDSF PARAMETERS NOT ACTIVATED DUE TO ERRORS.

説明: SDSF パラメーターにエラーが検出されました。これらのパラメーターは、アクティブにされません。

応答: ログ・ファイルを使用して、パラメーターを検討してください。エラーを訂正し、パラメーターの処理を再試行してください。

ISF732I ERRORS DETECTED IN SDSF PARAMETERS.

説明: SDSF パラメーターにエラーが検出されました。

応答: ログ・ファイルを使用して、パラメーターを検討してください。エラーを訂正し、パラメーターの処理を再試行してください。

ISF733E UNABLE TO READ SDSF PARAMETERS DUE TO I/O ERROR.

説明: SDSF が SDSF パラメーターを読みとろうとしましたが、入出力エラーにより阻止されました。

応答: I/O エラーに関する詳細については、システム・メッセージを参照してください。

ISF734I SDSF PARAMETERS HAVE BEEN ACTIVATED, WARNINGS WERE ISSUED.

説明: SDSF ISFPARMS はアクティブにされましたが、ISFPARMS の構文検査時に SDSF が警告メッセージを出しました。

応答: サーバー・ログで警告メッセージを調べてください。ISFPARMS を変更する場合は、MODIFY コマンドで変更内容を活動化してください。

ISF735E SDSF PARAMETERS ARE NOT ACTIVE.

説明: SDSF サーバーの開始時に SDSF パラメーターのエラーが検出されました。SDSF パラメーターは、アクティブにされません。

応答: ログ・ファイルを使用して、パラメーターを検討してください。エラーを訂正し、MODIFY コマンドで

パラメーターをアクティブにしてください。

ISF736I SDSF SHUTDOWN PROCEEDING FOR SERVER *server-name*.

説明: SDSF サーバーをシャットダウンするため、STOP コマンドが出されました。サーバーは、アウトスタンディングの作業の完了を待機中です。

応答: 必要ありません。

ISF737E SDSF PARAMETERS NOT ACTIVATED DUE TO ABEND.

説明: 異常終了のため、SDSF パラメーターはアクティブにされませんでした。

応答: MODIFY コマンドを使用して、パラメーターをアクティブにしてください。MODIFY コマンドについては、OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティーに説明されています。

ISF738I ABEND *abend-code* DETECTED PROCESSING SDSF PARAMETERS.

説明: SDSF パラメーターがテスト・モードで処理されているときに、異常終了が検出されました。

応答: 異常終了コードを使用して、問題を診断してください。

ISF739I SDSF PARAMETERS BEING READ FROM MEMBER *member-name* OF DATA SET *dataset-name*.

説明: SDSF サーバーは、示されているデータ・セットおよびメンバーから SDSF パラメーターを読み取ります。

応答: 必要ありません。

ISF800E UNEXPECTED END OF FILE ENCOUNTERED PROCESSING STATEMENT NUMBER *number*.

説明: 継続ステートメントを処理中に、ファイル終わりに到達しました。

応答: ログ・ファイルを使用して、パラメーターを検討してください。エラーを訂正し、パラメーターの処理を再試行してください。

ISF801E STATEMENT NUMBER *number* IS TOO LONG.

説明: SDSF パラメーター・ステートメント番号 *number* が、32756 文字の最大許容長より長くなっています。

応答: ログ・ファイルを使用して、パラメーターを検討してください。ステートメントの継続に間違いのないようしてください。エラーが出たステートメントを訂正し、パラメーター処理を再試行してください。

ISF802E INPUT FILE IS EMPTY.

説明: SDSF パラメーターを処理する入力ファイルに、パラメーターがありません。

応答: 入力ファイルを訂正し、要求を再試行してください。

ISF803E COMMENT NOT CLOSED ON LINE NUMBER *number*.

説明: 行番号 *number* でオープンされたコメントが、クローズされていません。コメントは、単一行で完了する必要があります。

応答: ログ・ファイルを使用してその行を突きとめ、コメントをクローズしてください。

ISF804E PROCESSING ENDED DUE TO I/O ERROR.

説明: SDSF パラメーターの処理は、入出力エラーが原因で終了しました。SDSF かシステムのどちらかから、エラーを説明する追加メッセージが出される場合があります。

応答: これらのメッセージを使用して、入出力エラーの原因を判別してください。

ISF805I PREVIOUSLY PROCESSED *statement-type* AT STATEMENT *statement-number* BEING REPLACED.

説明: 同じタイプのステートメントがすでに処理されており、後の方のステートメントに置き換えられます。置き換えられるステートメントは *statement-number* です。

応答: 必要ありません。ただし、ISFPARMS を検査して、重複したステートメントを除去する必要があります。

ISF806E *parameter* VALUE *value* IS IN ERROR, INVALID SYNTAX SPECIFIED.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値に、無効な構文があります。

応答: 構文を訂正してください。

ISF807E *parameter* VALUE *value* IS TOO LONG, MAXIMUM LENGTH ALLOWED IS *maximum*.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値が、*maximum* に示されている最大許容長より長くなっています。

応答: 値の長さを訂正してください。

ISF808E *parameter* VALUE *value* IS NOT NUMERIC.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値が、数値ではありません。この値は、数値である必要があります。

応答: 値を訂正してください。

ISF809E *parameter* VALUE *value* IS TOO SMALL, MINIMUM VALUE ALLOWED IS *minimum*.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値が、*minimum* に示されている最小許容値より短くなっています。

応答: 値を訂正してください。

ISF810E *parameter* VALUE *value* IS TOO LARGE, MAXIMUM VALUE ALLOWED IS *maximum*.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値が、*maximum* に示されている最大許容値より長くなっています。

応答: 値を訂正してください。

ISF811E *parameter* VALUE *value* IS INVALID.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値は、正しくありません。

応答: 値を訂正してください。

ISF812E *parameter* **VALUE** *value* **IS AN INVALID**
SYSOUT CLASS.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値が、有効な SYSOUT クラスではありません。有効なクラスは、A から Z、0 から 9 です。

応答: 値を訂正してください。

ISF813E *parameter* **VALUE** *value* **CONTAINS**
INVALID HEXADECIMAL DIGITS.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値に、有効な 16 進数でない文字があります。有効な 16 進数は、0 から 9、A から F です。

応答: 値を訂正してください。

ISF814E *parameter* **VALUE** *value* **IS TOO**
SHORT, MINIMUM LENGTH ALLOWED
IS *minimum*.

説明: *parameter* に示されているパラメーターの *value* に示されている値が、*minimum* に示されている最小許容長より短くなっています。

応答: 値を訂正してください。

ISF815E *parameter* **VALUE** *values* **MUST HAVE**
DIFFERENT CHARACTERS FOR
EACH VALUE.

説明: *values* に示されている値が固有になっていません。このパラメーターに指定されるそれぞれの値は、固有である必要があります

応答: それぞれが固有になるように値を訂正してください。

ISF816E *first-parameter* **IS MUTUALLY**
EXCLUSIVE WITH *second-parameter*.

説明: *first-parameter* と *second-parameter* に示されているパラメーターと一緒に使用することはできません。

応答: どちらかのパラメーターを削除してください。

ISF817I **GROUP INDEX** *group-index-number*
ASSIGNED TO GROUP *group-name*.

説明: *group-index-number* に示されている索引番号が、*group-name* に示されているグループに割り当てられています。名前 *group-name* は、NAME パラメーターでユーザーが割り当てた名前か、NAME が省略されている場合、SDSF が割り当てた名前です。

応答: 必要ありません。

ISF818I **GROUP** *group-name* **REPLACES**
STATEMENT *statement-type*, **GROUP**
INDEX IS *index-number*.

説明: *group-name* というグループが 2 回以上検出されました。最新の出現が直前の出現を置き換えます。このグループに割り当てられている索引番号は、*group-index-number* に示されています。

応答: 必要ありません。パラメーターを検査して、重複したグループ・ステートメントを除去する必要があります。

ISF819I *statement-type* **NAMED** *name* **REPLACES**
STATEMENT *number*.

説明: *name* に示されている名前のステートメントが 2 回以上検出されました。最新の出現が直前の出現を置き換えます。

応答: 必要ありません。パラメーターを検査して、重複したステートメントを除去する必要があります。

ISF820I *statement* **NAMED** *name* **FOR** *display1*
DISPLAY CONFLICTS WITH PRIOR
DEFINITION FOR *display2*.

説明: 示されている SDSF 表示の *name* という名前の FLD ステートメントは、すでに検出されている別の表示の FLD ステートメントと対立しています。

応答: 必要ありません。パラメーターを検査して、重複したステートメントを除去する必要があります。

ISF821E *string* **WAS EXPECTED BEFORE** *string*
ON LINE *line-number* **COLUMN**
column-number.

説明: 示されている行と欄のところで、エラーが検出されました。

応答: ステートメントを訂正してください。

ISF822E *value* **WAS SEEN ON LINE** *line-number*
COLUMN *column-number* **WHERE ONE**
OF THE FOLLOWING WAS
EXPECTED: *valid-values*.

説明: 示されている行と欄のところで、無効な値 *value* が検出されました。有効値は、*valid-values* に示されています。

応答: リストに記載されている値のどれかを使用して、ステートメントを訂正してください。

**ISF823I INPUT SKIPPED UP TO THE NEXT
value.**

説明: 直前に識別されたステートメントで構文エラーが発生しました。SDSF は、示されている *value* にスキップして、処理を続行します。

応答: エラーが出たステートメントを訂正してください。

**ISF824E error-string ON LINE line-number
COLUMN column-number SHOULD BE
DELETED.**

説明: 示されている行と欄で見付かったストリング *error-string* にエラーがあり、削除する必要があります。

応答: エラーを出したストリングを削除するか、訂正してください。

**ISF825I string IS INSERTED BEFORE THE
ERROR POINT.**

説明: 直前の構文エラーへの応答として、SDSF は、処理を続行できるようにするため、エラーの前に文字ストリング *string* を挿入しました。

応答: エラーを訂正してください。

**ISF826E statement OFFSET OF offset IS TOO
LONG FOR USE WITH STRING string,
MAXIMUM COMBINED OFFSET AND
STRING LENGTH IS maximum.**

説明: 示されているステートメントで、ストリング *string* と一緒にオフセット *offset* を使用すると、そのステートメントでは値が無効になります。オフセットとストリングを組み合わせる場合の最大長は、*maximum* です。

応答: ストリングまたはオフセットを訂正してください。

**ISF828E first-statement STATEMENT REQUIRED
PRIOR TO THIS second-statement.**

説明: *first-statement* に示されているタイプのステートメントを、*second-statement* に示されているステートメントの前に含める必要があります。

応答: ステートメントの順序を変更するか、ステートメントを追加し、求められている順序どおりにしてください。

**ISF829E first-value AND second-value MUST
HAVE DIFFERENT VALUES.**

説明: *first-value* と *second-value* に示されている値が、同じになっています。これらの値は、異なっている必要があります。

応答: どちらかまたは両方の値を変更して、異なった値になるようにしてください。

**ISF830E parameter VALUE IS TOO SHORT,
VALUE MUST BE required-length
BYTES BUT IS ONLY actual-length.**

説明: 示されているパラメーターに指定されている値が短すぎます。メッセージには、値の必要な長さ (*required-length*) と実際に指定されている値の長さ (*actual-length*) が示されています。

応答: 値の長さが必要なバイト数になるように訂正してください。

**ISF831E parameter VALUE IS TOO LONG,
VALUE MUST BE required-length
BYTES BUT IS actual-length.**

説明: 示されているパラメーターに指定されている値が長すぎます。メッセージには、値の必要な長さ (*required-length*) と実際に指定されている値の長さ (*actual-length*) が示されています。

応答: 値の長さが必要なバイト数になるように訂正してください。

**ISF832I statement NAMED name CONFLICTS
WITH PREVIOUS DEFINITION FOR
statement.**

説明: *name* という名前のステートメントが、すでに検出されている異なるタイプの別のステートメントと対立しています。

応答: 必要ありません。ステートメントを検討して、対立しないようにしてください。

**ISF833E COLUMN column IS NOT VALID FOR
THE display DISPLAY.**

説明: 示されている欄に、表示のための FLDENT ステートメントが指定されていますが、ここでは無効です。

応答: 表示の FLDENT ステートメントを除去するか、FLDENT ステートメントが関連する表示を変更してください。

ISF834E *string* **WAS EXPECTED BEFORE** *string*
IN STATEMENT *statement-number*.

説明: 示されているステートメントで、構文エラーが検出されました。

応答: ステートメントを訂正してください。

ISF835E *value* **WAS SEEN IN STATEMENT**
statement **WHERE ONE OF THE**
FOLLOWING WAS EXPECTED:
valid-values.

説明: 示されているステートメントで、無効な値 *value* が検出されました。有効な値は、*valid-values* に示されています。

応答: リストに記載されている値のどれかを使用して、ステートメントを訂正してください。

ISF836E *parameter* **VALUE** *string* **IS IN ERROR,**
INVALID DATA SET NAME SYNTAX.

説明: 示されているパラメーターが指定したデータ・セット名に無効な構文があります。

応答: データ・セット名を訂正して、要求を再試行してください。

ISF837E *parameter* **VALUE CONTAINS** *number*
CHARACTERS, BUT IT MUST BE
EVEN.

説明: 示されているパラメーターに指定されている値は、奇数の文字数になっています。値は、偶数の文字数になっている必要があります。

応答: 値が偶数の文字数になるように値を訂正してください。

ISF838E *secondary-statement-type* **NAMED**
secondary-statement-name **REFERENCED**
BY *primary-statement-type*
primary-statement-name **NOT FOUND.**

説明: *primary-statement-type primary-statement-name* に示されているステートメントが、見つけることができないステートメント *secondary-statement-type secondary-statement-name* を参照しています。

応答: グループ定義と参照先ステートメントが一致するようにパラメーターを訂正してください。

ISF839I *statement-type* **NAMED** *name* **IS NOT**
REFERENCED BY ANY OTHER
STATEMENT.

説明: メッセージに示されているステートメントは、別のステートメントから参照されているときにだけ有効です。このステートメントが検出されましたが、これを参照するステートメントが存在しません。

応答: 必要ありません。ただし、このステートメントを使用する場合は、ステートメント名がグループ定義のパラメーターで参照されるように、パラメーターを訂正する必要があります。

ISF840I *statement* **NAMED** *name* **CONTAINS NO**
ENTRIES.

説明: 示されているステートメントには、欄項目もリスト項目もありません。このステートメントは無視されません。

応答: ステートメントを削除するか、完全にしてください。

ISF841E **GROUP** *group-name* **REFERENCES**
statement name **WHICH IS AN INVALID**
TYPE FOR *group-keyword*.

説明: 示されているグループ・ステートメントが参照しているステートメントのタイプは、正しくありません。

応答: どちらかまたは両方のステートメントを訂正してください。

ISF842E *group-statement* **IN GROUP** *group-name*
IS FOR DISPLAY TYPE *type* **BUT**
REFERENCES *statement* **NAMED** *name*
FOR DISPLAY TYPE *type*.

説明: 示されているグループ・ステートメントが参照しているステートメントの SDSF 表示は、正しくありません。

応答: どちらかまたは両方のステートメントを訂正してください。

ISF843E *value* **VALUE REQUIRED FOR THIS**
statement **STATEMENT.**

説明: 示されているステートメントに、必要な値がありません。

応答: 欠落している値を追加して、ステートメントを完成させてください。

ISF844W *statement* **VALUE** *value* **EXCEEDS THE
MAXIMUM ALLOWED, CHANGED TO
new-value.**

説明: 示されているステートメントにおいて示されている値が最大許容長より長くなっています。SDSFはこの値を *new-value* に変更しています。

応答: 値が最大許容長以下になるように訂正してください。

ISF845W *statement* **VALUE** *value* **TOO LONG
FOR COLUMN WIDTH, TRUNCATED
TO** *number* **CHARACTERS.**

説明: *statement* によって示されているステートメント・タイプで示されている値が、長すぎて欄に入りません。この値は、欄に入るように切り捨てられます。

応答: 必要ありません。値が切り捨てられないようにするには、その値を欄に入るように訂正するか、欄を拡張してください。

ISF846W **NO GROUPS HAVE BEEN DEFINED.**

説明: ISFPARMS に GROUP ステートメントがありません。最低 1 つの GROUP ステートメントが必要です。

応答: ISFPARMS に最低 1 つの GROUP ステートメントを追加してください。

ISF847I **WHEN STATEMENT SELECTED FOR
THIS SYSTEM.**

説明: このシステムに関する WHEN ステートメントが選択されました。次に WHEN ステートメントが検出されるまで、WHEN ステートメントに続くすべてのステートメントがこのシステムについて処理されます。

応答: 必要ありません。

ISF848I **WHEN STATEMENT DOES NOT
MATCH THIS SYSTEM, FOLLOWING
STATEMENTS SKIPPED UNTIL NEXT
WHEN.**

説明: WHEN ステートメントが、現行システムにマッチしない条件を指定しました。これに続くステートメントは、構文が検査されますが、次の WHEN ステートメントが見つかるまで処理されません。

応答: 必要ありません。

ISF849I *statement-name* **STATEMENT NOT
SELECTED DUE TO PREVIOUS
WHEN STATEMENT.**

説明: 満たされない条件を指定した WHEN ステートメントのあとに存在するため、このステートメントは構文が検査されますが、それ以外の場合は処理されません。

応答: 必要ありません。

ISF850E *primary-statement* **CONTAINS NO
secondary-statement** **ENTRIES.**

説明: ほかのステートメント *secondary-statement* を必要とするステートメント *primary-statement* が検出されましたが、そのようなステートメントはこのあとに存在しません。このステートメント *primary-statement* は無視されます。

応答: ステートメント *primary-statement* を削除するか、*secondary-statement* に示されている必要なステートメントを追加してください。

ISF851E **LOCAL SERVER NOT DEFINED IN
SERVER GROUP (SERVER NAME
server-name, SYSTEM NAME
system-name).**

説明: メッセージに示されているサーバー上で、示されているサーバーのサーバー・グループが定義されましたが、サーバー・グループにローカル・サーバーが含まれていません。サーバー・グループにはローカル・サーバーが含まれている必要があります。ローカル・サーバーとは、このシステムで現在実行中のサーバーです。

応答: ローカル・サーバーの SERVER ステートメントをサーバー・グループ定義に追加してください。

ISF852I *statement-type* **STATEMENT IGNORED,
statement-type** **IN USE.**

説明: SDSF サーバーがすでにアクティブになっているときに、初期設定ステートメントを変更しようとした。このステートメントは無視されます。

応答: サーバー・グループがすでに使用中であるときにサーバー・グループを変更するには、次のようにします。

1. ISFPARMS に変更を加えます。
2. MODIFY *server-name*, STOP, C, TERM コマンドを使用して、サーバー通信を終了します。
3. MODIFY *server-name*, REFRESH コマンドを使用して、新しい ISFPARMS を処理します。

**ISF853E INSUFFICIENT SERVERS DEFINED IN
SERVER GROUP.**

説明: SERVERGROUP ステートメントが検出されましたが、そのあとに少なくとも 2 つ以上の SERVER ステートメントが存在しません。サーバー・グループは、ローカル・サーバーを含めて、最低 2 つ以上のサーバーで構成される必要があります。サーバー・グループは定義されません。

応答: 2 つ以上のサーバーが含まれるようにサーバー・グループの定義を訂正してください。

**ISF854E NUMBER OF SERVERS IN SERVER
GROUP *number* EXCEEDS THE
MAXIMUM OF *maximum*.**

説明: SERVERGROUP ステートメントが検出されましたが、そのあとに許容最大数を超える数の SERVER ステートメントが存在しています。

応答: 有効な数のサーバーが含まれるようにサーバー・グループの定義を訂正してください。

**ISF901E BINARY CONVERSION ERROR
OCCURRED IN ISSUING AN SDSF
MESSAGE.**

説明: SDSF メッセージを出すときに、SDSF が 2 進変換エラーを検出しました。

応答: ローカル・プロシージャに従って、IBM に連絡しサービスを受けてください。

**ISF902E INSERT OF AN INVALID TYPE WAS
ENCOUNTERED IN AN SDSF
MESSAGE.**

説明: SDSF メッセージを出すときに、メッセージに値を挿入するに当たって SDSF が問題を検出しました。

応答: ローカル・プロシージャに従って、IBM に連絡しサービスを受けてください。

**ISF903E INVALID INSERT NUMBER WAS
ENCOUNTERED IN AN SDSF
MESSAGE.**

説明: SDSF メッセージを出すときに、メッセージに値を挿入するに当たって SDSF が問題を検出しました。

応答: ローカル・プロシージャに従って、IBM に連絡しサービスを受けてください。

ISF904E SDSF MESSAGE TOO LONG.

説明: SDSF メッセージを出すときに、SDSF が最大許容長を超える長さのメッセージを検出しました。

応答: ローカル・プロシージャに従って、IBM に連絡しサービスを受けてください。

**ISF905E INCORRECT NUMBER OF INSERTS
PASSED FOR AN SDSF MESSAGE.**

説明: SDSF メッセージを出すときに、メッセージに値を挿入するに当たって SDSF が問題を検出しました。

応答: ローカル・プロシージャに従って、IBM に連絡しサービスを受けてください。

**ISF906E SDSF MESSAGE NOT ISSUED, SDSF
MESSAGE TABLE NOT LOADED.**

説明: SDSF は、メッセージが入っているメッセージ・テーブルがロードされていなかったため、メッセージを出すことができませんでした。

応答: ローカル・プロシージャに従って、IBM に連絡しサービスを受けてください。

**ISF908E MESSAGE *message-number* LINE
line-number NOT FOUND IN MESSAGE
TABLE.**

説明: SDSF は、メッセージ・テーブルにメッセージまたは複数行メッセージの行がなかったため、メッセージを出すことができませんでした。

応答: ローカル・プロシージャに従って、IBM に連絡しサービスを受けてください。

SDSF ユーザー異常終了コード

この項では、異常終了が起こったとき SDSF が出すコードについて説明します。それぞれの異常終了コードについて、コードの意味を簡単に説明し、システム・プログラマーにお勧めする対処の方法を示します。

SDSF 異常終了コードは、SDSF ABEND USER メッセージに表示されます。これについては、170 ページで解説しています (ISF012I)。システム異常終了コードは、SDSF ABEND SYSTEM メッセージ (同様に ISF012I) の中に返されます。システム異常終了コードについては、適切なシステム・コードの資料を参照してください。

TSO ログオン・プロシージャに SDSFDUMP DD ステートメントが含まれていると、SDSF は異常終了コードを返した後、ダンプを要求します。

0003 説明 : SDSF は、更新された索引バッファを見付けられませんでした。

システム・プログラマーの応答 : 別の ISF.HASPINDEX データ・セットを割り振ってください。

0004 説明 : 使用可能な索引バッファがありません。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0005 説明 : 1 つの索引バッファに対して矛盾する 2 つの要求が出されました。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0011 説明 : 論理画面サイズが、最小幅である 80 文字より小さいサイズに変更されました。

システム・プログラマーの応答 : 論理画面サイズの幅が、少なくとも 80 文字になるように変更します。

0012 説明 : SDSF がサポートされていない端末を検出しました。その端末の行の長さは 80 文字未満です。

システム・プログラマーの応答 : 行の長さが少なくとも 80 文字の端末を使用してください。

0013 説明 : 索引の DCB をオープンする際にエラーが起きました。あるいは、ジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) の読み取りに失敗しました。

システム・プログラマーの応答 : JCL またはハードウェアのエラーを検査してください。SDSF をバッチで実行中の場合は、必ず ISFIN と ISFOUT の両方を割り振るようにしてください。

0015 説明 : システム初期設定エラーが起きました。

システム・プログラマーの応答 : 詳細については、これとともに出されるオペレーター書き込みメッセージを参照してください。

0016 説明 : SDSF の初期設定時に、ISFNTBL TYPE=DEST マクロを指定した組み込みリストまたは除外リストが処理されました。ただし、処理されるリストは宛先のリストではありません。すべての組み込みリストと除外リストを処理したのち、SDSF の初期設定が打ち切られます。メッセージ ISF028E が出され、そのエラーをさらに詳しく説明します。

システム・プログラマーの応答 : 処理される組み込みリストまたは除外リストについて、ISFNTBL マクロが正しくコーディングされていることを確認してください。

0021 説明 : ISFENDD に SDSF の論理エラーがあります。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0022 説明 : SYSLOG 索引データ・セットがいっぱいです。

システム・プログラマーの応答 : SYSLOG 索引データ・セットを大きくしてください。または、SYSLOG 出力データ・セットのいくつかを除去してください。

0024 説明 : SDSF が回復不能な SYSLOG 索引論理エラー、または入出力エラーを検出しました。

システム・プログラマーの応答 : 考えられる入出力エラーがないかを調べてください。入出力エラーが見当たらない場合には、ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0025 **説明** :SYSLOG 索引データ・セットがいっぱいです。

システム・プログラマーの応答 : SYSLOG 索引データ・セットを大きくしてください。または、SYSLOG 出力データ・セットのいくつかを除去してください。

0026 **説明** : SDSF が回復不能な SYSLOG 索引論理エラー、または入出力エラーを検出しました。

システム・プログラマーの応答 : エラーの原因として、次のことを調べてください。

- JES2 がいったんシャットダウンされ、MVS の IPL なしで再始動された。これによって、LOG コマンドは非アクティブになります。LOG コマンドを再びアクティブにするには、次のコマンドを出さなければなりません。

```
W START
V SYSLOG,HARDCOPY,CMDS,ROUT=ALL
```

最初のコマンドは LOG タスクを始動させ、2 番目のコマンドは LOG をスプールに書き出させます。

- HASPINDEX データ・セットを 2 つのシステムが共用している。互いにレベルの異なる複数の JES2 システムを使用しているときは、SDSF が稼働している各 JES2 システムに対して固有の HASPINDEX データ・セットを設けておかなければなりません。

0027 **説明** : SDSF が回復不能な SYSLOG スプール・データ・エラーを検出しました。

システム・プログラマーの応答 : エラーの原因として、次のことを調べてください。

- JES2 がいったんシャットダウンされ、MVS の IPL なしで再始動された。これによって、LOG コマンドは非アクティブになります。LOG コマンドを再び活動化させるには、次のコマンドを出さなければなりません。

```
W START
V SYSLOG,HARDCOPY,CMDS,ROUT=ALL
```

最初のコマンドは LOG タスクを始動させ、2 番目のコマンドは LOG をスプールに書き出させます。

- 2 つのシステムが HASPINDEX データ・セットを共用していますが、JES2 システムが異なるリリースあるいは保守レベルにあります。同じレベルにない JES2 システムのそれぞれについて、独自の HASPINDEX データ・セットがなければなりません。

0028 **説明** : SYSOUT データ・セット・レコードの探索、取り出し、または処理を行おうとしたとき、エラーが検出されました。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャーに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0031 **説明** : SDSF 入出力インターフェース・ルーチンに無効な機能コードが渡されました。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャーに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0032 **説明** : SDSF ストレージ管理ルーチンで回復不能エラーが起きました。ストレージ要求は、満たされていません。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャーに従って、問題を IBM に報告してください。

0041 **説明** : SDSF DA パネル・ルーチンに論理エラーがあります。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャーに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0053 **説明** : 動的割り振りエラーが起きました。

システム・プログラマーの応答 : 詳細については、関連するオペレーター書き込みメッセージを参照してください。

0061 **説明**：ISPF のもとでの SDSF の初期設定が失敗しました。ISPF サポートのインストールに誤りがあるか、SDSF が TSO 許可コマンド・テーブルに入っている可能性があります。TSO 許可コマンド・テーブルから SDSF を実行することはできません。

システム・プログラマーの応答：ISPF のサポートを検査し、SDSF が TSO 許可コマンド・テーブルにないことを確認してください。

0071 **説明**：端末ルーチンまたは表示ルーチンに論理エラーがあります。

システム・プログラマーの応答：ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0072 **説明**：アテンション・キーを押したため、SDSF が異常終了しました。

システム・プログラマーの応答：ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0073 **説明**：メニュー・データ・セットに欠陥があります。

システム・プログラマーの応答：メニュー・データ・セットを変更した場合は、変更事項をチェックしてください。問題が見付からないときは、インストールされている SDSF パネル・データ・セットを SDSF 配布テープにあるオリジナルのパネル・データ・セットで置き換えることもできます。

0080 **説明**：JES2 チェックポイントの処理を行う際に、SDSF の初期設定エラーが起きました。メッセージ ISF006I には、説明用の情報が入っています。

システム・プログラマーの応答：詳細については、これとともに出されるオペレーター書き込みメッセージを参照してください。詳しくは、*OS/390 SDSF カスタマイズおよびセキュリティー*を参照してください。

0081 **説明**：SDSF をアセンブルした JES2 のレベルが、実行中の JES2 のレベルとマッチしません。

システム・プログラマーの応答：SDSF が、実行システムとして、適正な JES2 マクロ・ライブラリーのセット用にアセンブルされていることを確認してください。JES2 マクロ・ライブラリーが正しくないときは、正しい JES2 マクロ・ライブラリー用に SDSF をアセンブルし直してください。JES2 レベルの詳細については、これとともに出される ISF020E メッセージを参照してください。また、SDSF ライブラリーの連結とライブラリーの許可を調べ、正しいレベルの SDSF を使用していることを確認してください。

0091 **説明**：ISPF サービスの実行中に、SDSF がエラー戻りコードを検出しました。SDSF の実行は打ち切られました。

システム・プログラマーの応答：詳細については、これとともに出される ISF039I メッセージを参照してください。

0092 **説明**：SDSF が ISPF ダイアログ・サービスを呼び出したときに、エラーが起きました。

システム・プログラマーの応答：詳細については、これとともに出される ISF039I メッセージを参照してください。

0093 **説明**：ISPF サービスの実行中に、SDSF がエラー戻りコードを検出しました。SDSF の実行は打ち切られました。

システム・プログラマーの応答：詳細については、これとともに出される ISF039I メッセージを参照してください。

0101 **説明**：SYSLOG マスター索引レコードが見付かりませんでした。

システム・プログラマーの応答：ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0102 **説明**：SYSLOG マスター索引レコードに、SYSLOG 項目がありませんでした。

システム・プログラマーの応答：ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0103 **説明** : SYSLOG マスター索引レコード内で、無効な索引ポインターが見つかりました。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0104 **説明** : SDSF が、SYSLOG マスター索引レコード内で無効なポインターを見付けました。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0105 **説明** : SAF 処理中に論理エラーが見つかりました。必要なパラメーターが使用不能です。SAF 処理を続行できません。

システム・プログラマーの応答 : ローカル・プロシージャに従って IBM に連絡し、サービスを受けてください。

0201 **説明** : 回復不能エラーが起こったため、サーバーが異常終了しました。理由コードが、エラーの原因を示しています。

0001 CAB 用のストレージが得られなかった。

0002 SAB 用のストレージが得られなかった。

0003 実行環境が正しくない。サーバーが実行されている保護キーが正しくありません。PPT 項目が、ISFHCTL プログラムの SYS1.PARMLIB の SCHEDxx メンバーに定義されているかを検証してください。

0222 **説明** : ABEND コマンドに応じて、SDSF が異常終了しました。

システム・プログラマーの応答 : ABEND コマンドを出した人は、要求したダンプを印刷したり表示することができます。

付録. 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラム、またはサービスに代えて、IBM の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の操作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書で解説されている主題について特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書の提供は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書に対して、周期的に変更が行われ、これらの変更は、文書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Mail Station P300
2455 South Road
Poughkeepsie, NY 12601-5400

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表はご覧になれない場合があります。

商標

本書で使われている以下の用語は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing	MVS/SP
AFP	NetView
BookManager	OS/2
CICS	OS/390
GDDM	PSF
IBM	RACF
IBMLink	Resource Measurement Facility
MQSeries	RMF
MVS/ESA	SMP/E
	System/370

Microsoft および Windows は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

用語集

この用語集では、SDSF の資料で使用される技術用語および省略語を定義します。探している用語が見つからない場合は、

<http://www.ibm.com/networking/nsg/nsgmain.htm> にある *IBM Dictionary of Computing* を参照してください。

A

アクション・バー (action bar). ウィンドウの最上部にある区域で、当該ウィンドウで使用可能なアクションへのユーザーのアクセスを可能にする選択項目が入っているもの。(D)

アクション文字 (action character). SDSF では、SDSF パネルの NP 欄に入力される文字。ほとんどのアクション文字は、許可されたユーザーがジョブ、出力、イニシエーター、およびプリンターを制御するための JES2 コマンドおよび MVS コマンドを生成する。

代替フィールド・リスト (alternate field list). SDSF では、パネルから ? コマンドを使うことによって表示できる、欄の代替のセット。

アプリケーション・プログラム・インターフェース (Application Program Interface (API)). オペレーティング・システムまたは別個に注文可能なライセンス・プログラムによって提供される機能インターフェース。これによって、高水準言語で作成されたアプリケーション・プログラムは、オペレーティング・システムまたはライセンス・プログラムの特定データや機能を使うことができるようになる。(D)

許可レベル (authorization level). (1) SDSF では、ISFPARMS を介してユーザーに与えられる、アクション文字および上書き可能フィールドを使用するユーザーの権限。(2) セキュリティ製品によってユーザーに与えられる、SAF 保護リソースに対するユーザーのアクセス権限。

許可ユーザー (authorized user). SDSF では、特定のタスクを実行するために必要なリソースに対する特定の権限を与えられているユーザー。この権限は、SAF セキュリティ方式か ISFPARMS ISFGRP マクロのいずれか、あるいはその組み合わせによって与えられる。

B

BookManager. ユーザーがワークステーションでソフトコピー資料を表示するための IBM 製品。SDSF では、ユーザーは BOOK コマンドを出して BookManager を使用する。

C

共通ユーザー・アクセス (CUA) アーキテクチャー (Common User Access (CUA) architecture). 人間とワークステーションまたは端末とのダイアログのための指針 (D)

D

データ・セット (data set). あらかじめ定められたいくつかの配置のうちの 1 つの配置の仕方によるデータの集合から成り、システムがアクセスする制御情報によって記述されている、データの記憶および検索のための大きな単位。(D)

アクティブ・ユーザーの表示 (DA) パネル (Display Active Users (DA) panel). ジョブ、開始済みタスク、および TSO ユーザーなど、現在実行中の MVS アドレス・スペースに関する情報を表示する SDSF パネル。

E

拡張コンソール (extended console). オペレーターまたはプログラムが MVS コマンドを出したり、メッセージを受け取ることができる、複数コンソール・サポート (MCS) コンソール以外のコンソール。

F

固定部分 (fixed portion). SDSF では、SDSF 表形式パネル上で、常に表示されており、ユーザーがパネルを左右にスクロールさせても画面に表示されたままになっているデータ域部分。

G

グラフィカル・ユーザー・インターフェース (graphical user interface (GUI)). SDSF では、各ワークステーションに固有の表示サービスを使用して、ISPF アプリケ

ーションを OS/2 または Microsoft Windows ワークステーションに表示するためのコンピューター・インターフェース。

H

保留出力キュー (H) パネル (Held Output Queue (H) panel). JES2 の任意の出力キューにあるジョブ、開始済みタスク、および TSO ユーザーの SYSOUT データ・セットに関する情報を表示する SDSF パネル。

I

イニシエーター (initiator). SDSF では、実行されるジョブおよびジョブ・ステップを選択し、それらのための入出力装置を割り振り、それらをタスク制御下に置く MVS のジョブ・スケジューラー機能の一部。

イニシエーター (INIT) パネル (Initiator (INIT) panel). MAS 内のアクティブな JES2 サブシステムで定義される JES2 イニシエーターに関する情報をユーザーが表示できる SDSF パネル。

入力キュー (input queue). ジョブ・クラスに割り当てられ、割り当てられた優先順位で配列される、直接アクセス記憶装置のジョブ定義のキュー。(D)

入力キュー (I) パネル (Input Queue (I) panel). JES2 入力キューに入っているかあるいは実行中のジョブ、開始済みタスク、および TSO ユーザーに関する情報をユーザーが表示できるようにする SDSF パネル。

インストール・システム出口ルーチン (installation exit routine). SDSF では、ISFPARMS モジュールおよび SAF セキュリティー方式が設定した許可を補足するものとして、カスタマイズした許可処理を提供するユーザー作成のルーチン。

対話式システム生産性向上機能 (Interactive System Productivity Facility (ISPF)). フルスクリーン・エディターおよびダイアログ・マネージャーとして機能する IBM ライセンス・プログラム。アプリケーション・プログラムの作成に使用される場合、標準画面パネルの生成や、アプリケーション・プログラマーと端末ユーザーとの間の対話式ダイアログを行う手段を提供する。(D)

ISFPARMS. SDSF では、SDSF とそのユーザーに初期設定パラメーターおよび許可パラメーターを定義するマクロを含んでいるモジュール。

J

ジョブ・クラス (JC) パネル (Job Class (JC) panel). ユーザーが JES2 および WLM ジョブ・クラスに関する情報を表示できるようにする SDSF パネル。

ジョブ制御言語 (job control language (JCL)). オペレーティング・システムに対してジョブを識別し、ジョブの要件を記述するために使用する制御言語。(D)

ジョブ・データ・セット (JDS) パネル (Job Data Set (JDS) panel). 選択されたジョブ、開始済みタスク、または TSO ユーザーの SYSOUT データ・セットに関する情報をユーザーが表示できるようにする SDSF パネル。

ジョブ優先順位 (job priority). 割り当てられたジョブ・クラスと一緒にジョブに割り当てられ、ジョブのスケジューリングおよびそれへのリソースの割り振りで行われる優先順位を決める値。(D)

L

回線 (LI) パネル (Lines (LI) panel). JES2 回線と関連する送受信側をユーザーが表示し、制御できるようにするための SDSF パネル。

ログ・ストリーム (log stream). SDSF では、MVS システム・ロガーによって提供されるサービスを使用してアプリケーションが書き出した 1 つまたは複数のログ・レコードの集り。

M

多重アクセス・スプール (MAS) (Multi-access spool (MAS)). SDSF では、同じ物理ロケーションにある 2 つ以上の JES2 プロセッサが同じスプールを共用する環境。JES2 プロセッサは、共通の入力、出力、ジョブ・キューを共用する。

MAS パネル (MAS panel). ユーザーが、JES2 多重アクセス・スプール環境のメンバーを制御し、管理できるようにするための SDSF パネル。

MVS/JES2. 多重仮想記憶 / ジョブ入力サブシステム 2。システムにジョブを受け入れ、内部形式に変換し、実行のために選択し、出力を処理し、システムからパージする MVS のサブシステム。複数のプロセッサから成るインストール先では、JES2 の各プロセッサが、独立してそのジョブ入力を制御し、スケジュールし、出力を処理する。

N

ノード (NO) パネル (Nodes (NO) panel). JES2 ノードをユーザーが表示し、制御できるようにするための SDSF パネル。

NP. SDSF では、SDSF の表形式パネルでアクション文字を入力する入力欄のヘッダー。

O

OPERLOG. SDSF では、操作ログ。ログ・ストリームのインスタンス。

OPERLOG パネル (OPERLOG panel). ユーザーがオペレーティング・システム・ログのストリームを表示できるようにする SDSF パネル。

出力データ・セット・パネル (Output Data Set panel). ユーザーが印刷前に SYSOUT データ・セットを表示できるようにする SDSF パネル。このパネルは、JES2 ジョブ・ログ、ジョブのための JCL、およびジョブ関連メッセージも表示する。

出力記述子 (OD) パネル (Output Descriptors (OD) panel). SYSOUT データ・セットとその宛先を記述する JES2 出力記述子を表示できるようにし、許可ユーザーはこれを変更することもできるようにする SDSF パネル。

出力キュー (output queue). (1) 印刷または表示される出力ファイルのリスト。(2) 書き出しプログラムに対してシステム出力の位置と後処理を指定する、システム出力データ・セットを記述する制御情報のキュー。(D)

出力キュー (O) パネル (Output Queue (O) panel). JES2 の任意の非保留出力キューにあるジョブ、開始済みタスク、および TSO ユーザーの SYSOUT データ・セットに関する情報をユーザーが表示できるようにする SDSF パネル。

上書き可能フィールド (overtypable fields). SDSF では、許可ユーザーが新しい値を上書きして、ジョブ、出力、イニシエーター、およびプリンターを制御する JES2 コマンドおよび MVS コマンドを生成できる値が入っている、表形式パネルのフィールド。

P

ポップアップ・ウィンドウ (pop-up window). アプリケーションがユーザーの要求の処理を継続することができるように、ユーザーがアプリケーションに必要な情報を提供する固定サイズのウィンドウ。(D)

基本フィールド・リスト (primary field list). SDSF では、表形式パネルへ入ったときに表示される欄のセット。

基本オプション・メニュー (Primary Option Menu). ユーザーが使用許可を与えられている SDSF パネルを表示するコマンドをリストした SDSF パネル。

プリンター (PR) パネル (Printer (PR) panel). JES2 プリンターの印刷ジョブ、開始済みタスク、および TSO ユーザー出力に関する情報を、ユーザーが表示できるようにする SDSF パネル。

優先順位 (priority). (1) システム・リソースを受け取る順序を決定するためにタスクに割り当てられる順位。(2) あるジョブと別のジョブでリソースの割り振りを競う相対的な重要度。ジョブ優先順位 (Job priority) を参照。(D)

パンチ (PUN) パネル (Punch (PUN) panel). ユーザーが JES2 パンチ処理ジョブ、開始済みタスク、および TSO ユーザー出力に関する情報を表示できるようにする SDSF パネル。

ページ (purge). ストレージからデータを削除して、そのデータへのすべての参照を除去すること。(D)

プルダウン (pull-down). ユーザーがオブジェクトに関連するアクション、ルーティング、および設定値にアクセスできるようにするための、選択したアクション・バーの項目から延びる選択項目のリスト。(D)

R

リーダー (RDR) パネル (Reader (RDR) panel). ユーザーが JES2 リーダーに関する情報を表示できるようにする SDSF パネル。

資源アクセス管理機能 (Resource Access Control Facility (RACF)). システムに対してユーザーを識別、検査し、保護リソースへのアクセスを許可し、検出した無許可のシステム侵入の試みを記録し、さらに検出した保護リソースへのアクセスを記録することによってアクセス管理を行う IBM ライセンス・プログラム。(D)

資源測定機能 (Resource Measurement Facility (RMF)). MVS/ESA インストール・システムにおけるシステム・アクティビティを測定し報告するのに使う IBM ライセンス・プログラム。(D)

リソース (RES) パネル (Resource (RES) panel). ユーザーが WLM リソースに関する情報を表示できるようにする SDSF パネル。

戻りコード (**return code**). (1) 後続の命令の実行に影響を与えるために使用されるコード。(2) プログラムが要求する操作の結果を示すために、プログラムに戻される値。(D)

S

スケジューリング環境 (SE) パネル (Scheduling Environment (SE) panel). ユーザーがスケジューリング環境に関する情報を表示できるようにする SDSF パネル。

サーバー (server). SDSF の場合は、特定のユーザーと関連のない機能を提供するアドレス・スペース。SDSF サーバーは、ステートメント形式で定義されている ISFPARMS を処理する。

スプール・データ・セット (spool data sets). 後の処理のために補助記憶装置に保管されている出力データが入っているデータ・セット。(D)

スプール・オフロード (SO) パネル (Spool Offload (SO) panel). JES2 スプール・オフローダーおよびそれと関連する送受信側をユーザーが表示し、制御できるようにするための SDSF パネル。

ステートメント (ISFPARMS) (statement (ISFPARMS)). ISFPARMS のステートメントは、SDSF 初期設定パラメーターと許可パラメーターの定義に使用される。これらのステートメントはアセンブラー・マクロの代替となり、アセンブルとリンク・エディットなしで ISFPARMS の更新ができるようにする。

状況 (ST) パネル (Status (ST) panel). JES2 キューにあるジョブ、開始済みタスク、および TSO ユーザーに関する情報をユーザーが表示できるようにする SDSF パネル。

SYSLOG. システム・ログ。(D)

SYSLOG パネル (SYSLOG panel). ユーザーが MVS システム・ログ・データを表示できるようにする SDSF パネル。

シスプレックス (sysplex). クロス・システム・カップリング・ファシリティ (XCF) シスプレックス名を与えられ、システム内のプログラムが XCF サービスを使用できる 1 つ以上の MVS システムのセット。(D)

システム許可機能 (System Authorization Facility (SAF)). 資源アクセス管理機能 (RACF) などの外部セキュリティ・システムと通信するために SDSF によって呼び出される MVS インターフェース。(D)

システム表示および検索機能 (System Display and Search Facility (SDSF)). MVS/JES2 システムのジョブおよびリソースに関する詳細情報を入手するためにメニュー方式のフルスクリーン・インターフェースを提供する IBM ライセンス・プログラム。(D)

拡張システム修正変更プログラム (System Modification Program/Extended (SMP/E)). OS/VS1 システムおよび OS/VS2 システムにソフトウェア変更をインストールするために使用する IBM ライセンス・プログラム。SMP/E は、SMP のサービスを提供することに加えて、インストール・データを統合して、インストールすべき変更事項をより柔軟に選択することを可能にし、ダイアログ・インターフェースを提供し、データ・セットの動的割り振りをサポートする。(D)

システム要求 (SR) パネル (System Requests (SR) panel). システム要求を、WTOR とアクション・メッセージを含めて、ユーザーが表示および制御できる SDSF パネル。

T

表形式パネル (tabular panel). テーブル形式に設定された JES2 データおよび MVS データを含む SDSF パネル。

タイム・シェアリング・オプション (Time Sharing Option (TSO)). オペレーティング・システムの 1 つのオプション。System/370 システムでは、リモート端末からの対話式タイム・シェアリングを提供するオプション。(D)

U

ULOG. SDSF ではユーザー・ログ。

ULOG パネル (ULOG panel). SDSF では、ユーザーが自分のセッション中に出されたコマンドや応答を表示できるようにするための SDSF パネル。

V

変数部分 (variable portion). SDSF では、ユーザーが PF キーまたは SDSF コマンドを使ってスクロールできる情報フィールドを含む表形式パネルのデータ域部分。

W

要応答オペレーター書き込み (WTOR) メッセージ (write-to-operator-with-reply (WTOR) messages).

ユーザーがコーディングするオプションのサービス。
これによって、訂正する必要があるエラーおよび異常状態をオペレーターに知らせるために、システム・コンソール・オペレーターにメッセージを書き出すことができる。(D)

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクション文字

- 確認 108
- 繰り返し 17
- 使用 16
- X 91
- XD 93
- XF 93
- XS 93
- // 17
- = 17

アクション・バー 11

- オンまたはオフにする 9, 18, 19
- オンまたはオフの設定 117
- 表形式パネルの 10
- ブラウザ・パネルの 9

アクション・メッセージ

- SR パネルでの表示 123
- アクティブ・ジョブの表示 51
- アクティブ・ユーザーの表示 51
- 値

- セッション間における保管 22
- ポップアップでの表示 40

宛先コード

- およびログに表示される WTOR メッセージ 46

異常終了

- コード 189
- ABEND コマンドによる要求 45

位置決め, SDSF パネルにおけるデータの

- 概説 15
- FIND による 15
- LOCATE による 15

イニシエーター

- 表示 72
- DA パネルでの 51

印刷 91

- 画面イメージ 28
- SDSF パネルからの印刷 26, 91

印刷, データ・セットの 91

印刷, パネルの 26, 91

印刷アクション文字 91

印刷オープン・パネル 91

印刷データ・セットの 26

ウィンドウ 11

上書き, フィールドへの 16
オンライン

- 資料 14
- チュートリアル 13, 131
- ヘルプ機能 12

[カ行]

カーソル, 制御 110

開始

- SDSF セッション 8
- 開始, SDSF セッションの 8
- 開始済みタスクの表示, アクティブな 51
- 回線, 表示 74
- 拡張コンソール 108
- カスタマイズ

- 表示画面 117
- 表示パネル 18
- 欄の制限および順序変更 20

紙送り制御文字

- 探索 62
- 表示 114

画面サイズ

- バッチ 30

カラー

- パネルでの変更 18, 117

規則

- 指定
- 日付と時刻 40
- 欄の名称 40
- 置換
- 単一の文字 40
- 複数の文字 40
- ワイルド・カードの使用 39

輝度

- パネルでの変更 18, 117

基本オプション・メニュー

- バイパス 8

強調表示

- パネルでの変更 18, 117

許可グループ

- エラー・メッセージによる 137
- 表示 134

許可パラメーター, ISFPARMS の

- 現在入っているグループの表示 134
- ユーザー許可の検査 137

繰り返し

- 最後の FIND コマンド 15
- 最後のアクション文字 17

繰り返し (続き)

最後のコマンド 102

繰り返しアクション文字およびブロック・アクション文字 17

繰り返しジョブのブロック化

// アクション文字による 17

グループ索引または名前

表示 134

クローズ、印刷データ・セットの 28, 96

グローバル・サーチ文字の指定 87

言語

指定 29, 115

高速パス選択 22, 105

固定フィールド

ソート 121

表形式パネルの 11

表示の制限 22

コマンド

繰り返し 102

構文図の読み方 39

生成される MVS/JES2 コマンド 24

長いコマンドの入力 24, 42

ブラウズと編集 25

AFD 32

ISPF 25

ログオン・プロシージャ 8

FIND 25

KEYLIST 8

KEYS 8

PFSHOW 8

PRINT CLOSE 28

PRINT SCREEN 91

PRINT-HI 28, 95

MVS コマンドと JES2 コマンドを出す 24

/ コマンドによる 42

SDSF

ABEND コマンド 45

ACTION コマンド 46

APPC コマンド 47

ARRANGE コマンド 19, 48

BOOK コマンド 49

BOTTOM コマンド 50

COLS コマンド 51

DA コマンド 51

DEST コマンド 55

DOWN コマンド 56

END コマンド 57

FILTER コマンド 20, 57, 60

FIND コマンド 62

FINDLIM コマンド 66

H コマンド 66

HELP コマンド 69

コマンド (続き)

SDSF (続き)

I コマンド 70

INIT コマンド 71

INPUT コマンド 72

JC コマンド 73

LEFT コマンド 73

LI コマンド 74

LOCATE コマンド 75, 76

LOG コマンド 77

LOGLIM コマンド 79

MAS コマンド 80

NEXT コマンド 80, 81

NO コマンド 82

O コマンド 83

OWNER コマンド 84

PR コマンド 85

PREFIX コマンド 87

PREV コマンド 89, 90

PRINT コマンド 91

PUN コマンド 97

QUERY AUTH コマンド 98

RDR コマンド 99

RES コマンド 100

RESET コマンド 101

RETRIEVE コマンド 102

RIGHT コマンド 102

RSYS コマンド 103

SE コマンド 104

SELECT コマンド 20, 22, 105

SET ACTION コマンド 106

SET CONFIRM コマンド 108

SET CONSOLE コマンド 108

SET CURSOR コマンド 110

SET DATE コマンド 111

SET DELAY コマンド 112

SET DISPLAY コマンド 113

SET HEX コマンド 114

SET LANG コマンド 115

SET LOG コマンド 115

SET SCHARS コマンド 116

SET SCREEN コマンド 117

SET SHELF コマンド 118

SET TIMEOUT コマンド 119

SO コマンド 120

SORT コマンド 121

SR コマンド 123

ST コマンド 124

SYSID コマンド 126

SYSNAME コマンド 127

TOP コマンド 128

TRACE コマンド 128

コマンド (続き)

- TUTOR コマンド 131
- ULOG コマンド 132
- UP コマンド 133
- WHO コマンド 134
- &コマンド 44
- / コマンド 42
- ? コマンド 41

コマンド応答のタイムアウト値 112

コマンド行

- カラー、強調表示、輝度の設定 18
- 表形式パネルの 10
- MVS コマンドまたは JES2 コマンド実行 24

コマンドの拡張 24, 42

[サ行]

サーバー接続

- 表示 134

サーバー名

- 表示 134

サーバー・グループ、および SYSNAME 127

索引、ヘルプとチュートリアル 137

参照行の表示、SDSF パネルにおける 51

時刻、入力の規則 40

自己ジョブに対する他ユーザーの許可 29

システム ID の指定 126

システム出力 (SYSOUT)

- 印刷 91

システム入力 (SYSIN)

- ジョブの表示 72

システム要求

- 表示 123

シズプレックス全体に関する DA パネル 51

シズプレックス・サポート

- 使用禁止 119

シズプレックス・データのタイムアウト、設定 119
指定

- アドレス・スペースのタイプと位置

- DA コマンド 51

グローバル・サーチ文字 87

言語 29, 115

システム ID 126

照会文字 40

名前 40

パネルのカラー 117

パネルの輝度 117

パネルの強調表示 117

日付形式 30

欄の名称 40

自動更新

- & パラメーター 44

終了、SDSF セッションの 9

照会、現行値の

タイムアウトの 119

ACTION 23, 46

APPC 23

ARRANGE 23

DEST 23, 55

FILTER 23

FINDLIM 23, 66

INPUT 23

OWNER 23, 84

PREFIX 23, 87

RSYS の 103

SET ACTION 23

SET CONFIRM 23

SET CONSOLE 23

SET CUSROR 23

SET DATE の 111

SET DELAY 23

SET DISPLAY 23, 113

SET HEX 23

SET LANG 115

SET LANGUAGE 23

SET LOG 23, 115

SET SCHARS 23, 116

SET SCREEN 23

SET SHELF 23

SORT 23, 122

SYSID 23, 126

SYSNAME 23

TRACE 23, 128

照会、現在値の 22

照会文字の指定 87

情報行

アクション文字での制御 107

カラー、強調表示、輝度の設定 117

表形式パネルの 10

ジョブ

出力の印刷 26

制御

上書き可能フィールドでの制御 16

ジョブ名による制御 87

MVS/JES2 コマンド実行 24

表示

アクティブな場合 51

キューにあるとき 124

保留出力キューにあるとき 66

JES2 出力キューにあるとき 83

JES2 入力キューにあるとき 70

SDSF パネルでの表示制御

宛先名による制御 55

ユーザー ID の所有による制御 84

ジョブの JCL、表示 25

- ジョブの出力
 - 印刷 26, 91
 - クラスの変更 16
 - 制御
 - 上書き可能フィールドでの制御 16
- ジョブ・クラス
 - 表示 73
- 所有、ユーザー ID の 84
- 資料
 - オンラインで表示 14, 49
- スクロール、SDSF パネルの 15
 - BOTTOM コマンド 50
 - DOWN コマンド 56
 - LEFT コマンド 73
 - LOCATE コマンド 75
 - LOGLIM コマンド 79
 - NEXT コマンド 80, 81
 - PF キー 15
 - PREV コマンド 89, 90
 - RIGHT コマンド 102
 - TOP コマンド 128
 - UP コマンド 133
- スケーリング 11
- 制御
 - データ・セットの形式番号によるジョブの 83
 - 入カクラスによる制御 70
 - H パネルに表示されるジョブ 66
 - MVS/JES2 コマンドによるジョブ 24
- 制限
 - 選択したシスプレックス・システムへの行の 127
 - FIND コマンドによって探索する行数 66
 - SDSF パネル上の情報 20
- セッション
 - 開始 8
 - 終了 9

[夕行]

- 代替形式のパネル
 - 表示 41
- 代替フィールド・リスト、SDSF パネルの
 - 表示 41
- 出し直し、コマンドの 44
- 多重アクセス・スプール環境
 - メンバーのリストと制御 80
 - JES2 システム ID の指定 126
- 探索、SDSF パネルにおけるデータの
 - コマンド および PF キー 15
 - FIND コマンド 62
 - FIND による 62
 - LOCATE コマンド 75
 - LOCATE による 75

- 探索、SDSF パネルにおけるデータの (続き)
 - SORT による 23, 121
- 探索、SDSF パネルにおける欄の
 - LOCATE による 75
- 探索文字
 - H コマンドによるストリング探索 66
 - OWNER コマンド 84
 - PREFIX コマンド 87
 - ST コマンドによるストリング探索 124
- ダンプ
 - 異常終了とともに 189
 - ABEND コマンドで 45
- ダンプを取る
 - SDUMP 45
 - SNAP 45
- 端末 ID
 - 表示 134
- チュートリアル 13
- データ域
 - 表形式パネルの 11
- データ・セット
 - 印刷 91, 94
- デフォルトのブックシェルフ 14
- デフォルト・ブックシェルフ 118
- 特記事項 195

[ナ行]

- 名前の指定 40
- ネット・メール 68, 84
- ノード、表示 82

[ハ行]

- バイパス、基本オプション・メニューの 8
- パターン・マッチング 39
 - FILTER による 58, 61
 - H による 66
 - O による 83
 - OWNER による 84
 - PREFIX による 87
 - SET SCHARS コマンドによる設定 116
 - ST による 124
 - SYSNAME による 127
- バッチ 30
- パネル
 - コマンド
 - DA コマンド 51
 - H コマンド 66
 - I コマンド 70
 - INIT コマンド 71
 - JC コマンド 73
 - LI コマンド 74

パネル (続き)

- LOG コマンド 77
- NO コマンド 82
- O コマンド 83
- PR コマンド 85
- PUN コマンド 97
- RDR コマンド 99
- RES コマンド 100
- SE コマンド 104
- SO コマンド 120
- SR コマンド 123
- ST コマンド 124
- ULOG コマンド 132

説明

- ODS 25
- Open Print 26

- ISPF ブラウズおよび編集フォーマットの 25

パネルでの行の選択 22

パンチ

- 情報の表示 97
- 日付、入力の規則 40
- 日付形式
 - 指定 30
- 日付形式、設定 111

表示

- アクション文字 106
- アクティブ・ジョブ 51
- アクティブ・ユーザー 51
- 値 40
- 開始済みタスク 51
- 回線 74
- グループ索引 134
- グループ名 134
- サーバー接続 134
- サーバー名 134
- 参照行 51
- システム入力 72
- システム要求 123
- スプール・オフロード装置 120
- 代替形式のパネル 41
- 代替フィールド・リスト 41
- 他ユーザーのジョブ 29
- 端末 ID 134
 - ノード 82
- パンチ 97
- プリンター 85
- プロシージャ名 134
- メッセージ・ヘルプ 137
- ユーザー ID 134
- 欄情報 51
- リーダー 99
- リソース 100, 104

表示 (続き)

- リソースの要約 104
- ログ 77, 132
 - ログに表示される WTOR メッセージ 46, 103
- ISPF レベル 134
- JES 名 134
- JES2 レベル 134
- MVS レベル 134
- RMF レベル 134
- SDSF レベル 134

表示許可、他ユーザーに対する自己ジョブの 29

表示される行

- フィルター操作 21

表示される欄

- 再順変更 48
- 順序の変更 19
- 探索 75
- データ域の 11
- 幅の変更 19, 48
- 表形式パネル上の 11
- SDSF パネルでの表示 51

表題行

- カラー、強調表示、輝度の設定 18, 117
- 表形式パネルの 10
- ブラウズ・パネルの 10
- フィールド、SDSF パネルの
 - 上書き 16
 - 制限および順序変更の方法 20
 - 欄の名称の指定 40

フィルター操作

- 行 21
- SYSLOG 上の WTOR 103

ブックシェルフ

- BOOK コマンドによる選択 49
- BookManager での使用 14
- SET SHELF コマンドによる設定 118

ブラウズ

- パネルの説明 9
- ISPF ブラウズの使用例 25

ブラウズ、出力の

- コマンド および PF キー 15
- SB アクション文字による 25

プリンター

- 情報の表示 85
- 制御
 - アクション文字で制御 16
 - 上書き可能フィールドでの制御 16
 - MVS/JES2 コマンド実行による 24

プルダウン

- 説明 11
- ディスプレイ 9
- Display 11

- プルダウン (続き)
 - Filter 11, 21
 - Help 12
 - Book を選択するための 14
 - Options 9, 12, 19
 - Print 12
 - View 12
- プログラム機能 (PF) キー、SDSF の
 - スクロール 15
 - 変更 8
- ブロック・アクション文字および繰り返しアクション文字 17
 - 取り消し 101
- 分割画面モード 29
- 文献、SDSF の
 - オンライン 49
- ヘルプ
 - 使用 12
 - メッセージ 137
- 変更
 - カラー 18
 - 強調表示 18
 - ジョブの宛先 16
 - ジョブの出カクラス 16
 - 制限、FIND コマンドにおける探索行数の 66
 - パネルのカラー 117
 - パネルの輝度 18, 117
 - 表示される SYSLOG のシステム ID 126
 - 欄の長さ 48
 - 欄の幅 19, 48
 - CUA 属性 19
 - SDSF パネルに表示されるジョブ 55, 84, 87
 - SYSIN データ・セットの表示 72
- 編集、出力の
 - ISPF 編集使用の例 25
 - SE アクション文字による 25
- 保存、セッション間における SDSF 値の 22
- ポップアップ
 - 値の表示 40
 - 画面特性の設定 9
 - システム・コマンド拡張 44
 - 説明 11
 - フィルター 62
 - Book 14
 - Filter 59
 - PF キーの変更 8
 - System Command Extension 24

[マ行]

- マウント・メッセージ
 - SR パネルでの表示 123

- メッセージ 137
 - ヘルプ・パネル 137
- メッセージ域
 - 表形式パネルの 10
 - ブラウザ・パネルの 10
- メッセージ行
 - カラー、強調表示、輝度の設定 18, 117

[ヤ行]

- ユーザー ID
 - 所有 84
 - 表示 134
- ユーザー許可 137
- ユーザー・ログ
 - 名前の変更 108
 - 表示 132
 - 分割画面モード 29
- 要応答オペレーター書き込み (WTOR) メッセージ
 - エラー・メッセージ 167
 - コマンドでの指定 46, 103
 - ログ・パネルに表示される 46, 103
 - SR パネルに表示される 123

[ラ行]

- 欄の順序変更 19, 48
 - Arrange コマンドによる 19, 48
- 欄の長さ、変更 19
- 欄の幅、変更 19
- 欄ヘッダー
 - カラー、強調表示、輝度の設定 18
 - 表形式パネルの 11
 - 名称の指定 40
- リーダー
 - 情報の表示 99
- リソース
 - 情報の表示 100, 104
- リソースの要約
 - 情報の表示 104
- リトリブ、最後のコマンドの 102
- ログオン・プロシージャ 8
- ログ・ストリーム 77
- ログ・デフォルト、設定 115
- ログ・パネル
 - 行番号と欄番号の表示 51
 - 表示 77
 - 部分的印刷 91
 - 要応答オペレーター書き込み (WTOR) メッセージ 46, 103

[ワ行]

ワイルド・カード文字 39

[数字]

16 進数

データの表示 114

2 バイト文字セット (DBCS)

16 進数での表示 114

ISPF によるブラウズ 26

A

ABEND コマンド 45

ACTION コマンド 46

SDSF の値の照会 23

AFD コマンド 32

APPC コマンド 47

値の表示 113

ARRANGE コマンド

使用方法 19

表形式パネルの 48

SDSF の値の照会 23

B

B スケーリング 11

BOOK コマンド 14, 49

BookManager

使用 14

デフォルトのブックシェルフの設定 14

デフォルト・ブックシェルフの設定 118

BOOK コマンドによる 49

BOT コマンド 15

BOTTOM コマンド 50

C

CART 132

COLS コマンド 51

取り消し 101

CUA

属性の変更 19

cuaattr

PF キー 19

D

DA コマンド 51

DA パネル 51

行番号と欄番号の表示 51

シスプレックス全体に関する 51

DA パネル 51 (続き)

表示 51

DBCS

16 進数での表示 114

ISPF によるブラウズ 26

DEST コマンド 55

値の表示方法

SET DISPLAY コマンドを使用する 113

? を使用する 23

SDSF の値の照会 23

SDSF の値の保持 23

DEST のデフォルトのフィールド名称

許可のための上書き 29

DOWN コマンド 15, 56

E

END コマンド 57

F

FILTER コマンド 57, 60

使用方法 20

SDSF の値の照会 23

SDSF の値の保持 23

FIND コマンド 15, 62

行の制限のリセット

FINDLIM コマンドによる 66

FIND コマンドによって探索する行数

FINDLIM コマンドによる制御 66

FINDLIM コマンド 66

SDSF の値の照会 23

SDSF の値の保持 23

H

H コマンド 66

H パネル

行番号と欄番号の表示 51

出力クラスの指定 66

ジョブの制御

ジョブ名接頭部による制御 87

表示 66

表示されるジョブの制御

宛先名による制御 55

表示の制限 66

ユーザー ID の所有による制御 84

HELP コマンド 69

I

I コマンド 70

I パネル

- 行番号と欄番号の表示 51
- ジョブの制御
 - ジョブ名接頭部による制御 87
- 表示 70
- 表示されるジョブの制御
 - 宛先名による制御 55
 - 入力クラスによる制御 70
 - ユーザー ID の所有による制御 84

IFIND 65

INIT コマンド 71

INIT パネル

- 行番号と欄番号の表示 51
- 表示 71

INPUT コマンド 72

- SDSF の値の照会 23
- SDSF の値の保持 23

ISFGRP マクロ

- 許可の検査 137
- 割り当ての表示 134

ISPF

- ブラウズと編集 25
- ログオン・プロシージャ 8
- FIND コマンド 15
- PFSHOW コマンド 8
- PRINT-HI コマンド 28

ISPF レベル

- 表示 134

J

JC コマンド 73

JC パネル

- 表示 73

JDS パネル

- 行番号と欄番号の表示 51

JES 名

- 表示 134

JES2

- コマンドの実行 24
- コマンドを出す 80
- 多重アクセス・スプール 80

JES2 レベル

- 表示 134

K

KEYLIST コマンド (ISPF) 8

L

LEFT コマンド 15, 73

LI コマンド 74

LOCATE コマンド 15, 75, 76

LOG コマンド 77

LOGLIM コマンド 79

M

M スケーリング 11

MAS コマンド 80

MAS パネル

- 表示 80

MVS コマンドと JES2 コマンドを出す 24

MVS レベル

- 表示 134

MVS/JES2 コマンド 24

- 実行 24, 42
- 説明 42

MVS/JES2 コマンドの生成 24

N

NEXT コマンド 15, 80, 81

NO コマンド 82

NP 欄

- アクション文字で制御 16
- アクション文字での制御 11
- 幅の復元 101

O

O コマンド 83

O パネル

- 行番号と欄番号の表示 51
- ジョブの制御
 - ジョブ名接頭部による制御 87
- 表示 83
- 表示されるジョブの制御
 - 宛先名による制御 55
 - 出力クラスによる制御 83
 - データ・セットの形式番号による制御 83
 - ユーザー ID の所有による制御 84

ODS パネル

- 印刷 91
- データ・セット間のスクロール 80, 89
- 欄番号行の表示 51
- ISPF ブラウズおよび編集モード 25
- SYSIN データ・セットの表示 72

open print パネル 26

OPERLOG パネル

- 情報を探す 76
- スクロール
 - 後方 90
 - 制限 79

OPERLOG パネル (続き)
データ・セット間 81
表示 77
欄番号行 51
フィルター操作 60
部分的印刷 91
要応答オペレーター書き込み (WTOR) メッセージ
46, 103
OWNER コマンド 84
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

P

PF (プログラム機能) キー、SDSF の
スクロール 15
表示 15
PFSHOW コマンド (ISPF) 8
PR コマンド 85
PR パネル
行番号と欄番号の表示 51
ジョブ宛先名による制御 55
表示 85
PREFIX
ジョブ名を使用する制御
PREFIX コマンドによる 87
PREFIX コマンド 87
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23
PREV コマンド 15, 89, 90
PRINT DATASET コマンド 27
説明 94
SDSF の値の保持 23
PRINT FILE コマンド
SDSF の値の保持 23
PRINT SYSOUT コマンド
使用方法 26, 93
SDSF の値の保持 23
PRINT コマンド 91
画面印刷のための 28
使用方法 27
PRINT-HI コマンド 28, 91
PUN コマンド 97
PUN パネル
表示 97

Q

QUERY AUTH コマンド 98

R

RACF
許可ユーザーの 4
表示許可、他ユーザーに対する自己ジョブの 29
RDR コマンド 99
RDR パネル
表示 99
RES コマンド 100
RES パネル
表示 100
RESET コマンド 101
RETRIEVE コマンド 102
RFIND 65
RIGHT コマンド 15, 102
RMF (資源測定機能)
シスプレックス DA パネル 54
DA パネルのソース 51
RMF レベル
表示 134
RSYS コマンド 103

S

SAF セキュリティ 4, 29
SB アクション文字 25
SDSF の使用
アクション文字 16
アクション・バーとウィンドウ 11
印刷 26
オンライン・ヘルプ 12
繰り返しアクション文字およびブロック・アクション
文字 17
現行値 20, 22
言語の指定 29
自己ジョブに対する他ユーザーの許可 29
情報のフィルター操作 20
セッションの開始 8
セッションの終了 9
チュートリアル 13
バッチ処理 30
日付形式の指定 30
ブラウズ、出力の 26
分割画面 29
BookManager 14
MVS/JES2 コマンドの実行 24
SDSF パネルの調整 20
SDSF レベル
表示 134
SDSFDUMP データ・セット
ダンプ 45
SDUMP を取る 45
SE アクション文字 25

SE コマンド 104

SE パネル
表示 104

SELECT コマンド 105
使用方法 22

SET ACTION コマンド 106
アクション文字の使用 16
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET CONFIRM コマンド 108
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET CONSOLE コマンド 108
ユーザー・ログ名設定時の使用 132
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET CURSOR コマンド 110
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET DATE コマンド 111
日付形式の指定 30

SET DELAY コマンド 112
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23
/ コマンドによる 43

SET DISPLAY コマンド 113
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET HEX コマンド 114
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET LANGUAGE コマンド 115
言語の指定 29
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET LOG コマンド 115
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET SCHARS コマンド 116
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

Set Screen Characteristics パネル 18

SET SCREEN コマンド 117
SDSF の値の保持 23

SET SHELF コマンド 118
BOOK コマンドとともに使用 14, 50
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SET TIMEOUT コマンド 119

SNAP ダンプを取る 45

SO コマンド 120

SORT コマンド 121

SORT コマンド 121 (続き)
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SR コマンド 123

SR パネル
表示 123

ST コマンド 124

ST パネル
行番号と欄番号の表示 51
ジョブの制御
ジョブ名接頭部による制御 87
表示 124
表示されるジョブの制御
宛先名による制御 55
ユーザー ID の所有による制御 84

SYSID
多重アクセス・スプール環境での指定 126
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SYSID コマンド 126

SYSIN (システム入力)
ジョブの表示 72

SYSLOG
システム ID の指定 126
表示 77

SYSLOG パネル
日付の訂正 78
表示 77
部分的印刷 91
要応答オペレーター書き込み (WTOR) メッセージ
46, 103
欄の行の表示 51

SYSNAME コマンド 127
SDSF の値の照会 23
SDSF の値の保持 23

SYSOUT (システム出力)
印刷 26, 91

SYSOUT データ・セットの属性 41

T

T スケーリング 11

TMP ログオン・プロシージャ 8

TOP コマンド 15, 128

TRACE コマンド 128
SDSF の値の照会 23

TSO
アクティブ・ユーザーの表示 51, 70
セッションの開始 8
ログオン・プロシージャ 8
ログオン・プロシージャの名前の表示 134

TUTOR コマンド 131

U

ULOG

 コマンド 132

 説明 132

UP コマンド 15, 133

W

WHO コマンド 134

WTOR、制御 32

X

X アクション文字 27

XC アクション文字 26, 27

XD アクション文字 27

XDC アクション文字 27

XF アクション文字 27

XFC アクション文字 27

XS アクション文字 27

XSC アクション文字 27

[特殊文字]

&; (コマンドの自動再入力) 44

* 文字

 定義 116

 パターン・マッチングの使用 39

 FILTER による 58, 61

 H 66

 O 83

 OWNER 84

 PREFIX 87

 ST 124

 SYSNAME 127

/ コマンド

 応答時間の設定 43, 112

 拡張 24

 説明 42

// アクション文字 17

? コマンド

 代替形式のパネル 41

 SYSOUT 属性の表示 41

? 照会文字

 値の表示 40

% 文字

 定義 116

 パターン・マッチングの使用 39

 FILTER による 58, 61

 H 66

 O 83

 OWNER 84

% 文字 (続き)

 パターン・マッチングの使用 39 (続き)

 PREFIX 87

 ST 124

 SYSNAME 127



プログラム番号: 5647-A01

Printed in Japan

SC88-6224-03



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12